

ぬこと明瞭であらう。

族制 血縁關係の體制を謂ふ。血縁には自然的なものとして人為的のものとなる。自然的血縁とは血を分ちたる者の關係であつて、其一形式は親と子との間及び同一の親を持つ子女の間に存する。人為的血縁とは習慣若しくは法律に依つて認められた血縁關係を謂ふのである。一團體が同祖より生じたとする傳説上の假定に従ふ場合や、共通のトテム(其項)に關係することに依つて血縁を有するとなす場合は、孰れも習慣に依つて定まる血縁關係である。婚姻に依る夫婦の間に法律上の血縁關係を結び、養子に依つて生ずる法律上の血縁關係なども皆人為的血縁なのである。人為的血縁の更に擴張せられたものには宗教團體に於ける兄弟關係、又親分子分の關係などがある。血縁關係の體系を形式上から見ると、母權的家族若しくは母系的家族と、父權的家族若しくは父系的家族との二形式がある。前者は社會發達の初期に存し、後者は前者に次ぐのを通例とする。人類進化の初期に當つて、生殖上に於ける父の役目の不明なる爲に家族團體を形造る者は母と子とに限られる。此時代を母權的若しくは母系的時代と呼ぶ。生殖上に於ける父の役目が判然として

來ると、父は其子女との血縁關係を認められ父の權力は漸く母權を凌駕して父が家族團體を支配し、父の血統に依つて家系が定められることになる。即ち父權的若しくは父系的時代を造る。社會の進化に隨つて、家族は氏族に發展し、氏族の血縁關係は更に進んで部族的となり、民族的となり、竟には世界的となつて來るのである。

組織労働者 組合に組織せられたる労働者の意。組合に加入してゐない労働者を未組織労働者と呼ぶ。

ソリダリティ(Solidarity) 連帯を意味するフランス語。通常社會連帯の意に用ゐられる。ソリダリズムといへば、社會連帯主義の意となる。(社會連帯)

村落共産體 村落共同體とも呼ぶ。一定の土地を共有してゐる村落團體を指すので、マルク團體、マノール等の如きものも之に數へることが出来る。クロボトンは、村落共産體の社會的意義を極めて重要視してゐた。彼は其『相互扶助論』で、「我々は村落共産體の時代を持たなかつた唯一の人類をも、唯一の國民をも知らない」と説き、村落共産體を農奴制の産物となす説を排撃して、「共産村落は農奴制以前からあつたもので、農奴制すら之を破壊すること

とが出来なかつた」のだと説き、「共産村落は氏族組織の自然の成果で、同時に又進化の普遍相であつた」と主張する。クロボトキンに依ると、村落共産體の存在してゐたのは、スラヴ民族やチュートン民族の間ばかりでなく、イギリスではサクソンとノルマンの時代に行はれて居り、古代スコットランドや古代アイルランド、古代ウェルズでは、此村落共産體が社會組織の根柢だつたのである。フランスではチュルゴアの時代まで共産村落の面影が残されてゐたし、イタリーでもローマの支配を脱するまで残つてゐた。アフリカの其れは既に廣く紹介されてゐる所であり、其外諸民族の間に種種なる名稱で村落共産體が存在してゐたのである。村落共産體にては多くの場合五六代乃至七代の家族が同じ家屋に起臥して家畜を共有し、共同の竈で炊事してゐた。即ち人類學者の謂ふ集合家族若しくは不分割世帯をなしてゐたのである。他の場合には孫や息子が妻を持つと同時に新しい世帯を持ち、一家族の人員がさまざま多くなつたこともある。然し孰れの場合に於ても家族は共産團體たる村落に結附けられてゐた。ハックスタウゼンは述べて云ふ、「ロシヤにはプロレタリアなるものは知られてゐ

ない。而して此村落共産體(ミール)の存続する限り、プロレタリアは決してロシヤに見出され得ないのである。ロシヤに於ても或一人が乏に陥つて資産を消費してしまふことは有り得る。されど父の過失なり不運なりは決して子女に影響し得るものではないのである。何故ならば、子の保有する權利は家族の權利ではなく村落の權利であつて、彼は父の財産を相続するものでないから」と。實際、村落共産體の時代には今日いふ如きプロレタリアを見る事が出来なかつたに違ひない。村落共産體では、多くの場合、家族内の男子の數に比例して土地が分配されてゐたからである。クロボトキンは、人類の結合が氏族から村落共産體に、村落共産體からギルドや自由都市へと變化して來たものと述べ、村落共産體が人類發達史上に於ける普遍的現象だつたことを強調するのである。

【タ】

大英礦夫聯合會 エム・エフ・デー・ビー

(Miners Federation of Great Britain)の譯語。イギリス各地に散在する礦夫組合の總聯合で、會員は無慮百萬を以て算へられるイギリス最大の労働組合である。總聯合の中央

組織は、地方の自治的聯合より選出された中央委員に依つて組織され、地方組合の内部分針に對しては干渉しないが、一般的に關しては可也中央集權的である。穩健合法を信條とするイギリスだけに總聯合の活動も主として政治運動であり、労働黨を支持しての立法的改革を標榜してゐる。礦業法の大改正、八時間労働法、最低賃金法等は孰れも彼等の直接間接なる努力の報酬であつた。然しさればとて彼等の活動は必しも議會政策の一本槍ではない。經濟運動に於ても、幾多の大罷業を敢行して全イギリスの産業界を恐怖せしめたことが一再でなかつた。殊に如上の最低賃金法制定に際しては莫大なる基金と時日とを費して總同盟罷業を斷行したので、政府は資本家の反對にも拘らず、最低賃金法を發表せざるを得なかつたのである。今や彼等は、新しき標識として炭坑國有案を掲げ、炭坑の所有を國家に託し、其管理を労働者に依つて掌握せんことを要求しつゝある。イギリスの如き國に於て炭坑の私有が廢止せられることは、取りも直さず、資本主義の一角的崩壊を意味するだけに、早急に其要求が貫徹されようとは思へないが、然も政府が炭坑國有問題の特設して具體的考究を餘儀無き

れつゝあるに鑑みれば、必しも成算無しといふことも出来ぬであらう。それは兎に角礦夫聯合の強味は其整然たる組織にあり、一度總罷業を開始すれば、全國の産業界を震撼せしむる威力に求められる。

大逆事件

平民新聞の發行停止(明治三十七年) 赤旗事件(其項)等の後になされた官憲の一層の彈壓の下に、猶幸徳傳次郎等は密に無政府主義思想の宣傳に努め、或はクロボトキン等の著書翻譯出版に或は言論に依つて其主義を主張しつゝあつたが、之より先、明治四十一年二月には幸徳外二十五名が發企人となつて日本社會黨大會を東京神田錦輝館に於て開催し、公然現代社會組織の變革の爲に直接行動を採るべきことを決議して以來、行動に於ても漸次過激に赴きつゝあつたので官憲の之に對する壓迫も甚しいものであつた。明治四十三年六月に幸徳等一味の陰謀が長野縣明科に於て發覺されたに世に稱せられてゐるが、事件の内容は暴動的行爲に依つて急激に社會革命を遂行せんとしたものであると傳へられる。けれども確なる事實に就いては一切不明である。幸徳等二十四名は直に捕へられ明治四十四年一月十八日大審院の判決に依つて、幸徳傳次郎、菅野須賀子、大石誠之助、

森近運平、宮下太吉等十二名は絞首臺上に命を終へ、阪本、高木、峰尾等十二名は無期懲役に處せられた。これ世に所謂大逆事件である。此事件以來社會主義者、無政府主義者に對する官憲の監視は一層嚴重になり、他方に於ては此事件が日本民衆をも驚倒震駭せしめ、呼ぶに大逆の名を以てしたから世人の社會主義、無政府主義に對する感情には一種の憎惡戰慄を伴ふに至り、此後七八年は社會運動は火の消えたるが如きであつた。大逆事件當時の内閣總理大臣たりし桂太郎の幹旋に依つて成立したる濟生會は該事件の副産物なりと世に稱せられてゐる。

黨業 「サボターヂ」を見よ。

大正大震災 【概況】 大正十二年九月一日、東京、神奈川、靜岡、千葉、埼玉の各府縣を襲つた大震災を謂ふ。初震は一日午前十一時五十八分四十四秒で、震幅は四寸に及んだ。鎌倉、逗子、國府津等の海岸では激震と同時に大海嘯が襲來して、倒壊した家屋や壓死者などを浚つてしまつた。火災も各地に起つたが、東京、横濱の兩市の火災は就中激甚を極めた。東京市は翌二日夜に至るまで鎮火せず、日本橋、深川兩區の全部と、本所、淺草、麻布、京橋、神

田等各區の大部分は焼土と化した。東京市調査課の調査に依れば、全市に於ける焼失戸数は四〇七、九〇〇戸（焼失前六三八、八六〇戸に對し六割四分）、其罹災人口は一、五四五、〇二九人（焼失前二、四三七、五〇三人に對し六割五分）に及んでゐる。各區の内譯は次の如くである。

Table with columns: 區名, 焼失戸數, 百分率, 罹災人口, 百分率. Rows include 麹町, 神田, 日本橋, 京橋, 芝, 麻布, 赤坂, 四谷, 牛込, 小石川, 本郷, 下谷, 淺草, 本所, 深川, etc.

人、壓死者三、六〇八人で、外に負傷者が三一、六七二人あつた。横濱市では山下町の外人居留地を初めとして家屋の倒壊したるもの甚だ多く、火災も殆ど全市を嘗め廻つた爲、倒壊及び焼失家屋の數六〇、三九八戸に及び、災禍を免れたのは僅か九〇戸位に過ぎなかつた。死亡者は二三、一六七人、負傷者は四〇、八〇八人に及んで、慘憺を極めた。臨時震災事務局神奈川支部の發表に依ると、神奈川縣下各地方の災害は次の如くである。

Table with columns: 地方名, 焼失倒壊, 半焼, 死者, 負傷者. Rows include 横須賀, 川崎, 鶴見, 國府津, 神奈川, 戸部, 日下, 都田, 鎌倉, 戸塚, 浦賀, 三崎, 葉山, etc.

Table with columns: 郡, 戸數, 人口, 死者, 罹災人口. Rows include 大磯, 伊勢原, 秦野, 中野, 厚木, 松田, 小田原, etc.

靜岡縣では、御殿場に於て家屋倒壊一、三〇〇、死者二〇、小山地方の家屋倒壊二、八〇〇、死者約五〇〇、伊東の家屋倒壊一、六〇〇、死者約六〇、熱海の家屋倒壊五五〇、死者約五〇、三島の家屋倒壊五、死者一である。千葉縣では安房郡が最も被害多く、北條、館山、那古、船形、稻都、九重、千倉方面にては死者約二、五〇〇人、倒壊家屋二〇、〇〇〇戸に及んだ。埼玉縣では北足立郡が災害最も多く、縣下に於ける死者二一七人、傷者五一七人、全壊家屋八、〇七二戸、半壊五、六四六戸、破損五六、三三〇戸であつた。

【夕】 社會辭典

狀を形造る岩層線に沿うて地面が横から縦に切つた所謂地切地震であると發表してゐる。東京に於ける餘震は初震より二日正午までの二十四時間に八五六回あり、二日正午より三日正午までには二八九回あつた。それより連続して、二十三日正午から二十四日正午までの間に一回も無かつただけで九月二十六日まで、毎日少くとも二回、多きは一七三回の餘震があつた。其後も時折可也に激しい餘震が襲來した。

清水港間の無賃輸送に従事した。政府では震災に對する應急策として、諸種の法令を公布したが、其うち緊急勅令として九月二日公布の非常徵發令（徵發令）、九月七日公布の流言浮説取締令、支拂延期令、二十七日公布の手形再割引令等は最も重要なものである。此震災に依つて蒙つた國家的損害は、概算東京七十億、横濱三十億、横須賀其外で十億、計百十億と稱せられてゐる。随つてこれが打撃は殆ど全國に及び、帝都の商工業者は勿論、各地方の農業者に至るまで少からぬ災厄を蒙つたが、幾何も無くして復興の緒に就いた。

世紀中葉アイルランドに起つた農争は最も代表的の一例だが、最近日本に於ても右の傾向が甚だ明白に看取せられる。

託兒所 婦人労働者の小兒を、其勤務時間中預つて世話する場所。小兒の世話をするといふことは婦人の最も重大なる天職の一つであるけれども、生活上の困難は彼女から此天職を奪ふ場合がある。労働婦人にして小兒を産んだ場合、又小兒を持てる婦人にして新に労働に就く場合、彼女達が其愛兒を家に残して勤めに行くといふことは、非常に不安の事ではなれない。殊に子守を雇ふ餘裕も無く、幼い者の面倒を見る家族も無い時には、全く就業を断念しなければならぬこともある。斯る場合彼女が労働に赴いてゐる間だけ小兒を預つて適當の設備に依り其世話を引受けたならば、彼女は後顧の憂無く仕事に就き得るといふので、託兒所なるものが生れたのである。これも一般の社會事業と等しく初めは私的の博愛事業として起つたのであるが、次第に公的施設たらんとする傾向がある。

多元的社會觀 Pluristie conception of society) 從來の國家觀念に對する異端說で、イギリスの社會學者ラスキは其代表的論者である。彼は先づ全體社會たる community

招くと信じてゐた。

賈純協働 ミル、ウェークフィールド以來、此語を以て所謂合力を表し來つた。近時フランスの學者に此語を用ゐる者が多い。ギディングズは此代りに直接協働の語を用ゐてゐる。(参照)

單純社會 複合社會に對立する語。スペンサー、デュルケムは此語を用ゐてゐる。孰れにありても其意味する所は社會的原形質とも見るべき群である。スペンサーは單純社會を定義して一の作用する所の全體をなして他の社會に從屬せず、其部分統制の器官の有無を問はず一定の目的に協働する社會であると云ひ、其中首長の無きもの、有るも一時的なるもの、其不安定なるもの、其安定なるものに分ち、更に其各を定住、半定住、不定住に分ち合計十餘種の單純社會を列擧した。デュルケムは此定義を以て著しく明確を缺き誤解を招き易しとなし、説明して云ふ、單純の語は部分の完き缺乏を意味するに他ならぬ、故に單純社會とは更に他の社會を含むこと無き社會である、と。現在に於て單一の結社を形成せるのみならず、過去に於て部分的社會の存在した痕跡無きものである。群は正に此定義に當る。そは中に一層原素的なる社

mutualと部分社會たる associations とを區別する。而して國家は一の部分社會にして、他の種々の部分社會例へば教會、職業團體等と等しく、それ／＼獨立性と獨立の權力とを有する。國家と此等の社會との差異は全く程度の差異に過ぎず、性質の差異ではない。而して國家を初め斯る部分的社會は總て一種の聯合關係に立つことに依つて全體社會を構成する、といふのが彼の見解である。此見解はラスキに依つて徹底的に説かれてゐるが、國家に特殊の統制的地位を認めるといふ多少緩和された形では、マクイヴァーを初めギルド・ソシアリズムに屬する多くの學者に依つて唱へられてゐる。

タフ・ヴァール事件 (Taff Vale Case)

イギリスのタフ・ヴァール鐵道會社が鐵道使用人組合に對し其同盟罷業の際の不法監視 (Unlawful picketing) に關し損害賠償を要求せる事件であつて、一九〇一年上院の判決に依り會社の勝訴となり、之が爲に該組合は二萬三、千餘鎊の損害賠償を支拂ひたるのみならず、爾後幾多の職工組合は一九〇五年に至る期間に同一の理由に依り二百五十萬鎊の損害賠償を支拂つたといはれてゐる。斯る状態では、組合運動は財政上不可能であるので、各労働組合は政治運動に依つて

會を含まず、又含みたること無き社會であつて、之を分解すれば正に個人の集合となる。此單純が合一する時は第一次なる複合社會を形造る、それが又合一する時は第二次なる複合社會を形造り、順次斯くして高次の複合社會を形成する。スペンサーは此等の複合社會を名づけて複合社會、第二次の複合社會、第三次の複合社會と呼び、デュルケムは單純多節社會、第一次の複合多節社會等と稱してゐる。

男女同權主義 「フェミニズム」を見よ。

團體協約 「團體交渉權」を見よ。

團體交渉權 雇主又は雇主の團體に對し、標準賃率、労働條件等の問題に就いて労働者が團結して交渉する權利を謂ふ。所謂「團結權」といふに同じ。元來、資本家と労働者とは法的には獨立對等の人格を保障されてゐるが、労働者は資本を所有せず生産機關を所有せざるが故に、損と知りつ資本家本位の條件で雇傭契約を締結しなければならぬ状態にある。故に實質上對等ならしめん爲には、各個分離の状態から多數團結の状態に移し、多數の團結力に依つて資本家と交渉せしむるにあらざれば不可能である。依つて斯る労働者の團結權(結

法律の改正を企てようとし、タフ・ヴァール事件は労働階級の政黨的結成を促進する結果になつたのである。かくて一九〇六年自由党内閣の成立と共に産業争議法 (Industrial Dispute Act) は發布され、平和的の罷業監視は公許され、労働組合に對する訴訟の範圍は限定され、一九〇一年以前の狀態を回復したのである。

タブー (Taboo)

元來ポリネシア人の土語であるが、輒近人類學者の研究に依りそれと同様の觀念と行事とが殆ど總ての民族の間にも發見されてから、此等をも總括してタブーと稱するに至つた。タブーは我國の「いみじ」(忌)又は禁忌といふのに相當し、原始的の制裁若しくは禁條であり、本來宗教的意義を有するものである。タブーに附せられた事物には、武器、血、頭、髪、死體、一定の食料や家具、婦人等があり、又タブーに附せられた言葉としては、一定の人名、親族、死者、王者、諸神其外の神聖なる人物の名及び或種の普通名辭等がある。即ち此等の事物や名辭は或種族に於ては絶對の宗教的制裁の下に置かれて、之を濫用し又は常用することを嚴禁されたのである。而して、若し其禁制を犯す時は重大なる刑罰が課せられ、違犯者も自ら災害を

社權)を法律的に確認せよといふのが、所謂團體交渉權の根本要求に他ならぬ。労働者の團體交渉權を法律的に容認した最初はイギリスで、一八二四年結社禁止法を解いたのを發端に、竟に一八七〇年に至り法律の明文に於て労働者の團體交渉權を確認したのである。續いて各國も之に倣ひ、今では文明國の殆ど全部が之を認めてゐる。我國でも事實上は之を默認してゐる形だが、未だ法律上には確認するに至らないので、労働團體も無産諸黨も「團體交渉權の確認」を第一の要求に押立ててゐる。第五十二、第五十三の兩議會に於て擲り潰された労働組合法案は、勿論此原則を容認したものである。

團體婚姻

家族形態の分類は重に婚姻の形態如何に依る。婚姻の一方若しくは雙方が多數の相手有するか、唯一人の相手有するかに依つて單婚家族及び多婚家族の二種に大別さる。多婚家族は更に團體婚姻の家族、一夫多妻(其項)の家族、一妻多夫(其項)の家族に三大別さる。團體婚姻の家族では夫及び妻が共に多數の家族より成り、其中一方が肉身の兄弟又は姉妹を成す。換言せば一團の兄弟が一團の妻を有し、又は一團の姉妹が一團の夫を有するのである。

此家族形態はハワイに於て其白人に侵入せられた當時一般に行はれたものなるが故に、其土語に依りて「ブナリア」家族と稱せらる。兄弟ならずして數妻を共有せる男子、姉妹ならずして數夫を共有せる女子は、互に呼びて「ブナリア」即ち親愛なる友といったに基くのである。此制度は現在に於ても印度のトオダ人の間に存在するものにして、過去に於て實に人類の廣き範圍に行はれた制度であるといふ。我々が其過去に於ける存在を推斷し得るは一に現時に残存せる血統制度に依る。從來所謂「マレー式血統制度」(其真)の意義に就いては種々なる異説がある、然しそれが兎に角古い家族形態の遺物なることは争ふべからざるもの如くである。今之を以て斯る遺物と考へ之よりして、之に伴ひ一家族形態を復原せむとせば竟に少くとも團體婚姻の事實に到達すべきを疑はぬ。勿論此「マレー式血統制度」を以て血族婚姻の家族を意味するものなりとは信ぜられないが、猶十分に團體婚姻の存在を示し得るものなりと考へられる。又此血統制度とは少しく異なるが同じく分類的なる「ツラ」式又は「ガノワン」式血統制度(其項)も、團體婚姻の家族即ち「ブナリア」家族に伴ひてのみ發生し得べしと考へらるるが故に、此血統

制度の存在する社會は又曾て「ブナリア」家族を有したりと考へ得られる。而して斯る根據より推斷すれば團體婚姻の行はれたる地方は極めて廣い。學者に依つては之を以て人類社會の婚進の姻段階に於て必然的に經由せざるべからざる一形態なりと説く者もある。

ダンピング (Dumping) 普通に「投賣」と譯す。生産過剰で市場に貨物が累積するといふやうな場合、内は以て生産物の減少に伴ふ價格の引上の爲、外は以て輸出を刺戟して利益を獲得せんが爲に斯る「投賣」が一時的現象として行はれる。需給關係の圓滑なる恢復と共に元の状態に還ること元よりである。他の一方「トラスト」や「カルテル」などが他の獨立の小資本家を驅逐する爲、故意に貨物の「投賣」を行ふこともある。これは斯くすることに依つて、競争者を完膚無きまでに居り、販路を獨占する目的の下に行はれるのである。蓋し一時の犠牲を忍んでも、永久の利益を確保しようといふ打算に他ならない。此方法は殊にアメリカの「トラスト」に依つて國內的と共に國外的に慣用され、國內市場に於ては高く、國外市場に於ては廉く賣り、國際的資本戰に他國資本家を壓倒しつゝあるのである。

【子】

治安警察法 明治三十三年三月、國家及び公共團體に對する危険を防止する目的を以て制定された法律。結社、集會、演説、多衆運動、屋外運動、同盟罷業等、所謂「公安」を害する虞ある行爲を取締る規定が設けられてゐる。元來此法律は「保安條令」の延長に過ぎないので、現代の大衆運動を取締る規定としては時代錯誤の感があり、多年之が撤廢乃至改正の必要が叫ばれて來た。改正の要綱は其第十七條で、これは労働結社及び労働罷業に「他人ヲ誘惑若シクハ煽動スル」場合の處罰を規定してある故を以て、友愛會が大正三年の議會に五千六十八名の賛成者を得て改正を請願して以來、毎も労働運動の旗幟として押立てられてゐる。政府は之に對して「抜かぬ寶刀」と號し、嚴密に適用すれば、組合も罷業も禁壓すべきであるが、之を默認することに於て寛大を示し、未だ何等の弊害も無かつたことを楯に撤廢は元より改正を肯じなかつた。大正十四年の議會に内務省から提出された労働法案は其年も亦其次の年も擱置しの悲運に逢會したが、該法案に於ては團體罷業も罷業も是認してゐるので、該法案の

議會通過と同時に、治警第十七條は當然改廢せられる筈である。

地域團體 同一の地域に生存するに基きて存立する團體。國家、町村、州縣といふが如きは皆これであつて、其存立を保持する心理的傾向は群居の慾望である。此觀念は血縁團體と相對立するものである。從來一般には文化の幼稚なる時に存立する社會は血縁團體であつて、其後地域團體が漸次之に代ると信ぜられてゐたが、一派の學者の中には所謂血縁團體も其實地域の共同、群居の慾望に依つて統一を保てるに過ぎぬ。人類社會は原始より主として地域團體であつたと見る考を抱く者がある。スタルケ、ムッケの如きは其例である。

治外法權 一國民が他國に滞在する時當該國の統治權の全部(又は大部分)に服従せざる權利を謂ふ。元首、使臣、軍艦等は、國際公法に依つて此權利を享有してゐる。然し普通に、政治的、社會的問題として論議される場合の治外法權とは、領事裁判制度が設けられてゐて、滯在外人に對して當該國家が裁判權を行ひ得ない状態を意味してゐる。例へば支那の如く、上海なら上海に於てイギリス人ならイギリス人に明白なる犯罪行爲を認めながら、之を捕縛

しても處罰する權利を有せず、已むなく上海イギリス領事館の裁判に委ねなければならぬ状態である。支那の排外運動は重に斯る不平等待遇の撤廢を目標として起されつつある。日本も曾て外人から此種の法權蹂躪を行はれてゐたが、明治三十二年十一月十七日以來容易く條約の改正をなし得た。

知識階級 【意義】 知識階級と一般に呼び慣はされてゐる語の概念には、少くとも三つの意味が對へられる。第一には學問乃至知識を提供して生活資料を受くる人々の意味であり、第二には精神乃至頭腦を働かせて生活の資源を求め人々の意味であり、第三には文化的能力の優秀なる者の集團といふ意味である。此中第三の場合に使用したのは昔のこと、今では殆ど第二の意味、即ち、筋肉的労働力の提供者に對する頭腦的労働力の提供者といふ意味に解され、必しも第一の場合の如く、學問乃至知識其者の提供者(教授とか著)を指さないやうである。換言すれば、所得の源泉を彼の所有する財産に求めることが出來ず、知的労働乃至勤勞に置く人々を意味するやうである。故に嚴格にいへば、謂ふ所の知識階級は特立せる一箇の社會階級ではなく、筋肉労働者と共に性質も運命も一にする頭腦

的労働者(海船乗組)たる意味で、プロレタリアの一部を構成する分子に他ならない。元來プロレタリアなる者は、例へばマルクス流の解釋に従へば、其自身が彼の所有する唯一の財産たる筋肉労働力を提供し、以て日日の露命を繋ぐ賃銀労働者と同義異語に解されてゐた。元より其解釋は不當でなく、のみならず、マルクスの時代にあつては斯く解釋することに當然の理由もあつたのである。然し、マルクス流の有産者即資本家、無産者即労働者といふ二元觀は、資本主義のより高度なる發達の結果、多少の修正を免れることが出來なかつた。何故かといへば、筋肉労働者と同時に頭腦的労働者が、次第にプロレタリアとしての特質を濃厚に加へて來たからであつた。現在にて謂ふ知識階級は、主として斯る頭腦的労働者を指稱する意味に於て、社會階級として見れば明白にプロレタリアに所屬すべき集團でなければならぬ。即ち所謂知識階級は労働階級と同じく産業革命の結果として生れた新興階級であり、其多くは國家、公共團體、資本階級の下に職業を求めて從屬的勤務に服し、些の地位の安固も生活の安定も保障されてゐないのである。彼等の知識も勤務も所詮は一箇の商品に過ぎず、雇傭

者の需要如何に依つて供給上の變動を免れぬこと、猶、労働者に於ける場合と異なる所が無い。かくて知識階級は其經濟的地位に於て全く資本階級に從屬し、筋肉的地位と頭腦的地位との相違はあつても、賣却し得べき唯一の商品(労働力)を提供して衣食する意味に於て、プロレタリアの一要素と解釋するのは少しも差支ない。

【特質】 だ、然し所謂知識階級に屬する多數の人々は大企業の使用人とか官公吏とかである關係上、資本階級を支持擁護する立場に置かれてある。蓋し彼等の提供する知識技術や學問藝能が、企業の管理、經營、統制といった方面に其職業を求め其地位を獲得し易き故に他ならぬ。のみならず、知識階級としての舊來の因襲と傳統とが然らしむる結果、此等の職業や地位には自ら名譽、體面、尊敬、威信、虚榮等が附隨するので、勢ひ労働階級とは違つた心理環境に置かれ易い。其爲恰も彼等が労働階級よりも優位の存在であるかに思ひ込み、同時に斯く振舞ふ傾向がある。有産資本階級と同列でないまでも之に亞ぐ社會階級であるかに考へる所から、無産労働階級に對しては中間的存在を構成するかに振舞ひ、住宅、衣服、調度、言語、娯樂等、一切の生活條件

式をブルジョアに模倣してゐる。これは一面知識階級の職業的性質に由來する所で、彼等の職業は事務的にも技術的にも多岐に亙り、或は指導的の管理者ともなれば、機械的使用人ともなり、或は労働資本執れかの階級に身を置くことが有り得るので、斯くは曖昧模糊たる鶴的存在に陥り易い結果である。だが、彼等の職業に附隨する條件が如何に有産階級類似であり、且一見どうやら有産階級に經上りやすさうでも、極めて少數の例外を除いては、機械的使用人として終生の無産的生活を送らなければならぬのが、彼等大多數の運命である。假令收入條件に於て、知識階級が労働階級に對して多少の優越的條件が與へられてゐたにしても、彼等が體面本位の生活に拘束されてゐる限り、收入と支出との均衡は常に浮動を免れざるが故に、一見如何に容易でありさうに見えても、有産階級への向上は困難となしなればなるまい。かくて知識階級のプロレタリア化は、今後とも其傾向を深刻ならしめるであらう。

【將來】 知識階級は財産的收入に依せず知識技術や學問藝能を提供することに依り其代價たる俸給を得、之を唯一の収入源泉として生活する人々である。隨つて、階級

意味で土地の所有權と稱し易い。

とも舊來の名譽や威信や特權を次第に喪失し、俸給労働者として資本家(國家及び公共團體)に隷屬するに至つた。彼等は從來有産資本階級を支持し擁護することに依つて、自己を支持擁護し來つたのであるが、今や却つて境遇を同じうする労働階級に追隨(或は指導)して新しい運命の開拓を心掛けるやうになつた。けれども、前にもいふ通り、知識階級は必しも労働階級と利害を共にせず、且又、職業の範圍も多岐に亙つてゐるが故に、階級意識が弱くして團結闘争の力に乏しく、共同して利益の伸張を圖るといふやうなことは望み難い(中等階級參照)。其結果、動もすれば知識が労働よりも輕んぜられ、或意味では労働問題よりもより緊切なる問題として、知識階級の其れが考慮されなければならぬ部分も無しとはせぬのである。(問題參照)

地上權 民法二百六十五條に規定する如く、他人の土地に於て工作物又は竹木を所有する爲其土地を使用する物權を指す。即ち地上權とは、他人の土地に存する工作物又は竹木を所有する權利でなくして、其工作物又は竹木を所有する爲に他人の土地を使用する所の權利に他ならない。建物を所有する爲に生ずる地上權の如き、特に其

的に見ればプロレタリアに屬すべきこと勿論だが、之を職業的に見れば、狹義のプロレタリアたる労働者とは全く其趣を異にしてゐる。故に知識階級の將來を大局的に考へれば、労働階級の運命と必然に盛衰を共にすべしと考へられるが、一切の利害が何から何まで共一だといふことは出来ない。少くとも職業的には、労働階級と知識階級とは別箇の問題を藏してゐるのである。そこで階級の問題は姑く措き、之を職業的見地から將來を豫想しても、頗る多難なる問題が横つてゐることを知らねばならぬ。近代資本主義の發達は、より少數により多なる富を集中すると共に、より多數を次第なる赤貧に陥れ、彼等をプロレタリアの列群に墜落せしめた。其結果、筋肉労働市場に於て次第に供給過多を訴へ出した如く、頭腦的労働市場に於ても同じ現象が行はれてゐる。即ち最初は斯る頭腦的労働の需要に應ずべくして教育の發達を促したが、今日では餘りに教育が發達した爲、需要を遙に超過して供給が夥多となり、彼等相互の競争の結果、相對的に所得の減少を助長してゐるのである。これ取りも直さず、知識階級がプロレタリアたればならなかつた必然の趨勢であるが、今や知識階級は各國

地租委譲 地租とは、國家に依つて徵收される土地收益の一部であつて、これが負擔者は其地主である。土地より生ずる收益には、農業、林業を初め、鑛業、工業、商業等を營むに必要な用地、并に住宅の用地等、甚だ雑多の種類があるが、此等一切を引くるめて一部の收益は租税として國家に徵收されてゐる。土地は日本に於て、營業税と共に國庫の二大收入をなし、我が租税大系は此兩税を基礎として編成されてゐる。所が地租は國税として徵收せられる外に、附加税として地方官廳及び自治體からも徵收される結果、土地所有者(特に農村地主)に甚しき負擔を感ぜしめ、國家、社會、市町村との三重負擔を呪詛する聲が囂しい。農村地主の利害を主として代表する政友會は、斯る呪詛の聲に應じて、久しき以前から地租を府縣(或は町村)に委譲すべきことを主張し、以て農村の疲弊救済を急務としてゐたが、所謂地方分權の見地から、一枚看板の政策として掲ぐるに至つたのである。田中内閣の成立と共に、政友會は廟堂に立つて其實行を要求されることになつたが(昭和二年)、租税大系其者を根本的に變改しなければならぬのみならず、幾多の

地代 土地の賃借料の意味である。然らば如何にして土地賃借に此の如き賃料が生ずるかといふに、リカードは「土地に固有し、且不減なる力の使用に對して支拂はれる代價である」と解し、それは「當該土地から生ずる生産物價格の市場までの運搬費をも含む全生産費に超過する部分に之に當てられる」と説いてゐる。隨つて、當該土地の肥度の相違、位置の便否、收穫遞減の法則、人口の法則等が地代を發生せしめ

た原因だと見たのである。リカード説に對して種々の反對説が唱へられたが、孰れも其根底を衝くことが出来なかつたので、彼の説は今日まで經濟學上の定説として支持されて来た。唯マルクス説のみが全く異なる見地から解釋を下し、地代も亦利潤の變化したものであることを指摘し、リカード説の虚妄を喝破したに過ぎない。マルクスの分析は其特異なる可變資本と不變資本との見地から導かれた。即ち、農業に於ては可變資本の率が極めて高い爲に其利潤率も亦著しく高かるべき道理である。假りに工業方面で一〇パーセントの利潤が得られるものなら、農業の利潤率は一五パーセントにも上らなければならぬ。かく農業の利潤率のみが他の企業の平均的利潤を超越してゐるならば企業家は擧げて農業に走るべき筈だが、然し農業企業家は農業企業家で、多くの場合(自分が土地を所有せざる限り)耕作すべき土地を賃借しなければならぬので、結果に於てはそれだけ自己の獲得すべき利潤を吐出さなければならぬことになる。此吐出した部分が取りも直さず地代となるべき部分である。随つて假りに農業利潤が一五パーセントで他の企業利潤が一〇パーセントだとすれば、差額五パーセント

の超過利潤が地代となるべき部分である。然も此五パーセントは土地の肥瘠や便否に關らぬ超過利潤なるを以て、マルクスは之を「絶對的地代」と呼び、如何に其土地が瘠せて不便であつても耕地を借受けることに依つて行はれる企業には必ず附隨することを明かにした。故に若し此絶對的地代を生ずる土地よりも更に肥沃便利なる土地があるとなれば、同一資本を投下してもより以上の利潤を上げることが出来る勘定である。假りに二〇パーセントの利潤を獲得したとすれば、前述の平均利潤率に比べて一〇パーセントの超過利潤が生ずるわけであり、随つて此一〇パーセントが地代として支拂はれることになるのである。斯く土地の肥度及び位置に依つて生ずる種々の段階の地代を、絶對的利潤に對してマルクスは「等差地代」と呼んでゐる。リカードに従へば斯る土地の差異が地代を生ずるといふにあるが、マルクスは平均利潤と農業利潤との差異から地代が生ずると云ひ、土地の差異は唯地代の高低を決定するに過ぎぬと云ふのである。耕作地以外の他の總ての企業の爲の借地、或は住宅地としての賃借も同様の経緯に依ること勿論である。

其れとに區別しなければならぬ。更に又同じ農業地の地主でも、單なる農業地の所有者を意味する場合と、小作人に對して小作地の所有者を意味する場合とを區別しなければならぬ。非農業地にしても然り、單なる土地の所有者と貸地の所有者とは異なる。外國語では其場合々々を區別する語があるやうだが、社會問題に關する限りでは貸地人對借地人の關係が重視せられる。即ち農業地にあつては耕作權の問題に關聯し、非農業地にあつては居住權の問題に關聯するが故である。近時都會地にあつては借家人對貸家人の關係が借家人對貸地人の其れに延長され、漸次社會問題化しつゝあるが、農業地に於ける地主對小作の關係は今や極度の悪化を傳へられるに至つた。(係参照)

地方分權 「中央集權」を見よ。

地方無產政黨 「九州民憲黨」大正十三年普選法施行の空氣濃厚となるや、福岡縣八幡、戸畑、門司、小倉諸都市在住の労働者は率先して地方的無產政黨の樹立運動を起し、同年九月第一回の準備會を開き、爾來着々運動を續けてゐたが、翌年四月に至り結黨の運びとなつた。此黨は労働權、團結權、生存權の獲得を標榜してゐるが、日本労働黨の出現後、其主張が近似してゐる。

るので之に近づいてゐる。中央執行委員長淺原建三(昭和二年三月)機關紙『民憲新聞』黨員約五千九百と稱す。

【神奈川自治黨】 昭和二年八月地方行政の革新を目的として結成されたもの。武相労働聯盟を中心とす。本部を横濱市内田町に置く。中央執行委員長は酒井庄平。六千五百の黨員を有すると號してゐる。

【關西民衆黨】 労働農民黨の創立當初、左右兩翼の内紛絶え間無きを嫌惡して入黨せず、純向上會(百五)を中心勢力とし、地域的に俸給生活者や小賣商人等を結合した政黨である。社會政策の徹底を目的とし、日本労働黨の確立後互に提携してゐる。本部を大阪市北區相生町に置く。黨員五千名と稱す。創立大正十五年十月、中央執行委員長は八木信一である。

【中部民衆黨】 大正十五年十月労働農民黨が分裂し社會民衆黨及び日本労働黨が創立された後、孰れにも屬せざる名古屋、岐阜地方の労働團體が、中部日本農民組合を中心として結成したもの。穩健着實なる點に於て社會民衆黨と相通じ、漸次之に近づきつゝある。故に委員長中澤辨次郎は社民黨中央委員を兼ねてゐるのである。本部を名古屋市東區長堀町に置き黨員一萬と號す。

創立は昭和二年一月。

【吳獨立民衆黨】 大正十四年第一次無產政黨樹立運動が起つた際、左翼團體との提携を欲せず、隨つて全國的單一政黨に反對して海運労働組合聯盟所屬の吳海工會の提唱に基き、曠廠工俵會其外の支持で創立せる地方政黨である。社會民衆黨が樹立されて後は、日本労働總同盟との從來からの組合友誼上政黨としても頗る親善を圖つてゐる。本部を吳市岩方通に置く。黨員一萬四千五百と稱す。創立は大正十四年十二月。

【民衆進黨】 無產政黨の發生を喜ばず一方普選に直而して地盤確立の爲に海運労働組合聯盟曠廠工友會(百五)を主體として結成したもの。工友會對労働總同盟の友誼關係より社民系と目されてゐる。本部を横須賀市山玉町に置く。創立は昭和二年十二月。

中央執行委員長は川島不二郎である。

【佐世保民衆黨】 佐世保労働會を支持團體として昭和二年六月結成されたもの。本部を佐世保市松浦町に置く。中央執行委員長副島喜八。黨員七千七百と稱す。

チャーティスト運動 【前期】 ッガン、バラノウスキーヤゾムバルトに依つて、有らゆるプロレタリア運動に先行したといは

れるチャーティスト運動とは、一八三八年一四八年に至るイギリスの急進的なる改革運動であつた。チャーティスト(Charter)の語源は彼等が六箇條のチャーター(人民憲章)を提示したことから發してゐる。即ち(一)二十一歳以上の男子に選挙權を與へること。(二)被選挙資格も同様なること。(三)選挙は投票に依ること。(四)議會は毎年開會すること。(五)議員たるに財産上の資格を要せざること。(六)議員に報酬を支給すること——の六箇條であつた。今から考へれば何も危険視される要求ではないが、一八三二年の議會改革案を通過せしむるに際し、ブルジョアはプロレタリアにも政治上の權利を與ふべしと揚言しながら、實際に於て之を拒否する法律を制定したので、之に彼等の憤慨を挑發されたわけである。チャーターは最初下院議員六名と労働代表八名との委員に依つて起草され、指導者オーコンネルの主宰する『北極星』を宣傳機關とした。忽にして夥しき賛成者を得、大會を開く毎に二十萬三十萬といふ大衆の参加を見たが官憲の壓迫は甚しく、一八三九年バーミンガムの大會では軍隊と衝突し、續くニュー・ボートの大會は暴動化して多數の死傷者を出したので、徹底的の抑壓を加へら

れねばならなかつた。これが券狀黨(我國で新く譯され、時に意に當る者ある)の第一期の運動だつた。
 【後期】 チャーティスト運動の第二期は穀物條例の廢止に反對して起された。彼等の見解に依れば、穀物條例の廢止は穀物の市價を引下げ、延いて労働賃銀の低落を來すといふにあつた。前者のより政治的なるに對して、より社會的なる點を特色とする。當時(1846年)、恰もフランスに革命暴動が起されたので彼等の情熱は彌が上にも昂揚され、四月一日のロンドン大會は實に五十萬の大衆を以て開催され、官憲も亦二十萬の警吏を派して監視せしめたとす。示威行列が禁止されるや危く暴動を再現するかと見られたが、オーコンネルの措置宜しきを得、やうやく事無きを得たと傳へられる。然も彼等の運動は奏效し、穀物條例が廢止されたのみでなく、政治上の要求も亦幾分づゝ容れられたので、さしも猛威を極めたチャーティストもロンドン大會を最後として組織的運動を放棄したのである。兎に角前期後期を通じチャーティスト運動の特色と見るべきは、労働階級の地位改善を政治手段に依つて實現した運動といふべく、其意味で、有らゆるプロレタリア運動に先行したといはれるのも決して所以無しとはし

ないのである。
 中央集權 政治機能(特に行政機能)を單一の權力の下に集中し且行使するを謂ふ。封建時代にあつては權力が分割されて各地方に散在してゐたが、産業的大國家が出現するに及んで、共通の主權の下に統一されることを便宜とした爲に行政機能の中央集權が行はれ出したのである。現在では文明國といふ文明國は咸く中央集權化したので、反動的に地方分權を要求する聲が漸く盛になり、單に行以上の機能を地方政廳に委譲せよといふばかりでなく、經濟的効果の發揚といふ見地から中央集權の弊害を説く者が少くない。蓋し經濟活動の自由放任を産業發達の唯一條件であると考へる自由主義者は、餘りに強大なる中央集權の存在が經濟活動の自由を拘束するとの理由で地方政府の行政權を擴張すべしといふのである。例へばジョン・ミルの如き、政治的資本家の專制が産業の固定を齎すべきを論じ、之を救済するには政治的權力の地方的分割に如かざる所以を力説してゐる。政友會に依つて唱へられる「地方分權主義」も之と同じ立場を表明すること贅言の要はあらず。之に反して社會主義者は、資本の活動を自然的競争に委せることは恐慌と失

業との由つて來たる所なるが故に、寧ろ強大なる中央の政治的權力を利用し、右の弊害を矯正することが策を得た措置なりと論じてゐる。彼等は云ふ、各種の産業部門に於ける多數の資本は一箇の強大なる資本に併合される自然的傾向を有する。其故に、此集中されたる資本を國家權力に依つて統制し、各種の企業を官廳(國家及び公共團體)の組織的經營に委せることが、斯る弊害を緩和巨數する唯一の方法でなければならぬ。即ち、中央政府の權力の増大加と尊嚴化とは、實に資本集中の自然的結果として免れざるのみならず、經濟生活を合理化する上に於ても必要だと見るのである。
 中間階級 中産階級、中等階級、中流階級等の語と共に、所謂ミッドル・クラスの譯語として使用されてゐるが、其概念は甚だ曖昧たるを免れぬ。ミッドル・クラスはサード・クラスの異語であつて、本來の意味では、ブルジョアを指したものであつた。然るに舊來のブルジョアは、産業革命以後の社會的變動に依り、大資本家大企業家としての其れと、次第にプロレタリアに墜落しつゝある(一部は既に墜落したが)小資本家小企業家の其れとに分別せねばならなかつた。チャーティスト運動と呼ばれる者

がそれで、小工業者、小商人、自作農、及び所謂知識階級の上層に屬する者が之に該當する。然るに資本制生産の發達は次第に貧富の懸隔を著大ならしめつゝあるが故に、此等のブテイ、ブルジョア群は到底其中間的存在を維持することが出來ず、晩かれ早かれ、プロレタリアに墜落すべき運命を有するを以て、經濟的乃至政治的の利害關係に依つては有産階級か無産階級か其孰れかに所屬して自己一身の利害を支持擁護しなければならぬ關係に置かれてある。即ち嚴密にいへば、特立の社會階級としては存在し得ないのであるが、それは兎に角として、通俗的なりにも中間階級と呼ばれる一群、例へば小工業者、小商人、自作農といつた人々は、自らの資本と労働の結合とに依つて生計を營むを普通とする(知識階級に於ては其項を參照)。資本家が資本所得を収入源泉とし、労働者が労働所得を収入源泉とするに對して、彼等は自らの収入源泉を資本と労働と二元ならしむるが故に、有産無産孰れの階級にも屬せざる中間的存在であるかに考へられ易いのである。所謂中間階級の収入源泉は此の如くであるが、其社會生活上の地位に就いては多くの學者が「文化生活を營み得る階級」といふに一定してゐる。文化

生活といふ語は廣狹上下種々なる意味に解され、甚だ曖昧たるを免れないのであるが収入條件に依つておのづから一定の客觀的標準を求めんことは不可能でない。而して此標準は時と所とに於て浮動を免れず、戦前のドイツに於ては年收九百圓、戦後の東京に於ては千二百圓(一家)に置かれてゐる。尤も或學者は此所得標準を千五百圓乃至五千圓とし、之に「新日本標準」の名を與へ、全戶數の四分四厘即ち五十萬戶が中間階級だと稱してゐる。今之を収入所得の最も明白なる官吏に就いて見れば、平均年收二千五百七十一圓の奏任官級(千二)が之に該當し、判任官(千五)、小學校教員(千八)等は下流階級に該當することになる。かくて國民の大部分は單に大ブルジョアたり得ないばかりでなく、以て中間階級と稱せられ小ブルジョアたることも不可能としなければならぬ。右の意味に於ける中間階級は、社會階級に見れば準有産階級と稱すべきであらう。
 中間階級運動 中間階級の利益伸張の爲中間階級の人士に依つてなされる運動の總稱。所謂中間階級なるものが嚴密なる意味の社會階級として果して成立し得べきか否かは別問題として、収入條件に於ける一

定の客觀的標準を基礎とし、假りに中間階級と稱する一箇の社會群が存立し得たとするならば其利益伸張の爲に彼等が結束するのは當然であり、同時に労働階級の其れとおのづから別の社會運動が起るのも當然である。例へば事務員組合、官吏組合、教員組合等の待遇改善運動の如き、之を廣義の中間階級運動と見なして差支ない。同時に、小工業者、小商人、自作農等が、大企業家、大資本家、大地主等に對する自衛手段として起す運動の如き、これも中間階級運動と稱し得るであらう。然し右の場合、前者と後者とは運動の性質も目的も全く異り、寧ろ前者の如きは労働運動に近似し、後者は後者で同業組合運動と其揆を一にしてゐる。これは蓋し、所謂中間階級なるものが、職業的に見れば多種多様であり、所得的に見れば高低雜然たるが故に他ならぬ。随つて、階級意識を共一ならしめることが出來ず、延いて團結闘争を煽揚し得ないので、遂に強力なる社會運動たり得なかつた所以である。(傳給生活者)
 仲裁裁判 制度には、國際紛議の調停機關と勞資紛議の調停機關との二種ある。前者は姑く問はず(國際紛議)、此には専ら後者の場合に就いて論ずる。労働争議(小作)に對

して國家(團體)が初めて調停の制度を設けたのはイギリスで、最初は「労働和解法案」に従ひ、公共の「和解局」なるものが設けられたが(1826)、勞資の協調を一層徹底的ならしむる必要上、此に「仲裁裁判所設立法案」を通過せしめ(1852)、謂ふ所の仲裁裁判所がロンドンに設けられた。仲裁裁判所の所轄する事項は、労働争議に際して資本金と労働者との間に立ち、國家的利害の見地から強制権を以て之を調停することである。尤も斯る強制を行ふ前に地方々々に散在する和解局が懇談的に調停の勞を取るものであるが、若し其提案が雙方(或は一方)から容れられぬか、乃至は法律上解釋上の疑義があつた場合、之を國家の強制調停に依頼することになつてゐる。故に争議が一旦仲裁裁判所なり和解局なりに提起された以上は、資本金側のロックアウトも労働者側のストライキも嚴禁され、若し之に違背した場合は、それら處罰されること勿論である。イギリスに依つて採用された此制度は豫期以上の効果を収め得たので各國に模倣され、ニュー・ジブラント、オーストラリア等は、最も理想的方法で行はれてゐる。日本に於ても第五十一議會に於て「小作争議調停法案」が通過し、先づ農争に關

する仲裁制度を認めたと、續いて一般労働にも之を及す方針の如くである。
 中産階級 「中間階級」を見よ。
 中世ギルド 「ギルド」を見よ。
 中部日本農民組合 「農民組合」を見よ。

懲罰 禁錮、拘留、罰金等と共に刑罰上の制度で、無期及び有期に分れ、有期懲役は一年以上十五年以下であり、犯罪者の悪心を懲しめんが爲、一定の地域に之を拘留し定役に服せしむるを謂ふ。悪心を懲すといふ意味には、被害者に代つて社會が加害者を懲罰する目的と、犯罪者に労働の習慣と反省の機會とを與へて改悔させる目的と、此二つが有り得る。往時の刑罰觀念は前者を代表するが、近代に至つては、後者の思想を支持するものとされてゐる。然し、實際に於ては、今猶報復思想の甚しきものあり、苦役の程度の甚だ慘酷なる、監獄の衣食が甚だ粗悪なるは其一例で、更に前科者に對する白眼の猛烈なるは其二例である。だが、それなりに、最近に於ては服役者に對しても刑餘者に對しても、種々の恩情的施設が試みられるやうになり(特にアメリカ)、報復の意味から改悔の意味に變化した跡が認められるやうになつた。

徴兵制度 軍事的活動に堪ふる一般成年男子を、軍務及び其準備教育に服せしむる國家の制度。強制を以てなされることいふまでもない。徴兵制度の最も完備した國は、現在の所我が日本であり、これは戦前のドイツの制度を模倣したものであつた。納税、教育の義務と共に「國民の三大義務」と呼ばれてゐる。封建時代には武士階級があり、武事は此階級が擔當してゐた。が、封建制度の倒壊と共に武事擔當の武士階級も存在しなくなつたので、之に代るべき制度として強制徴兵を施行し、内亂の勃發と外敵の侵入を防備せんとしたことに起因を發する。徴兵制度に並行するものは募兵制である。これは強制に依らず、各人の意に任せて志願者を募集する制度で、兵卒も士官も共に職業的軍人を以て充當する。イギリス、アメリカ其外殆ど大部分の國々は募兵主義を採用し、徴兵制度を施行する代表的國は日本を外にしてはフランスあるのみである。

直接行動 【意義】 議會政策に對峙する語。最初の意味は經濟政策のみに限られてゐた。ボルシェヴィキ革命が成就するに及び、彼等は議會を無視して政治上の直接行動を採用したので、經濟的と同時に政治

の場合にも用ゐられてゐる。蓋し、議會に依る立法手段を通じての社會改革が間接的だといふ意味から、直接行動の語が使用されたものに他ならない。サンディカリストは云ふ、労働階級から代表者を選ぶにしても、或は他の階級の同情者から代表者を選ぶにしても、此等の被委任者を議會に送つて法律上の利益を伸張せんとする企は、實に労働者の集團的行動意志を沮喪せしむるのみならず、彼等代表者が自己の名譽心と利己心とから妥協的行動に出づること多きが故に、却つて彼等の不純なる意識を労働者に反映せしめ、戰鬥力と團結力とを減殺するのがオチである。労働階級を要求する究極の經濟的目的は、斯る欺瞞的政治手段—合法主義といひ委託主義といひ—に依つて達成せられるものではない。究極目的とする經濟組織の中核に突入し、直接的に彼等の敵手を倒仆することを重視しなければならぬ。それには、多數労働者の有する物理力を團體的に行使し、資本金の運轉を停止せしむる目的を以て、同盟罷業(時に同業)、怠業、ボイコット等の經濟手段に訴ふべきである。かくて工場を破壊し、官憲と衝突し、暴動を勃發せしむることに依り革命の口火に點火せば目的の大半は達せられる。

以上は經濟手段一元論のサンディカリストの立場であるが(サンディカ、ボルシェヴィキの直接行動論はおのづから別である。彼等の理解に従へば、議會主義に對してはサンディカリストと同じく懷疑的だが、其故に有らゆる政治行動を否定しようとはせぬ。そればかりか、反つて政治行動の重要性を高調し、プロレタリアに依る中央權力の暴力的奪取が、プロレタリアの勝利を促進する唯一の方法として認容してゐるのである(ボルシェヴィク)。要するに直接行動とは、議會政策に依る委託代表の間接行動を有害無益なりとし、經濟的なる政治的なるを問はず、暴力手段に訴へて資本金主義組織の中核に衝擊を與へんとするものである。

と見ることが出来る。即ち彼等は總同盟罷業を以て最大の運動標的とする一團であつて一切の政治手段を拒み、經濟手段の一本槍で進んで来た。一九〇九年の春彼等に依つて企てられた總同盟罷業は最も深刻なる一例であつたが、當時パリの食糧は殆ど杜絶せんとし、外部との通信交通は全く切斷され、危く大事を惹起さんとする形勢にまで進展した。翌年の鐵道従業員罷業に於ても、全國の交通機關が停止する騒ぎを招き、フランス國家の存立に恐るべき危険を暗示した。フランスに續いて労働争議の暴動的性質を暴露したのはイタリーである。大戦後の産業疲弊に禍ひされ(1919)、マラスタの如き革命的サンディカリストに統率される労働組合は工場を占領し、赤旗を掲揚するのみか、赤衛軍を組織して赤色裁判所を設定するなど、ホロニア、ミラノ、ロンバルディ、エミリア等の諸地方を席巻して第二のロシアたるべきは、單に時日の問題として確認された程である。幸か不幸かムツリニー一派の彈壓手段に當面して敗北したが、直接行動の最も辛辣なる一頁に加へられるであらう。最も労働運動の穩健着實を誇るイギリスにしても、大戦直前に行はれた炭坑労働者の總同盟罷業の猛威に

對しては、文字通り手も足も出しかねたのである。其外、大規模に行はれた此の如き直接行動の實例は、枚擧に遑の無きほど多數を擧示される。

直接税 間接税に對照される租税徴收上の形式である。今若し甲の納税者があつて形の上では直接に納税することになつてゐるが、此税金に相當する金額が更に彼の手に依つて納税金を填充するといふ以外には何等の理由無く乙から徴收されるものとする。事實上、此租税は乙が甲を通して間接に納付することになるのである。之を財政學の術語では納税の轉嫁と稱するのであるが、斯る轉嫁が行はれないで納税者が同時に擔税者である場合には斯る形式に依つて納付される租税を前者の直接税と稱せられるに對して間接税と稱するのである。但し嚴密にいへば此區別は便宜上のものであつて、或一人の負擔する直接税が何等かの形式で他に轉嫁されてゐないかといふことは絶対に保證するわけに行かないのである。例へば直接税の典型的なるものと稱せられる地租の如きものが、全部或は一部分地代の不當釣上として借地人の負擔に轉嫁されてゐる現象は世間往々にして見る所である。直接税の部類に屬せるものとして異

議の無いものは、地租、所得税、營業税である。此等の税は収益に課せられる税、即ち収益の一部を當然の義務として徴發するものであるから、之を生産費の一部と見なして更に第三者に支拂を要求するといふことは表面上許されて居らぬわけである。此等以外に通行税、相續税、取引所税、釐金、登録税の如きものは普通直接税として取扱はれるが、官制上の便宜に應じて間接税と見なされることもないではない。

地理學的社會學 或は社會地理學と呼ばれ、時には人類地理學とも呼ばれる。社會現象特に社會進化を氣候、地形、地勢、水利等の地理學的要素に依つて説明する學派を謂ふ。近代の歴史哲學者、文明史家等の間には、學的研究に際して地理的要素の重要性を力説した學者が少くなかつた。然し今日、所謂地理學的社會學の名稱にふさはしき立場を表示しつゝある者は、ドウ・トルヴェ、ドラモン等の數人に過ぎない。然も彼等の間でさへ同じ地理學的原因の中に特に孰れの要素が強力に作用するかに就いて異論あり、定説を求むるに困難である。此點に於ても斯學は今後尙研討せらるべき問題を持つてゐる。マルクスの唯物史觀も社會進化の要因として斯る地理學的影響を

認めたと、極めて微力だとの見地から經濟的要素を唯一のものとしたのである。

賃銀 商品として交換される労働力の價値の貨幣に體現したものを謂ふ。隨つて賃銀は労働力が商品として賣買される場合にのみ生ずるもので、自作農が其労働に依つて得る報酬の如きは、之を賃銀と呼ぶことが出来ない。之に反して工場労働者などの場合は一定の價格を以て彼の労働力を賣渡し、労働生産物の分配に關して何等の權利を所有せざるが故に、其報酬は明白に賃銀と呼び得る。然らば賃銀は如何にして決定されるかといふに、畢竟するに、労働者の一日の生活費に依つて決定されるのである。マルクス流の解釋に依れば、一切の商品の價値は其生産に要する社會的労働の量に依つて決定されるといふ。既に労働力も商品であるとすれば、此労働力なる商品の價値は其再生産に要する社會的労働量に依つて決定されなければならない筈である。所で、労働力なるものは労働者の肉體と分離することが出来ない關係上、労働力の生産に要する労働量とは、兎にも角にも先づ労働者の肉體から労働力を産み出すに要する量といふことになり、結局に於て其肉體的生命の維持に要する費用が、労働力(商

品)の價格たる賃銀となるのである。そこで問題は此「生活費」の程度といふことになるが、マルクスは「社會上習慣上必要とされる労働階級の一般生活費」と呼び、時と所とに依つておのづから相違することを認めてゐる(本參照)。

賃銀鐵則 【概説】 賃銀鐵則説はフェルディナント・ラッサレの提唱に係り、彼が一八六二年、オラニエンブルクの手工業組合に對して發表したる労働者綱領に於て見られる。翌年、ライプチヒ及びフランクフルトの労働團體に對しても、同様な提唱を繰返したのである。其結果として此新説は當時の進歩的労働分子に歡迎せられ、後年の社會民主黨一方の母胎たる「全ドイツ労働者同盟」設立の機運を促進した。大體の趣意は、資本主義下の労働階級が循環的に盛衰消長を繰返すといふのであつて、マルクスの絶対貧窮説とおのづから異なる特色が発見せられる。彼は云ふ、労働階級の構成員は、マルクスの所謂「輕卒なる習慣」に依つて、社會の生活資料が増大する以上に、換言すれば、労働力の購買に向けられる可變資本の増加率以上に、其人數を次第に増加して行く。かくて労働の取引市場には、資本家が雇傭し得る以上に労働力

の提供者が現れることになる。其結果は失業を生み、饑餓を生み、延いてそれに基く幾多の悲惨と罪惡を生む。斯る状態が繼續すれば、結婚の困難や營養の不足などに原因して労働者の産兒は自然に制限されることになり、隨つて其人員も減少してしまふ。労働人口の減少が漸く著しくなると、労働取引の市場は需要と供給とが逆轉し、労働力の供給が需要に伴はなくなる結果、労働力の價格たる賃銀も昂騰して来る。賃銀の昂騰に隨つて労働者の生活は一般的に向上し、其場合に於ける社會の可變資本總額は實在する労働者を養ふ以外に餘剰を生ずるので、労働階級の産兒も次第に増加して行く。然も労働階級の人員的増大はやがて労働力の供給を増大するが故に賃銀を下向せしめ、次第に又彼等の産兒を制限して人口を減少せしむる。此の如く不斷に循環しつゝ、労働階級の消長を支配して行く法則を、ラッサレは名づけて「賃銀鐵則」と呼んだのである。

【影響】 ラッサレに依つて唱導された右の新説は、マルクスの人口論に素朴的な驚異を拂つてゐた當時とて、各方面に著しい反響があつた。殊に労働階級に對しては此鐵則から免れ得べき唯一の方法として生

産組合の必要を説き、且労働者自ら企業家たるべきことを慫慂したので多大なる歡迎を受けたのも當然であつた。蓋し生産組合の高度なる發達は組合員各個を労働者たると同時に資本家の位置に立たしむべきを以て、賃銀制度を自然天然に覆滅し得ると考へたからである。ドイツの最初の社會主義黨たる「全ドイツ労働者同盟」は斯くて賃銀鐵則と生産組合とを二大看板とし、ラッサレを擁して總裁に擔いだのであつたが、僅か一年の間に夥しく黨員を増大し得るだけの魅力を發揮したが、不幸にして提唱者は戀の決闘に因り對手の短銃に殺された。彼の投じた賃銀鐵則の一石は、同黨がマルクス派の「労働聯合會」と合同して「ドイツ社會主義労働黨」となつた後まで、彼等の奉戴する唯一の信條たり得たのである。所謂「ゴータ綱領」はラッサレ派に對するマルクス派の屈服を意味する(本參照)。尤も同黨内にマルクス系分子を加へるにつれ、例へばリーブクネヒトの如き、ハルレ大會に於て賃銀鐵則説を痛撃し、絕對に存在せざることを極論した(本參照)。結果翌年のエルフルト大會に於てはマルクス主義への屈從を餘儀無くされたが(本參照)、それにした所で、ドイツ社會民主黨の最初の

黨是はラッサレ主義に出發してゐる。其意味で、幾多の理論的缺陷を數へられるに拘らず、賃銀鐵則説の歴史的價値は没却することが出来ない。

【批評】 賃銀鐵則説は斯くラッサレと不可分の關係を有するが、該説の萌芽は既に第十七八世紀のイギリス經濟學者に求められる。稍學説化したのはマルサスで、之を繼承したりカードが大成し、當代でもマシーヤルの如きは依然此説を熱心に支持してゐる。然し賃銀鐵則説の致命的缺陷は、社會に於ける資本の總額が一定不變であり、且其組成に少しの變化も無きことを假定する點に求められる。資本制生産の目的が資本の増殖にある限り、資本は次第に増加し蓄積されるであらう。同時に、機械の發達、生産組織の改良が行はれて來るので、資本の組成—一定資本内に於ける不變資本と可變資本との比例—は時と共に變動しなければならぬ。労働人口の増加が假りに激甚だつたにしても、資本の増殖が其以上の速力を以て進行して行くなれば、労働は低減しないのみか増騰するかも知れぬ。勿論、實際の問題として、労働は次第に低下の傾向を示し、労働者の生活苦は次第に助長されつゝある趨勢は認められるが、それは決して賃銀鐵則説が作用する爲でなく、他に別箇の法則が作用するからに他ならぬ(賃銀)。マルサスの絶對貧窮説に關する理論的根據はラッサレの其れと全然別箇の見地に立脚してゐるのである。(參照)

て賃銀鐵則が作用する爲でなく、他に別箇の法則が作用するからに他ならぬ(賃銀)。マルサスの絶對貧窮説に關する理論的根據はラッサレの其れと全然別箇の見地に立脚してゐるのである。(參照)

賃銀奴隷

賃銀労働者の奴隷的狀態をエンフアサイズした語で、資本主義下の労働生活を住時の奴隷制度に擬したものを所謂プロレタリアと同義である。奴隷若しくは半奴隷の制度は第十八世紀の終りから第十九世紀の終りへかけて各國に其跡を絶つてしまつた。其代りとして出現した者が賃銀労働者で、彼等は自己の所有する唯一の商品たる労働力を資本家に賣り、其代價として賃銀が與へられ、それを唯一の收入源泉として生活しなければならぬ。勿論、法律の上では労働者も資本家と對等の人格者であり、權利義務の行使に甲乙無きを以て表面的には決して奴隷と等視すべきではあるまい。然しながら、實質的に之を見れば、生産に必要な資本的條件を缺如する労働者は、善くも悪しくも生きんとすれば彼等の労働力を賣るの外方法を有しない。其結果として好まざる労働條件の下に働かねばならぬから、彼等の物的生活は全く資本家の都合に俯順し、些の自由をも有しないこと

明瞭である。然も法律は、如何なる雇主に如何なる條件で労働力を賣らうとも、毫も労働者の自由に干渉するものでない。然し要は、労働者の屈從を餘儀無からしむる資本制度が、有らゆる場合に労働者の自由選擇を許さぬ所にある。即ち假りに一の條件を拒否したにしても、結局は他の條件を容認して労働力を賣らねばならぬ限り、労働者は決して資本家と對等たり得ないのである。故に資本家對労働者の關係は、舊來の主人對奴隷の關係を其まゝ發展せしめたと見られ得べく、此に一賃銀奴隷なる名稱が起つたのであつた。フリーエやマルサスを初め甚だ多くの社會主義者が、労働者の社會的地位を形容する語として使用したのも、決して所以無しとはしない。

賃料

財には使用財と消費財との二つがある。後者は一回の使用に依つて其使用價値を失ふものであるが、前者の使用價値は一定の期間之を反復することが出来る。例へば、米は消費財であり、家は使用財であるといふやうなものである。賃料とは斯る使用財の貸借に於て、借用者が該使用財の使用價値を享受し、之を減少せしめたことに對する報償として、若しくは貸與其自體に對する報償として支拂ふものを指す。

故に賃料の内部には、喪失せる使用價値に對する損害辨償(例へば)と、財物の貸與に對する報酬(例へば)と、此二つの場合がある。地代や利子は財物の貸與に對して支拂はれるものであつて、之には損害辨償の意味が含まれてゐない。然し、家賃や席料の如きものには明白に使用價値の喪失に對する辨償の意味が含まれてゐる。廣く賃料といふ時は此等一切の場合を指すのである。

【ツ】

ツアドルガ(Zadruga)

スラヴ民族の間に存在する一種の家族共產團體である。ツアドルガを形成するものは必ず同一祖先から出たる血族のみに限られ、一棟の家屋又は一定の地域内に住み、一切の家族は家長たるゴスポダーの指揮の下に共同の労働に従ひ共同の生活を營んでゐるのである。ツアドルガを形成する家族員は十人乃至二十人が普通であるが、時には五六十人の多數に達するものがあり、成員數が多ければ多い程、其團體の幸福は多いものと考へられてゐる。そして家族の減少を防ぐ爲に女子を他に嫁にやることを好まず、入贅を迎へることを喜ぶ風がある。ツアドルガに

於ては土地は全部共有にして、個人の所有に係るものは無い。ツアドルガの所有地面積は大抵二十五乃至五十ヨフ(我半町歩に當る)で、自給自足經濟を原則としてゐるが、自家の生産に餘りがある場合には家長の見込に依つて外部へ賣出すこともある。ツアドルガの内部に於ては、貧富の懸隔も無く生活難も無いので、犯罪も至つて少い。そして家族員相互の間に祖先を崇め、同族相和し、吉凶相扶け、禍福相共にする社會的道徳がよく發達してゐるといふことである。

ツラン式血統制度

ガノワン式血統制度ともいふ。モルガンに依れば此血統制度はブナリア家族が氏族制度と相互作用して生じ來るものにして、團體婚姻が無ければ此制度は發生しないであらう。今日此制度はモルガンの所謂一時的婚姻の家族の存する所に行はれてゐるが、それは遺存と見るべきものであるといふ。(參照)

ツンフト(Zunft)

中世のドイツ諸州に存在した手工業者の組合で、イギリスのクラフト・ギルドと全く同様である。第十二世紀の初め頃に起り、第十三世紀には廣く各地に普及した。それは自由獨立の親方職人達が自ら其生産を保護し營業を安全な

らしめんが爲に自發的に組織したものである。第十二・三世紀頃はイギリス、フランスでは中央王權が確立し、市民は其庇護を受けることで出來たが、ドイツにては僅に都市主宰者の實權に頼り得るのみで、多くは自己の力に頼らねばならなかつた。之に加ふるに農村は比較的親密の血縁に依つて結ばれて居り、同一地域の住民は一樣の生産に従事し互に相扶けて生活してゐたが、都市住民は農村よりの移住者も多く、斯る結合も弛緩してゐたので其財産を保護し、産業を安全ならしむるには、勢ひ同一の利害關係に立つ者が結合する外は無かつたのである。ツンフトは斯る諸種の原因から發生したもので、第十二・三世紀の頃は主として産業の保護發達を目的としたのであるが、第十四世紀に入つてからは手工業の發達に伴つてツンフトの勢力も増大し、畜産業上の事柄ばかりでなく政治上の事柄にも手を延し、竟には市政の實權を握らんとするまでになつた。當時は都市の實權が都市の名門であり財産家であり又多くは商人である所のゲシュレヒテル(Geschehite)の手に掌握されてゐた。そこでツンフトはゲシュレヒテルの手から其政治的權力を奪はんとしたので、之が爲に各地に鬭争が起つ

た。而して結局ツフトは勝利を得たが、都市の政權を得た後彼等の横暴は漸く増長した。即ち彼等が嚴重なる組合規約や年俸制度を作り、新來の職人が親方となることを拒み、自己の特權を確保しようとしたことなどは其一例である。斯る制度は第十四世紀にかけて行はれ、手工業者たらんとする者は齊しく一定の年俸を勤め上げた後、更に旅稼をして數年の修業を積み、其上巨額の費用を要する親方制作(マスターピース)を提出し、且又盛大なる披露の宴を張らねばならぬのであつた。故に親方の子弟が金持の子弟でなければ容易に親方となることは出来なかつたのである。斯くて親方の地位は殆ど世襲的特權と化したので平職人との間に階級的軋轢を生じ、ツフト改革の要求が喧しくなつた。而して工業の發達に伴つて手工業の地位が低下するに隨つてツフトの勢力も衰へ、機械に頼る工場工業の發生に由つて殆んど實力を失つたが、一八六九年工業の自由を認める法令が發布されるに及んで完全に崩壊し去つたのである。

【テ】

帝國主義 國家の領土的擴張經濟的侵

略を以て社會生活の最高善又は最良策となす主張を謂ふ。故に如何なる主義理想を有するにもせよ、自己の勢力及び其勢力を用ふる機會の許す限り、世界の表面に成るべく多く自己の領土を擴張し、其勢力範圍を擴張せんとするのが帝國主義である。斯る理想を高調したのはマキャヴェリであつて、彼に依れば國家は最高善であり、國家無くして文化は存立し得ず、國家の繁榮は即ち總ての社會生活の繁榮を意味する。斯く帝國主義は外に向つて此擴張を企てるものであるから必然に武力的勢力を必要とする。即ち必然に軍國主義を隨伴する。古代に於てはローマの覇圖、近世に於てはイギリスの植民地占領、世界戦争前に於けるドイツの汎ドイツ主義は孰れも帝國主義の理想より起されたものである。

デパートメント・ストア

「百貨店」と譯し、單にデパートと略稱することもある。字義通りに解釋すれば「部より成れる店」の謂で、店内數十の部に分たれ、一店で各種の貨物を販賣する商店を謂ふ。舊來の「勸工場」は其小規模のものであつたが、大都市には歐米流のデパートメント・ストアが發達しつゝある。其原因には、大量生産が行はれる結果として製品

販賣に特殊の機關を必要とせること、大經營に伴ふ利益を企業家が認め出したこと、交通の發達に依つて各地の産物を集め得ること等が數へられ、之に伴ふ消費者の利益も多大であるが、其反面に小商人の壓迫も免れないので大都市に於ける小商人は孰れも經營難を告げ、一種の社會問題として小商人の保護が叫ばれるに至つた。

デモクラシー

「民主主義」を見よ。

テロリズム

イギリス語の恐怖(terror)から出た語で、恐怖主義と譯されてゐる。爆弾、銃劍等の武器を以て人を襲撃したり暗殺したりする手段を謂ふ。勿論他人を襲撃したり暗殺したりすることが直にテロリズムといふのではなく、政治上又は社會上の目的が尋常の手段に依つては達せられない場合に用ゐる威嚇手段を謂ふのである。例へばロシアの虛無黨員がアレキサンダー二世の壓制政治下に採つた非常手段の如きは其適例である(虛無黨主義)。バクーニン一派の無政府主義者はテロリズムを以て主義宣傳の上策なりとし、要路の大官、資本家などを暗殺して支配階級を戦慄せしむると共に一般民衆の注意を無政府主義に向つて喚起すがいと唱へた。尙、ロシア革命後過激派政府に反抗して起つた舊政府黨の所

謂白軍が暴力に依つて過激派を排撃せんとする行動を執つたので、非社會主義者の暴力行爲に對して白色恐怖なる語が與へられるやうになつた。

デンマーク社會運動

スカンディナヴィア諸國は孰れも社會主義運動に先進したが、就中デンマークは最も先驅的であつた。これは同國がドイツと密接なる交渉を有してゐたからで、ルイ・ビオがインタナショナルの支部を最初に設けた一八七一年、同時に機關新聞を發行されたのである。此新聞を通じて労働者に對する社會主義的教育が普及し、小規模ながら數箇の労働組合も設立されたので、一八七八年には社會民主黨を創立するまでに漕着け得た。同時に労働組合の大成に努力した結果、殆ど多數の其れが社會黨直屬の組合として發達した點は、ドイツを其まゝ縮小したやうな形である。一八八四年の選挙に二名の議員を獲得し、十二、二十四、三十二と増大しつゝある。デンマークの社會黨に就いて特記すべき點は、組合主義の徹底と同時に新聞政策の成功であつた。現に社會黨機關の日報新聞は二十數種を算し、發行部數は兎に角、種類の多い點に於ては世界第一である。社會黨員兼労働組合員の總數は約十五萬、

農民及び小商工業者の間に牢固たる勢力を扶植してゐる。各國の社會黨が次第に保守的傾向を加へる中であつても、此國は最右翼の立場を保持しつゝある。其掲ぐる綱領は『エルフルト綱領』に據つたものであるが、今となつては最早死文に等しい。

【ト】

ドイツ革命

【革命直前】

ドイツ革命の直接の原因はいふまでもなく世界大戦であつた。若し戦況が彼女に有利であつたら、或は革命の慘禍を見なかつたかも知れぬと思はれる程敗戦が直接の原因をなしたのである。元來ドイツの社會黨は「労働階級に依る革命」を主義としてゐたが、ウイヘルム・リープクネヒト、ベールと二人の革命派の巨頭を失ふや次第に軟化し、大戦勃發せる一九一四年當時は、漸進改良派が壓倒的勢力を占めてゐた。唯一人、ウイヘルムの子たるカール・リープクネヒトのみは最初から非戦論を高調して降らず、軍事公債案などに對しても敢然と反對したので、一九一六年一月、竟に黨から除名處分を受けるに至つた。斯くて彼は女性の同志ローザ・ルクセンブルグ、クララ・ツェットキン等と共に「スパルタクス・ブリーフ

エー(後の機關誌「ス」)を創刊し、激しく社會黨攻撃の熱を揚げてゐたが、之に對しては外部からマルクス學者ユリアン・ボルハルトも應援してゐた。越えて三月ハルゼ以下十八名の議員も其餘りに甚しき多數派の軟化に憤慨して脱黨し、續いて獨立社會黨を組織したのである。相踵ぐ敗戦の悲報と、次第に長引かんとする戦禍とに對しては、漸く國內にも呪咀の聲を聞くやうになつた。此形勢に乗じたリープクネヒトは同年のメーデーを期して非戦示威運動を試み、ポツダム廣場で軍人の出征を阻止せんとして捕はれるや、彼の一味は報復的の潜行運動に依り、内外の戦線(戦場と工場)にある労働者を煽動し、物情騒然たるものがあつたのである。一方オーストリアに於ては、社會黨首領の長子フリードリヒ・アドラーが首相シュテイルグを銃殺した(同年十一月)を手始め各地に暴動罷業が繰返されるといつた状態にて、ドイツも其飛火を免れることが出来なかつた。更に他の一方ロシアに於ても帝政が廢止されてケレンスキーが天下を取り(七年)、やがてそれはレーニン、トロツキー等を中心とするボルシェヴィキ一派に驅逐され(同年十月)、プロレタリア獨裁を強行するに至つたのである。内外の

形勢が斯く急迫してはさすがの社會黨多數派も晏如たるを得なかつたものか、リープクネヒト派、ハーゼ派と呼應して潜行運動を開始したのであつた。

【革命勃發】 ドイツ革命の發火點は戰艦マルグラーフ號の兵員暴動である。之に先立ち、前年の七月にも兵員の暴動が行はれたが、此時は首領二名の銃殺だけで危く事無きを得た。然るに第二回は、其乗組員の多數が抜鎗を拒み、絞車を占領して出動を肯せず、同艦の所屬する第三艦隊の各艦も之に應じたので事態は急速に擴大し悪化し出したのである。之に對して皇帝は直に憲法を變更して「陸海軍は議會的政府に從屬する」ことを詔告したが、足許を見透した水兵連は愈猛り立ち、若し飽くまでも出動するならば艦内の火を消してしまふと宣言したので、首謀者と見られた水兵は捕縛された。釋放運動を名とした乗組員大會がキール軍港の練兵場に開かれた。之には多數の労働者が参加し、社會黨の一領袖が煽動演説を試み、結果、赤旗を先頭に示威運動を開始した爲忽ち陸兵と衝突し、此に暴動の烽火は揚げられた(一八年十月)。右の報道は著しく全國の人心を刺戟して、ミュンヘン、ブラウンシュヴァイヒと暴動範

圍を擴張し、十一月七日には竟にベルリンにまで波及した。此に於て首相マックスは皇帝に退位を要求したが容れられず、爲に椅子を社會黨のエルベルトに譲つたが暴徒は愈猛り立つのみ、已む無く同月十日皇帝はオランダに蒙塵することになつた。斯くてエルベルトを大統領とし、同じく社會黨のシャイデマンを首相とする「ドイツ社會主義共和國」の新政府は樹立されたのである。

【革命直後】 共和國の新政府は斯く社會黨多數派を中心として成立したが、最高政策は社會民主黨(多數)と獨立社會黨(少數)から各三名の評議委員を出し右の聯合評議委員會に於て決定するといふのであつた。然るに兩派は其漸進主義と急進主義との相違から分別したものであつた以上、事毎に意見の衝突を見たのも當然である。即ち前者は飽くまで諸分子との民主的平和的協調を要求し、後者は労働階級本位を力説して降らず、爲に最高政策の決定に遅延する所多く、便宜上いつの間にか後者に依る前者への妥協が馴致されるに至つた。當時既に出獄したリープクネヒト一派はスバルタクス團を組織し「一切の權力を労働會に」移すべきを提議し、其軟化を慨して獨立社會黨

とも絶縁を聲明した(十二月三日の同)。同時に革命的共產労働黨の組織に着手し、新政府に對して公然たる反抗態度を示したので、社會民主黨の兵士に依り、ローザ・ルクセンブルグと共に街頭で暗殺される悲運を招くに至つたのである(翌年一月十四日)二人の指導者を失へるスバルタクス團は瓦解し、曲りなりにもマルクス主義を掲げた獨立社會黨が社會民主黨に埋没されて以來、ドイツはいつの間にか資本主義國に還元し、折角の革命も政體の變革を成し得たのみで、根本の社會的變革を成し遂げ得なかつた。(スバルタクス)

ドイツ社會主義運動 【初期】 フランスに培育されたる社會主義の萌芽はイギリスに移植されてチャーチストの實行運動に展開した。然るに前者は第二共和國の成立に依り、後者は穀物條例の廢止に依つて直接の目標を失ひ(一八七〇年)、社會主義の理論的乃至實行的運動の中心は次第にドイツに移されることになつた。社會主義史の第一期はやうやく終りを告げ、此に新しき第二期が開かれたのである。之に先行した者はフェルデイナント・ラッサレとカール・マルクスの二人であつた。前者の『労働者綱領』と後者の『共產黨宣言』とは、第二期への

展開を進めた文獻として甚だ有名である。

ラッサレが『労働者綱領』を發表したのは一八六二年、ビスマルクの鐵血政策に鎮壓されてゐた當時の労働階級は翌年のフランクフルト労働大會に彼を迎へ、直に「全ドイツ労働者同盟」を組織して、以て彼を總裁たらしむることに依つて頗る急進的の運動を開始するに至つた。ドイツ労働階級の社會的利害は普通直接選舉法に依つてのみ完全に代表せられ、又社會階級の軋轢は之に依つてのみ排除し得られるといふ確信に基き、同盟は合法平和の手段に訴へて普通平等直接選舉法の實現を期す。といふのが黨則第一條、これは結黨の根本目的を明示したといふよりも、普通選舉運動に對する最初の宣言といふ意味で知られてゐる。彼の雄辯と名文とは斯くして多數の共鳴者を糾合し得たが、戀の決闘に仆れ(一八七二)てからはおのづから中心を失ひ、反つて「労働組合聯合會」に壓倒されねばならなかつた。元來、此「労働組合聯合會」なるものはラッサレ派の急進的分子に對して溫和的分子が結合したものであつた。然も前者がラッサレを理論的指導者とするに對して、勢ひ之に對抗し得べき指導者を求める意味でマルクス及びエンゲルスに頼る所が多か

つたが爲、次第に硬化の程度を加へることになつた。蓋し彼等兩名はラッサレに先んじて『共產黨宣言』を發表し(一八四八)、社會主義運動の先覺者として知られてゐたからに他ならない。尤もそれには後年社會民主黨の二大柱石と謳はれたるアウグスト・ベールとウィルヘルム・リープクネヒトとが内部から策應したのであつたが、兎にも角にも一八六五年には普通選舉の要求を宣言し、續いて、政治上には民主主義を執るが經濟上には社會主義を容れることを發表するに至つた。同時に名稱も「ドイツ社會民主黨」ど更め、インタナショナルに加盟したので、此に兩社會主義政黨が對立したわけである。

【兩黨合同】 ラッサレ派とマルクス派とは主義主張に於て次第に接近したものの、成立當初の感情問題を完全に拂拭し得なかつた爲、幾度か兩派から合同を提議しながら暫くは機會を得られなかつた。やうやく一八七五年、ゴータにて聯合大會が催され、合同を決議して「ドイツ社會労働黨」が新しく生れた。大會に参加せる者、マルクス派九千、ラッサレ派一萬五千、合計二萬四千餘名を算へたが、當時の覺悟こそ有名なる『ゴータ綱領』である(其項。翌々年の

總選舉に十三人の議員を當選せしめて以來(其以前にも七一年に二人、七二年に二人、七三年に十人)を兩黨から當選)。このさしもの「社會主義鎮壓法」に拘らず、有らゆる迫害に抗して次第に當選率を加へ、同法を撤廢せる一八九〇年には三十五名を得て、一躍下院の最大多數黨たるを得たのである。斯くて翌年のエルフルト大會にてゴータ綱領に代る『エルフルト綱領』を採用し、ラッサレ主義から完全に脱却してマルクス主義を高揚し、黨名も以前の「ドイツ社會民主黨」を再使用するに決した(エルフルト綱領)。けれども議會に於ける第一黨たる事實は政綱が如何に革命的であつたにしても實際に於て勢ひ微温的妥協的に傾くも止むを得ない。ベルンスタインに依りマルクス修正説が唱へられ出してから、正統派のカリツキ等々は應戦に努めたが次第なる軟化を防ぎ得ず、特殊の社會主義政策運動となつて反映されたのである。加ふるに一九一三年に事實上の統率者ベールが病没してから、從來の急進派と修正派との間に尙一つ中央派を生ぜしめ、内紛は愈露骨を加へた。恰も同年、モロッコ問題、バルカン問題の纏れが大戦勃發の危険を漸く暴露し、政府は尙大の軍事豫算の協賛を議會に要求したので、社會黨内部は之が爲賛成派と反

對派とに分裂し、大戰に入るや更に其程度を逐年に加へた。いふまでもなく、多數派(修正)は戦争を支持し、又少數派(中央)も積極的の反對は試みなかつた。唯急進派(カール・ルクセンブルグ等)のみが、最初から最後まで頑強に反對したのである。然るに、戦線の不況と同時に戦禍の増大は漸く國民の非戦熱を煽るに役立ち、オーストリアの反戰的罷業に呼應して各所に労働罷業が頻發することになり、竟にキール軍港に起された暴動を皮切りに、全國的革命運動の烽火は點ぜられた。斯くて皇帝の退位、社會主義共和國の誕生、スバルタクス團の崛起等を経て革命の指導者たりし當時の社會民主黨は、又もや昔日の溫和派に還元してしまつた。(ドイツ革命)

【現狀】 全國的革命に先立ち、即ち國內に非戦熱が高調され出した當時、社會黨の多數は依然として主戰熱に凝り固つてゐた。之を不満とした少數派と急進派とは脱黨して新に「獨立社會黨」を組織し、ハーゼ、レーデブール、デットマン等の一派とリーアクネヒト、ルクセンブルグ等の一派が進退を共にしてゐた。然も後者は猶も前者に嫌らず、別に「スバルタクス團」を組織して慘殺されるに至つたが、一八一九年の

選舉當時は民主派と獨立派とは對立し、前者が一一一名で後者が八〇名、下院の第一黨と第二黨とを領してゐた。之に對してスバルタクス團の殘黨と認むべき共產黨が僅に二名、これは反對に最少數黨であつた。其後獨立社會黨の右翼が社會民主黨と合同したので、其左翼分子は共產黨に收率されることになり、一九二四年現在の議會的政勢は、社會黨が一三名を有して依然第一黨、共產黨は四五名で第五黨といふことになつてゐる。第一黨でありながら、社會黨が政權を離れること久しきに及んでゐるのは、社會黨中心の内閣が出現すれば、國權黨や人民黨の如き右翼諸政黨が結束し、政務の運用に円滑を期し難いからである。が、それよりも尙、革命後の新政府を引受けた社會黨が左顧右眈して何事も爲し得なかつたことに對する國民一般の失望が、今に至るまで彼等の政權掌握を喜ばぬといふのが直接の原因である。今や彼等は財産の公有を綱領に於て宣言するのみで、實際に掲げる政綱は極めて溫和なる社會改良を目標としたものに過ぎない。故にドイツ社會民主黨は過去に於てこそ社會主義運動の中堅たり得たが、今日では支流からも傍流からも離れ、氣の抜けた民主主義政黨として、徒

に尨大なる體格を持つてゐると解すべきであらう。一九二八年五月二十日の總選舉に社會民主黨一五二名、共產黨五四名當選し、前者は第一黨後者は第四黨となる。

ドイツ労働運動 【概説】 第十九世紀末葉より第二十世紀初頭にかけてドイツの労働運動は社會民主黨を中心とする政治運動に壓倒された調子であり、組合運動は政黨運動に追隨して發展した傾が認められ得る。蓋しドイツの政黨運動は、少くとも大戰前には世界の模範と仰がれただけであつて政治運動の基礎として經濟運動が準備されて來たからである。尤も嚴密にいへば、ラッサレ及びベーベル、リーアクネヒトを中心とする此政治運動が起らざる以前、即ち一八六二年以前、既に小組合は諸方に多く設立されてゐたであらう。然し之に組織を與へ、定型的組合運動の發達に貢獻したのは、主として彼等三人の努力である。其初め政治運動の分野に於て、ラッサレ派とマルクス派(ベーベル・リーアクネヒト派)とが抗争したやうに、労働運動に於ても此兩派は絶えず衝突してゐた。一八七五年の合同が成立して、漸く兩派の融和が期待されようとする時、例の「社會主義鎮壓法」が敢行されて手も足も出なくなり(Verdrängung)

これが撤廢された一八九〇年以後に初めて公然たる運動を開始し得たのである。同年ベルリンで開催された大會に参加せるもの六十二組合、其指導者は殆ど社會黨の有力者だつたので、多く強力なる中央集權的組合の設立を理想としてゐた。一九〇六年のマンハイム大會に於て、如上の諸組合が大いに拘らず、社會民主黨と協調すべきことを表面的に聲明して來た。これと同時に社會民主黨の選舉母胎としての特質も愈濃厚を増し加へたのである。斯くて大戰直前の一九一三年には、四十七組合に二百五十萬の組合員を算へ、社會黨直屬組合は押しも押されぬ中堅の勢力となり得た。労働運動の本流が此等の諸組合に依つて決定されてゐたのは勿論だが、其外にも傍流的組合として閑却し得ない労働組合が多數ある。先づカトリック組合がある。此分子は最初社會黨組合に屬してゐた。然るにライオン、ウェストフリア等の炭坑労働者が中心となり、社會主義の唯物史觀的反宗教的傾向を不快として分離し(Disaffiliation)、別にカトリック教義を奉ずる労働組合を組織したのである。蓋し、右の地方は舊教の勢力が盛で、労働者の間にも熱心なる信徒を有す

る爲、これも大戰直前には三十四萬を算し得たといふ。カトリック組合はドイツのカトリック黨たる中央黨を支持してゐる。他の一はヒルシュ・ツンケル組合にして此名稱は設立者たるマックス・ヒルシュとフランク・ツンケルの姓名に基いたものである。彼等兩名は自由主義を奉じ階級的利害の一致を信ずる見地から、社會主義組合に對抗して創設したのであつた(Verdrängung)。随つてビスマルクの「社會主義鎮壓法」に禍ひされることも無く、當時既に十二萬餘の員數を算へたといふが、大戰前には十萬に減じ、現在では更に又減じてゐる。重なる成員は技手、機關士等である。其外、八十萬の屋外労働者を糾合したる獨立組合、罷業破りを商賣とする黄色組合(黃色組合)等もあるが、元より烏合の衆とて問題とするに足らない。

【社會黨組合】 ドイツの労働運動を縦斷する中央集權的組合は、彼等の支持する社會民主黨が官僚化し出すと共に、聯合内部も次第に官僚化して來た。大戰直前に總員二百五十萬を算へたが、フランス社會黨が戦争防止の大罷業を提議したに拘らず、ドイツは社會黨の名士のみならず、聯合會の決議も斷然之を拒否し、進んで産業動員に奉仕すべきことを宣言した。勿論、それが善

いとか悪いとかいふ意味でなく、斯くも社會黨と不可分の關係を結び、幹部本位的に組織されたことを、寧ろ一の驚異として見らるべきを思ふのである。戦争に入るや組合員の多くは徴兵されて一時は百五十萬に減じた。が、軍事強制労働法の適用に依つて新しく組合員たるべき分子が次第に多く工場に流入し、戦後の最隆盛時代には、老幼男女の熟練不熟練工を取交ぜ、一時は八百五十萬といふ尨大なる組合員を包容したのである。それは兎に角、戦争當初は愛國主義に硬化したる彼等であつたが、打撃く戦線の不況と戦禍の酸鼻とは、やうやくにして彼等の非戦熱を高揚し出したのも已むを得ない。即ち一九一八年オーストリア労働者に依つてなされた同盟罷業はドイツに蔓延し、各地の大小罷業に呼應する戦線の叛亂が繰返され、同年十一月のキール暴動に機縁して社會主義共和國が建設されたのである。當時、社會黨は多數派から少數派が分離し、其少數派から更に過激分子が分離したので、大屋臺の下に一絲紊れざりし組合聯合も三派に分別した。最左然し翼の一味はスバルタクス團の終熄後まで労働會の權力復活とプロレタリア獨裁とを主張し、各地に罷業叛亂を繼續してゐたが、

一八一九年八月新政府は已むを得ず「労働者會議」の制度を認め、以て彼等の意志の尊重を公約したので竟に平定した。然し労働者會議なるものは單なる形式一片の機關に過ぎず、之を通じて労働者の意志を反映させるといふ意味は無かつたので、いつの間にか有名無實の機關となつてしまつた。一方、社會黨も後退に後退を加へ、ドイツの國情も全く戦前に逆轉した今日とて、一九一九年六月には八百五十萬を算したる聯合組合員も同年末には六百三十萬に激減し、爾來減少の傾向を進めたので、今では三百五十萬を上下する數字だらうといはれる。然も其四分一乃至一分一は新興共產黨に喰込まれてしまつたので、昔日の如き一絲不紊の統制を保つことは全く不可能である。尙、社會黨直屬で發達して來た右の組合聯合のうち金屬工組合が最大で、一時は百五十萬の會員を誇つてゐた。續いて農業労働組合、工場労働組合、運輸労働組合、鐵山労働組合といふ順序に、別動隊として俸給者組合も數へなければならぬ。此組合聯合の代表者は一萬人に對して一人の代議員を三年毎に選出し、右の代議員から更に十五人の執行委員を互選し、半年毎に開かれる代議員會に於て諸般の事務を報告せしむ

る。其昔中央集權派と呼ばれたる特色は今日と雖も猶全く抜け切らないが、官僚的制度は餘程緩和されたといふ説もある。

同業組合運動 資本制生産の發達が大經營に依る小經營の壓迫を甚しからしむる爲、之に對抗する必要上小工業家乃至小商人等が結び、團體的に彼等の利益伸張を企てる場合が多い。同業組合の現代的なる現れはそれである。政治的には主として自由黨的なる運動を支持してゐる。例へば、イギリスの自由黨對小ブルジョアの關係の如くである。然し同業組合運動の中には中世ギルドの親方制度を復活し、徒弟の支配權と利益の獨占權とを要求する一派もあり、前世紀の中葉から末葉にかけての同業組合運動はイギリス、フランス、ドイツなど執れもそれであつた。ギルド社會主義の主張は元よりそれと異なることはいふまでもないが、同業組合の復活を要求する意味に於て多少の近似點が認められないでもない。

統計 數字を手段として多數の現象又は事物を量的に比較的に概括觀察するものであつて、此方法を統計的方法といひ、之を獨立の科學となしたものを統計學といふ。近世科學の進歩は統計的研究に負ふ所が多く、社會現象に關する研究は勿論、氣

象、生物、心理等の研究にまで統計的方法は適用されてゐるが、統計學發達の歴史上社會現象に關するものが特に廣く知られてゐる。人口統計、犯罪統計、労働統計、物價統計などは社會問題研究に不可欠の材料を提供するものである。統計は多數の複雑なる現象又は事物を一括して比較數量的に觀察するのであるから、現象又は事物間の因果關係を示すものではない。例へば労働の騰貴と穀價の騰貴とが統計に依つて同時に並行して行はれたことが知られるとしても、孰れが原因で孰れが結果なるかは之に依つては示されない。たゞ我々は此労働及び穀價の同時的騰貴といふ統計的事實に依つて因果的關係考察の手掛りを得るのである。尙、此外に統計が我々に與へる利益は、複雑なる現象事物を整頓して觀察を正確にすること、過去の現象事物の統計に基いて將來の現象事物に關する蓋然的知識を得られること等である。

統計的法則 事物の數量間の相關を縮約的に表した方式。統計的法則では因果の關係を表さず、隨つて其まゝでは因果法則であることは無いのである。犯罪は物價の騰貴に伴つて増加するといつても二者の相關を示すのみで、孰れが原因であるか結果

であるかを説かない。故に當然一種の經驗的法則たるに止る。又、統計的法則は此數量間の多少とも一般的なる關係を表したるものである。而して多數の筒別的關係の中から此一般的關係を求むるには蓋然率の理論を用ひて偶然の原因から來る作用を除く。統計的法則は勿論社會現象の外、氣象、生物、心理其外數多の範圍に互つて見られるが、統計學發達の歴史上からは、社會現象に關するものが特に廣く知られてゐる。統計的法則は數量的形式の上から見れば常に「 $y = f(x)$ 」の形をとる。而して「 x 」の重なる成分が單に蓋然率を示す分數なることもあり然らざる場合もある。男女の割合が或社會に於て百對百五であるといひ、死亡率が千に就き二十であるといふが如きは前者である。即ち死亡數男子の數を人口の函數として示すものである。麥價 y と收穫 x との關係が「 $y = a + bx + c$ 」(グレゴリキ)であるといふのは後者の一例である。材料より之を得て來るには Method of least square に依る。此等の經驗的法則の事實との適合を測る方法に二つある。一はレキシスの安定度 q の測定方法で、二はビアンソ一派の相關度 r の測定方法である。

同情説 同情を以て社會結合の心理的

因子となす説にして、反覆作用(參照)の一形態であり、同類意識を以て同情なりと解する時は此同類意識説(參照)も一種の同情説として取扱はれなくてはならぬ。同情説の骨子は、詳言すれば、他人の苦痛、困難を自分の其れの如くに感ずるが故に、そこに救助があり、協働があり、隨つて之に應ずる感謝があり、愛着があり、此同情の相互に交換せられる所に社會はおのづから成立し存續するにある。斯る同情説は不精確なる心理的分析の上に立ち、科學的に同情として取扱はるべきものと利他的感情即ち愛情とを混同し、此二者を同情の概念中に包攝して之を社會結合の原理となした、他人の苦痛困難の自分の意識に於ける再現と、之に對する愛情、救助的活動とは必然的の聯關を持つ事實ではなく、相分離し得べき可能を存し、隨つて心理的分析に於ては當然相分たるべきものである。而して、普通に所謂同情に歸せらるゝ結社の作用は此中の利他的因子即ち愛情の作用に基くものにして、科學的意義に於ける同情は唯他の感情又は情緒が自己に再現せらるゝことを意味するだけである。而して、コントよりギデイングスに至るまで此科學的意義に於ける同情のみを拉し來りて社會の構成原

理と考へた者は無い。隨つて嚴密なる意義に於ける反覆作用説は未だ同情を中心として構想せられたることは無いといひ得る。所謂同情説は、エスピナス、ギデイングス、フェレ等の如く群居本能に基く愛情即ち同類の親和を以て社會の構成原理となすものである。何とならば此説に於て主張する社會成立の過程は利他的傾向を中心となせるものにして眞に謂ふ所の同情を中心とせず、而して此利他的傾向の一面を見るに、これは群居本能に他ならないからである。要之、社會學史上に現れたる同情説は皆、同情と利他的傾向との混同、非科學的の心理的分析の上に立つてゐる。普通 sympathy の語はエルウッドが其著『社會學』に定義せる如く「利他的感情の總稱」として用ゐられ、社會學者は此通俗の用語に於て同情を解して、直に之を以て社會結合の原理に擬したるが故に固有の意義に於ける同情説は遂に現れなかつた。

同情罷業 一企業(或は多數の企業)内部の労働者がストライキを起したる場合、此ストライキを後援する意味で、他の企業に於ける労働者が自己の利害を直接の目的とせず、同情的に行ふ罷業を謂ふ。同情罷業が起される場合には系統の類似する企業

に於て最も多い。例へば、或製鐵所のストライキを後援する意味で同一地方乃至全國の製鐵工が同情的に罷業するとか、或は電車従業員の罷業に鐵道従業員が應援するやうな場合である。其の資本系統を等しくするやうな時は、其資本家に対する共同戦線を布く意味から企業を別にしても同情的罷業を行ふ場合があり、聯合關係乃至友誼關係にある労働團體に對する同情から起される場合も多い。所謂總同盟罷業は斯る同情罷業の範圍が大規模に擴大された場合と解して差支ない。

同心 ギディングスの用語。彼に依れば多數の個人が同一の刺戟に對して同様の反應をするが、これのみでは意志結合をなすに至らない。然し、同類意識(其項)が豫め存在して其作用が此上加れば此處に意志結合が成立する。斯くして成立したる相互の類似の全現象を名づけて同心といふ。意志結合の様式は各人に共通なる心意の定型が本能的なるか、同情的なるか、獨斷的なるか又は熟慮的なるかに隨つて意志結合も本能的、同情的、獨斷的又は熟慮的である。隨つて同心も亦此四種に區分される。

同族結婚 同一の氏族又は同一の血族者の間の結婚を謂ふ。古代に於ては一般に

行はれ之を強制した國又時代もあつたが、次第に異族結婚即ち族外結婚に移り行き、現在では大抵同族結婚を排してゐる。我國にては三等親内の近親結婚を禁じてゐる。又朝鮮の如く同姓間の結婚さへも排される程厳しい慣習となつてゐる所もある。然し現在に於ても野蠻人種の間には今だに同族結婚が堅い規則になつてゐるものが多い。例へば中央アメリカの種族に行はれ、南印度のイエルカス族に於ては母系の叔父は自分の子の妻として姪を要求することが出来る。又カレン族に於ても近親結婚が普通である。ホッテントット族も族外結婚を決してせぬ。又ニュー・ジブラルダのサンドウィッチ島にも行はれてゐるやうである。然し野蠻人種のみならず我日本に於ても山間僻地の民族間又は特殊民族間に於て、或は交通不便の結果、或は氏族の誇として、或は周囲の輕蔑の結果として、猶同族結婚が行はれてゐることは明かである。歐洲諸國にても部分的にまだ此古代の習慣を保持してゐる氏族がある。イギリスのサウザムプトンの近くのイッチンフェリー、或はポートランド島、ヨークシアアのペンザム、マウンツペーのマウスホール、ニューリン等の漁村に行はれ、フランスに於てはロー

アール・アンフェリユのル・プロアシの近くのバツツ或はブレターニエの中央諸郡を擧げることが出来る。其外諸國に行はれ、枚擧に遑が無い。同族結婚から異族結婚に移り行つた理由に就いては事實上の研究が必要であり、學者の説も必しも一致してゐないが、思ふに征服後の同化の必要、交通の發達の結果等を擧げることが出来よう。同族結婚の利害に就いては諸説區々であるが現在に於ては有害説が有力である。

トーテム(Totem, Totem) 野蠻未開の人類が自己と特別の關係を有するものと信じて一種の有形物を迷信的に崇敬することを謂ふ。即ち鬼、龜、熊といふやうな動物の一種、或は草木等の植物の一種、稀には又無生物の自然物の一種、人工物の一種を特に崇敬し、同一の祖先より來れる血族なりと信じて、之を殺傷毀損すること無く保護するのである。トーテムには一氏族共通に代々傳へられる氏族のトーテムと、一族の男性又は女性のみ共通する男女のトーテムと、一個人のみに屬して其子孫に傳はる事無き個人的トーテムとの二種類がある。其中で特に重要なのは氏族的トーテムであつて、原始人類の間に於て社會組織の紐帶となつてゐた。即ち一氏族全體の成員

は其トーテムを以て己が名とし、同一の祖先より來れる血族なりと信じたのである。故にトーテム的社會内には、氏族内に生れた者以外にも種々なる成員を含んだ。それは他氏族に生れ、トーテム名稱に依つて仲間に入られた者や又他から彷徨して來た同一トーテム名稱の者をも含んだ。

動物虐待防止事業 一八二二年イギリス下院議員マーティンが家畜虐待防止法案を議會に提出して容れられ、越えて二四年「動物虐待防止會」なるものが設けられて以來、キリスト教の博愛的見地から各國に動物虐待防止事業が起された。イギリスに續ではアメリカが最も盛である。我が國でもイギリス大使館附武官バーネット氏の夫人等が熱心に奔走した結果、多數の會員を(主として婦人)算へるやうになつた。

ク・ドゥガルの云ふ如く「此語の文字通りの意義に於ける明白の同類意識は意識の發達の高き段階を豫想する。そして此の如きは群居本能の發動に何等必要な條件にあらずして、斯る同類意識は其自體何物をも營むことが出来なく、それは社會力にあらず動機にあらず、衝動をも慾望をも生ずること能はずして、群居本能を發動せしむべき知的過程の最も發達したるものに過ぎない。若し此本能が存在せずば、人々の間の類似、及び差異の最も正確なる認識も同類意識に歸せられたる結果を齎す事が出来な

同類意識 「ストライキ」を見よ。

同類意識 ギディングスに依つて創唱せられた説である。彼は『社會學原理』第二版に於て「此語に依つて私の意味する所は、發達の段階の高下を問はず、或生物が他の有情者を以て同類なりと認むる意識狀態である」と定義したが、後年の著『社會學入門』に於て、其構成要素を更に詳細に説明した。即ち同類意識は(一)有機的同情、

唱せられた説である。彼は『社會學原理』第二版に於て「此語に依つて私の意味する所は、發達の段階の高下を問はず、或生物が他の有情者を以て同類なりと認むる意識狀態である」と定義したが、後年の著『社會學入門』に於て、其構成要素を更に詳細に説明した。即ち同類意識は(一)有機的同情、

同類意識説の目的とする所は社會の本質の説明ではなく、社會を成立せしむる心理的因子を説くにある。此點から同類意識の内容又は要素を明かにしよう。先づ第一に知的方面に關するものに自他の類似的意識、次に情動的方面に關するものに群居本能に基く愛情及び同情の二者がある。此三要素は決して必然且不可分離の聯絡を有するものではなく、相共に存在するは極特定の場合に限られてゐる。換言すれば、此一つの情動的要素は類似的意識といふ知的内容の必然的伴隨者ではない。随つて同類意識を類似的意識たらしめば、それは必しも同時に愛情同情を含むといふことは出来ない。又同類意識を愛情又は同情たらしめば、必しもそれは類似的意識を意味することは出来ない。故に同類意識は類似的意識か、同情か、愛情か其一者たるべくして同時に三者たることは出来ない。之を類似的意識として認むれば、之を以て結社の原動力なりと認めることが出来ない。元來知的要素は我々をして何等の行動に出でしむる力を持たず、随つて同類意識も單に自他の類似的知覺としては結社の作用が無い。若し此作用があるとすれば、之は必ず随伴する情意的要素の力に其根源を求めなくてはならぬ。

い。斯くて類似的意識は其情意的隨伴現象に依り結社を促すこと無きならざるも、又之に依り分裂争闘を誘致し來る場合のあること明かである。要之、類似的意識に伴ふ情動的方面は極めて多義的にして、或は結合を助長し來り、或は反對を意味するものがあり、随つて同類意識を其知的要素の意義に解する時、之を以て社會結合の原理と認許すべきではない。元よりそれは同情愛情等の結社の因子を伴ふことはあるが、此等の因子は類似的因子の函數ではない。随つて、同情又は愛情を以て結合の原理なりと認め得ても、之が爲に類似的意識即社會の原動力なりとは許すことは出来ない。

同類親和 「群居本能」協働を見よ。

都會病 都會生活から特に生れんと想像される病氣を謂ふ。日本に於ては脚氣は明かに都會病とせられてゐる。其直接原因は何であるにもせよ、田舎から都會に出た者が此病氣に罹り、田舎に歸つて瘵養すれば最も有効の結果が見られるといふ事情は明かに此病氣が都會生活に依つて促進されることを物語るものである。尙、都會生活から特に促進される病氣としては、呼吸器病、神經衰弱等がある。呼吸器病は都會に於ける狭隘なる住居、煤煙、塵埃等が原因

典型的の個人的獨裁であるが、レーニンやムツリニの其れも厳密にいへば個人的性質が多量に認められる。唯それなりに、前者がプロレタリアに依る階級獨裁、後者がファシストに依る黨派的獨裁と見て見られぬわけでもないが、黨派的といふなら、前者もボルシェウイキに依る黨派的獨裁と見ることが出来る。現に正統派社會主義の著者カウツキーの如き、若し勞農ロシヤが眞にプロレタリア(多數)に依る獨裁を施行しつゝあるならば非難すべき點は無いが然し、プロレタリア階級中の少數ボルシェウイキに依つて敢行されつゝある黨派的獨裁なる意味に於ては、マルクス主義の見地からは認すべからずとなしたのであつた。蓋しマルクスは曾て「資本主義的社會より共產主義的社會に移る革命的變革の時代には、斯る政治的過渡期に照應する爲、プロレタリアの革命的獨裁を強行するも已むを得ず。」と見たが、プロレタリア中の一黨派に依る獨裁政治は認容しなかつたからといふに他ならない。カウツキーの非難も元より詭辯的である。だが、ロシヤの現在がプロレタリアの名を掲げる一黨派の専制なることは疑ふべくもない。其意味に於てファシスト獨裁と本質的に異なる點無く、若

し獨裁政治を非とするならば、ボルシェウイキもファシストも共に非とすべきである。プロレタリアに依るから、或はブルジョアに依るからといふ意味で獨裁の正邪が決定されるべきではあるまい。寧ろ形式は如何に民主的であつたにしても、事實は政務に當る少數の専制を免れない意味に於て、如何なる政治も獨裁的に傾くの普通とするのである。

特殊 昔穢多非人と呼ばれ、普通人民と隔離されて別に一箇の住居範圍を造れる一部の人の部落を謂ふのであるが、近年水平運動の起ると同時に殆ど此語も用ゐられなくなつた。此部落民は往古日本國民中最下層の民として取扱はれ、通常の百姓町人も之と對等の交際をすることを拒んだ。而して彼等は社會で最も賤まれる職業主として皮革に關する職業を行ひ、普通人民の間に住むことを許されずして村や町外れなどに一廓を成して住居した。明治維新後穢多なる者は國法上取消されて、新に普通の平民の列に加へられたのであるが、世間では殊更に「新平民」などと稱して賤んでゐたのである。而して從來の特別なる住居範圍も習慣的に維持されて、之を特殊部落といひ慣はすやうになつた。明治四十年

となり、神經衰弱は強烈の色彩、光線、騒音、強度に緊張せる日常生活などに起因する。又都會には特殊の工場、職業があるもので、それが原因となつて田舎に見られぬ病氣や田舎よりも遙に罹病率の高い病氣が生ずるが、これは都會病といふよりも寧ろ職業病といふべきであらう。

獨裁政治 全人民の總意に依らずして或特定の個人なり黨派なり階級なりの専制に依つて行はれる政治。元は漠然たる專制政治の名稱を與へてゐたが、ロシヤ革命の結果プロレタリアの獨裁權(ディクテツ)が確立されて以來、特に階級的性質を持つ獨裁政治に關する是非が論ぜられるやうになつた。元來、政治は何等かの意味かで獨裁ならぬものは無い。王權の隆盛の時代には君主の獨裁政治があり、封建時代には武士の獨裁政治があり、資本主義時代にはブルジョアの獨裁政治がある。最も民主的なることを看板とする政黨政治でも、結局は少數幹部の獨裁的意志に依つて方針が左右される限り、矢張一種の獨裁が行はれつゝあると見なければならぬ。それは兎に角、獨裁政治の形式は個人獨裁、階級獨裁、黨派獨裁の三種に分類される。アレキサンダー大王よりナポレオンに至る英雄政治は最も

の内務省調査に依れば、全國を通じて其部落數五千四百餘、戸數十三萬七千餘、人口七十九萬九千餘であつたといふが、戸數及び人口數は年々増如しつゝあるものと見てよい。從來特殊部落民は社會外にて社會を作り、一般社會との交通が稀であつたからおのづから言語、風俗、習慣等に特異の點を生じ、生活の標準文化の程度は一般社會から取殘されて低位にあつた。加ふるに職業の數は少く規模も小さからざるを得ない。で收入が少なく、隨つて富の程度も低い。狭い社會内で婚姻を結ばねばならぬ點から勢ひ近親結婚が多くなる。住居の範圍が限定されてゐるから人口は殖えるに隨つて密集する。此等の原因は相俟つて諸種の弊害と憂ふべき結果を生ずる。斯くて從來幾多の社會改良家の主唱の下に特殊部落改善といふような事が社會事業の一つとして提起されるに至つたが、然しながら差別待遇といふ根本事實及び此觀念が撤去されない限り、斯る事業がどれ程の効果を收むるかは疑はしい。(水平運動)

獨占 經濟的の意味に於ては、或一人(又は或一群の團體)が買手乃至賣手として交易上の無競争的地位を占略することを謂ふ。故に獨占には販賣獨占と購買獨占の二

種があり、孰れも利益の壟斷を目的として行はれる。獨占の傾向は資本主義の發達と共に助長され、小資本が大資本に吸収される徑路は直に獨占の程度が増大する徑路であり、トラストやカルテルは斯る獨占を目的として組織されたものに他ならない。販賣的獨占も購買的獨占も小資本を壓し小企業を壓迫する意味で各國は孰れも制限策を講じ、社會の一部に利益を壟斷せしめず、一般に普及せしめ得る如き方法を執つてゐるが、到底十分なる効果を期待し得ず、反つて獨占の傾向は濃厚化し、殊に資本主義最後の段階としての帝國主義諸國では國外市場の獨占に其主力を傾倒してゐる。

都市 【概説】 村落と等しく一の地域的團體である。然し村落が人口の密度比較的薄く其範圍も亦狭小であるに反し、都市は人口稠密であり其範圍も廣いのである。之に加ふるに村落に於ては其構成人員が殆ど固定してゐるに反し、都市を構成する者は甚だ浮動的であつて、變化が多い。故に村落の構成者は比較的相互の交渉が多く、都市に於てはそれが甚だしいのである。都市は又村落に比し經濟的、文化的發達が進んでゐる。即ち産業の隆盛、交通の頻繁、學術の發達等は都市に於て最も著しいので

ある。都市は次第に膨脹しつゝあるが、村落は衰退せんとしてゐるのが今日の傾向である。此の如く活動の盛なる都市は居住者に對して種々なる刺戟を與へ其精神的發達を助長せしむると共に彼等を極端なる神經質に陥れる。所謂都會病なるものは都市居住者の過度なる神經的緊張の状態を指すのである。

【古代】 都市は必しも近世的產物でなく、古代にはメンフィス、テーベ、カイロ、バビロン等の大都市があつた。然し古代の都市はメンフィスの如く宗教的意義を有するものの外多くは政治上の中心地とされてゐたのであつた。即ち孰れの都市にも嚴重なる城壁が繞され、王宮を中心として統治が行はれてゐたのである。故に、此時代の都市は今日見るが如き經濟的中心地ではなかつた。然し斯る非生産的の都市も其後次第に經濟的發達をなすに至つた。即ちアテナイ市の如きは西曆前第五世紀に於て宛も世界市場たるが如き状態となつてゐた。當時アテナイ市に居住する商人、海運業者、工業者の數は十三萬に及び、彼等は十萬の地方農民に對して政治上の優先權を有してゐたのである。又ローマの如きは都市成立の初期に於て既に職業分割が發達し(分業)の

商工業の如き、それ〴〵獨立してゐたのである。其上海に近く且タイパー河畔に在つたことはローマをして附近市場に對する中央市場たらしめたのである。

【中世】 中世に入るに及んで都市は全く其面目を改めた。即ち中世都市は孰れも市場を有し、嚴重なる建築物は悉く市場の附近に設けられ、市場は市民が生活資料を得る所であると同時に、生産者及び外部商人との取引の中心地でもあつたのである。且又此時代の都市は都市居住者の財産及び生命を保護する機關ともなつてゐたので、都市の周圍には堅牢なる防禦の城塞が築かれてゐた。中世都市に集合して來た者は孰れも商工業者の群であつて、彼等は初め其保護を都市當事者に委ねてゐたのであつたが、次第に發達すると共に彼等自身が都市の統治權を握り、又外部に對し、殊に諸侯の勢力に對して對抗するに至つたのである。斯る變化は彼等が經濟上の實權を握り、ギルド、ツントなどの同業組合を結ぶに至つて生じたものであつた。斯くして獨立した都市が即ち自由都市と稱する所のものである(自由都市、ハンザ同盟)。

都市は最早經濟上の單位としてのみならず政治的單位たることも不可能になつて來たのである。近世の都市は從來の都市に於ける如きが政治的、經濟的獨立性を有しないのである。而して近世都市に於ては分業の發達が益著しくなり、且近世的工業の隆興が甚しくなつて來たのである。故に地方農民の都市に吸収される者は次第に増加し、之が爲に都市人口は急激に増加して來た。近世の大都市に於て、孰れも住宅問題が附隨してゐるのは斯る傾向の結果である。都市は又其産業の發達と共に交通状態の頻繁になることを特色とする。歐米の各都市に於ては、市街電車、地下及び高架鐵道の發達頗る著しいものがある。我國に於ても大都市には孰れも市街電車が設けられてゐるのである。其外種々なる文化的機關の發達してゐることは、古代及び中世の都市に比して遙に著しいのである。又近世都市は社會的及び經濟的發達の中心地として又其先驅者として、現代社會の進展し行く傾向を最も率直に表してゐる。故に都市の有する色彩及び病弊は直に現代社會の有する色彩及び病弊でもあるといふことが出来るのである。

都市國家(City state) 如何なる主權に

も從屬せず其自體獨立せる政治團體として存在せる古代の都會を謂ふ。古代ギリシヤの都市國家は殆ど一様に小高き丘若しくは山を中心として其四圍を周り又は之を背後に負うて人家が群り立ち、人口は數千から數萬を算してゐた。丘若しくは山の上には都市の守護神を祀れる神殿があり、市の寶庫も其處にあつた。此神殿は都市の最も神聖なる靈場であり、又一朝事ある時には都市の城廓となつた。丘又は山の麓の一般市街は通例アゴラ(市場)を中心を形造り、其一隅にはストア(廊下)や公の建物があり、市民の會議、裁判、取引、交際、談話等が行はれた。つまりアゴラは一國の政廳、裁判所、取引所、社交場、露店の用をなすものである。而して神殿附近の傾斜面には劇場があつた。これは市民の娛樂場といふよりも寧ろ本來は神の祭事の爲に設けられたのである。神殿を含む都市全體は其周圍に城壁を繞し、外敵に備へた。市に屬する土地は市の附近僅に數方里に互るばかりで、國家の領土は面積數十里以内を通例としたのである。此の如き狹隘なる地域に一國家を立ててゐたギリシヤの都市國家が其國家觀念、政治思想に於て一種獨特なるものがあつたことは容易に想像し得る。

都市國家に於ては人民即國家であつた。古代ギリシヤ人の國家觀念は専ら人的關係を重視して領土には無頓着であつた。即ち彼等に依れば、凡そ市民は國家に於てのみ生存し、彼等自身に依つてのみ國家は成立する。換言すれば、國家は各個人にとつて最高の生活であり、國家以外には個人の生活中心は無く、又逆に個人は國家にとつて唯一不可缺の要素として國家生活の全體を組織するものである。斯る觀念に基いて、都市國家の市民は、國家の運命は自己の運命なりとして一致協力し、鄰國と繁榮を競つたので、古代ギリシヤの都市國家は短時日間に非常の發達を來したが、經濟的進歩と共に職業の分化が起り、貧富の懸隔が漸く著しくなるに至つて各階級間の軋轢が激成され、竟に國家に對する觀念は變化して個人主義思想が擡頭し、外國戰爭や内亂などの連續に逢ひ卒に衰退するに至つたのである。尙歐洲の中世期に於ても、ライン都市同盟、ハンザ同盟の如き古代の都市國家を彷彿させるものが存在したが、近世國家の成立が近づくと共に此等のものも全く消滅に歸してしまつた。

土地貴族 領土を私有し、其領土内からの不勞收入に依つて經濟を立てる貴族を

を謂ふ。之に對立するのは多額の貨幣を私
有し、其利潤に依つて經濟を立てる金
權貴族である。日本に於ける封建時代の
大名は領地を有して租税を取立てたが、其領
地と領地内の住民とは大名の私有財産でな
く、唯、支配權を幕府から委ねられ、税稅
を徵收する權利を與へられたに過ぎない。
故に國替を命ぜられるといふ事實も存した
のである。然るにイギリスなどの封建領主
は其領土及び人民を私有して、完全に小
王國を形造つてゐたのである。それで此等
の小王國が近世國家に統一される時、領土は
現在のの意味に於ける大地主に變化した。
此事情はロシアにも著しかつた。ロシアに
於ける廣大なる土地は此等の貴族等に依つ
て分轄占有せられ、土地に住む農民は地主
の奴隸であつた。即ち農民は土地の附屬物
として土地と共に賣買せられた。之を農奴
といふのであるが、此農奴が解放された時
農民は土地から分離されて土地は完全に領
主の私有となつた。そして農民は改めて彼
等の小作人となつたのである。日本の大名
領地が、明治維新に依つて從來から其土地
の使用權を有してゐる者の財産に分割され
た事情は之とは大分趣を異にしてゐる。そ
れといふのも元來日本の封建制度は幕府の

中央支配が行はれてゐたので完全なる分權
制度でなく、隨つて土地人民は領主の私有
でなかつた爲である。

土地國有論

土地の所有權を國家に移
管すべしとなす議論を謂ふ。有らゆる生産
機關の公有を主張する社會主義に於ては、
勿論生産機關たる土地の國有を唱へる。其
論據はマルクス主義にあつては、農業生産
をも工業生産と同じく國家の手に集中管理
せしむべしと云ふにある。然し又、土地は
元來自然の賜物であつて、何人が之を造つ
たといふのでもなく、之を個人が占據して
利益を私するのは不都合であるとの倫理的
見地に立ち、土地私有の廢止を唱ふる者が
ある。最近日本に於ては不思議にも土地所
有者の口から土地國有論が説かれるに至つ
た。蓋し、米穀以外の諸物價は高くなり、
租税は重きに搦て加へて近年小作争議が盛
になつた爲、地主は經濟的に不利なる立場
に陥つて來たので、寧ろ土地を國家に賣拂
つて土地持から金持に轉身した方が得だ、
といふ考が一部の間に起つて來たからであ
る。然し、社會主義の如く補償を與へず
生産機關を國家の手に取上げるといふこと
なら行はれ得るが、相當の値段を以て地主
から土地を買取るといふことは、國家の財

政上不可能のことである。若し公債の交付
に依つて買取るとすれば、一部の地主を救
済する爲に一般國民が永年の間公債利子の
負擔に苦まねばならぬことになる。尙土地
國有論は、一般的に土地の公有を主張する
ものと、部分的に土地の公有を主張する
のとに分れる。即ち耕作地を公有にすべし
といふ議論、市街地を公有にすべしといふ
議論などは後者に屬する。耕作地を公有に
すべしといふ議論は、農業の範圍にだけ先
づ社會主義的方法を實行せんとする、謂ふ
所の農業社會主義の主張であつて、農業生
産の管理を國家に行はせ、現在の農業生産
者は國家に對する小作人とし、國家から小
作料を受取るといふのは其代表的の形式で
ある。市街地公有論は、近年益都市住民の
數が殖えて、市街地の地價が法外に騰貴し
た結果提案されるに至つた議論であつて、
地價の騰貴に由る地主の利得は全く不當利
得であり、之あるが爲に家賃は益騰貴し住
宅難は起るのであるから、斯る弊害を排除
する爲に市街地を市有又は國有にせよとい
ふのが此議論の精神である。

土地制度

【概説】 現代に見る如き土
地私有制度は、動産の私有制度に比して遙
に後れて發達したものである。如何に遠い

原始時代に溯つて考へてみても、人が動産
に對する私有觀念を絕對に持つてゐなかつ
たといふことは有りさうもない事である。
然し土地に對して宛も現代人が海に對する
如き考を持つてゐた時代はあつたらうと想
像されるのである。人類の文化が稍進んで
氏族團體を生じてからでも、狩獲民族は土
地に對しては特別の注意を拂はなかつた。
唯狩獵の必要上一定の地域をば氏族全體の
勢力範圍としたに過ぎぬ。牧畜民族も亦然
りで、彼等は初め群をなして草原の彼方此
方をさまよひ歩いたのである。後土地への
定着が始つてからでも、氏族全體に依る共
有制は私有制の出現まで久しい間續いた。
農業民族も矢張同様である。彼等は他の民
族に先んじて大地への定着を始めたが、共
有制は一般に行はれ、各人は共有地に對す
る使用權を認められるに過ぎなかつた。人
口が増殖して生産方法が發達し、大家族制
が現るゝに及び、共有制は漸次に私有制に
移り、世襲が行はれるやうになつた。而し
て封建制が崩壊し、近世社會が建設せられ
るゝに及び、個人に依る土地の私有制が成
立したのである。(原始共産制を照)

つた。朝廷の直轄に屬するものは御縣、屯
倉、御子代、御名代等の土地で、國造及び縣
主等は各地に蟠居して土地及び人民を私有
し、臣、連等の諸豪族は田莊を私有した。
此外に神社領と稱するものがあり、神社及
び佛寺に屬してゐた。中古時代は大化改新
に始る。大化改新は從來の封建的の制度を改
め、中央集權の制を立て郡縣制を採つた。
諸國の屯倉、御子代及び御名代を廢すると
同時に田莊を沒收して國有となし、位階に
從つて官吏に分與するの制を立てた。班田
收授の制と稱するものは即ちこれである。
同制は宅地及び園地は奴婢牛馬と共に人民
の私有を許したが、田地公有を一般原則と
して永世私有を許さず、唯使用收益のみを
認めたのである。然るに班田の制は唐制に
模倣したのであつて、當時の國內の實情に
適つたものではなかつたので間もなく廢れ
るやうになつた。即ち「田地」及び「園地」は
最初より純然たる私有地と認められて賣買
することを許され、「墾田」といつて各人が
開墾した土地の私有を許されたので富者は
競つて開墾し、私有地を擴大した。又「功
田」といふものは功勞の有つた者に給與し
た土地であるが、此等の私有地より漸次に
莊園が發達して、土地は世襲相傳を一般の

原則とするに至つた。(墾田)。近古時代に入
つて源賴朝は武家政治を開き、封建制度を
布き、莊園を化して封地とした。頼朝は諸
國に守護を置き、莊園に地頭を置いた。守
護は刑事裁判官を務め、地頭は初め收稅の
任に當るに過ぎなかつたが後には裁判權も
收むるに至つた。斯くて多くの莊園の裁判
權が將軍の御家人たる地頭の手に移つたの
で莊園の大部分は封地となるに至つた。鎌
倉時代には領家即ち莊園の領主は地頭と相
對立することが出來たのであつたが、南北
朝、室町時代を経て、全國の土地は大抵武
家の所領となり、大名領地の發達を見るに
至つた。大名領地の制は徳川幕府の時代に
於て中央集權的封建制度が確立するに至つ
て完成された。徳川時代の土地は、禁裏御
料、幕府直轄地、大名領地、社寺領地に分れ
た。封建時代の人民は各領地の内にあつて
各家族に依る實質上の土地私有を行つた。
名目上に於て土地は領主の所有であつたけ
れども、人民は各土地を賣買し其れを世襲
し、領主に對して租稅及び賦役を提供した
のである。明治維新となり封建制廢れて純
然たる中央集權の國家が成立するに及び、
人民は自由に土地を私有し賣買し得ること
を公法上に認められ、政府に對しては一定

の地租を納めれば足ることになつた。但し土地收用法なる法律があつて、公共の利益の爲に必要と認められた時には、一定の代償に依つて、所有主の意志如何に關らず、土地を收納することの規定が存してゐる。私有地以外の土地としては、皇室御料及び國家の所有に係る共有地と地方團體の所有に係る公有地とが存する。

徒弟制度 徒弟はイギリス語でアッパレンティスシップ (apprenticeship) と云ひ、此制度は手工業時代には最も重要な労働制度であつた。手工業は一の獨立せる經營體であつて經營の主體を「親方」といふ。親方は生産機關を所有し、若干の助手を使用して自らも労働する。此助手なる者は「徒弟」及び「年期上り職人」である。手工業の親方として身を立てようと思ふ者は初め徒弟として親方の下に年期奉公に入るのである。奉公の期間中は一定の労働賃銀を取ること無く、唯衣食及び少額の小使賃を支給されて、親方の仕事を手傳ふ。年期の期間は仕事に依り種々であるが、日本では大工、鍛冶屋、畳屋等七年ぐらゐである。イギリスでは手工業の盛なる時代には一般徒弟年期を七年とする法律が存した。其年期を勤め上げると職人に出世する。職人は親方と共に

徒弟を助手として仕事をし、一定の賃銀を受けるのである。徒弟を終へた職人は修業の爲に諸國を巡る習慣が日本にも西洋にもあつた。日本では之を「渡り職人」又は「西行」などといつた。職人は勉強次第で親方になることが出来た。蓋し手工業に要する資本は比較的少額で足りたからである。徒弟として一定年限の間苦勞するのは、結局は親方になるのが目的であり、而して其目的を達することは可能であつたのである。手工業より工場工業へ、工場工業より近代的なる工場工業へと推移するにつれ、徒弟及び職人階級は到底經營者となることは出来なくなつた。徒弟も職人も共に「賃銀労働者」として、資本家の下に働くことになつたのである。彼等は最初から賃銀を取り奉公をする必要は無くなつたと同時に、親方になる希望をも失つたのである。今日も猶殘つてゐる手工業の内部には徒弟制度は幾分か行はれてゐるが、賃銀労働に比して其重要性はいふに足らない。(ギルド「ツ」)

トラスト (Trust) 市場の獨占を目的とする企業を謂ふ。等しく市場の獨占を目的とするものにカルテル、プールなどといふものもあるが、これは企業の聯合であつてトラストの如く合同ではない。トラストにも種々の組織方法があるが、其典型的のものは信託組織である。此組織では合同せんとする各會社の株主が其株式所有權一切を擧げて之を信託委員なる者に一任し、此委員に一切の營業權を行はしむる。信託委員は各會社の株主が信託する株式數に應じて、それ／＼信託證券に對して利益の配當をする。此場合各會社は表面上獨立してゐる如く見えるが、事實上全く信託委員の支配下にあるのである。トラストはアメリカで最も盛に行はれてゐる。一八八二年に合計四十六の石油企業を包括する石油トラストが、ロックフェラー會長の下に信託組織に依つて成立したのが最初で、之に次で製糖トラスト、火酒トラスト其外ものが續々として現れ、アメリカ經濟界はトラストの横暴に苦むやうになつたので、法律を以て之を禁ずるに至つた。然し、トラストは生産上販賣上幾多の利益を有するので、到底法律で制止することは出来ず、信託組織の代りに種々の變種的トラストが現れた。一九〇七年にはトラストの數二百五十を超え、其總資本約七十億弗に達した。此中一九〇一年設立のアメリカ製鋼會社の如きは約十五億弗の巨資を擁し、毎年平均十九萬五千の労働者を使役し、一億五千萬

平均の利潤を得てゐる有様である。

奴隸制度 經濟上より見た奴隸とは、自己の自由意志に依つて自己の勞力及び財産を處理する權限を有しない者、換言すれば殆ど一箇の物と同じく、其持主たる主人の手に生殺與奪の權を委ねる人間を謂ふ。奴隸の起原は、征服種族が被征服種族を財産上の手段に利用したのが最初で、人類の社會的發達の或段階には必ず存在した制度である。ギリシヤやローマの古代文明國は元より、第十五世紀末の新大陸發見と同時に、ヨーロッパ諸國が擧げてアフリカの黑人を富源開發に利用して以來、第十九世紀初頭まで各國は黑人奴隸を使役してゐたのである。アメリカ合衆國の如きは、南北戰爭の犠牲を拂つた結果、やうやく一八六三—六八年に至つて奴隸の姿を全國から絶つたのであつた。勿論、奴隸制度を人道的見他から許すべからずとなす叫びは、既に第十八世紀初頭に於てフランスの啓蒙哲學者達の間から起されてゐたが、具體的なる運動となつたのは第十八世紀も七十年代からで、其以前には學者も宗教家も、思想家も皆奴隸制度の正當を信じて疑ふ者が無かつた。一八七一年—八八年に奴隸制度を廢止したプロイセンを打止めに、少數の回教國

を除く以外は悉く奴隸を解放し、現在の文明國では往時の如き制度を見る事が出来ない。經濟手段としての奴隸に代つたのはいふまでもなく賃銀労働者である。彼等は法律上に於てこそ、資本家と對等の人格を認められ、同時に甲乙無き自由を認められてゐるが、經濟的劣敗階級として實質的には平等なる人格上の自由を認められぬといふ所から、マルクスの如きは之を賃銀奴隸と呼んでゐる。(賃銀奴隸)

屯田兵 明治初年北海道の警備と併せて拓殖を行ふ爲に設けた兵。明治六年十二月開拓次官兵部丞黒田清隆の上奏建議に依り、明治七年屯田兵の規則が定められた。次で明治八年一月屯田兵を募り、同年五月入隊志願者一九八戸、男女九六五人を札幌郡琴似村に移住せしめ、第一大隊第一中隊を編成した。此等の移住者は多く東北の土族で戊辰の役に従軍した者の中から募集したのである。之を最初として其後道内の各所に歩兵、砲兵、騎兵などの兵士村が設置され、竟には優に一箇師團を編成するに足るほどに至つた。然し明治三十年第七師團が設置されるに及び漸次解體し、同三十七年には總て此制度が廢止された。屯田兵は家族四人以上を携へて移住する志願兵であつ

て、最初は土族の階級より募集したが、後には各族籍の者より採用されるに至つた。其給與は現役三年間開墾居住に必要な家屋、家具、夜具、農具、食料を官給し、將來獨立の基礎を確立せしめ、又一戸につき一萬五千坪の土地、一村につき一戸平均一萬五千坪を公有地として支給し、兵村自治の財源たらしめた。

【三】

ニヒリズム 「虛無主義」を見よ。

日本小作人總同盟 「農民組合」を見よ。

日本社會史 【古代】 古代の日本は氏族國家 (Gesellschaft) であつた。國家は個人を單位として成立したものでなく、氏 (ウジ) を單位とするものだからである。隨つて古代の社會組織を理解しようとするには、先づ社會の基礎であつた氏の制度を知らねばならない。氏は血液の同一といふ觀念を中心として成立した團體であつた。即ち實際血縁を等しくする者の結合した血族團體であるか、又は血縁が同一だと信ずることによつて結合した準血族團體かだつたのである。氏には大小種々あり、孰れも氏の上 (ウジ) のカミ、又氏の長、氏の

子の上等とも呼ぶ)があつて全成員を統率してゐた。氏の中最高のもは天皇氏で、皇族を従へさせられた天皇が長となつて、其氏人と土地を直接しるしめされたのである。天皇は氏の創設や斷絶、氏の訴訟に對する裁斷等の大權を有せられたが、他の氏に屬する氏人を直接しるしめされることは無く、各氏の上を通して間接に統轄せられたのである。天皇氏以外の氏には、皇別、神別の二種があつた。皇別とは代々の天皇の御子から出た氏であり、神別とは神代以來の功臣の子孫である。神別には天孫と共に高天原から降臨した者の子孫と、先住人種中天孫人種に降つた者の子孫とがあつた。孰れにせよ、此等の氏は氏神を有する共同信仰團體であり、氏の上は氏人を統轄するばかりでなく、朝廷に仕へて臣(オミ)、連(ムラジ)、國造(クニノミヤツコ)、伴造(トモノミヤツコ)等の官職を帯び、姓(カバネ)といふ貴族的稱號を與へられてゐた。氏を形成してゐる戸は家長を有して全家族が其支配に従つてゐた。當時の家族は今日見る家族の如く直系血族だけから成つてゐたわけでない。伯叔父母、甥、姪、従父兄弟姉妹等の傍系血族を含む大家族だつたのである。氏には家長の血族即ち自由民ばかりでなく、部曲(トモベ)及び家部(カキベ)といふ半自由民と、奴(ヤツコ)といふ奴隸とが存在してゐた。つまり日本の古代社會は、孰れの原始社會にも見られる如く、貴族、自由民、半自由民、奴隸といふ階級的區分を有してゐたのである。姓(カバネ)を有する者は貴族であつて、政治、宗教、軍事等を司つてゐた。自由民たる氏は主として農業に従事し、時によつては兵士となつて働く。オホミタカラと呼ばれるのは此自由民に他ならない。オホミタカラといふのは「大御田族」の意味だらうといはれてゐる。半自由民の部曲や家部は孰れも部を成し、自由民とは戸を異にしてゐた。部といふのは同一部門に屬する産業に従事してゐる者の團體である。部には皇室に屬するものと、豪族に屬するものとがあつた。前者が部曲であり、後者が家部である。奴は純粹の奴隸であつて、各戸に屬する者は主家の戸籍に加へられてゐた。然し、奴には各戸に屬する者のみならず、氏に直屬する者もあつた。且當時は血統を重んずる時代であつたから、氏や姓の優れてゐる者は社會的にも政治的にも重んぜられてゐた。隨つて地位の高い氏に屬する者は、より多くの土地とより多くの人民とを支配し、一層

高い地位に昇らうと志ざしてゐた。又國家に功勞有る者は高い姓を賜はつた。氏や姓は直接官職に關係してゐたから、高き氏姓を得ようとするのが當時の人々の望みであつた。斯る傾向は血統や系圖を詐つてまで社會的地位を得ようとする者を生じたので、氏姓の紛亂を糾すべく盟神探湯(クガタチ)なるものが行はれた。古代の日本には、土地兼併の傾向と氏姓に關する問題の外に、社會問題と目すべき程のものも無かつた。それよりも注目を要するのは外國文化の輸入である。當時輸入されたのは朝鮮文化だといはれるけれども、朝鮮の黃海道、平安南道、平安北道等早くより日本との交通が行はれてゐた地方は孰れも漢の植民地であり、輸入されたものも實は支那文化だつたといつてよい。朝鮮を通じ、或は直接に支那文化が輸入されたのは三韓征伐以後特に甚しい。學問上では應神の朝に阿直岐、王仁等が渡來し、繼體の朝に五經博士が來朝し、又推古の朝には曆術、醫術等が輸入されて非常なる影響を及ぼした。工藝上には陶工、大工、畫工、織工等が渡來し、宗教上では佛敎が輸入された。斯くて次第に大規模の外國文化輸入となり、貴族階級のみでなく、一般民衆に對しても種々なる影響を

與へることになつたのである。

【中古】 大化の改新から平安朝末期に至る時代は、氏族制度が崩壊して中央集權を原則とする政治の行はれてゐたことを特徴とする。氏族制度の社會は、大なる土地と人民とを有する平群、大伴、物部、蘇我等の諸豪族を生み、彼等をして勢力を争はしむるに至つたが、大化の改新を経て國家の大權も完全に天皇に歸したのである。古代に於ては天皇氏以外の人民や土地が、各氏の上の支配下にあつた。然るに大化二年(西暦645)の詔に依つて、全國に於ける土地人民の私有が禁ぜられ、其代りに大夫以上の者には食封を賜ふことになつた。食封といふのは、戸數を定めて之より納める庸調の全部若しくは其一部を與へられることで、支配權を與へることではなかつた。斯くて全國の人民が直接國家に屬することになり、官職世襲の風が一掃されて、たとひ氏の末葉に屬する者でも才幹さへあれば政務に參與し得るやうになつた。同年八月に八省百官を置き、各地方に國司及び郡司を置いて政務に従事せしむることとなされたが、氏族制度に依る行政は全く覆された。氏の尊卑に關する思想は後世まで残つてゐたが、大化五年に十九階の冠制が設けられ、官職

の高下は之に依つて表されることになつたから、氏姓の高貴も官等とは無關係になつた。一方、班田收授の法が行はれ、全國民が一定の土地を得益し得ることになつた。氏の制度が行はれてゐる時代には、土地の兼併、隨つて富の分配の不公平が起つたから、之を匡さんとせられたものである。然し班田收授の法は頗る複雑なる手續を要するのみならず、詐をなす者も多かつたので次第に規定の如く行はれなくなり、遂には朝廷の權力の最も強く行はれる五畿内の地でもさへも數十年の間班田されなかつた程である。班田制度の實行を最も阻害したのは私墾田の開發である。養老七年(西暦725)に元正天皇は私墾田開發の禁令を發し給ひ、新に溝池を造り荒地を開墾した者には其地を三世に傳へしめ、在來の溝池に水利を得て地を墾く者には其地を一身に賜ふことになつた。これが所謂三世一身の法である。其後、聖武天皇の天平十五年(西暦743)に至つて、墾田は永世的私有地たらしめられることになつたので、班田の虞ある墾田を棄てて開墾を始める者が多く、權門勢家は宏大なる墾田を私有し、班田收授の法に依つて均等化された富の分配も再び不公平になつて來たのである。

【中世】 班田收授が行はれず、墾田が私有されるに至つた結果、權力有る者は多くの土地を集め、此に莊園なるものが生ずることになつた。莊園の所有者は貴族、社寺、豪族等で、朝廷は幾度となく之を禁ぜんとしたが其效力無く、竟には國有地にまで侵蝕して來るのであつた。莊園の特質は租税の免除と國家の官吏が之に干渉し得ざる點とである。不輸不入の權といふが即ちそれであつた。一方、鎌倉時代には武士が政治的に擡頭して來、武家領地なるものも發生した。武士は次第に莊園を押領し、之を武家領として來たのである。足利時代に入つては、皇室の御料地すら武士の押領する所となり、公卿以下の莊園で收入を齎すもの殆ど無く、莊園は全く武士の知行となつてしまつた。更に足利時代の後半に於ては各地方に於ける守護の勢力が増大し、一國乃至數箇國を領する者さへあり、竟に大名領地を形成して來たのである。フランツ・オットハインハイマーは、貨幣經濟の行はれない時代に於ける地方官吏は、支配する土地からの收穫を俸給として與へられる結果、次第に勢力を増大して各地方に覇を唱へ、竟には中央權力を破るに至ると説いた。此事は我國における大名の發生に就いてもいへる

であらう。即ち中世末期に諸國で其勢力を張つた大名は鎌倉幕府の地方官吏たる守護に他ならぬからである。鎌倉時代は武家政治の時代であつた。武士は元來各地の豪族である。國司や群司の子孫の土着した者、或は古來の土豪などが、故郷を捨てた農民や亂を好む徒輩を集めて郎等とし、平安朝末期に於ける地方の紛亂を整理すべく蜂起した。これが武士の起原である。彼等は其兵力を以て次第に多くの土地と人民とを征服し、貴族の抑壓に抗したのである。鎌倉幕府に依る武家政治は斯くて生じた。幕府は貞永式目などの武家法制を作り、幕府の御家人を中心とする社會を組織した。即ち各地の守護地頭に任命されたのは孰れも御家人なのである。地頭は一郡乃至數郡を支配するに過ぎなかつたが、守護は一國乃至數國を支配したので漸次大名に變化し、南北朝後の戰國時代を生むことになつた。平安朝末期以來土地兼併が盛になつた結果、貧富の相違が甚しくなつたことはいふまでもない。其上各地に爭亂が続いたので生活難に悩まれる者も多く、そこで幕府も救貧策として屢徳政令を布いたが、十分之を緩和することが出来なかつた。徳政令とは、或期間に於ける賣買貸借買入などの契約に

關する總ての權利義務を破棄する法令である。當時は屢徳政一揆が行はれた。それは土民が徳政を要求して起した一揆である。徳政一揆のみならず、土一揆、馬借一揆等下層階級の反抗運動が盛に行はれたのは、如何に窮民が多かつたかを物語るものであらう。鎌倉・足利時代に於ける産業の中心はいふまでもなく農業であつた。然し經濟的慾望の向上、人口増加、生産技術の發達等が次第に職業の分化を促しつゝ、あつたことは見逃せない。平安朝時代までは貴族の保護の下に奢侈的工業が存在するに過ぎなかつたけれども、此時代に至ると工匠や商人等が判然たる存在を現したのである。此時代に發生した座は商人が得た排他的特權制度である。戰國時代の大名は各地の商工業賣買の特權を與へることが多かつた。小田原の鑄物師が特許營業であつた如き、其一例だといはねばなるまい。だから、堺や兵庫の如き商工都市も發達し、問屋制度も行はるれば貨幣も流通し、金融機關も發生したのである。

いへ、其上に徳川將軍が臨馭して絶對的支配力を持つてゐたのであるからである。徳川時代は絶對的武家專制の時代であつた。戰國時代には土民から出でて權力階級に入る者も無いではなかつたが、徳川時代は世襲的階級制度が確立し、被支配階級に屬する者は全く支配階級に入ることが出来なかつた。此時代の支配階級は農民及び商工業者等の被支配階級に對して生殺與奪の權を持つてゐた。將軍の下には幕府に隸屬する大名、旗本及び御家人があり、大名の臣下に陪臣があつた。大名は、參勤交代の制、人質を江戸に置く制などに依つて嚴重に幕府の監督を受けたが、自領内では大體自由に政治を行つてゐた。陪臣即ち各藩の臣下は武士階級の大部分を占める者で、明治維新の際に士族の名稱を與へられた藩士の數が四十二萬五千七百九十九人だつたといふに見ても、如何に多かつたかが知られるであらう。此等の武士に隸屬する者として、若黨、仲間、小者等があつたのだから、武士を中心とする社會群は頗る多かつたと見ねばならぬ。平和時代に於ける武士は全く遊民である。彼等は何等生産的の貢獻を爲し得る者でなかつた。然も武士階級の中上層部分はその地位相當の豪奢なる生活を營んでゐた

のであるから、主要の被搾取階級たる農民の負擔は著しいものであつた。多年の戰亂が熄んで徳川幕府が樹立されてからは、被支配階級の生活も一時は餘裕が生じた。支配階級である武士は勿論經濟的餘裕があつた。さればこそ、世の泰平と相俟つて元祿の華美と頽廢とを生んだのである。然し、幕府を初め武士一般の収入は農民からの搾取であつた。商業及び工業の發達、慾望の分化は一般の生活を向上せしめる。武士階級は向上した生活を支ふべく、農民からより多くの搾取を行はねばならなかつた。彼等は農民に對し、「生かさぬやう、殺さぬやう」に努めながら極度の搾取を計つたのである。けれども、農業生産力の發達は遅々たるものであり、如何に努力しても彼等の生産には限度があつた。随つて武士階級の収入も大して増大するわけでない。徳川中葉以後に於ける幕府及び大名の窮乏は、此に原因するものだといはねばならない。一方、農民は支配階級の搾取に耐へ得ず、頻りに一揆を起して騷擾した。武士階級の下層部分も幕府や諸藩の財政窮乏につれて實質的所得が減少した。爲に浪人が増加し下層武士階級が窮迫した結果は、黒船渡來を機縁として騒然たる幕末の世相を醸成したの

である。武士階級が困窮してゐた一方、商工業者は次第に經濟的實力を得て社會的に頭を擡げつゝあつた。最初の資本主義的工業とも見なすべき家内工業も此時代に發生したし、商業資本も急速に發達して來た。貨幣の使用は普遍的となり、都市や海港も發達し、完備した金融組織さへ現出した。町人即ち商工業者は蓄積し得たる富に依つて着々と武士階級の支配力を弱めて來たのである。諸大名は孰れも町人よりの借入金に悩まれ、旗本の身分の如きは町家の株と同様に賣買される有様であつた。即ち、富豪の子弟は金に任せて歴々の旗本の養子となり、養父を隱居せしめて家督を継ぎ、幕府にさへ干渉するに至つたのであつた。此の如く武士階級が窮迫し其支配力を失ひつゝあつた際、多年の鎖國政策を脅すモリソン事件、ペリー來朝等の事があつたので、開國の是非を中心とする論争が生じ、加ふるに下層武士階級の不平が之に結着いて討幕運動となり、卒に徳川幕府の崩壊となつたのである。(明治維新)

として述べることにする。凡て社會主義運動が資本主義に附隨するものであることはいふまでもない。随つて資本主義の輸入以前には社會主義思想も亦行はれなかつた。日本の資本主義は永年の鎖國に依つて正常に發達することが出来ず、明治の新政府に依つて移植され且保護育成されたものであつた。随つてそれが官僚主義、國權主義の色彩を帯びてゐたことも當然であらう。そこで資本主義に對する反抗運動も、最初は先づ自由主義運動の一部として、其最左翼として現れた。自由黨の内部には中江兆民を初めとして社會主義的主張を試みる者が尠くなかつたのである。明治十五年には九州島原に東洋社會黨が組織された。これは社會黨と名乗る最初の政黨で、平等を主張し、社會公衆の最大の福利を目的とするものだつたが、忽ち禁止されてしまつた。次で明治十六年、自由黨の名士奥宮健之(後大逆事件に連坐す)が東京で人力車夫を集め、社會黨をもぢつた「車界黨」なる團體を起して活動した。此團體はやがて消滅したが、當時は自由黨の社會主義的運動は盛にして、其機關紙上にも社會主義に關する記事論説が登載されてゐた。然し二十三年の帝國議會開設と共に、自由民權の運動が

振はなくなり、自由黨の根本的利害が地主や資本家の其れと結ばれてゐるのであることも、漸く世人に知られて來たのである。そして明治二十四年に自由黨が社會主義の排斥を宣言するに至つたので、一部の急進思想家は之を脱退してしまつた。二十五年には自由黨の脱退者等が社會問題研究会を起し、同年冬には同じく自由黨を脱した大井憲太郎が貧民労働者保護を標榜する東洋自由黨を組織したりしてゐた。明治三十年頃には従來の自由黨系のみならず、片山潜、安部磯雄等のキリスト教徒も社會主義的關心を持つやうになつた。明治三十一年には芝のユニテリアン協會に社會主義研究会が起されたが、三十三年の暮には社會主義協會と改稱し、社會主義者だけの團體となつた。此協會の人々は三十四年五月社會民主黨を組織したけれども、即日解散させられてしまつた。社會民主黨の創立者中、自由黨系に屬するは幸徳秋水のみで、其外の安部、片山、木下尙江、西川光次郎等五人は孰れもクリスチャンであつたことは、當時の運動が殆どキリスト教社會主義を指導原理とするものであつたことを知らしめる。民主黨の解散後も此等の人々は社會主義協會を復活させて活躍してゐた。其外に田川

大吉郎等の社會問題研究会、『萬朝報』の理想等が現れて社會主義運動を續けてゐる間に日露戦争が勃發した。此時『萬朝報』記者のうち幸徳秋水、堺利彦、内村鑑三等は非戦論を唱へて退社し、幸徳、堺等は週刊『平民新聞』を發刊した。此新聞は自由黨の名士小島龍太郎等が後援したもので、自由、平等、博愛を三大要義とする所の宣言を發表した。『平民新聞』は、やがて西川光次郎、石川三四郎も入社し、日本に於ける社會主義運動の中心となつた。三十七年八月にはアムステルダムに開かれたインタナショナル大會に片山潜が出席し、ロシア社會黨代表ブレアノフと握手した。同年十一月『平民新聞』の一周年記念號は『共產黨宣言』を記載して起訴された。此記載事件の外にも起訴事件があり、竟に『平民新聞』は發行禁止の危に逢つた。が、平民社は之に代へて『直言』を發行し、其運動を續けたのである。然し三十八年には平民社も内部の紛争の爲に解散することになつてしまつた。其後は、西川光次郎、山口義三に依つて『光』、安部磯雄、木下尙江、石川三四郎に依つて『新紀元』(以上三十八年十一月)、堺利彦に依つて『社會主義研究』(三十九年三月)等の月刊雜誌が創刊され

た。當時は、白柳秀湖等の『火鞭』も盛に氣焰を揚げてゐた。一方、政黨運動としては、三十九年二月に樋口傳、西川光次郎等の日本平民黨、堺等の日本社會黨が組織され、同月二十四日に兩黨の合同大會が開かれた。國法の範圍内で社會主義の主張と實現とをなすことを目的とする此政黨は約二百名の黨員を集め得た。同年四月に至り日本社會黨は國家社會黨(明治三十八年五月山路愛山、斯波貞吉等に組織さる)と提携して、市電値上問題に反對する示威運動を起したが、日本社會黨員十名が凶徒嘯衆罪で檢擧されることになつた。四十年一月には幸徳、堺等に依つて日刊『平民新聞』が發刊されたが、僅か七十五號で廢刊することになり、同年二月には日本社會黨も解散してしまつた。其後、社會主義運動の機關紙としては、『大阪平民新聞』(森近運平等)、『社會新聞』(片山、西川)が出たが、四十一年二月に片山、西川の間に衝突が起り、西川は別に『東京社會新聞』を發行することになつた。此頃から分派問題即ち社會主義者の分裂が盛になつた。然し分裂してゐる各派も同年六月共同で山口義三の出獄歡迎會を錦輝館で開いた。そして所謂赤旗事件を起してしまつたのである(赤旗事件参照)。

電車値上反對運動の凶徒嘯衆事件と赤旗事件との爲に關士の大部分が下獄したから、中央の社會主義運動は頗る振はなくなつて一二年を送つた。然るに明治四十三年夏、突如として大逆事件なるものが起り、一世を震撼せしめたのである(大逆事件参照)。大逆事件の後、政府の強硬なる態度に驚いた多くの社會主義者が變節して社會運動の圏外に逃れ出で、社會主義運動は此に全く終熄してしまつた。

【後期】大逆事件に依り前期の社會主義者が大部分淘汰されてしまひ、節を守つてゐた人々も殆ど何事も出来なかつた。大正元年九月、大杉榮、荒畑勝三が文藝思想雜誌『近代思想』を創刊し、僅に無政府主義的氣焰を揚げたくらゐるものである。此雜誌は大正四年九月まで續き、十月からは『平民新聞』と改題することになり、實際的労働運動の機關誌たらんとしたのである。然し、此新聞は發賣禁止連續の爲に間もなく廢刊せざるを得なくなつた。之より先、堺利彦は生活機關として賣文社を起し、傍ら『へちまの花』と題する小雜誌を出してゐたが、大正四年九月に之を『新社會』と改題し、社會主義運動の機關たらしめんとした。此雜誌は高島素之、山川均等が授け、

次第に勢力を得て來たので、發行所たる賣文社も唯一の社會主義團體の如く認められて來た。賣文社を中心とするマルクス主義的社會主義者に對し、大杉、荒畑は無政府主義的傾向を代表して對立してゐた。然し大正五年八月には、大杉、荒畑が分離することになり、大杉は無政府主義の立場を守り雜誌『文明批評』を發行し、後和田久太郎等と『労働新聞』を出すことになつた。一方荒畑はサンデイカリズムに走つて、同じくサンデイカリズムの影響を受けてゐた山川均と小雑誌『青服』を出した。此頃から労働組合も盛に組織され、社會主義的思想も勢力を得て來たのである。大正七年三月には社會主義の中心團體である賣文社の内部に高島素之を首領とする國家社會主義の提唱が起り、堺等は引退することになつた。そして國家社會主義者の立籠る其社からは機關雜誌『國家社會主義』が創刊されたのである。大正八年は労働運動の勃興、労働運動と社會主義運動との結合等、記憶すべき事の多い年であつた。學生社會主義團體新人會(帝大)、曉民會(早大)、建設者同盟(早大)等の續々組織されたのも此年である。大正九年には大杉榮等の労働運動社が印刷工組合信友會と提携してアナロコ・サ

ンデイカリズムの運動を起し、高島素之等は週刊『大衆運動』を創刊して、國家社會主義の立場から大衆に呼掛けようとしてゐた。又、此年には各社會主義團體の大同團結たる『社會主義同盟』が生れた。大正十年には大杉榮の週刊『労働運動』、高尾平兵衛等の月刊『労働者』等の無政府主義雜誌が生れ、社會主義同盟の機關誌『社會主義』に對抗した。然し此等の諸雜誌は孰れも間もなく(但し社會主義は十月まで存続)廢刊した。此社會主義同盟は此年五月第二回大會を開いて解散を命ぜられ、續いて其結社も禁止されたのである。此當時からボルシェヴィズムとアナキズムの論争が盛になり、山川均等の『社會主義研究』は前者を、荒畑勝三の『日本労働新聞』は後者を熱心に支持してゐた。又、堺、山川等は雑誌『前衛』を創刊して共產主義運動の先驅たらしめんとした。之に對して、大杉榮、和田久太郎、近藤憲二等は翌年一月、月三回發行の『労働運動』を起して對抗したのである。大正十一年五月には、雑誌『前衛』が主となつてロシア饑饉救済運動を起し、同年十一月には各地にロシア革命五周年記念會が開かれた。大正十二年は、所謂共產黨事件(其項参照)が起り、九月の關東大震災には

大杉榮等が惨殺された外に大した事件も無かつた。大正十三年には日本フエーピア協會が生れ、同十四年には普通選挙法の通過した結果として社會主義者の政治運動熱が旺盛になつて來た。即ち六月には無産政黨の組織が叫ばれるやうになり、九月に至つて無産黨組織準備委員會が開かれた。其結果、十二月農民労働黨なる無産黨が生れたけれども僅か三時間後に結黨禁止を命ぜられてしまつた。禁止された農民労働黨は極左翼を整理することとして、十五年三月名稱も労働農民黨と改めて結黨し、杉山元次郎を中央執行委員長とした。けれども労働農民黨の内部では依然として左傾分子が勢力を得てゐたので、日本労働總同盟其外の右傾分子は脱退して同年末に社會民衆黨を組織した。又、總同盟系の急進的分子も同年末別に日本労働黨を組織した。十五年十月には又日本農民黨も結成された。無産政黨の成立後、社會主義者は執れも政治運動に熱中することになり、昭和二年の府縣會議員選挙、同三年の衆議院議員選挙には無産各派が執れも候補者を出して争つたのである。そして、昭和三年二月の代議士總選挙には、社會民衆黨から四名、労働農民黨から二名、日本労働黨から一名の當選者

を出してゐる。然し労働農民黨は昭和三年四月十日解散を命ぜられ、同黨から出た二代議士の自決案が四月に開かれた特別議會に提出された。最左翼の運動は斯くて抑壓されつゝあるが、大體に於て日本の社會主義運動が政治的方面に發展して行くであらうことは否定されない。

日本農民組合 「農民組合」を見よ。

日本農民黨 右傾的農民團體たる全日本農民組合同盟に依つて組織された最初の農民政黨である。此無産黨は他の其れの如く工業労働者と農民とを糾合したものでない點に特色がある。日本農民黨は全日本農民組合同盟と不可分の關係を有するものであるから、其發生過程を明かにするには全日本農民組合同盟の發生過程を尋ねなければならぬ。全日本農民組合同盟は、日本農民組合中の右翼分子たる山梨聯合會、福岡聯合會が大正十五年の第五回大會に於て農民組合を脱退した事に端を發する。即ち此二聯合會及び北日本農民同盟、中部地方に勢力を持つ大和農民組合、群馬、埼玉、北海道、栃木、茨城等に散在せる右傾組合は同年四月に全日本農民組合同盟を組織したのである。此同盟は同年七月五日の第二回臨時會で、日本農民黨の組織計畫を立て、

八月二十五日に至つて第二回日本農民黨準備委員會を開き、綱領政策等に關する審議を進め、越えて十月十七日協調會館に於て其結黨式を擧げる運びになつたのである。中心人物は須貝快天、平野力三等で、高橋龜吉を首領とし、東京市赤坂傳馬町に本部を置き、黨員五萬と稱してゐる。昭和三年二月の衆議院議員選挙には高橋、須貝其外數名の候補を立てたが、一人も當選しなかつた。其綱領は次の如し。「我等は人類の平和幸福を目標とし、天地の公道に則り世界の大勢に順應して合理的新社會の建設を期し、以て次の諸項を遂行す。(一)社會正義の實現——我等は特權階級に依る政治的支配を排除し、全労働階級共同の理想たる社會的正義の實現を期す。(二)日本國本の振起——我等は知識を世界に求めて純眞なる我が國本を振起し日本民族の繁榮と日本文化の發達を計り以て世界文化の向上に貢獻せんことを期す。(三)議會政治の改革——我等は議會政策に即して一切の不合理不自然なる制度組織習慣を排し合理的新日本の建設を期す。(四)産業國策の確立——我等は特異なる日本國情の現實に立脚して産業の振興分配の公平を計り以て國民生活の安定并に向上に力む。(五)農村文化の樹立——

我等は都會中心の不健全なる文化を否定し健全なる地方的新文化の完成を期す。——尚、高橋龜吉は昭和三年五月、日本農民黨を脱して、日本労働黨に加入した。

日本労働運動 【初期】 日本に於ける賃銀労働者の階級的運動は、明治五年政府が富岡製紙所其外の工場を設立してからのことである。富岡製紙所其外の模範工場が成立してから工場制工業が次第に普及し、賃銀労働者の數も増して來たが、明治二十年頃までは労働運動の影さへも見られなかつた。日本に於ける労働組合の濫觴といふべきものは、明治十七年十月秀英舎印刷所の市ヶ谷工場の職工が計畫した活版工組合であつた。これは秀英舎の社長佐久間貞一も大に盡力したが、時期尚早かつた爲卒に流産してしまつた。次で同二十年二月、鐵工小澤辨藏が其弟と共に労働組合組織運動を起し、東京兩國の井生村樓に數十名の鐵工を集めて懇親會を開いた。然し、演說中に居睡をする者、睡氣さまして博奕をする者等があり、宴を開いて酒が廻ると吉原遊廓へ繰込む動議が成立し、直に實行に移されて流連數日に及ぶ状態だつた。故に女房連の反對に逢ひ、第二回の會合を開くことが出来なかつたと傳へられてゐる。小澤辨

藏等は之に屈すること無く、同二十二年六月石川島造船所、陸海軍造船兵廠、鐵道局などの鐵工を糾合して「同盟進工組」を組織したが、これも爲す所無くして終つた。同年八月には秀英舎に於て再び印刷工組合の組織が計畫され、佐久間社長が熱心に盡力したが、これも到頭成功しなかつた。明治二十六年一月には大阪市天滿紡績會社で、斯る形勢の下に日本最初のストライキが行はれたのである。一方二十三年の夏アメリカ、サンフランシスコで高野房太郎澤田半之助、城常太郎等の苦學生が「職工義友會」を組織し、アメリカ労働同盟會の組織方法を模してゐたが、彼等の多くは明治二十九年歸朝したので、三十年六月、神田青年會館で我國最初の労働問題演說會を開き、東京に「職工義友會」を創立した。此會は片山潜、島田三郎、佐久間貞一等も援助し、間もなく「労働組合期成會」と改稱した。期成會は組合運動促進の爲各地に遊説し、同盟罷工を援助したり、工場法制定の運動を試みたりした。之に刺戟されて鐵工組合(組合員一、八〇〇人)、活版工組合(組合員二、〇〇〇人)、日本鐵道矯正會(會員一、〇〇〇人)等が生れ、初めて労働組合運動が起つたわけである。同三十一年には鐵工

組合がイギリス機關工組合の罷業に激勵の手紙を送つたり、日本鐵道會社の機關手四百名のストライキが起つて東北、關東の列車が運轉出来なくなつたりした。同年に於けるストライキ數は、農商務省の調査に依ると三十四以上に上つたさうである。斯くて近代的労働運動も盛になり、明治四十年一月には足尾銅山の坑夫が待遇改善問題から暴動を起し、又四月には北海道幌內鐵山の坑夫が、六月には別子銅山の坑夫が執れも暴動を起し、それゝ軍隊の出動に依つて鎮壓されたこともある。四十一年には、東京、横濱、神戸、長崎に互つて三五〇名の歐文植字工が團結し、「歐友會」なる組合を組織した。此歐友會は翌年、秀英舎、築地活版所、國文社等の諸工場と工場縮附の假契約を結んだ。尙四十四年十二月東京市に於ける六〇〇〇人の電車従業員が行つたストライキも記憶すべき出來事であつた。

【後期】 大正元年には鈴木文治を會長とする極めて温和なる労働組合「友愛會」が生れた。大逆事件後の社會運動沈滞につれて從來の労働組合も影を潜めてゐた時だつたから、當時の友愛會は最も代表的なる團體だつた。翌年は本部の組織を改めたり、神田青年會館に労働問題演說會を開いたが、

此頃には會員は一、三〇〇人以上となつてゐた。大正三年は歐洲大戰勃發の爲に經濟界が一時不況となり、職工解雇、工場閉鎖等が頻々として行はれた。東京モスリン紡績會社でも男女一十名の職工を解雇した爲に職工側は「工友會」を組織して對抗し、竟に同盟罷工となつた。同四年には友愛會の主催に依つて全國労働大會が開かれ、翌年は大阪に「職工組合期成同志會」、東京に印刷工組合「信友會」が生れた。友愛會は此間に、神戸、大阪等に聯合會を設け、次第に全國に勢力を扶植して行つた。元來、キリスト教徒に依つて創立され、平和主義を執つてゐたる友愛會も此頃から次第に闘争的團體と化した。大正七年から十年頃の間は労働運動の勃興期ともいふべく、大正八年八月の日立鐵山に於ける坑夫二、五〇〇人のストライキ、同月東京池貝鐵工場に於けるストライキ、九月尾尾銅山に於ける坑夫四、〇〇〇名のストライキ、同月神戸川崎造船所に於ける職工一六、〇〇〇人の總怠業、十一月宮城縣釜石鐵山の坑夫二、〇〇〇人の騷擾、九年二月八幡製鐵所坑夫二四、〇〇〇人のストライキ、同四月東京市電從業員のストライキ等、大規模の労働争議が各地に起つた。それと共に、新聞印

刷工組合「正進會」を初め各種の労働團體も簇生したのである。又、第一回國際労働會議が開催されるに就いて、日本の労働代表選出に關する労働階級の反對運動も起つた。大正九年五月には日本最初のメーデーが舉行され、労働階級の意氣は次第に昂つて來た。大正十年も労働争議の頻發と労働組合の簇生とを以て記憶するべき年であるが、此年の争議中では神戸の川崎、三菱兩造船所に起つたものが最も著しく、参加人員三五、〇〇〇、罷業日數四十五日で、一時争議團が工場占領を行つたので、竟に軍隊の出動となり、各所に大衝突を起して流血の慘を見た。其結果、約二百名の幹部が拘禁されることになつたのである。此の如き労働運動の隆興は社會主義運動と結合する結果になつたが、大杉榮等は労働團體から知識階級指導者を排斥すべく主張した。知識階級排斥の叫びは大正十年頃が最も盛で、其結果、労働總同盟（友愛會の後身）の主事棚橋小虎（法學士）が非難的となつて幹部を辭するやうな騷もあつた。之より先、大正九年のメーデーを機會とし、東京地方の主要なる労働組合を殆ど網羅した「労働組合同盟會」が生れたが、十年六月労働總同盟所屬の四組合が脱退した爲に分

裂した。然るに大正十一年のメーデーは再び各労働組合提携の氣運を促進し、全國労働組合總聯合の創立が種々畫策されることになつた。そして同九月、總同盟系の諸組合、信友會、正進會等の代表者が集合して創立準備委員會を開いたのである。種々な迂餘曲折があつた後、九月三十日大阪天王寺公會堂で日本労働組合聯合の創立大會が開かれ、各労働代表員が出席したけれども、總同盟派が中央集權主義に立脚するに對し、信友會、正進會等は自由聯合主義を執つて譲らず、卒に決裂してしまつたのである。其以後の労働組合運動は、ボルシェヴィズムに近いともいひ得る中央集權主義と、サンディカリズムを奉ずる自由聯合主義とに分裂して、労働組合間の争闘が續いた。然しサンディカリズムの勢力は其後次第に微弱となり、労働總同盟の勢力が増大して來たのである。之と共に、總同盟内部に於ける右翼對左翼の對立が現れ、大正十四年五月に至つて分裂することになつた。即ち脱退した左傾團體は日本労働組合評議會を組織し、サンディカリズムを指導原理とする労働運動を行ふに至つたのである。大正十四年に普通選挙法が通過してからは労働組合も亦政治的闘争を目的とするやう

になり、労働黨の創立に際して總同盟側も評議會側も之に加ることになつた。然し、總同盟は十五年十月労働黨より脱退し、やがて社會民衆黨を組織するに至つたのである。けれども、總同盟内部に其右傾的傾向を喜ばざる一派が現れ、此一派は同十五年十一月別に日本労働黨を組織することになつた。そこで總同盟は此等日本労働黨派の組合を除名することになつて再分裂を遂げたわけである。此の如く無産政黨が生じたことは今日の労働運動をして主力を政治闘争に注がしむることになり、社會主義運動と殆ど合一せしめてしまつた。

た。「日本農民組合」が即ちそれである。これは賀川豊彦、杉山元治郎等を指導者とし、協同主義を指導精神とするものであつた。然し、社會主義運動の影響と、農村に於ける階級對立の激化とは次第に協同主義を放棄せしめて來たのである。同年十月には日本農民組合の關東同盟が創立され、労働總同盟の鈴木文治及び建設者同盟系や新人會系の人々が参加した。農民組合は創立後一年の間に素晴らしい發展を遂げ、漸次都市プロレタリアと提携しようとする要求を表示して來た。之と共に政治的自由の要求も盛になり、十二年十二月の關東同盟理事會では、農民、労働者、急進的小ブルジョア等を構成分子とする無産政黨の組織が申合されたのである。一方、岡山縣藤田村、大阪府山田村、熊本縣郡築其外に於ける小作争議を経て其組合員の激増を見た。農民組合の支持に依る小作争議としては、香川縣の伏石事件や、十五年五月に突發した新潟縣の木崎村事件、京都府の美豆村事件等がある。木崎村事件は三十餘町歩の土地假執行に反抗した農民の運動であり、農民組合のみならず労働組合評議會、日本坑夫組合、機械聯合組合等も應援し、一時非常なる騒となつた。小學兒童數百名も同盟休校

することになり、彼等の爲に無産小學校が開かれたが、當局は無産小學校教師を検束追放し、小學兒童の集會をさへ治安警察法で解散せしめたのである。八月十六日には同村に農民學校の落成式が舉行されたが、其際に十數名の者が騷擾罪で檢擧された。此事件以來、都市労働者の運動と農民運動とは一層結合せしめられた感がある。農民組合の政黨運動は他の労働團體を促して最初の單一無産政黨「農民労働黨」を結成せしめた。然しこれは前述の如く禁止され、改めて「労働農民黨」が組織された。そこで農民組合も之を支持することになつたのである。けれども、日本農民組合は其後分裂して、民衆黨を支持する農民總同盟、日本農民黨を支持する全日本農民組合同盟、日本労働黨を支持する全日本農民組合等が對立抗争してゐるのが今日の狀態である。

日本労働組合評議會 日本労働總同盟中の左傾派が脱退して組織したものである（「日本労働總同盟」参照）。左翼共産黨の理論を奉ずる労働組合であるから、いふまでもなく労働農民黨を支持してゐた。大正十四年五月十四日に創立されたものであるが、共産主義が勢力を得るに隨ひ増大し、昭和二年二月現在の組合員三五、〇〇〇に達してゐたが、

昭和三年四月十日治安維持法に依り、共產黨事件に關し勞農黨と共に解散を命ぜられてしまつた。此組合は、關東地方評議會、大阪地方評議會、京都地方評議會等八つの地方評議會と之に屬する五十九の組合から成り、月二回發行の『勞働新聞』を機關紙としてゐた。中央委員長野田律太(機械工)、杉浦啓一(機械工)以下二十一名の中央委員も多く純勞働者から成り、總同盟に知識階級指導者が多かつたのと好箇の對照をなしてゐた。其綱領は左の如くであつた。(一)組合運動の目的——組織と闘争とに依つて資本の搾取に對抗し、勞働條件を維持改善し、生活の安定と向上とを計り、勞働階級の完全なる解放と、合理公正の社會生活の實現の爲に闘ふことは組合運動の目的である。(二)組合運動の教育的任務——組合運動に依つて勞働大衆を教育し、勞働階級をして資本主義の精神的支配より完全に獨立し、階級意識に基く團體的行動の訓練を與へることは組合運動の教育的任務である。(三)行動の一般方針——勞働階級の完全なる解放を以て、一切の組合政策の根本基調とすると同時に、勞働大衆との間に、緊密なる接觸を保ち、勞働大衆の現實の必要と要求とに立脚した政策に依つて、闘争を發

展せしむることを以て組合運動の一般方針とする。(四)組合組織の原則——組合の一切の機關には、一般組合員の意志を最も敏速正確に反映せしめ、組合大衆をして常に組合の行動に活潑に關はしむると同時に、大衆の意志と行動とを、最も有効に集中して、最大の闘争力を發揮せしむるが如き民主的集中主義を以て組合員の原則とす。(五)組合員の目標——被搾取者たる共通の利害を、之に基く階級意識に立脚しての總ての勞働者を、産業制度に、一大階級的組織に團結せしむることを以て組織を進める目標とする。

日本勞働總同盟 【友愛會時代】 日本勞働總同盟はもと友愛會と稱してゐたものである。友愛會の創立されたのは大正元年八月一日、會長鈴木文治以下約十五人の人々が集つたに過ぎなかつた。當時『東京朝日新聞』記者であつた鈴木は統一教會の機關雜誌たる『六合雜誌』の經營を一任されたので、同誌の一部を割いて勞働問題の研究に當て、更に安部磯雄、桑田熊藏、吉野作造、高野岩三郎等の援助の下に、四頁の小雜誌を出して各地の勞働者に配つた。斯くて竟に友愛會組織の運びとなつたのである。當時の友愛會は次の如き綱領を掲げた

改良主義的の勞働組合だつた。即ち(一)我等は公共の理想に従ひ、識見の開發、徳性の涵養、技術の進歩を圖らんことを期す。(二)我等は共同の力に依り、着實なる方法を以て、我等の地位の改善を圖らんことを期す。(三)我等は互に親睦し、一致協力して相愛扶助の目的を貫徹せんことを期す。といふのである。此の如く協調主義的、且微温的な態度も當時の勞働者には寧ろ適合してゐたと見え、翌年八月一周年を迎へた時には會員一、三二六人に達してゐた。そこで本部に貯金部、法律顧問部、醫療部、體育部、娛樂部、出版部等を設けると共に十月には創立一周年記念大會を開いたり、勞働問題講演會を開いたりした。大正三年十一月、機關雜誌『友愛新報』を『勞働と産業』と改め、澁澤榮一、添田壽一等を顧問に迎へた頃は會員三、〇〇〇に近く、各地に分會が設けられるに至つた。友愛會は大正四年五月、アメリカに於ける排日問題緩和の爲に鈴木文治と吉松貞彌とをアメリカ勞働大會に送ることを議決し、鈴木、吉松は友愛會主催の勞働大會の承認と、澁澤榮一、添田壽一、安部磯雄等の推薦を受けて渡米した。更に同五年には、本部制度の改革、婦人部の新設、婦人部機關雜誌、『友

愛婦人』の發行などを行ふことになり、一旦歸朝した鈴木會長が日米問題の紛糾を見て九月再び渡米するといふ事件もあつた。大正八年頃になると、我國の勞働運動は飛躍的發展を遂げた。友愛會も亦此形勢を無視することが出来ず、運動方針を一變し從來の協調的態度を捨てることになつたのである。八年八月の友愛會大會は、從來鈴木會長の獨裁制だつたのを理事に依る合議制と改め、雜然たる地方支部を地方別より職業別又は産業別とし、會名も「日本勞働總同盟友愛會」と改め、麻生久、柳橋小虎等を役員に迎へ、階級闘争主義を明かにした。同年一月頃から徳川家達、床次竹二郎、澁澤榮一等が計畫しつゝあつた協調會は、鈴木文治の加入を求めてゐただけれども之を拒絶してしまつたのである。此年は友愛會にとつても、一般勞働階級にとつても多事の年であつた。ワシントンに開かれる第一回國際勞働大會に出席する勞働代表が友愛會、信友會等の認むる者でなかつた結果、榊本勞働代表反對の大運動が起り、友愛會、信友會、大日本鑛山勞働同盟會、新人勞働同盟は合同して大示威運動を起し、社會の注目を引いたのである。

【全國的聯合運動時代】 國際勞働會議の勞働代表選出問題は各種勞働團體の聯合を強めた。大正九年に入つて當時高潮に達してゐた普通選挙運動に關し、友愛會も亦他の勞働組合と協同的態度を執つた。當時は東京、神戸等で勞働組合の熱烈なる普通選挙が行はれてゐたが、同九年下半年以後は普通選挙が衰へてサンディカリズムが盛になつて來たのである。友愛會も亦此傾向に従つて普通選挙の熱意を失つて來たが、然しサンディカリズムの傾向を歓迎することが出来なかつた。そこで大正十年一月、『勞働』と改稱してゐた機關誌上に「勞働組合に歸れ」なる論文を載せ、勞働者が氣分的の××運動に走ることを戒めた。所が此論文はサンディカリスト側の知識階級指導者排斥運動を喚起した。其爲に苦境に陥つた總同盟は他の勞働組合との協調を捨てたのである。尙、總同盟が其名稱を「日本勞働總同盟」と改め、友愛會なる文字を棄てたのは此年の大會である。大正十一年に入るとサンディカリストの勢力が衰へ、其代りに共產主義者の勢力が盛になつて來た。此年には勞働組合の全國的總聯合運動が起り、九月十日には各派代表者の準備會が、同三十日には創立大會が開かれた。けれども總同盟側は中央集權主義を執り、サンディカリ

スト側は自由聯合主義を執つて譲らないので、遂に決裂してしまつた(日本の勞働運動)。

【總同盟の分裂及び現狀】 大正十二年に至ると、日本の勞働運動界は全くコンミュニズムの時代となつた。總同盟も勿論共產主義的態度を執つたが、從來の幹部が幾分右傾的であるに對し、又一方には左傾分子が現れたので、次第に内紛の危機を孕んで來た。同年の共產黨事件に際し、一部の左傾派が連座して以來、右傾派は左傾分子の淘汰を行はうとして來た。即ち現實主義を標榜して左翼小兒病者を整理しようとしたのである。其以來、總同盟内部に紛争が絶えなかつたが、十四年に至つて左傾派は日本勞働組合評議會を組織し、總同盟も竟に二分されることになつたのである。暗闘が終つてからの總同盟は、普通選挙の通過に刺戟された他の勞働組合と同じく政黨運動に向つて進み、勞働農民黨に加つたが、大正十五年十月二十四日竟に之を脱退し、新黨組織に着手したのである。そして同年十二月五日社會民衆黨を組織した。然るに、總同盟内部には勞働農民黨脱退を快としない一派があり、麻生久等は日本勞農黨の組織を圖つてゐた。總同盟中の日本鑛夫組合、關東合同勞働組合、關東紡織勞働組合等は日

本労働黨を支持することになったので、十一月總同盟は之を除名した。次で九州聯合會、高砂工友會、濰羊毛組合、關西合同労働組合等もみづから脱退した爲に、總同盟も此に第二次の分裂を遂げた。而して現在の總同盟が掲げる綱領は次の如きである。

〔一〕我等は團結の威力と相互扶助の組織とを以て、經濟的福利の増進并に知識の啓發を期す。〔二〕我等は斷乎たる勇氣と有效なる戰術とを以て、資本家階級の抑壓迫害に對し、徹底的闘争をせんことを期す。〔三〕我等は労働者階級と資本家階級とが兩立すべからざることを確信す。我等は労働組合の實力を以て、労働者階級の完全なる解放と自由平等の新社會の建設を期す。——「尙現在の組合員數は三〇、〇〇〇人、會長鈴木文治、主事松岡駒吉が指導してゐる。

日本労働黨 労働農民黨の分裂直後、労働農民黨に比して現實主義を、社會民衆黨に比して階級的立場を守る無産政黨として生れた。即ち労働農民黨は大正十五年十月二十四日大分裂を遂げ、同黨から脱した労働總同盟は社會民衆黨の結成を急ぐことになったのである。然し總同盟内部にも日本労働組合同盟、日本労働組合總聯合、日本同業同盟、日本製陶労働同盟等の不平分

子があつて、總同盟を去ることになった。此等の労働組合に日本農民組合中の堅實派（後に全日本農民組合となる）や東京市電自治會の有志が参加し、同年十二月八日日本労働總聯合なる團體が成立した。一方、十一月二十二日來日本労働黨の結成準備が着々と整へられてゐたので、十二月九日日本労働總聯合を主要構成分子として愈日本労働黨の結成式が擧げられることゝなつた。

其黨員一九、八八五、支部一七、書記長は麻生久で、昭和三年二月の衆議院議員選舉にては河上丈太郎が當選しただけであるが、加藤勘十、松谷與二郎、杉山元治郎等次點を占めた者も少なくなく、今後相當の政治的進出を期待される。本部を東京市芝公園に置き、旬刊『日本労働新聞』を持つ。同黨の宣言には「大衆の現實的なる要求を掲げ、以て大衆の解放に達せんとするの爲に我黨の本領だ。現實の利害の爲に目的を忘れるもの、目的の爲に現實を見失ふもの、共に我等の與せぬ處だ。階級意識に基く現實政策こそ我等の確立せんとする公道である。」とある。其綱領は次の如くである。

〔一〕我等は我國の國情に即し無産階級の政治的經濟的社會的解放の實現を期す。〔二〕我等は合法的手段に依り、不合理なる土地

生産分配に關する制度の改革を期す。〔三〕我等は無産階級の利害を代表し、特權階級の利害を代表し、特權階級の壟斷する議會の徹底的改造を期す。

【又】

奴婢

【概説】 往古の東洋に存在した男女の奴婢を謂ふ。靈肉共に所有者の絶對的支配を受け、物品同様に取扱はれてゐたことは西洋の奴隷に等しい。其起原に就いては之を明かにすべき文獻が無いが、恐らく人間の労働が彼自身の消費する以上のものを生産するやうになると共に存在したものであらうことは多く疑を容れない。西洋に於ける奴隷と同じく、労働生産力が此程度に進んでから、被征服種族、戰爭の慘敗者などが奴婢とされることになつたに違ひないのである。支那では夏代（西曆前二〇〇〇年代）に、君命を用ゐざる者を奴としたことが傳へられてゐる。殷の末（西曆前八〇〇年代）に、箕子が紂王の加害を避ける爲に自ら奴となつて身を隠したといふ史實もある。又朝鮮では三國時代（西曆前一八〇年代）に奴婢の存したことが明になつてゐる。日本でも相當に古くから存在したらしいが、奴婢經濟の全盛期は奈良朝時代であつた。奴とは男の奴

隷、婢とは女の奴婢を謂ふのであつて、其全盛時代は富者が總ての生活資料を彼等に生産せしめてゐたのである。随つて多くの奴婢を所有することは直に富裕を意味し、人々は努めて奴婢を得ようとしてゐた。然し社會的物質的生産力が進み、生産物の交換が常規的となり、分業が発達して特殊の労働者の出現が必要となると共に漸次奴婢が解放され、今日では全く跡を絶つてゐることいふまでもない。

【種類】 奴隷經濟の時代には、種々なる奴隷の種類があつた。先づ奴婢となつた理由の上から分ければ、奴婢の子女、犯罪者、賣買に依る者の三種があり、所有者の上から分ければ、私人に所有される私奴婢と政府に所有される公奴婢との二種がある。賣買に依つて奴婢となる者は、父母の貧困の爲に賣られたり、自身の負債の爲に自ら身を賣つたりするので、貧民の多い時代には此種の人身賣買が盛に行はれてゐた（「人身賣買」）。又、両親が奴婢である者、両親の執れかが奴婢である者は、一生奴婢として終らねばならなかつた。一般の人民（良民）と奴婢（賤民）との交婚を禁ずる爲に日本では常に良民と賤民との間に生れた子を總て奴婢とすることになつてゐたが、延暦八年（西曆

の勅令に依つて、良賤相通じて生んだ子女は奴婢とされることを免れ得るやうになつた。朝鮮でも奴婢に依つて生れた子は奴婢とされてゐたが、婢が主人の五等親以内の血族と通じて生んだ子だけは奴婢としないことになつてゐた。然し支那では、子は總て父に屬する者であるとの觀念から、其父が良民である場合には奴婢に依つて生れた子女も奴婢とされることが無かつた。犯罪者を奴婢とすることは、諸國一般に行はれてゐた所であるが、如何なる犯罪者を奴婢としたかは明かではない。朝鮮では、父母を殺した者、印信偽造者、強盜等を奴婢としてゐたやうである。此等總ての奴婢の中、政府に使用されてゐる公奴婢は一名官奴婢とも呼ばれ、官衙や官營事業等に働かせられてゐた。日本の公奴婢は毎年十日づきの休暇が與へられたり、春秋二季に衣服を給されたり、私奴婢に比して著しく優遇されてゐた。殊に公婢は女醫となることまで許されてゐたのである。朝鮮では公奴婢を公賤と稱し、中央官衙及び地方官衙に使役される者の區別があつた。そして中央官衙に使役される者は、年二期に交代して在京中を官衙の雜務に服し、歸郷してゐる間は一定の貢納を納めることになつてゐた

のである。私人の家庭に使用されてゐる私奴婢の待遇は一般に公奴婢に劣つてゐた。日本では私奴婢に良民の三分の一の口分田を給してゐたが、其數頗る多かつたものらしい。朝鮮でも私奴婢即ち私賤の數が頗る多く、其多少が所有者の財産を示すものと考へられてゐた。私賤は多く獨立の家計を營み、所有者の爲に生活資料を生産して之を提供してゐる、待遇も所有者に依り様々に變つてゐた。然し此等の私賤も必要があれば主人の家庭に召集され、其處で勞役に服せしめられてゐたことはいふまでもない。

【制度】 日本では大化の改新以後、屢奴婢に關する規定が設けられ、大寶律令に依つて彼等に關する制度も確定された。大寶律令に依ると、奴婢は黒色の衣服を着用せしめられ、之に依つて一般の良民と區別された。そして彼等の良民と交婚することが堅く禁ぜられたのである。子女を賣つて奴婢たらしむることも嚴禁されたが、これは容易に勵行されず、饑饉の際などには依然として人身賣買が行はれて來たのである。公奴婢は官衙に所有されてゐた爲に隨時に轉賣されるといふことは無かつたが、私奴婢は賣買のみならず、讓與や質入なども自由に行はれてゐた。奴婢は主人に絶對服従し

なければならぬもので、若し主人を殺害しようとするものがあれば立所に斬刑に處せられた。然も、主人は官衙の許可を得さへすれば自由に奴婢を殺すことが出来たのである。又、奴婢が其身分から解放されるのは、主人が任意に放つた場合、主家が死滅して奴婢の處分に對する遺言の無い場合、身代金を辨償した場合、訴訟を提起して不法處分を脱した場合等に限られることになつてゐた。朝鮮では公賤の賣買を禁じてゐたけれども、私賤の賣買は官衙の許可を受けさへすればよいことになつてゐた。若し官許を得ずして賣買した場合に、奴婢と其代金を没收されることになつて居り、賣買價格にも一定の規定があつた。然し事實上、官許も得ず標準價格にも依らずに賣買されることが多かつたらしい。貧困の爲に妻子を賣り、自分自身を賣ることも禁ぜられてゐたが、實際には行はれてゐなかつた。奴婢が解放されるのは功勞に依つて奴婢たることを免ぜられる場合と贖身錢を出して免ぜられる場合とに限られてゐた。贖身錢を出した時は補充隊に屬せしめられ、若し其仕事を怠る時には再び奴婢とされると共に、公私の婢と結婚すれば其子を奴婢たらしめねばならぬであつた。例外とし

て、奉城寺成均館の公賤と咸鏡道及び平安道の私賤とは、如何なる場合にも贖身することを許されてゐなかつた。支那では奴婢の公私が嚴重に區別され、價格も一定してゐたから、公奴婢と私奴婢を交換した場合には、此價格の差異に依つて利益を計つたと見なされ、窃盜罪に準じて處罰された。私奴婢の賣買も、契字と稱する賣買契約書を官廳に提出して檢印を受けた場合だけに許されてゐた。奴婢の解放されるのは主人や其家族が殘酷なる行度をなした場合と、主人の家が廢絶した場合とに限られてゐたのである。

【一】

農業改良主義 ドイツ社會民主黨では農業問題に關し二様の見解があつた。農業マルクス主義と農業改良主義とがそれである。農業マルクス主義は一八九三年に行はれた帝國議會の選舉に於て農民團體の反對を受けるまで社會民主黨に於ける支配的勢力であつた(農業マルクス主義)。然し選舉の際に受けた農民團體の反對は、都市労働者に對すると同様の運動を農民に行ふことの不利を痛感せしめた。そこでウィルヘルム・リッブクネヒト等の支持して來た見解を修正す

る必要が、該黨の人々に感ぜられて來たのである。殊に、此頃から社會民主黨は各地の地方議會に議席を占めるやうになり、各聯邦の實情に接して來たので、傳統的農業理論を固持することが政策上不利なるのを自覺するに至つた。そして實際黨略の上からは一八九三年バイエルンの地方議會に當選したゲオルク・フォン・フォルマーが、農業理論の上からは一八九六年ヘッセンの地方議會に當選したエドアルド・グライツの地方議會に當選したエドアルド・グライツが農業改良主義の代表的主張者となつたのである。農民保護の必要を説くフォルマーに依れば、農民は現在に於ける經濟的地位の改良を望んでゐるものであり、農業の危機と農民の困憊とを救ふ爲には保護立法を必要とする。故に農業に關する傳統の見解を捨て、農民への宣傳方針を改めねばならぬといふのである。彼は更に正統派の見解が幾多の誤謬を含むことを指摘する。第一、大農組織が小農組織に優れてゐて、前者が後者を没落せしめつゝあるといふのが間違つてゐる。プロイセンでは事實小農よりも大農が抵當負債に苦んでゐる。又、科學的農具の進歩が農業の將來を決定することも有り得ない。ドイツでもイギリスでも、大機械の應用が農業の生産費を減少せしめて

ゐないではないかといふのがフォルマーの主張であつた。フォルマーに依つて農業改良主義が高唱されるにつれ、農業問題の論議が次第に盛になり、一八九四年のフランクフルト大會では農業問題が議題とされるに至つた。同大會でシェーンラング及びフォルマーの報告に基く決議が發表された。「農業問題は社會問題の必至的問題である。其解決は土地及び労働資料を生産者に還元した時初めて可能となる。然し今日に於て小農及び賃銀農業労働者の困難は改良的方法に依り十分改善することが出来る。社會民主黨の職分は小農及び賃銀農業労働者に必要な黨是を定むるに在る。」といふ其決議は、新舊兩説の折衷とも見るべきものであつた。フランクフルト大會は、同時に南ドイツ、中ドイツ、北ドイツの農業状態を調査せしむる農業委員会を作り、ペーベル、カウツキー、フォルマー、グライツド等を委員に擧げた。農業に關する理論的研究と論争とは此以來再び激しくなり、カウツキーの『農業問題』グライツドの『社會主義と農業』等の如き著書も現れた。一九〇八年プロイセン議會に社會民主黨の議席が出來た頃は農業改良主義が農業マルクス主義を凌駕する勢を示して正統派の巨將ベ

ベルでさへ、農業問題に關する思想が幾分動搖して來たのである。農業改良主義は一種の實際政策であり、マルキシズムに致命傷を與へ得る程のものでない。然し、農業問題はマルキシズムにとつて一の苦手である。そして今猶、多くの異論を喚起する所となつてゐる。

【一】

農業保險 旱魃、早冷、洪水、降雪、蟲害等に因る農業上の損害を保險するものである。然し此種の災害は極めて不規則的であり、氣候風土の關係に依つて此種の災害が多い所もあれば少い所もある。殊に蟲害の如きは當事者の注意如何に依ることの多いものであるから、有らゆる災害に就いて一般農業者を保險することは殆ど不可能である。故にヨーロッパでも農業保險として専ら行はれてゐるのは、電害保險と家畜保險との二種だけのやうである。電害保險は降雹に因る損害を防がうとするもので、相互組織で行はれることが最も多く、私營會社や國家に依つて經營されてゐる場合もないではない。又小地主の多い地方では、多數の地主が合同し其代表者が保險契約をしてゐる所もある。家畜保險は家畜の死亡に因る損害を保險するもので、家畜生命保險、家畜輸送保險、屠畜保險、放牧保險等種々

の區別がある。然し、家畜生命保險及び屠畜保險が村落相互組合や國家の手などで行はれるに反し、其外のものには極めて短期間のものであるから私營會社で副事業的に經營されるに過ぎない。國家が農業保險を經營するのは農村の保護發達を目的とするのであるから、加入の義務を強制し、其爲に多額の國費を支出してゐる所もある。

【一】

農業マルクス主義 【概説】 ドイツ社會民主黨では農業問題に關して二つの思潮が争つてゐた。一は農業マルクス主義、他は農業改良主義と呼ばれてゐた。農業マルクス主義は、農業問題に就いて正統マルクス派の見解を其まゝ採るものである。言ひ換へれば、農業問題に對してマルクスの探求闡明した資本の内在的運動法則を、マルクスの示してゐた斷片的の農業理論を其まゝ當てはめようとするものである。正統マルクス派の農業理論はドイツ社會民主黨の創立以來一八九三年頃までを支配してゐたが、其以來農業改良主義の勢力が盛になつて來たのである。マルクスは農業に就いても工業に於けると同様の法則が働くものと考察してゐた。「大工業は舊社會の藩屏たる自作農民を滅し、之を賃銀労働者たらしむる限りに於て、それは農業方面に最も革命

的影響を及すものである。斯くして農村に於ける社會的變革の要求及び階級對立の事實は、都會に於ける其れと等しくなる。舊來の最も陳腐にして不合理極る經營に代り、科學的意識的にして工藝的なる應用が現れて来る。（資本論）と説き、他の産業に於けるが如く大經營に依つて小經營が滅され、階級對立が明かになることを述べてゐた。そして一切の生産機關と共に土地をも公有に移すことが、農民問題解決の途であることを主張してゐたのである。マルクスの斯る思想を農村問題に對する具體的對策としてゐたのが、農業マルクス主義の一派なのであつた。

【歴史】 ドイツ社會民主黨は、一八七〇年のスツットガルト大會から一八九一年のエルフルト大會に至るまで二十年の間、全く正統マルクス派の見解を繼承してゐた。農業マルクス主義の使徒はウィルヘルム・リーブクネヒト、ディッケン、ペーベル等であつた。リーブクネヒトの『土地問題論』は、社會民主黨の見解を代表するものであり、共に、之を指導するものでもあつた。彼は同時代に於ける他のマルクス主義者と同じく、イギリスの大農組織とフランスの小農組織とを比較し、小經營が必然に没落

すべきであることを説いた。即ち「農業上の小企業が大企業との競争に耐へ得ないのは、恰も工業に於ける小企業と大企業との關係に等しい。」と述べてゐた。そして没落しつつある小農を救ふには土地の私有を社會の公有に改むる外手段が無いと主張するのであつた。然し彼は此變革を、暴力的手段に依つて決行すべきでなく、農民の重荷となつてゐる土地抵當債務を國家が引受けるといふ形に依つて、個々の經營を漸次組合的大企業に移すべきだと主張した。又彼は農民が工業労働者と完全に合體すべきことを信ずる。今日に於てこそ「都市及び村落の労働階級が分裂し、一切の自由主義運動の發達を妨げてゐる」が「兩者の握手する日こそ兩者の解放さるべき大なる日である。都市と村落との労働階級が携へて、労働力を搾取する共同の敵と戦ふ日は方に眼前に近づいてゐる。」と述べてゐたのであつた。土地を社會化する點に就いては異論が無かつたけれども、社會化した土地の管理に關しては社會民主黨も確固たる見解を持つてゐなかつた。一部の者は國家若しくは自治體をして管理せしむべしと説き、他の一部の者は農民をして生産組合を組織せしめ、國家と生産組合との小作契約に依

た。一方、産業の中心が農業から商工業に移り、商工業が政治的勢力を占めるに至つた結果、農産物價格に種々なる壓迫が加へられる。農産物價格の騰貴は賃銀労働階級の生活費を昂騰せしめ、賃銀の騰貴、生産費の膨脹を結果するからである。そこで農村は廉き農産物を賣り、高き製造品を買はねばならなくなり、一般的疲弊に陥つた。下層農民の生活難と思想的自覺とは地主、資本家に對する反抗を強め、農村に於ける階級闘争も次第に甚しくなつて來た。そこで主として商工業資本家の支持を受ける政黨政治家は、何等かの方法に依つて農村救済を策するの必要に迫られる。農村問題が盛に論議されるのは即ち其爲である。現代に於ける大部分の政治家は商工業資本の代辯者であるから、食糧不足の危機が無いならば農村の如きを眼中に置く必要が無い。然し食糧不足と其騰貴とは商工業の大なる苦痛である。彼等が農村問題を叫ぶ理由は實に之が爲である。けれども、商工業の壓迫に依つて疲弊しつつある農村を、商工業の利益を損はずして救済しようといふのは企圖其者が不自然である。農村救済の聲のみ盛であつて、更に實績が擧らぬのは全く其爲である。自作農創設案の如きは、今日

農業マルクス主義の孤城は、農業改良主義が勢力を得てゐる間にも、ペーベル、カウツキー等に固守されてゐた。農業に關するマルクスの見解其者に誤謬があるわけではない。然しマルクスは抽象的法則を究明してゐたので、農業に關する總ての具體的事情を考慮に入れてゐる餘裕も無かつた。然るに所謂農業マルクス主義はマルクス説を守るに急であつて、農業を種々なる事情の相關關係に於て見ることが出來ず、反つてそれが爲にマルキシズムを窮地に陥れた感がある。（農業問題）

【資本主義と農業】 今日に於て農業問題若しくは農村問題といはれるのは、農村の疲弊、農業に於ける階級對立、農業生産物の増減等に關して如何なる對策を採るかの問題である。自作農創設、農業信用組合の奨励等は孰れも資本家的農業政策であり、彼等の觀點に於ける農村問題解決策なのである。農村の疲弊は資本主義の發達と共に甚しくなる。それは農村が自給自足の封建的經濟生活を脱し、貨幣經濟に入つて來たことと、商工業の農業に對する壓迫とが生んだ現象である。曾ては生活必需品の大部分を自ら生産してゐた農民も、今や之を工業製品に俟たねばならなくなつ

つて管理生産することを主張した。生産組合の思想はラッサレの流を汲むものであるが、民主黨内部でも相當に勢力があつた。故に一八七五年のゴータ大會でもラッサン流の見解が採用された。『ゴータ綱領』に「全社會を社會主義的に構成する爲、農業に於ても工業に於ても生産組合の組織を必要と。」とあるのは即ちそれである。一八七〇年代の半から、ドイツにも他の諸國と同じく農業恐慌が襲來した。アメリカ、オーストラリア等の廉價なる農産物が盛に流入し、ヨーロッパの農業は危機に瀕したのである。然し社會民主黨は斯る現象に對しても所謂マルクスの觀を堅持し、其理論を發展せしめることが無かつた。一八九一年のエルフルト大會に至つても、依然として農業マルクス主義が其まゝに説かれてゐた。農業マルクス主義否定論者たるダヴィッドが指摘する如く、此間に於て彼等の理論は何の進歩も示してゐないのである。然し此傳統的見解は、一八九三年の帝國議會選舉に際して農民團體の社會民主黨に對する反對が激しかつた所から、次第に疑はれて來た。そして、理論的研究の結果といふよりも、寧ろ實際運動の經驗と必要上とから、新なる農業政策が生れて來たのである。然し

の小作農が猶土地所有から解放されてゐないのを好機とし、地主を商工業資本家に轉ぜしめんと試みる計畫に他ならない。此案は地主の土地を小作人に賣り、農村から地主を解放しようとするものなのである。其外種々なる農村救済策が唱へられるが、利害の相對立する商工業資本の立場からは、決して農村救済の果される筈が無い。我國の政黨には表面上農村の代表となつてゐるものもあるが、大政黨が商工業資本の支持なくして經濟的に存在し得ないことはいふまでもない。故に表面の主義政綱が如何なるものであらうとも、實質的には商工業資本の使徒であるから農村疲弊の激化も避け難い現象だといはねばならぬ。

【社會主義と農業】 社會主義の立場から農業の發展を如何に見、如何なる對策を可とするか？ 此問題に關して最も有力なるものは（他の問題に關すると同じく）マルクスの主張である。マルクスは農業が漸次資本主義化して行くこと、工業と同様の法則に従つて大經營が發達し小經營が没落すること、農民の解放は土地の社會化に依つて初めて可能であることを説いた。そして、此見解は所謂農業マルクス主義となつて行はれた。（農業マルクス主義）。社會主義者の多くは此見

解を踏襲してゐるのである。マルクスは、農村問題に關して、農業を其特殊性に於て考察しようとしたわけでない。彼の主要なる學問的努力は、資本の内在的運動法則を一般的且抽象的に究明することにあつた、隨つて彼は農業に就いても、斯る法則の充當されることを説いたに過ぎない。彼の説いた所は眞理である。鉛も羽毛も眞空界では同一の速度で落下する。然し空中では空氣の抵抗がある爲其通りには行はれない。けれども落下の法則が眞理であることを疑ふことは出来ない。此場合に於けるマルクス説も其通りである。然るに所謂農業マルクス主義の人々は空氣の抵抗を無視し、眞空界でも空中でも同様の速度で鉛と羽毛とが落下すると説く嫌があつた。正統マルクス派にとつて農業問題が一の苦手であつたのは、眞空界と空中との異同を辨じなかつたからである。抽象的法則としては、農業も工業と同一の發展を辿らなければならぬ。然るに多くの反對論者が指摘する如く、小經營は決して理論通り大經營に征服されなかつた。且農業に於ける労働生産力は決して工業に於けるが如き増進を示さなかつた。これは何故かといふと、(一)農産物の需要が固定性を持つてゐること、(二)農業

生産の範圍擴張が不可能なること、(三)商工業の其れに比して農業の政治的勢力が減少しつゝあること等の特殊性に基くものだと考へられる。即ち農産物の需要は他の商品の需要の如く伸縮自在の所が無い。他の商品は大量生産に依り廉價となるに隨ひ、廉價其者が需要を喚起する。近來日本に於て一圓本流行の如き其一例であらう。然し穀物の如きものは、如何に生産が増大しても、供給過多に依つて廉價となつても、人類の生理状態が變化しない限り、さまで需要が増加すると考へられない。需要の増加する可能性の少い所で、大機械採用の競争が行はれないのも無理がない。次に農業は生産物の範圍が限定されてゐる。如何に生産力が増大しても生産機關を生産することが出来ぬ。それは依然として消費資料の生産に止る。更に穀上の如き制限を念頭に置き、其範圍内で生産力の増大を計るとした所で、農産物の價格が商工業資本の壓迫の下に決定され、且平均利潤の獲得が脅されてゐる農業に多くの資本が流入する筈が無い。生産力の増大、農業の機械化はより資本があることに依つて可能となる。然るに農業資本の政治的勢力が衰へつゝある結果農業が極めて不利の地位に陥つてゐるのだ

から、此點から見ても農業に於ける資本の蓄積、大經營に依る小經營の没落が行はれぬのも當然である。其外大農法を行ふには廣大の土地を必要とするけれども、耕地が多くの農業者に分割所有されてゐて、大面積の土地獲得が困難であるなど、農業の發展には空氣の抵抗以上に妨害が多い。此特殊性が農業をして理論通りに資本主義的發展を遂げしめず、社會主義に於ける農業理論を窮地に陥れてゐるのである。然し種々な抵抗力の爲、農業が社會主義の理論通りに發展しないといふことは、社會主義運動の上に困難なる問題を齎すものだと考へられない。農業の發展が遅々たるものとはいへ、農産物價格に對する壓迫と、労働賃銀たるべき部分まで小作料として地主が収奪するが如きことは、農業労働者の窮乏を助長し彼等を刺戟する。隨つて彼等の間にも組織的運動が起り、思想的自覺が進むと共に共同の敵が金融資本であることを知るに至るであらうから、都市労働者との團結も可能となるであらう。斯くて一切の生産機關と同じく土地の國有が行はれるとすれば、今日の農村に生起しつゝある一切の問題が、社會主義者の主張する如く消滅するであらうからである。

農業労働者 【概説】 農業に従事する一切の労働者を謂ふ。農業は其性質上、機械を應用し得る部分が少く、今日では他の産業部門に比べて人間労働に依頼する所が多い。言ひ換くると農業生産上必要なる資本の中で其大部分が労働力の代價となり、機械や補助材料等に費される部分は少いのである。尤も我國では農業が相當の資本を投下する企業として行はれることが尠く、普通小作人や自作農に依りて小規模なる農業生産が營まれてゐるだけである。然し、歐米諸國では農業も一の企業として資本主義的に營まれてゐる場合が多い。即ち農業企業家は地主から土地を借受けて其地代を支拂ひ、其土地に多數の労働者を使用して大規模の經營を行つてゐる。此の如く資本主義的企業として營まれてゐる歐米の農業でさへ、今日の狀態では他の産業よりも資本の有機的組成が低く、労働賃銀が最も重要な部分を占めてゐるといふのである。さて、此の如き産業に従事する労働者の特色は何かといふと、他の労働者に比べてより孤立的地位に置かれてゐること、雇主との間により溫情的關係を存することである。日本の農業労働者たる小作人や作男が孤立的地位にあり、地主乃至雇主と主従

的關係を有してゐることは何人も否定出来ぬであらう。小作人は孰れも一定の地域を劃して孤立的に働いてゐる。他の小作人と集團的分業的の労働をしてゐるのでない。其上小作料も同一地主に屬する小作人間でさへ一定してゐないことが多いのである。作男の如きは、一の農家に二人以上傭はれてゐる場合が殆ど無く、全くの孤立状態である。それのみならず、農村には封建的傳統も猶殘存してゐ、地主と小作人、雇主と作男との間には可也の溫情關係が残つてゐるのを常とする。歐米の農業労働者にしても、工業労働者などが多く都會地の工場で、數百數千の同僚と集團的労働を營んでゐるに反し、より僻遠の地方でより少數の同僚と働いてゐる。縦し一企業家に屬する労働者數が工業と農業とで異なる點が無いにせよ、工場地には他の多くの工場が存在してゐるから、共通の地位にあつて共通の利害を持つ労働者が多いことになり、階級意識の激發する機會も多い。又、溫情關係の上から見ても、他の労働者は工場から工場へ轉々として移る場合も多く、企業家との間にも賃銀の授受以外に何等の主従的感情を持たぬ。之に反して農業労働者は賃銀以外に住居や生活必需品を與へられることが

多く、隨つて雇主との間に溫情的關係を生むことになる。此等の事情は、日本ばかりでなく歐米でも農業労働者の階級的觀念の發達を妨げ、他種の労働者に比して階級的抗争を少からしめてゐるのである。然し、近來では農業の資本主義化も益進んでゐ、且文字を通し見聞を通して階級意識が養はれつゝあるから、農業上の階級闘争も次第に多くなつて來たやうである。

【種類】 一口に農業労働者といつても咸く同一のわけではない。日本の農業労働者が小作人と作男とに分けられることは既に説いた通りである。小作人(其項)に就いては別に詳述したし作男は農家に於ける下男に過ぎないから改めて詳述するまでもなからう。西洋の農業労働者は大體之を契約労働者と自由労働者とに分けられる。契約労働者は農業企業家に特定の契約を以て傭はれ、長い間同一企業家の下で働いてゐる。彼等は普通、住居や菜園等を貸與され、農業企業家の農場内に生活してゐる。そして穀物類や薪炭や家畜の飼料なども與へられる。彼等は農業上の仕事が少ない季節になつて解雇される憂が無い代り、農繁期には夜間労働もすれば、妻子にも手傳はせたりする。契約は普通一年を期限とするけれども

期限が切れれば改めて契約し、一生同一の雇主に仕へてゐる者も少くない。次に自由労働者には、出稼労働者、渡り労働者、日傭労働者などの別がある。出稼労働者は賃銀を得る目的で一定の期間を他の地方乃至外國で働き、期間が過ぎれば再び故郷の村に歸つて来る者である。彼等は一般に愛郷心が強く、たとひ出稼地に留るやうな場合にも故郷への送金は忘れない。ドイツのザクセン渡り者などは、此好適例であらう。渡り労働者といふのは出稼労働者と違ひ、一定の住所を持たない者である。随つて彼等は水の低きに流れる如く轉々として各地を流浪して歩き、多く類廢的の性格を持つてゐるものである。渡り労働者の使用は農村の風紀上から宜しくないに違ひないが、企業家の立場からすると農繁期に必要なだけ雇入れ、必要が止れば解雇することの出来る便利の者である。日傭労働者は又臨時雇ともいふべく、必要な時だけ日給を以て傭はれる者で、季節に依つて繁忙を極めたり閑散であつたりする農業では、渡り労働者と共に便利の者といはねばならない。日本でも近來は田植や收穫時に日傭労働者を雇ひ入れることが多くなつて來たやうである。大正十四年農林省の發表した所に依る。

と、日傭労働者の全國平均賃銀は、男一日一圓五十三錢、女一日一圓二十三錢であつた。農業労働者の賃銀は一體に低く、日傭労働者の外は貨幣賃銀だけを給されることは無いやうである。

農奴

土地に隷屬せしめられてゐた労働者で、封建時代には最も重要な労働力の提供者であつた。即ち古代に於ける奴隷に代つた中世の労働者が農奴なのである。古代は生産的労働の殆ど總てが奴隷に依つて行はれてゐた。農業も亦奴隷を使役して地主が直接行ふ場合が多く、例外としてコロヌスなる自由民的奴隷が存在してゐただけである。然るに中世時代には農奴なる者が生れて地主に隷屬することになつた。農奴特徴の第一は、彼等が一生其土地に隷屬せしめられてゐることであつた。彼等は自己の生れた土地を離れることを嚴禁されてゐた。次に、彼等は人格的に全く主人に隷屬して居り、時に依ると主人に依つて他へ賣買乃至贈與され、或は質入されてゐたのである。此傾向はロシアに於て特に著しかつた。最後に、彼等の組織する村落が一の共産的單位になつてゐたことも、其特徴として見逃し得ないであらう。即ち多くの場合、大土地所有の結果として、彼等は共同

農民の反逆 イギリスでは一三八一年に大規模の農民反逆運動が起り天下を震撼させた。それは實にイギリス史に於ける資本と労働との最初の闘争だつたのである。新商業文明の發達が漸次農奴經濟を崩壊せしめようとしつゝあつたに拘らず、イギリスの統治者階級は農奴の地位を法律的強制的に維持しようとした。乃ち領主と農奴との對立を消滅せしめんとする要求が起り、農民の秘密結社が生れたのである。そしてフランスとの多年の戦争から解放された農民が歸休した一三八一年六月各地の農民が一齊に起つて領主と官吏とに對抗することになつた。最も勢の甚しかつたのはケント州に起つたもので、ケントの革命僧ジョン・ポールを牢獄から救ひ、ロンドン市中に亂入してリチャード二世を蒙塵せしめたのである。彼等は國王の後を追つて要求を續けたので、國王も之を容認することを約するに至つた。國王の約束に満足した農民が大部分郷里に歸ると、騎士軍が残れる農民軍を襲撃して之を破つたので、農民のみならず都市の労働階級にも支持された此運動も失敗に歸した。然し此運動は都市及び農村の労働者に、其後約一世紀の間黄金時代を齎したのである。又、一五四九年にはコ

的耕作に従事してゐたし、租税も亦村落の連帶責任になつてゐたのである。彼等は其社會的地位が低く、過度の労働と貧窮とに苦められてゐた。だから、時々大規模なる一揆を起すことさへあつた。孰れの國の農奴史にも一揆の見られぬことは無い。イギリスでは第十四世紀に、ドイツでは第十六世紀に、ロシアでは第十七世紀に、全國的な農奴大叛亂が勃發したのである。然し封建制度の没落と共に漸次農奴解放が行はれ、今日では全く其影を没してゐる。經濟的發達の最も進んでゐたイギリスでは、第十六世紀に農奴解放が行はれた。フランスでは一七九一年革命政府の手に依つて、ドイツ諸邦では第十九世紀前半に、ロシアでは一八六一年にそれ／＼農奴解放が斷行されたのである。農奴解放は、經濟的自由主義の農業に於ける展開とも見なすべく、其以來農民も大農小農等様々に分裂して來たのである。

農民運動

【概説】 農民が階級としての意志や感情を、集團的に表示する行爲を謂ふ。今日に於ける農民の大部分は被搾取階級である故、農民運動も多くの場合、階級闘争の範疇に屬し、廣義に於ける社會運動の一重要部門をなすのである。農民の運

動は、彼等の地位が變化するにつれて、それぞれ形態を異にする。第一期の自由農民時代には、階級闘争といふよりも、寧ろ他の産業に對する反抗運動と見るべきものが多かつた。古代ローマに於けるグラッカス兄弟の改革運動の如き、奴隷經濟や商業文明の發達に對する反抗運動であつた。然し第二期の農奴時代になると、農民層が全く隷屬的位置に沈む結果として階級的反抗運動が起る。中世末期のヨーロッパに頻發した農民の反逆運動は咸くそれであつた。第三期の近世農民時代になると、資本主義的精神が農業にも浸潤する結果、農民運動も亦賃銀労働階級の運動と近似して來る。近來に於ける小作人組合の運動の如き、其典型的のものであらう。農民は都市の賃銀労働者に比べて頗る孤立的である。隨つて農民運動の生起することは、彼等に對する搾取と壓迫との甚しい割合に少い。然も、中世ヨーロッパに於ける農民の反逆運動、封建時代の我國に於ける百姓一揆が頗る激烈だつたことを思へば、彼等に對する搾取と壓迫との如何に甚しかつたかを知ることが出來よう。次に農奴時代に於ける各國の農民運動を概説してみる。

農民の反逆 イギリスでは一三八一年に大規模の農民反逆運動が起り天下を震撼させた。それは實にイギリス史に於ける資本と労働との最初の闘争だつたのである。新商業文明の發達が漸次農奴經濟を崩壊せしめようとしつゝあつたに拘らず、イギリスの統治者階級は農奴の地位を法律的強制的に維持しようとした。乃ち領主と農奴との對立を消滅せしめんとする要求が起り、農民の秘密結社が生れたのである。そしてフランスとの多年の戦争から解放された農民が歸休した一三八一年六月各地の農民が一齊に起つて領主と官吏とに對抗することになつた。最も勢の甚しかつたのはケント州に起つたもので、ケントの革命僧ジョン・ポールを牢獄から救ひ、ロンドン市中に亂入してリチャード二世を蒙塵せしめたのである。彼等は國王の後を追つて要求を續けたので、國王も之を容認することを約するに至つた。國王の約束に満足した農民が大部分郷里に歸ると、騎士軍が残れる農民軍を襲撃して之を破つたので、農民のみならず都市の労働階級にも支持された此運動も失敗に歸した。然し此運動は都市及び農村の労働者に、其後約一世紀の間黄金時代を齎したのである。又、一五四九年にはコ

の大部分で農民叛亂が起つた。これは然し一三八一年の其れ程に激しくはなかつた。(二)フランスの農民戦争 フランスでも一三五八年五月から七月にかけてジャックケリと呼ばれる反亂が起つた。これは搾取と虐待とに惱むジャック(農)が蜂起して封建領主を葬らうとするものであつた。然しこれも間もなく政府當局の援助を得た貴族軍の逆襲する所となり、數千の農民が斃された後首領ギヨーム・シャールも捕縛されてしまつたのである。(三)ドイツの農民戦争 一五一六年からの二十年間は、ドイツに於ける社會的叛亂期であつた。此間に勃發した最も大規模の農民戦争は、一五二四年の其れである。此農民戦争は、農奴の廢棄、地代の一定等を要求するもので、農民のみならず都市の小市民、職人、牧師等も加り約三十萬の叛徒が武器を執つて起ち、二四年の早春から翌年の五月にかけて、殆ど全國を叛亂の巷と化した。二五年の春にはライン地方に於ける七十の寺院や、多くの城塞邸宅等が燒拂はれた。此大規模の叛亂に領主等は呆然として爲す所を知らなかつたが、二五年の春からは次第に兵力を集中して農民軍に向ひ、遂に之を鎮壓することに

なつたのである。宗教革命の指導者マルテイン・ルーテルが裏切的態度を執つたのも、此叛亂が失敗した一原因だと傳へられる。(四)ロシヤの農奴叛亂 ロシヤの農奴制が如何に残酷を極めてゐたかは改めていふまでもない。自由を欲する農奴は次第にドン河の流域に脱走しつゝあつたが、一六六六年竟に「土地と自由」の標語を掲げて起つたのである。彼等は廣く檄文を散布し、膨大な陸軍のみならず艦隊を組織してドン河やウォルガ河を航行した。此叛軍は卒に敗れたが、一七七三年再びドン河を根據とする農民軍が出現し、歐露東半を席卷して盛なる勢を示した。其軍隊は忽ち三〇〇、〇〇〇の兵を有するに至つたが、カテリナ二世の大軍の爲に一七七五年鎮壓されてしまつた。其後一八六一年の農奴解放まで大小の叛亂が相續いて起つてゐたのである。

(五)日本の百姓一揆 我國で奴隸の叛亂が起つたのは平安朝末期からであつた。當時は奴隸一揆が國府を襲ひ、官庫を劫掠し、甚しきは國司を殺害したのであつた。陽成天皇の時には筑後の國司が殺され、醍醐天皇の時には安藝前國司伴忠行や上野國司藤原厚載が百姓一揆の爲に殺されてゐるのである。足利時代の末期には近畿の間に土民

が蜂起して盛に諸座の商人、酒屋、土倉等を襲撃し、時として隊伍を組んで大名の軍隊と對抗したこともある。徳川時代に入つては半農奴たる百姓の反抗運動も頗る盛になつた。これは關ヶ原の戦以後に於ける領主の變動が、收税法を苛酷ならしめたことに原因するのであらう。其中でも享和三年(1813)の山形一揆、元和三年(1686)の磐城平の一揆等は大规模のものである。磐城平の一揆は總勢八四、六〇〇餘人、山形一揆は十五萬石百五十二箇村を擧つての反抗だと傳へられる。山形一揆では、酒田の本間家の手先であつた天童町の明石屋八兵衛、山形四日町の新兵衛等の商人が怨府となり、鄰國の諸侯も或く兵を國境に出して救援に備へる程の騷であつた。日本に於ける農民運動に就いては

【日本の勞働運動】參照)

も永續出来なかつた。けれども、都市労働者の運動が急激に發達し、社會主義的思想が普及すると共に小作人の團結も盛になり、農林省の發表に依ると昭和元年十二月末現在の小作人組合数は三、九二六に上つてゐる。然も其分布區域は沖繩を除けば全國に互つた。特に小作人組合の盛なる地方は新潟、山梨、香川、岐阜、岡山、兵庫、群馬、奈良、愛知、福岡、島根、徳島、大阪、埼玉、京都等の府縣である。そして此等の組合は、小作條件の改善の爲に地主に對抗するのみならず、聯合運動、政治運動を起して社會的經濟的解放を圖らうとしてゐるのである。日本農民組合を初め、全國的農民組合の勢力が盛になりつゝ、あるのは其證左と見るべきであらう。そこで、之に對抗する意味に於て地主組合も生れて来る。昭和元年末現在の地主組合数は六〇五(農林省發表)に上り、岡山、兵庫、愛知、岐阜、香川、三重、埼玉、島根、大阪等に特に多く、孰れも小作人階級に對する對抗運動を目的としてゐるのである。其外地主と小作人とが團結して相互の親善融和、農業の改良發達等を圖り、小作爭議の勃發を未然に防止せんとする協同的組合もある。農林省發表に依ると、此組合数は昭和元年末現在で、

四九一、群馬、千葉、岐阜、香川、兵庫、新潟、岡山、山梨、愛知、島根等の諸縣に最も多いのである。然し、地主組合や協同的組合は狭義に於ける農民組合といふことが出来ない。農民組合を農民の階級闘争的團體と觀念する場合には、小作人を重なる構成分子とする組合だけが之に數へらるべきである。以下、昭和元年末までの各農民組合に就いて述べる。

【日本農民組合】 これは最初の全國的農民組合で、大正十一年四月の創立である。本部を大阪に置き、「土地と自由」なる月刊の機關誌を持つてゐる。昭和元年末組合員数は、農林省發表に依ると七四、〇〇〇餘にして、組合の發表する會費完納者數五三、九八〇である。其構成分子は小作人、小作兼自作農、農業労働者である。代表者は杉山元治郎で、創立當時は可也微温的の綱領を掲げてゐたが、第五回全國大會で綱領、規約、主張を改め、新に宣言を發して組合の組織や運動方法を一變した。後「日本農民組合」は政黨問題を機として昭和三年三月分裂し、分裂派は「全日本農民組合」を構成して杉山元治郎を組合長とした。而して山上武雄が「日本農民組合」の委員長となつた。改正された主張は次の如きものであ

る。(一)耕地の社會化、(二)耕地不買同盟、(三)小作料の合理化、(四)耕作權の確立を基調とする小作法の制定、(五)農業労働者の最低賃銀及労働時間の制定、(六)販賣購買機關の自治經營、(七)地主及工業資本家の利益を擁護し、農民の生活を壓迫する租税の廢止、(八)無産農民教育制度の確立、(九)治安維持法、治安警察法并に農民運動を壓迫する府縣令の撤廢、(十)全國的農民組合の完成。——尙此組合は労働農民黨の中心分子となつて活躍してゐる。

【全日本農民組合同盟】 日本農民組合から其第五回大會(大正十五年三月)にて分裂した山梨縣聯合會及び福岡縣聯合會が中心となり、中部日本農民組合の脱退者に依つて組織された大和農民組合(岐阜縣)と、新潟縣の北日本小作組合聯合會や群馬縣下の小作組合が加つて大正十五年四月十一日に成立した團體である。日本農民黨は殆ど此組合員に依つて構成されてゐる。組合員數二六、二一七、機關誌は月刊『農民組合』である。此組合の構成分子も、小作人、小作兼自作農、日傭農である。其綱領は次の如くで、日本農民組合に對し著しく右傾的傾向を示してゐる。(一)我等農民は知識を養ひ技術を研ぎ、徳性を涵養し、農村生活を

も永續出来なかつた。けれども、都市労働者の運動が急激に發達し、社會主義的思想が普及すると共に小作人の團結も盛になり、農林省の發表に依ると昭和元年十二月末現在の小作人組合数は三、九二六に上つてゐる。然も其分布區域は沖繩を除けば全國に互つた。特に小作人組合の盛なる地方は新潟、山梨、香川、岐阜、岡山、兵庫、群馬、奈良、愛知、福岡、島根、徳島、大阪、埼玉、京都等の府縣である。そして此等の組合は、小作條件の改善の爲に地主に對抗するのみならず、聯合運動、政治運動を起して社會的經濟的解放を圖らうとしてゐるのである。日本農民組合を初め、全國的農民組合の勢力が盛になりつゝ、あるのは其證左と見るべきであらう。そこで、之に對抗する意味に於て地主組合も生れて来る。昭和元年末現在の地主組合数は六〇五(農林省發表)に上り、岡山、兵庫、愛知、岐阜、香川、三重、埼玉、島根、大阪等に特に多く、孰れも小作人階級に對する對抗運動を目的としてゐるのである。其外地主と小作人とが團結して相互の親善融和、農業の改良發達等を圖り、小作爭議の勃發を未然に防止せんとする協同的組合もある。農林省發表に依ると、此組合数は昭和元年末現在で、

【中部日本農民組合】 大正十三年四月二十日岐阜市を中心に創立す。日傭農、小作農、自作兼小作農、自作農及び組合の承認せるものを構成分子とし、支部數二八八、組合員一二、三四七(但し農林省發表は四、三八〇)を有する。組合長は中澤辨次郎、『中部日本農民新聞』(月刊)を機關とする。社會民衆黨を支持してゐたが後に分離す。大正十五年三月に改正した綱領は次の通りである。(一)我等農民は日本の國情に鑑み、輕率妄動を避け穩健中正なる農民として忠良なる國情の構成分子たらんことを期す。(二)我等は農村社會の健全なる發達の爲の農業制度の合理的改革を期す。(三)我等は互助相愛の經濟的機關を整備し、新時代に於ける農民生活の基礎を確立し、其歴史的使命を果さんことを期す。

【日本小作人總同盟】 代表者阪本利郷の主張に依り群馬、栃木兩縣の自作兼小作農、小作農、日傭農等が結合したものである。創立は大正十五年十月、支部數三六、組合

員一、〇三〇（但し農林省發表は二、二四二）。本部を群馬縣山田郡毛里田村に置くが、其支持政黨も未定であれば機關誌も出てゐない。比較的溫和なる組合で、次の綱領を掲げてゐる。〔一〕小作組合の村營。〔二〕農村經濟藝術の確立。〔三〕農村勞働の全國的協力。〕

【島根縣小作聯合會】島根縣に於ける小作人、自作農の團體で、組合員數は二、二〇〇（農林省發表は、大正十五年八月の創立で日本勞農黨を支持してゐる。綱領は左の如くである。〔一〕我等は共同一致の力により農民生活を改善し、よりよき小作條件の獲得を期す。〔二〕耕作權の確立を基調とする小作法の設定を期す。〔三〕眞の農村振興の原理に基く土地改良、農業經營及技術の改善促進を期す。〔四〕我等は温健着實合理合法の手段を以て階級闘争の絶滅を期す。〕

【庄内耕作聯盟】代表者庄司柳藏主唱の下に、大正十三年山形縣飽海郡で組織された耕作人組合の發展したもの。これは十四年十二月日本農民組合に加盟して庄内耕作聯盟と改稱し、後日本農民組合山形縣聯合會と改めたが、内紛の結果代表者の率ゐる一派が脱退して再び庄内耕作聯盟と名乗つたものである（大正十五年）。日刊「兩羽農民新聞」

我等は分裂し來れる全國農民團體統一の端緒として此に日農、全日の合同を盟約す。と、斯くして五月二十七日大阪中之島公會堂に於て合同大會は開催せられ、次の諸項が可決せられた。〔一〕此創立大會の名に於て決議文を發表すること。〔二〕共同闘争の展開に依つて、他團體に働きかけること。〔三〕合同懇談會は機を見て提唱し、又、他團體の提唱の場合に進んで誠意を以て参加すること。〔四〕具體的方針は新中央委員に一任。其決議文は「資本家地主の強烈なる攻勢の前に、農民戦線の全國的統一は、我々農民の要望である。今日、全日、日農兩組合の合同の成立は實に此要望實現の爲めの進歩として踏み出したものである。我々は飽くまで全國的農民戦線の統一、全農民團體の合同に向つて一路邁進せんとするものである。」とある。此全國農民組合の新役員は、中央委員長に杉山元治郎、中央常任委員に淺沼稻次郎、他二名。統制委員長に山上武雄、統制委員に三宅正一、外一名。中央委員四十五名。顧問に賀川豊彦がある。猶全國農民組合は政黨に對して如何なる態度を執るかといふに、其新運動方針の中に政黨と組合との關係に就いて次の如く規定する。〔一〕一般的規定、〔イ〕組合と政黨とを

を機關紙とし、一、七八五人の組合員を有してゐるが、支持政黨は未定である。そして、綱領は日本農民組合最初の綱領を踏襲してゐる。

【全國農民組合】全日本農民組合と日本農民組合との合同農民組合を謂ふ。之より先農民組合内に戦線統一の叫び強く、各幹部の奔走の結果、昭和三年四月五日大阪中之島公會堂に於て全國農民合同協議會が開催せられ、其出席組合は日本農民組合、全日本農民組合、全日本農民合同同盟、中部農民組合、農民合同同盟であつたが、全日本農民合同同盟は前回（三月十七日）に於ける申合を續した爲、卒に決裂に至つた。然し農村に於ける被搾取階級の經濟條件は各組合をして内部に合同の氣運を益醸成せしめずんばおかなかつた。斯くて全日本農民組合は農民戦線統一に關して日本農民組合に案内状を發し、日本農民組合之に承諾の回答をなし、昭和三年五月十日全日本農民合同本部に於て兩組合の合同懇談會が開かれ、「農民團體の合同問題に就て、吾等は全農民大衆の要求に基づきて先に之が實現の爲努力したが遂に蹉跌を見た。然し乍ら今日こそ日農、全日の兩組合の合同懇談會を開くに當り、一切の行掛りを捨て必ず

截然と區別すべきこと。農民組合は主として農民大衆の經濟的利害の爲の闘争機關であり、無產政黨は被壓迫階級民衆の政治機關である。勿論この兩者は相扶け相扶けて無產階級運動を進展せしむるものであるが兩者の組織任務の混合を避けて截然と區別しなければならぬ。〔ロ〕農民組合の組織形態に依る政治闘争は無產政黨と結合することとに依つて、全無產階級の政治闘争となり得るのであるが、農民組合の政治闘争、其經濟闘争の發展の結果としての闘争であつて、組合の立場よりする政治闘争は一定の限界、任務が明かにされねばならぬ。〔二〕當面の規定、〔イ〕無產政黨の合同に對しては之が促進に努力すること。〔ロ〕無產政黨の合同實現までは全體としては、孰れの無產政黨とも支持關係を結ばず、但し個人としては孰れの政黨にも加入の自由を認む。〔全日本農民組合〕中部日本農民組合提唱の合同懇談會は昭和三年四月二十二日東京協同會館に開かれた。出席組合は中部農民の外、全日本農民合同同盟、日本農民合同同盟、及び全日本農民組合より脱退せる香川縣支部の四團體。全日本農民合同同盟側は同組合の主張たる「農民自身の政黨組織」を單一條件として強硬に固執した爲、

之を進捗し、兩組合の合同にまで到らしめ以て、分裂せる全國農民團體合同の前提たらしめねばならぬ。吾らは合同を可能ならしむる具體的運動方針熟議に入るに先ち此相互の熱意を表明する。〕なる申合をなす。第二日（十一日）には〔一〕新運動方針、〔A〕組合内部にて、〔B〕政黨と組合との關係、〔C〕勞働者と農民との問題。〔二〕組織大綱、〔1〕委員制の採用、〔2〕書記採用規定、〔3〕統制委員制採用〔4〕顧問設置、青年婦人部を専門部とすること。〔三〕人事問題。第三日（十二日）には懇談會を協議會に變更して行ふ。其協議決定事項は次の如くである。〔一〕申合事項、全日本農民組合、日本農民組合は全國農民戦線統一の前提として組合の合同を盟約す。〔二〕合同大會準備委員會設置「合同協議會を合同大會準備委員會に變更す。〔三〕合同大會の時日及び場所、時日、五月二十七日午前十時。場所、大阪中之島公會堂。〔四〕合同大會代議員選出方法、〔イ〕兩組合中央委員全部。〔ロ〕兩組合加盟聯合會代表者十名宛。〔五〕各組合の整理。〔六〕聲明書發表、「無產階級陣營に對する支配階級の暴壓は最近に至つて、益甚しきものがある。此暴壓に答へる道は實に戦線の統一を除いて外にない。

日本農民合同同盟との間に意見の合致を見ず、其まゝ決裂した。然し合同の機運は漸く熟し、遂に如上の右翼全國農民合同創立大會は昭和三年七月五日午前十時半から名古屋市キリスト教青年會館に開催され、其参加團體は全日本農民合同同盟、蒲原農民組合、庄内耕作組合、香川縣聯合會、香川縣日本農民合同同盟等。議員數二五〇名である。其名稱を「全日本農民組合」とする。其役員、綱領、主張は次の如し。〔役員〕（顧問）須貝快天、（組合長）中澤辨次郎、（主事）平野力三、（會計）瀧澤操六、（中央執行委員）城戸、藤本、飯沼、阪本、玉井、（中央委員）藤崎外八四名。〔綱領〕〔一〕我等は組織の力によつて我農村に於ける一切の不合理なる諸制度を改廢し農民生活の向上を期す。〔二〕我等は土地利用に關する一切の權利を獲得し土地制度の合理的完成を期す。〔三〕我等は小作分配關係に不合理ありと認め之が公正なる分配制の確立を期す。〔四〕我等は共同經營を主體とする農業の新組織完成を期す。〔五〕我等は未組織農民を堅實なる組織に結成せしめ、以て全國農民の團結を期す。〔六〕我等は商工資本家が農民階級を搾取する現状の不合理に對し之が徹底的排撃を期す。〔主張〕〔一〕完全小

作法の制定。(二)耕作權の絶對的獲得、(イ)耕地の不當明渡禁止、(ロ)立入禁止反對、(ハ)立毛差押禁止、(三)小作料制限法の獲得、(イ)最高小作料の限定、(ロ)小作料減免權の獲得、(四)小作料組合法の獲得、(イ)爭議權の確立、(ロ)團體交渉權の確保、(五)耕作消費組合の設定、(六)農業保險法の設定、(七)地主擁護に基く自作農創定反對、(八)耕作者本位の教育制度確立、(九)耕作者本位の農村金融充實、(十)農民運動を抑制する諸法令の撤廢。——斯くて「全日本農民組合」は組織せられたのである。

【ハ】

賣淫 【社會的原因】 歐洲語のプロステチュション (prostitution) とは、抑の意味が「自己を提供する」といふにある。即ち、淫行を目的とする男子に對し、女子が一定の報酬を得て肉體を提供する意味に外ならない。起原は遠くバビロン時代、寺院の殿堂で巫女若しくは舞女が参詣者の希望に依つて肉體を提供し、報酬を一種の賽銭たらしめたことに發してゐる。此賽銭が王代に轉化したのは、本來の宗教的意味が經濟的意味に轉化したことを語るもので、其自體が衣食的手段として行はれることを意

味してゐる。此場合、家族の爲であると、自分の爲であるとを問はず、直接間接に生活問題と關聯してゐることに、重大なる社會的意味がなければならぬ。即ち、近代の經濟組織が富める者の少數と、貧しき者の多數とを次第に隔絶せる結果、貧者の子女をして勞働に従事せしむるよりも、娼婦として貞操の賣買をなさしむる方がより收入的であるのみならず、男子の次第なる收入低下は餘儀無き獨身生活を強制するやうになり、需給相俟つて賣淫を助長したる傾が多いのである。——結婚に依つて性的満足を得られざる男子が、安價にして然も容易に性慾を充し得る機關を必要とすればする程、之に應じて賣淫を職業とする女子の一群を増大し、全く「文明とは梅毒化なり」(Civilization is syphilization)といふ特色を濃厚にしてゐる。

【救済對策】 宗教的道德的に見て賣淫の是認すべからざるはいふまでもない。随つて如上の見地からは、如何に恐るべく惡むべき行爲なるかを極論されてゐるが、元々社會的貧困に依り副産的に生じたものであるから、文明の進歩は却つて賣淫の次第なる増大を來し、宗教家道德家の熱心なる防止運動も奏效せず、各國とも之を公認乃至默

認するの已むなき事情に置かれてゐる。けれども、社會衛生の見地からすれば、花柳病其外の病毒媒介をなすのみならず、社會風教上にも寒心すべき事項が多いので、各國孰れも救済對策に腐心してゐる。禁絶主義は如何にも理想的であるが實行性に乏しく、従つて默許主義か制限主義を採つてゐる。前者は歐米諸國の採用する所、公娼を認許するは體面上面白くないといふ如き消極的理由で、事實上の公娼を默認した形に於て横行せしめてゐる。之に反して後者は賣淫の禁絶は不可能だから、政府の規定した命令の下に之を行はしめ、政府其自身が取締の責に任ずるといふ制度である。我國がそれであること説明の必要もあるまい。制限主義の見地から公娼を認許する方針にも、集娼制と散娼制との二種がある。集娼制の代表的實例は我が遊廓制度に求められるが、これは一定の場所を限定して營業を許し、市井の蔓延を防がんとする目的に出でてゐる。散娼制は之と反對で、一定の鑑札を所有せる娼婦に、地域を嚴密に限定せず内密に行はしめんとするものである。ドイツ、フランス、オーストリア等諸國の都市に見受けられる。尙、此等ヨーロッパの諸都市の統計は、人口百萬に對して約三

〇〇〇の公娼があり、私娼の数は之に十倍乃至二十倍することを示してゐる。此比率で行けば、六五〇〇の公娼を有する東京は最低六〇、〇〇〇餘人の私娼が跳梁しつつかある勘定になる。

排日 白色人種が有色人種を排斥するといふことは普遍的なる事實であつて、有色人種たる日本人が白人から排斥されるといふことは避け難い事實なのである。然し此人種の反感は、他に經濟的原因が伴はない時には、さまで有力なるものとならないのである。日本人の排斥運動がアメリカ、カリフォルニア州に於て最も盛なのは此理由に依る。カリフォルニア州は廣大なる沃野を有しながら人口稀薄である爲に農業地として甚だ適當なる地方であるから、日本人労働者の移住は他の地方に比較して著しく多數に上つてゐる。然るに日本人労働者は比較的文化程度が劣つてゐる爲に生活費が少く、然も農業技術に堪能なので、多くの貯蓄を作つて土地所有者となり、或は白人労働者と競争して之を驅逐するといふやうなことになり、カリフォルニア人にとつては恐るべき人種と思はれる。此經濟的原因が人種的の反感と結着いて、夫の猛烈なる排日運動が起されたのである。日本人労働

者の排斥はアメリカのみならずオーストラリアにも實行されて居り、日本移民はオーストラリアに入ることを許されぬ。最近には又カナダの一部に於ても排日法が提議された。支那に於ける排日は趣を異にしてゐる。これは、日本移民を排斥するものではなく、日本政府の對支方針に對する抗議として起されてゐるのである。即ち最近に於ては支那に於ける民族自主運動の現れたる不平等條約改正の要求、國家統一運動の現れたる北方軍閥打倒戦等に對する日本政府の態度方針を非難し反省せしむる意味でが起されてゐるのである。

賣買結婚 結婚の一形式。稀に購買結婚とも呼ばれる。太古に於ける男女關係は戰爭に依り他群から女子を奪ひ之を性慾對象とすると同時に奴隷として經濟手段に利用するにあつた。所謂掠奪結婚であるが、經濟生活が稍進むにつれて女子の勞働力が生産上に重要視されるや、掠奪の代りに一定の報償を拂ひ、女子を所屬の家長(父兄)から買取るといふ習慣が生じた。これは最初、彼女を年頃まで養育した費用を辨償する意味と、彼女を失ふことに依つて蒙むる將來の財産的損失を補償する意味とを含んだもので、ローマ時代にさへ此風習は一般

に行はれてゐた。キリスト教の弘布に依つて一夫一婦の道德的基礎が確立されるや、婦女賣買の觀念も隨つて拒否されるに至つたが、猶其遺風は今日でも跡を絶たない、我國の『結納』の如き、最も代表的なる婦女賣買の遺風と見ることが出来る。

博愛主義 國境、人種を超越して總ての人類に對し一様の愛を持ち、之に伴ふ行動を爲すべきことを主張するものである。キリスト教、佛教等を初めとして宗教には孰れも斯る主張が含まれてゐるもので、佛教徒が佛陀の慈悲は禽獸蟲類にも及ぶとするが如きは其一例である。又、今日各國に行はれてゐる赤十字の如きも博愛主義の實現を期してゐるものであり、キリスト教徒に依つて創められたものであつた。博愛主義は此の如く人類の宗教心乃至道德心に訴へるものであり高尚なるものであるが、他の多くの理想主義と共に、現實に行はれることの稀なるものである。現實の世界に於ては人類は根強き人種的の反感を持ち、又社會と社會との間の生存競争は免るべくもなく、經濟的利害は常に嫉視闘争を生んでゐる。斯る現實的事實の存續する以上、博愛主義は多くの場合唯觀念的のみ存在することになり、甚だ非現實的なるものとなつ

てゐるのである。けれども時として斯る
觀念的の理想主義が現實の進行を著しく促
進する場合がある。例へば夫の奴隷廢止運
動の如きは經濟的事情の變化が此運動を生
ずべき根本原因であつたとはいへ、此運動
の直接の着手者となり、熱心なる唱導者と
なつたのは、博愛主義に燃える人々であつ
たのである。

博物學 動・植・礦物學及び地質學の
併稱である。往々最も廣義に諸科學の總稱
として用ゐられることあると同時に、最も
狭義には動物學のみを指す場合もある。

パリ・コンミュニオン 【概説】 普通に
パリ・コンミュニオンといふ場合には、一八
七一年三月十八日から五月二十七日に互つ
て起されたパリのコンミュニオンの反抗運動
を意味する。つまり、パリ・コンミュニオン
騷擾の略である。元來、フランス語に於け
るコンミュニオンとは、市長乃至市會の支配
に屬する行政區域を指す。随つてフランス
のコンミュニオン中では、パリのコンミュ
ニオンが最も大きく、中央政府に反抗して自治
權を確立しようとしたことも一再ではなかつ
た。一五五六年、一五八八年、一七九一
年、一七九四年等にパリのコンミュニオンは
反抗運動を起し、一時的ながらもパリを

てゐたのも其爲であれば、ロンドンの常務
評議會も間接に援助し、マルクスも亦重要
なる諸問題に就いて助言を惜まなかつた。

マルクス執筆の『フランスの内亂』は此記
録であり批判である。故に此コンミュニ
オン内亂は第一インタナショナルの畫策に基
くものだとされ、社會主義運動史上見逃すべ
からざるものと目されてゐるのである。尤
も運動の初の頃は、社會主義者や其外の急
進主義者は背後に隠れてゐる内亂が進行する
までは表面に現れたり運動の指揮をしたり
することは無かつた。パリ・コンミュニ
オンの發表した政綱は、中央政府の廢止、自由
都市の樹立、個人の絶對自由、賠償に依る
資本の沒收、土地及び資本を労働團體の間
に分配する事などであつた。此運動は種々
雑多の分子を含んでゐた爲に内訌が生じ且
地方村落との聯絡が無かつた爲にパリが孤
立に陥つたりしたので、マクMahon將軍の
率ゐる政府軍九萬の爲に五月二十二日から
五日間の悲壯なる市街戦の後に敗北するこ
とになつた。數千のコンミュニオン黨を一齊
に射殺して墮濠に打込んだり、辜無き市民
を虐殺したり、此市街戦に政府軍の執つた
手段は極めて慘酷なるものであつた。之に
對してコンミュニオン軍も亦宮殿其外政府に

て獨立自治の都市たらしめたのである。此
獨立運動は一面に於てフランスの社會主義
思想を背景とするものであつた。即ちフラ
ンス社會主義の理想として、早くから自治
的且共產主義的の都市聯合が唱へられてゐ
たのだからである。一八七一年の内亂も勿
論、一面には斯る思想の産物であつた。其
點では其以前に於ける内亂と大した相違も
無いが、内亂の範圍が頗る廣く且長期間に
互つて續けられた爲にコンミュニオン内亂の
代表的なものとなされ、パリ・コンミュニ
オンといへば直ちに此時のコンミュニオン騷動を
意味するやうになつたのである。

【經過】 一八七一年に於けるコンミュニ
オンの反抗運動は、共和政治の擁護を名目とす
るものであつた。當時フランスは普佛戦争
の結果として、多額の償金とアルザス・ロ
レーヌとを提供せねばならぬことになつて
ゐた。之に對して國民は一般に不満の念を
抱いてゐたので、王黨が國民の不平を利用
して國民議會に多數を占め、共和政體其者
をも危からしめんとする状態であつた。そ
こでパリのコンミュニオンが反抗運動を開始
したわけなのである。一體國民議會が召集
されるやうになつたのは協和條約批准の爲
であつた。然るに此目的を達した後も其權

關係ある建物を變換ひ、大僧正ダルボア其
外の人質を虐殺した爲に慘敗後のコンミュ
ニオンは種々なる誹謗を加へられるに至つた
のである。又此インタナショナルと關係を
持つてゐたことから、ヨーロッパの新聞や
雑誌は孰れもパリ・コンミュニオンを罵倒し
たのである。そこでインタナショナルはマ
ルクスの書いた宣言『フランスの内亂』を
發表して真相を明かにすると共に、インタ
ナショナルの態度を闡明することにしたの
である。

ハンガー・ストライキ(Hung-ry strike)
饑餓同盟、絶食同盟などと譯される。監禁
されたる被告人又は受刑者が、其監禁に對
して抗議の意を示し、釋放を求める爲に食
事を絶つことを謂ふのである。

版權 學者又は美術家などが其著作物
を複製し出版する權利を謂ふ。これは著作
權と略ぼ同様に用ゐられてゐるが、版權な
る語は著作權の中の或一部分即ち著作出版
の權利のみ意味してゐるのであるから、
寧ろ著作權なる語に包容さるべき一部であ
る。(参照)

犯罪學 犯罪の發生原因と其影響及び
救済策を研究する一科の學問で、近年の發
達に係るものである。犯罪學の發達に最も

限を無視し、立法部として存續することに
なつたばかりでなく、パリに於ける急進共
和主義者の新聞を咸く禁止したり、首都を
ヴェルサイユに遷すべき決議を通過せしめ
たり、傍若無人の有様であつた。そこで反
動分子が大多數の椅子を占める國民議會と
ティエール政府とに對する反感が高潮に達
し、パリの自治と獨立とを要求する叫びが
擧げられたのである。然るに一八七一年三
月十八日、政府と國民議會とはモンマルト
ルを手始めとしてパリの武裝解除に着手し
たので、國民防衛軍は一齊に奮起してパリ
防衛の任に當ることになり、パリ・コンミ
ュニオン内亂の第一日が始つたのである。故
にパリ・コンミュニオンは大體に於て王政主
義の國家に對する共和主義都市の反逆だと
解することが出来よう。反逆者の群には共
和主義者ばかりでなく愛國主義者も含まれ
てゐたが、最も注意しなければならぬのは、
社會主義者、急進主義者が有力なる要
素として活躍してたことである。社會主義
者の大多數は第一インタナショナルの黨員
だつたが、共和制の維持に對しては商工階
級の共和主義者と共に利害の一致を感じて
ゐたのである。第一インタナショナルのバ
リに於ける支部が直接重要な活動をなし

大なる貢獻をしたのはイタリアの學者で、
殊にロンプロゾーの功績は偉大である。ロ
ンプロゾーは從來行はれた犯罪責任論、即
ち犯罪の責任を犯罪者自身に負はせる思想
を打破して犯罪の原因を人類學的條件に見
出した。ロンプロゾーの犯罪學が犯罪人類
學といはれるのは其爲である。ロンプロゾ
ーに依れば、犯罪者は其自由意志に依つて
罪を犯すのではなく、先天的に有する頭蓋
の不完全から罪を犯すのである。故に彼の
學説は犯罪の責任を犯罪者自身の肩から外
したものであるが、一方では後天的社會的
の原因を無視するといふ缺點に陥つた。然
るに同じくイタリアの犯罪學者エンリコ・
フェルリは犯罪の原因を人間の身體に求め
ると同時に社會的條件に求めて之を重視
した。彼は犯罪の原因を、人類學的原因、
風土的原因、社會的原因の三種に分つ。そ
して人類學的原因に於ては、ロンプロゾー
が主として先天的遺傳的原因を高調したの
に反し、後天的原因即ち病氣其外の事故に
因る腦髓の損傷を重視した。風土的原因と
は、春夏の候及び南國には色情に基く犯罪
が多く、冬期及び寒國には殺傷犯が多いと
いふ如き氣候風土などの自然的條件を指す
のである。フェルリは以上的人类學的原因

及び風土的原因よりも重要なのは社會的原因であるとする。此見解は犯罪の大部分が財産上の犯罪である點から見ても至當といはねばならぬ。尤も同様の窮地に陥つたからとて何人も必ず盜賊を働かなくてはならないが、窮乏といふ社會的原因は人類學的風土的原因の作用を著しく促進するのである。先天的に意志力の弱い者が窮乏に陥つた場合罪を犯し易いといふのは其一例である。貧民階級から多く犯罪者が出るのは其實證とせられる。犯罪は此の如き原因に依つて生ずるものであるが、之を防ぐには大體二つの方法がある。一は犯罪の原因を除去する方法であり、二は犯罪者を矯正する方法である。第一の方法が根本的なことはいふまでもないが、社會的原因だけは社會の改良に依つて除かれ得るとしても、人類學的原因や風土的原因は之を除くことが出来ない。故に一方に於ては社會改良が重要であると共に、他方に於ては犯罪者の矯正といふことが重大なる實際問題となつて來るのである。悪因に報ゆるに悪果を以てし犯罪者を懲罰すべしとする思想は、犯罪責任論の觀念に基いて從來古くより存し且實行されて來たものであるが、フェルリ等の説が有力となるに隨ひ、犯罪者は懲罰すべきで

はなく、陶冶善導すべきであるとの思想が漸く普及するに至り、之が實行を企てる者も亦現れて來た。フェルリは犯罪者矯正の方法の一つとして無定期隔離を主張してゐる。今日の刑法は犯罪者の膺懲を目的としてゐるのであり、投獄を犯罪の應報と見てゐるのであるから、服役期間は最初から一定して居り、たとひ服役期間内に犯罪傾向が治癒しても、解放されるべきが無い。然も規定の期間が來れば、犯罪傾向の治癒如何に拘らず放免されるのである。故に此弊を除く爲に病院制を採用し、犯罪傾向が全治するまで隔離所に收容して置き、全治次第解放すべきであるとフェルリは主張するのである。

犯罪社會學 犯罪は犯罪者自身の個人的原因と、犯罪者を環る種々なる社會的事實とに因つて生れるものであるが、社會的事實が犯罪の決定的原因であるとして、此原因を研究するのが犯罪社會學である。犯罪の社會的原因を成す重なるものは、生活資料の缺乏と社會環境の不適當とである。生活資料の缺乏といへば、家族、累累などが多く、正當の収入では生活を支へ得られぬ場合や、失業及び労働力の喪失、前科等の爲に職業を求め得られぬ場合などが主たる

ものであり、又社會的關係の不適當といへば、浮浪無頼の者とのみ交際してゐる者や又は前科を有する爲に前科者とのみ交際してゐる者などの場合が重なるものである。此社會的原因は犯罪の發生と密接なる關係を持つものであり、斯る關係の研究が犯罪社會學の職分とされるのである。

犯罪心理學 廣義には犯罪者及び其關係者の心理を研究する學問を指す。即ち、裁判官の心理状態、審問される被告人、證人、鑑定人の心理状態を研究するものは皆此犯罪心理學に包括される。然し狹義には犯罪者の心理状態を研究するものを指し、普通には此意味に用ゐられる。此意味の犯罪心理學は二派に分れる。其一是犯罪者の心理は身體の異常に因る病的心理から生れるものであり、隨つて犯罪心理學は病的心理の研究をなすものであるといふロンプロゾー一派であり、其二はロンプロゾーの説に反對し、犯罪心理學の任務は犯罪者の心理状態、殊に責任能力、意志の自由、身心耗弱、感情状態等を研究する所にあるとするもので、今日一般に行はれてゐるのは此犯罪心理學である。

犯罪人類學 犯罪者の身體的特質を研究する學問で、犯罪生理學と犯罪心理學と

の二分科に分れる。然し普通には主として犯罪生理學のみを指してゐる。犯罪生理學はロンプロゾーの創始せるもので、犯罪者の中には先天的に犯罪傾向を持つ者があるといふことを立論の基礎としてゐる。ロンプロゾーは多數の犯罪者の頭腦を検査し、其容貌骨格を調べ、言語、筆蹟、體質、感覺、文身の有無等を検査した結果、犯罪者は一般に頭腦の發達が不完全であり、苦痛に對する感覺が鈍く、且多くは文身を好むといふ論斷を下したのである。師此説に依れば、犯罪者には一定の型があり、特別の人間の種類があることになる。此説はロンプロゾー以後も若干の學者が説いたが、今日では此説を信ずる學者は僅少である。

汎太平洋労働會議 太平洋を周る諸民族の労働組合インタナショナルであつて、左翼分子を網羅し、一九二七年五月二十日より二十六日まで七日間に互り中國革命の中心地たる漢口に第一回大會を開き、其決議に依り太平洋工會秘書廳(汎太平洋労働會議)を創立した。此大會は元來オーストラリア、ニュー・サウス・ウェールズ労働協同會が一九二六年七月シドニーに汎太平洋労働大會を召集せんと試みたのに始るものであるが、此七月の會合は準備の不足、各國官憲の妨

害、距離の遠隔等の理由で素志實現されなかつた。そこで辛うじて參集したロシヤ、イギリス、ニュー・ジブラント等の代表者が合議してオーストラリアと支那との組合共同で一九二七年支那に開催することに定めたのである。此召集に應じて參加したのは赤色労働組合インタナショナルの關係者(ロシヤの書記長ロソフスキ外四名、イギリスのトムソン、フランスのラカモン、アメリカの二名等)、日本(五名)、ジャバ(二名)、朝鮮(一名)で、支那は中國全國總工會長、同書記、外に組合代表十二名が出席した。大會は主として支那革命と國際労働組合運動との關係に就いて討議し、ソヴィエット・ロシヤ擁護、帝國主義反對其外を決議し、八時間労働制、疾病失業の社會保險等の綱領を作成した。而して書記局を上海に置き、ロシヤ・支那組合代表各二名、日本、イギリス、アメリカ、フランス、朝鮮、ジャバの各一名の組合代表を以て之を組織し、二年毎に汎太平洋労働會議を召集することに定められた。大會の決議、書記局の目的等に依つて觀察するに、此國際聯合は支那革命を支援する目的の下に赤色労働組合インタナショナルが策動せるものと認められる。

汎獨主義 フィヒテ、ヘーゲル等の哲學に準據し、トライチケが唱へ出した一種

の世界統一論である。即ち其目的とする所はゼルマンの世界統一で、ドイツ國民が世界を統一するのは天帝の意志に合するものだとすにあつた。これは彼等の世界意志説、實力萬能主義と愛國心とが相結合した結果に他ならない。換言すればビスマルクの意志と實力の實際政策、ニイチェの哲學及びトライチケの政治學に由來し、やがてドイツの軍國主義、征服政策を樹立したのである。然し此汎獨主義は實力を誤認したる歐洲戰爭の誘發に依つて自ら土崩瓦解を招いたのである。

販賣組合 産業組合(其項)の一種である。販賣組合は組合員の生産物を加工し又は加工せずして販賣する。故に販賣組合を組織する者は必ず生産者であつて、生産者以外の者が組織する組合を販賣組合といふことは出来ない。即ち商人や取次商などの組合などは同様に販賣を目的とするものであつても販賣組合といひ得ない。販賣組合に於て加工するべき材料の生産は必ず組合員に依つて爲されてゐなければならぬ。又販賣組合には組合員の委託を受けて其生産物を販賣するものと組合員の生産物を組合が購入して組合の手で販賣するものと二種があり、前者の場合には組合は販賣行

爲に對して一定の手續料を取り、後者の場合には購買價格と販賣價格との差額は組合の所得となる。此等の販賣組合は小生産業者をして大生産業者と同様の生産に従事せしむるを目的とする。即ち大生産業者に比し、販賣價格と販賣時期とに於て不利にある小生産業者は販賣組合に依る時は前者の壓迫から脱れ得るのみならず、對抗してより以上の利益を擧げ得さへする。販賣組合は其營業狀態から見ると全く營利會社と異なる所は無いが、後者が營利を目的として可及的高率の配當をなすに反し、前者は全く組合員の生産を發達せしむることを目的とするもので、隨つて其配當率の如きも年六分以上に上ることは許されないのである。

飯場制度 日本の鐵山労働、土工等に伴ふ労働制度の一つで、近時労働問題が喧しくなり、労働者の自覺も加るにつれて漸次廢止され、或は變形しつゝある所の舊制度である。制度の内容は地方に依り多少の相異はあるが、鐵山に於ては大體労働者數の大小に應じて一山に數箇乃至數十箇の飯場がある。飯場の主宰者を頭役といひ、一の居室を鐵山主から與へられてゐる。之には大抵大合宿所が附屬してゐて此處に獨身を收容し、其外の所屬労働者は各箇の長

屋に住はせる。頭役は所屬労働者が鐵業主に對する一切の人事關係を管理し、作業の監督をする。鐵山主は頭役に對し、労働者の數に應じて給料を支拂ひ、或は労働者の稼高に比例して其一分乃至二分五分位の報酬を與へる。頭役は此報酬の外に尙労働者に日用品又は食事を給して其間に利益を得る。鐵山主は労働者の募集を飯場頭に委ねるのが普通である。飯場頭は多く労働者出身であり、労働者の増加することは自分の利益になるので、各地の周旋業者と聯絡をとつて巧に労働者を集める。其費用は會社から出すこともあり、頭役が出すこともあるが、前借として労働者の負擔となる。募集された労働者は其頭役の所屬となり、前記の如き支配を受けるのである。元來鐵山労働は甚だ殺風景のもので、苦痛も大である上に資本家及び其手先たる頭役の搾取が甚しい。其爲に労働者の逃亡する者、又逃亡せぬまでも移動する者が頗る多いので、頭役は其豫防と足止とに重要な役目をするのである。彼は此役目を果し利益を圖る爲に時に暴力を振ひ、専制君主の如く振舞ふのである。九州地方の炭山では頭役を納屋頭といひ、納屋頭の居室を中心に兩翼に延びた六疊敷ぐらゐるに仕切つた長屋を造つ

せず、唯、群居本能(參照)が本來同類の親和を意味するが故に該本能の作用を俟つて結合を強くする。同質は結合の緣因にして反覆作用は此緣因の原因である。又それが直接群居本能の一面たる愛情(參照)と結合したる世の所謂同情は社會の結合の上に大なる重要性を有す。孰れにせよ、反覆作用の結合的意義は群居本能の作用する道具たる點に存するのである。

【七】

罷業破り 資本家及び其荷擔者が同盟罷工を破る爲に執る手段は間接的直接的の種々のものがある。然し軍隊、在郷軍人、青年團、學生などを動員したり、又新募集の労働者を雇入れたりして直接的に罷業を妨害するものを特に罷業破りといふのである。アメリカには特にストライキ・ブレイキングと稱する罷業破りの商賣團がある。此團體は二十萬人からの労働者を常備し、或場所同盟罷業が起ると直に其労働軍を繰出して罷業労働者の地位に取つて代り、罷業を無効ならしむることを目的としてゐる。其労働軍は決して無頼浮浪の徒ではなく、一定の選抜方法に依つて採用され、各方面に對する訓練を受けた者なのである。

て労働者を此處に住はせ、之を納屋と稱してゐる。土工飯場は大請負業者の下に幾人もの頭役が居り、そして此等の頭役が飯場を設け、使用人夫を其處に住はせ、労働の監督をすると共に日用品や食事の一切を給して労働賃銀の上前を刎ねるのである。土工飯場は多く作業場附近に設けられるので移動的であり、極めて低級なるバラック建が多い。而して土工の逃亡、移動は鐵山よりも一層甚しいので、之が豫防には殆ど監禁に等しい方法を執る者が多く、暴力支配が行はれ、時には通貨の代りに金券を支給して逃亡の旅費を作らしめぬ算段をする者もある。募集されて來た人夫は斯る飯場に於て囚人に等しい待遇を受けるので、監獄部屋なる名稱を生じた。鐵山にも往々にして斯る監獄部屋がある。近年此監獄部屋の問題が喧しくなつたので、政府は大正十四年三月より労働者募集取締令を實施し、監獄部屋を取締ることになつたが、實際には此取締は勵行されてゐないやうである。

友誼作用説 社會學上の用語。反覆作用を以て社會の構成原理と考ふる所説を謂ふ。反覆作用とは、或意識内容が一人に於て存在し表出せられたるを機縁として他人に再現、反覆せらるゝ作用を謂ふ。此説のストライキ・ブレイキングの代表者は資本家より通牒を受け取るや、直に労働者供給に就いての契約を取定め、所屬労働者を工場に派遣する。罷業破りの連中は屢罷業労働者や其同志から襲撃されることがあるので、完全なる防禦組織を設け、アメリカ官憲と聯絡をとつてゐる。防禦隊は其數五六百人に達し、彼等は平素軍隊的訓練を受けてゐる。此新商賣は罷業破りに有效なので重寶がられ、莫大なる金儲けをしたといはれてゐる。然し流石のアメリカでも此私設軍隊に對する非難は猛烈に起つてゐるといふことである。

ピケットティング 労働争議中労働組合から商店又は工場に附ける監視員又は遊撃隊を謂ふ。反對の立場にある者からする争議切崩を防ぐ爲に備へると同時に争議により強き組織性を持たせる爲の労働争議の戦術の一つである。(參照)

被搾取階級 「階級」を見よ。

被支配階級 「階級」を見よ。

非買同盟 「ボイコット」を見よ。

秘密結社 諸種の結社中、特に其目的及び規約を秘密にしたる結社を謂ふ。蓋し各國の憲法及び法律は結社の自由に對して或程度までの制限を加へてゐる故に、適法

重なる形態は同情説(參照)と模倣説(參照)とである。反覆作用説は頗る古くより存し、最近に於ても有力なる支持者を有するが、社會の本質を論ずるに當り、社會結合の中心原理に反覆作用なる心理的因子を以て答へんとすれば必ず次の如き困難に遭遇するであらう。即ち反覆作用は模倣にせよ同情にせよ、刻々に生起し消滅する所の過程である。が、社會の結合は一度成立すれば不斷に存続するのを原則とする。一々の過程が如何にして持續的なる事物の本質を成し得るか、これは反覆作用説が過程を以て社會本質に擬する他の諸説と共有すべき難點である。例へば協働に依る結合を採つて考ふるに、其成立は往々模倣同情に負ふことがあるとしても、それは一般的事實にあらざして前者が一度成立すれば後者が全然缺如しても依然としてそれは存續してゐる。此場合に於て反覆作用と社會との結合は全く偶然的のものであつて、反覆作用が社會の本質と見做され難いのは比較的明白である。要するに反覆作用は如何なる形態に於ても其自體結合の原動力たり得るものでない。其作用は唯傳播、同化、齊一に止る。社會の同質と類似とを確保又は創造すべしと雖も、其自ら何等の求心的意義を有

の範圍外の共同目的を以て多數人が團結せんとすれば、自然其目的及び規約を秘密にせざるを得ないことになるのである。いふまでもなく、秘密結社は國法の範圍外に於て結社するものであるから、孰れの國でも絶対に之を禁止してゐる。我國の治安警察法も此趣旨に従ひ禁止條項を設けてゐる。此規定に依り、政治に關係する結社は元より、政治的目的を有せぬ結社と雖も、苟も公事に互るものは届出の義務を有することになつてゐるのである。

百科全書派

第十八世紀にフランスで出版された百科全書に執筆した學者の一群を指す語である。此百科全書の名は『科學藝術及び實業の辭典』といひ、全部で三十五冊あり、全部の完成に一七五一年より一七八〇年に至る長年月を費した。其主唱者となつたのはダランベール、ディドロの二人で最も多く執筆し、チュルゴー、オルバク、グリム等重に之を援け、ヴォルテール、ルソー等は一部の執筆を受つた。元來當時のフランスは全歐を壓する勢を得、百般の學藝が隆盛を極めたが、上流社會と平民社會との懸隔甚しく、學問は多く上流社會人の獨占に委せられてゐたので、ダランベール等は之を慨嘆して學問を一般社會の機會を平等ならしめんとす理想として提議してゐる。

ヒルシュ・ドゥンケル組合

正確にはヒルシュ・ドゥンケル職業同盟(Gewerliche)である。此同盟はドイツに於ける有力なる組合で、一八六八年の創立に係る。マックス・ヒルシュとフランツ・ドゥンケルが此組合運動を起したことに依つて此名稱が與へられた。彼等は進歩黨の創立者として、又當時に於けるマンチェスター派自由主義の代表的人物として、イギリス流の職工組合を設立せん爲に、此運動を起したのである。此運動は一八六九年に於て四箇の組合を作つた。いふまでもなく該組合はマンチェスター派の自由主義に立脚して創立されたものだけあつて社會主義的傾向に反對し、隨つて之と關係を有するゲウルクシャフト(労働組合)と相容れず、國家の干渉を排して自由競争の必要を主張し、労働者の自己主義を主張するのである。故に資本家と労働者との間に根本的の利害の衝突を認めず、兩者間の争議は平和手段を以て解決し得べしと高唱し、政治上の問題としては當面の進歩的労働政策を執る政黨を援助した。一八七六年以來社會民主黨員の入會を禁じたのみならず、其入會者か

に普及せんと企てたのである。而して此辭典に執筆した人々は、封建制度に反對して自由と平等とを要求する當時の思潮を代表し、貴族と僧侶とを攻撃した新思想家達であつて、一般民衆の頭腦に新鮮なる空氣を注入し、夫のフランス大革命を誘發する醉素を成したのである。

平等

平等思想の起原は觀念的なる其れである。此觀念はギリシヤ時代から存在したが、一般化されたのは第十八世紀以來即ち天賦人權説なるものが説かれて以後に屬する。當時の思想家の大部分は成定法と自然法とを區別して考へる風があり、國家が成文的に規定したる法を超越して平等に享有する人間の權利があると考へてゐた。ルソー流の民約説は其代表的なるものであるが、彼等は斯くして人は生れながらにして自由であり平等であると主張してゐた。アメリカ合衆國の獨立宣言、フランス革命の人權宣言の如きは斯る自由平等の確立を聲明したものに他ならない。然も觀念的ながらに當時の封建的教權的諸制度の破壊に貢獻せる所多く、政治的には代議制度の確立を促進し、經濟的には資本制企業の發達を助長したのであつた。其結果、舊來の封建貴族に對する上部平民の自由平等は著し

らば社會黨と無關係なるべき宣言書を取つた程である。一八七九年の社會主義綱領法の結果急速に發展を遂げたが、自由主義的政黨の凋落と共に發展の勢は沮喪した。此組合の最盛時は一九一〇年であつて、全員數一二二、五〇〇人餘を算へたが、一九一三年には一〇六、〇〇〇人餘に減少した。此組合に屬する者は、主として機械師、技手の類と、其外の工場労働者である。

貧民問題

貧民とは個人が其屬する社會に於て、肉體的・精神的の生活を維持するに必要な資料を得られぬ者を謂ふ。換言すれば其社會が健全なる生活と認める所の生活をなすに必要な資料を得られない者を謂ふのである。生活程度は國に依つて異なるから、貧民の水準も國に依つて異つて來る。生活程度の高い國の貧民は、野蠻人の王族よりも生活資料に恵まれてゐることは有り得るのである。此意味に於ける貧民は何處の國にも多數に存する。斯く多數の貧民が存在することは社會の健全なる維持及び發展に大なる支障を來すことは明かであるから、此に貧民問題が生起して來るのである。貧民問題は貧民の悲惨を目的に救濟する方法如何の問題を含むはいふまでもないが、之を社會自體の疾患として取扱ふ

く増大されたが、然も猶プロレタリアと稱呼せられる底部平民の自由平等は少しも伸張されず、彼等の支配者を封建貴族から新興ブルジョアに移動したに過ぎないことが暴露された。此に於て、平等、自由の對象も異らざるを得ない。即ち現代的なる其れはブルジョアに對するプロレタリアの要求に於て反映されてゐるのである。各派社會主義の立場はかうした新しい意味に於ける自由平等に求められる。尤も彼等として生れながらに具有する個人的能力の差違、換言すれば、賢愚長短がおのづから存することを確認するには吝でない。隨つて其要求も舊來の如く素朴的ではなく、各人が社會上、政治上、經濟上等の「機會」に際し、之に參與する權利を平等ならしむべしといふにある。蓋し現代社會の不平等は決して生れながらの能力的差違に由來するのではなく、平等なる參與權を奪はれた結果として生ずるものが特に多いからといふ意味に他ならない。普通選舉に關する理論的根據は元より、所謂自由主義經濟に對する社會主義經濟の抗議的立場もおのづから此新しい平等觀念に立脚してゐることが知られる。かくして彼等は自由競争と財産私有とが最大の障礙なりと觀じ、新社會は一切の權利行使

所に、貧民問題の重要意義が生じて來るのである。貧民問題は其故に如何にして社會から貧乏を除去し又は豫防すべきかの問題となる。貧乏の根絶及び其防止の問題は更に如何なる原因に依つて貧乏が生ずるかの問題に導く。之に關しては幾多の見解があり、又幾多の原因が複雑に作用してゐることも事實である。マルサスは此原因を人口過剰に求め、ヘンリー・チョーヂは少數の地主が土地を占有する爲だと云つてゐるが、單に此原因から貧乏が生ずるのではない。ミュンステルベルヒやフィリップ・ボウイッチの説明に依ると、之を内部的の原因(疾病、飢饉、と外部的原因(戰爭、失業、恐)とに分ち、ホルンダーは過少なる賃銀、失業及び就業不能の三者に要約してゐる。ウェットプ夫妻の發表する所に依れば、貧民の六割乃至八割は或く外部的原因に依るものであるといふ。即ち貧民は自己の怠惰、惡癖に基くものではなく、大部分は貧乏の發生を防ぎ得ない社會的・經濟的原因に依るものなることが知られる。此に於て貧民問題に對して二つの異なる見解が起され得る。即ち其一は貧乏が斯る不可抗の原因に依つて起るものである限り、之を防止救濟することは不可能であるが故に、貧乏の根絶は社會組織の改

造に俟たなければならぬとする見解である。此見解は常に社會主義者の唱ふる所であるが、此外に尙一見解がある。それは諸種の救貧政策を施し、救貧設備を完全にし、可及的に貧乏の悲惨を緩和するに満足しようとするものである。

【フ】

フランスイズム フランスイズムといふからには、イタリーのフランスシオが奉ずる主義に違ひない。然るにフランスシオは赤色暴徒に對する反對運動として蹶起したものであり、最初から一定の主義を中心にして集合した團體ではなかつた。殊に、彼等はムツソリーニを最高至善の存在と考へ、彼の爲す所は「常に正しい」としてゐるのである。破壊的、建設的なるムツソリーニは行動第一主義の信者で、「思想を無視する思想」を看板としてゐるだけ、フランスイズム即ムツソリーニイズムとは理解し得ても、次にはムツソリーニイズム其者が不明となつてしまふ。そこでフランスイズムの理論的特色を捉へようとするれば、彼等の残した行動の跡を辿り、其中に現れた傾向に就いて「斯うもあらうか」と推測を下すの外はない。フランスシオの成立が社會主義者

の暴威に起因した限り、其奉持する思想が反社會主義的であることは察せられる。又輿論を暴壓し議會を無視した意味で、反民主主義的反自由主義的であり、又獨裁主義的であるともいひ得る。更に、對外硬政策を強持する點では國權主義的であり、古代ローマの光榮を再現せんとする所は傳統主義的でもあり國粹主義的でもある。フランスイズムに對する世人の理解は凡そかうした反動的傾向を總括するかの如くである。如何にも其通り、フランスイズムの現れは社會主義、民主主義、自由主義、國際主義、平和主義等に對する對蹠的位置にあり、若し其等の諸傾向を社會進化の正動とすれば、確に「反動的」なる批評を下し得るのであらう。けれどもフランスシオの全體はこれが全部なのではない、寧ろ如上の反動的特色は、彼等の所謂「餘りに硬化したる政治機構のメカニズム」を破壊せんが爲に執つた手段であり、建設の事業に進出した今日では必ずしもそれが彼等の全部であるとはいひ得ない。況や資本家擁護の暴力團等と等視するなどは飛んでもなき誤といはなければならぬ。勿論、今日と雖も彼等は政治上の自由主義には抗争してゐる。ムツソリーニの獨裁主義の頂點に推立て、彼を最上唯一の獨

裁者たらしめるのみでなく、強度なる專政的中央集權組織を以て苟も放恣亂狀を許さない。然し、一方、産業上には自由主義を認容し、資本、技術及び勞働が相互に特立する聯合組織に依り地方的と同時に産業的なる分權主義を採用しつゝある。斯る政治上の集中主義と經濟上の分散主義とを稱して彼等は「國家サンディカリズム」と呼んでゐる。國家サンディカリズムこそフランスイズムの最も有力なる特色といふべきである。(フランスシオ) (フラスシオ) フラスシオとは、ベニト・ムツソリーニの率ゐるイタリーの愛國的團體の名稱。此語はフランスシオから轉じた。フランスシオとは本來「縛り合つたもの」即ち「結束」の意味で、我國でいへば薩南健兒社などといふ場合の「社」に相當した意味を有する。一説には、古代ローマ時代の武器フラスシ(杖)を表象した語だといふ者もあるが、これは牽強附會の説だといはれる。故にフランスシオ本來の意味には何等特別の意味があつたわけがなく、戦時及び戦後の非國家的社會運動に對し、祖國の厄難を防備する意味にて國民的結束を促さんとする要求があつたので、漢然とフランスシオの名を稱したと見る

【フラスシオ】

【意義】 フラスシオ

べきであらう。フランスシオは黨旗として黒旗を用ひ、制服として黒襟衣を著、「メ・ネ・フレゴ」(水火を辭せず)と印刻した徽章を着け、野球のバットに類似の棍棒を携へてゐる。而して左手を高く「ア、ヤア、ア、ヤア、アアアアア」と呼び交はし、隊伍堂堂と市中を練り歩く。これは、フランスシオが團隊的に組織された後のことで、最初は烏合の衆だつたこと明瞭である。赤色分子の赤化政策に反感を抱く愛國者、戦後の恩賞に不平を持つ在郷軍人、ウエルサイユの屈辱的外交を憤激する國權論者等、さうした漠然たる分子に過ぎなかつた。それは兎に角、ムツソリーニが主戰論を唱へて社會黨を除名され、之が復讐に備へんとしてフランスシオを組織したのは一九一九年の三月、當時は僅か一四五人の同志を算へるに過ぎず、誰しも今日の大を成すべしとは考へてゐなかつた。然るにそれから八箇月の後、イギリス、フランスの干渉に依つてフィウメの併合を講和會議で拒否された爲にイタリーの人心は極度に亢奮し、文豪ダンモンツイオの率ゐる義勇兵がフィウメを占領したやうな事件があり、一年餘を経て手離すことになつたのであるが、之に加つた一萬數千の分子がムツソリーニの魔

下に參じ、一九二二年には約三萬、翌年のローマ進軍に際しては約五十萬、政權獲得の後には約百萬と加速度的に數を増したのである。故に、最初の國民主義的社會主義團體たるフランスシオと、而してローマ進軍以後のフランスシオとは少からぬ相違がある。で、嚴密には何年何月に成立したと斷定することが出来ない。

生、地方農民等を身方に引入れ、忽ちにして不動の勢力たらしむるを得た。斯くなる上は、所詮赤色分子との衝突は免れぬ。ポロニアに於ける大衝突を最初に、フェララ、フィレンツェ、ミラノ、ロンバルデー等に進出し、以て彼等に依つて占領せられた工場を奪還する一方、政府を督勵して革命軍事裁判の條項に従つて處断すべしと論じたので、騷擾は愈大ならざるを得なかつた。殊に一九二一年の一月から三月までの間は極端なる恐怖政策を強行し、五、〇〇〇人の死傷者を出すやうな騷動を惹起したのである。之に加ふるに同年五月の總選舉では一躍四〇名の議員を得て議會に乗出し、反社會黨聯合の中心勢力として院内外に抗争することになつた。其頃からムツソリーニはフランスシオを中央集權的組織の團體に改造することの急務を痛感し、新加入分子を彼の嚴重なる監督下に置いて克己と奉仕とを指導訓練し、最初の烏合の衆をやうやく一箇の組織體に纏め上げるに至つた。一方又、社會主義的勞働組合に對立し、平和的協調主義に基く勞働團體の組織に着手したが、之に投ずる者は次第に多きを加へ、赤色組合を斷然壓倒する勢力となり、社會主義的運動の全戦線に向つて突撃する準備

は、今や完全に成つたのである。
 【政權奪取】 社會黨とフラスシオ黨との對峙に依り最も厄介なる立場に置かれたのはイタリーの政治家である。右に暴力の威嚇左に罷業の威嚇、右するも左するも所詮は威嚇を免れないので、組閣される内閣はどの内閣も短命で斃れ、卒には誰も組閣の引受人が無い有様になつてしまつた。殊にフラスシオが三、〇〇〇人の虐殺を以て倒したフアクタ内閣の後は、セラテイ、オルランド、ボノシ、ゲョーリツチ、デ・ニコラと持廻した擧句、無力なるフアクタ改造内閣でお茶を濁したが、彼が社會黨の入閣を拒絶して總同盟罷業を加へられ、社會黨の政策を代行せんとしたことが圖らずもムツソッリーニの激怒を買ふ結果となり、此にフラスシオの「ローマ進軍」は開始された。
 「今やイタリーには二箇の政府がある。一はフアクタに依る偽の政府であり、一はフラスシオに依る眞の政府である。」「我等は今やローマ進軍の初一念を實現せんとす。我等の主張は極めて簡單、唯イタリーを統治せんと欲する。」といふ傍若無人の宣言に國民が呆然たる中を、ムツソッリーニは直にフラスシオの總動員を命じ、八方よりローマ進軍の軍勢を集めたのである。先づデ・

兼攝五相として國政執行の任に當ると共に最高評議會を任意監督し、中央執行部を指揮監督し、國防義勇軍を指揮任免し、一方にフラスシオ國民黨を總裁し、フラスシオ組合團體を統轄するなど、何から何まで唯一人で切廻してゐる。最高評議會はフラスシオ寡頭政治の最高機關として、法制上には中央執行部を補助監督することになつてゐる。然し其實、ムツソッリーニの獨裁制を飾る樞密顧問官の如く、政治の實務は中央執行部が處理してゐる。中央執行部は集中主義の原則に従ひ四人制で委員は最高評議會が選任し、各自が監察局、新聞局、宣傳局、監督局の一つを分擔する。國防義勇軍とは一般軍隊に加らざるフラスシオの私設軍隊にして、主として政治警察に携り、謂はば反對派威嚇の常設的用心棒である。此フラスシオ國民黨は名稱こそ政黨であるが決して政黨の概念にふさはしきものではなく、従つて黨員自ら首長を選任する資格が與へられず、又自ら團體を管理する権能を有せず、唯「ムツソッリーニは常に正し」と信ずるに過ぎない。随つて、フラスシオ黨の議員なる者も彼等が選舉した代表者といふわけでもない。蓋し、ムツソッリーニは一九二四年に舊來の選舉法を改正して全國

を一選舉區とし、且「有效投票の二五パーセントを得たる黨派は下院五三五席の二分の一を勝ち得る」ことを規定し、有らゆる彈壓政策の結果、現在の數字(二八三名)を獲得したからである。政治組織は此程度に止め、次に産業組織の特異なる點を見る。フラスシオは「國內に一人の徒食者を認めず」といふ原則に立ち、労働、技術、資本に區別され、國民聯合を内閣に直屬せしめ、各箇の國民聯合は更に産業的職業的種別に基く國民組合に分割し、以て資本金(雇主)専門家(技術者)、労働者(被備者)が相互の利益を侵害し侵害されざるやうな組織たらしめてゐる。即ち、雇主も傭人も技師もそれ／＼生産に貢獻するといふ意味では同一であり、随つて對等の權利を付與されてゐるが、唯國家の利益に反する場合は其執れを問はず戒飾されねばならぬ。其意味に於て、フラスシオ・イタリーの政治組織は集權的であるが、産業組織に於ては或程度まで分權的だと見るを得よう。
 フイジオクラット 重農學派と譯される。フイジオクラット(Physiocrat)は、アダム・スミスの經濟學建設に多大の貢獻を残せる意味で、經濟學史上に没却すべからざる位置を有してゐる。此學派の始祖はケネ

もなく其故を以て辨るゝに至つた。兎に角、フイジオクラットが自然の秩序の認識に於て行論明晰、理路精確なる抽象思想を輸入し、單に國富の充實のみを以て研究の任務とせず、貧者の救済や其研究に重きを置き、後に至つて起つた人間性質の高揚の傾向に幾多の準備的礎石を與へた功績は没却すべくもない。
 フリーエ主義 フランスの空想的社會主義者フリーエに依つて唱へられたる共產的社會主義の計畫を謂ふ。其計畫は彼のフアンヂュと稱する共產團體に示されてゐる。(エトビー)
 フェービアン協會 イギリスに本部を有する社會主義團體。本來の目的は民衆の教化にあつて、政治的活動を避けてゐたが労働黨の構成分子として加るに至り、消極的ながらもイギリスの社會運動に影響を與へた。創立は一八八九年、會員にはウエツプ、ショー、ウエールズ、ベザント、ウォレス等の名士が多く、慶大教授小泉信三の如きも其一員だといふ。フェービアン協會の主張の大體は左の綱領に依つて窺ひ得る。「土地及び資本を個人的階級的占有より解放して全人類の幸福の爲に社會の共有とする。斯くして國家の自然的文化的富を

國民全體に公平に配分する。現在に於ては生産的發明や資本より生ずる利益の大部分は資本家階級の懐を肥すに過ぎない。労働者階級は生活を維持する爲に資本階級に隷屬しなければならぬ。「我等は社會主義思想の普及と其結果たる社會制度の變革とを期す。此目的を達する爲、我等は個人と社會との經濟的、道徳的、政治的關係に對する知識を一般に普及せんとす。」即ち、フェービアン協會の目的は、社會主義の理論と實際とを研究し、其研究の結果を發表することに依り社會主義思想の普及に貢獻せんとしたのである。

フェービアン社會主義 フェービアン協會の理想として支持する社會主義の謂である。(フェービアン協會) (フェービアン)

夫役 夫役又は現品とは自治關係團體が公課の一つとして人力又は現品を強制的に徴收することを謂ふ。公課とは租税であつて原則上金錢を以て徴收することになつてゐるが、特別の事業の爲に努力或は現品を必要とする場合などに於ては、努力或は現品を以て徴收することが却つて公課の負擔者にとり便利の場合がある。斯る場合には夫役又は現品として賦課するのである。而して市町村長は夫役又は現品を直接市町

村税(直接市町村税を賦課せざる市町村にあつては直接國税)を準率として之を金額に算出して賦課すべきであるが、此準率に依らずに夫役現品を賦課する場合は府縣知事の許可を受けること(急迫の場合に賦課する夫役に就いては此限りに非ず)。夫役を賦課せられたる者は本人自ら之に當り又は適當の代人を出すことが出来る。夫役又は現品は金錢を以て之に代へることが出来る(急迫の場合に賦課する夫役に就いては之を適用せず)。而して夫役現品の賦課を受けたる者が定期内に其履行を爲さず又は夫役現品に代ふる金錢を納めざる時は、市町村長は期限を指定して督促すべきであり、急迫の場合に賦課したる夫役に就いては更に之を金錢に算出し期限を指定して其納付を命ぜべきである。但し市町村に於ける夫役に就ても學術、美術及び手工に關する勞務に就いては夫役を賦課することは出来ない。

フェミニズム 【概説】直譯すれば「女の主義」といふ意味であるが、一般には「男女同權主義」とか「女權主義」とかの意味に用ゐられる。故にフェミニズムには一定の目標があるわけがなく、有らゆる方面に於て屈從的待遇を受けたる婦人の地位改善に關する一切の思想は、或く之をフ

エミニズムの現れと見なすことが出来る。故に、纏足や覆面の如き惡習慣を撤廢せんとすることや、結髪を斥けて斷髪を求めることなども、或意味ではフェミニズムの現れと見ることが出来る。然し、主として教育上、政治上、法律上、社會上等に於て婦人が男子と同等の「權利」を要求する場合、即ち一定の文化的要求を含む場合に用ゐられてゐる。蓋し、フェミニズムの立脚點は、現在の文物制度は或く男子本位であり、女子は之に屈從的支配を受けつゝあるが故に斯る偏務的關係を更改して男女平等の相務的支持に俟つ社會を招來すべしといふにある。其意味に於て、フェミニズムはおのづからにして解放問題の性質を有し、労働問題と共に前世紀より今世紀にかけ愈其傾向を濃厚にしたのであつた。

沿革 フェミニズムの運動も其初期的の形態は頗る觀念的のものであつた。ルネッサンス以後、頓に高揚された人類解放に關する自由思想はフランス革命、アメリカの獨立等を経て各國の人心を席卷するに至つた。「自由、平等、博愛」の標語は異口同音に唱へられ、舊來の偶像を破壊するに極めて急進的であつた。然し當時にあつては此等の自由や平等は單に男子のみに限られ

た問題であり、女子は或く除外されてゐたのである。だが、斯る自由思想の瀰漫と同時に論理の當然なる歸結は、やがて男子以外の「人類」たる女子の解放を叫びしむるに至つた。即ち、メリー・ウォールストンクラフト女史が先づ「女權の擁護」を著し、多大の反響があつたに續いてジョン・ステュアート・ミルが有名なる「婦人の隷屬」を著してフェミニズムの理論的正を與へたのであつた。彼は云ふ、「婦人の隷屬は慣習の結果で自然ではない。随つて、結婚や職業に於ても男子と同等の權利を保有すべきである。同時に、政治に於ても同等の權利を要求すべきである。」云々。婦人參政權の理論は斯くして彼に導かれ、祖國のイギリスは元よりアメリカにも婦人の參政權獲得に關する幾多の協會を設立せしめた。他方ウォールストンクラフトの主張一分娩、育児等の特殊なる性的資格に基いて婦人の權利擁護を主張した一は、多く北歐諸國の婦人の間に熱心なる支持を受け、前者の婦政主義に對する母性主義の形態を以て發達を遂げたのである。

ば、法律的差別の撤廢、受教機會の均等、労働範圍と賃銀とに於ける平等なる權利、有らゆる社會事業に於ける有能性の認識等甚だ多くのものが數へられるのである。然も尙、同じ法律上の差別撤廢といふ問題にしても、民法に於ける妻の權利及び行為能力の完全なる認容とか、刑法に於ける性問題を筆頭とする有らゆる除外規定の廢止とか、或は公法に於ける選舉權の獲得とか、其他、種々なる細目的分野も發見し得られる。が、大體其分野は、少くとも過去に於ける主流は二つに分別することが出来る。即ち其一はイギリス、アメリカ二國に華々しく發展したる參政權獲得の運動であり、其二はスカンディネヴィア其他の北歐小國に培育された母性保護の運動である(母性保護問題参照)。然し此等の運動は主として知識階級の婦人に依つて支持されて來たが、資本主義的生産の次第なる發達の結果は、斯る理想主義的の動機よりも現實の經濟的原因から多數の子女を労働市場に送らねばならなくなり、職業部門に於ける男女の性的差別待遇を撤廢せんとする要求が漸く熾烈になつて來た。かくて婦人問題の分野も階級的性質を帯び來り、從來の有産階級的婦人運動の代りに無産階級婦人運動が時代

の表面に擡頭し、經濟的觀點から男女同權を主張する傾向が日毎に濃厚を加へつゝある(婦人労働)。

服役結婚 一種の賣買結婚であつて、妻を娶る報償として女子の家の家僕になり或期間だけ其家族の爲に労働して、然る後に其女子を連れ歸つて妻となすことを謂ふのである。つまり妻を購ふに物品を以て購ふ代りに労働を以て購ふ制度である。何が故に此制度が存したかといふに、其多くは經濟的原因に依つたものらしい。即ち女子に對して或報償を拂ふことの出来ない者が其負債を自己の労働を以て支拂つたのである。故に服役結婚の行はれたのは主として賣買結婚の行はれたる所に於て、然も同時に相並んで行はれたものである。されば或論者は服役結婚を以て賣買結婚と同一の範疇に入れて論じてゐる。

複合社會 スペンサー、デュルケイムの用語。其「單純社會」に對立せしむるものである。(單純社會)

複雜協働 分業を一面から見て此の如く名づく。ギディングスは之を代ふるに間接協働の語を以てした。(協働)

複選舉制 アメリカの大統領選舉や、フランスの元老議員の選舉制度の如く、先

づ一般選舉民が投票に依つて選舉人を選定し、其選定された選舉人が大統領なり議員なりを選舉する方法。これは間接選舉又は二重選舉とも呼ばれる。此制度が採用されるに至つたのは、國家の樞機に與する重大人物を選舉するに當り、國民各個の一般投票に俟つことは多大の不便があるとの理由に基く。然し實際問題としては原則上の普通選舉主義を拒否することが出来ず、さればとて一般投票に任せたら、如何なる人物が選舉されるかも知れぬといふ不安がある爲に先づ最初は普通選舉の形態を採り、二度目の制限選舉で細工をしようといふ方針に基いて考案されたのである。蓋し選舉人が少ければ少いだけ、買収、結託、干渉等を加ふべき餘地が多く、延いては無産階級を代表する選舉人の投票行使を薄効ならしめ得るからに他ならぬ。現にアメリカの大統領選舉の例を見るに、此悪弊は毎度ながら行はれ、直接的に一般投票に俟つべしといふ議論も少くない。殊に二重投票は手續上にも幾多の困難があり、且公平に過不足無く民意を反映し得ない意味で、表面の理論のみに於て是認し得られぬ事情も多い。

複線的進化 各社會の進化の方向が唯一筋にて、孰れの社會も同様の進化徑路を取ると見るのが單線的進化の說にして、之に反對して社會に依りそれゝ異なる進化の徑路をとるものと見るのが複線的進化の說である。スペインを初めとして多くの人は單線的進化説であるが、タルド、ゲンプロウィッツなどが之に反對して複線的進化説を立てた。(社會進化參照)

不具労働者問題 作業中に過つて傷つき、不具癱疾となれる労働者を如何に保護すべきかといふ問題は、各國とも法律に依つてそれゝ規定が設けられ、傷害乃至癱疾者に對する保險制度の如きも考究せられて來た。然るに歐洲大戰の結果、斯る工場内の傷害者の外に、工場から徴發せられて戰場に赴き、戰場に於て傷つける多數の不具労働者を續出したる爲にヨーロッパ各國では斯る不具労働者の處置に窮し、社會的大問題として不具労働者の救済が論究されたのである。即ち、國際労働事務局の報告(1918)に依れば、如上の不具労働者はイギリス一、七〇〇、〇〇〇、ドイツ一、五〇〇、〇〇〇、フランス一、五〇〇、〇〇〇、イタリア一、五七〇、〇〇〇、ベルギー四〇〇、〇〇〇、チェッコ一七五、〇〇〇、ポーランド一五〇、〇〇〇といふ數字を示し、孰れも不具の故を以て労働市場から虐待される

ねばならなかつた。勿論彼等は戦傷者なるが故に一定の年金を給與される。けれども此少額の年金を以てしては到底生活を維持し得ないので、彼等は「官私を問はず、あらゆる工場の雇主は其使用人中に一定数の不具労働者を雇ふべきこと」を提議し、それゝ當局に陳情する所があつた結果、次第に求職の困難を緩和するに至つた。然しそれとても決して十分なることを望み得ない爲、あたら戰場の勇士も陋巷に窮死せねばならぬやうな悲劇もあり、不具労働者の救済は重大なる國家的問題として注視されたのである。

父系 父方より血統を辿る組織。母系と對立するもの。(參照)

父權 家族の支配者を一家の父とする制度、即ち家父權の義である。父權は原始時代既に確立されてあり、大家族制度の下に於ては、家父が生殺與奪の全權を掌握してゐた。原始民族の婚姻事情や族制が研究せられた結果、斯る父權に先行して母權が認容せられたと主張する論者もあるが、未だ確證を提示されるに至つてゐない。思ふに原始時代にあつては、婚姻關係の成立の有無に拘らず、妻は永く其生家に止つて夫の家には入らず、其夫が妻の家に通ふ風

習であつた爲に兩者の間に生れた子も妻の生家の一員として育てられたことから、母の權力が絶大であるかに誤解したのであつた。子は成程母の生家で育てられるが、之を支配する者は其一家の父長であつて、子と同時に母も其父長の支配を受けねばならなかつたのである。故に母權時代を想定することは全く誤で、母系を重んずる時代にも父權が行はれてゐたと解すべきであらう(參照)。父權が最も重んぜられたのは古代ローマで、我國でも「いへぎみ」と稱して父長が全權を以て家族を支配してゐた。小家族制度の現在でも、家長は各國とも男子に置いてゐる。

不熟練労働者 マルクスの所謂「單純労働」に従事する者、即ち特別の教養乃至技術を必要とせず、單なる肉體組織中に具備する労働力を提供する者を謂ふ。生産が主として手工的技術に依頼する時代にあつては、労働者は必ず技術的修練が無ければならなかつた。然るに、機械の進歩が著しく、生産の大部分が機械の力を俟つ時代となつては、労働者は謂はば機械の補助的役目を果たすに過ぎず、必しも特殊の教養乃至修練を要しなくなつたのである。蓋し、機械は人間の力を以てしては到底及びもつか

ぬ程精巧且迅速なる力を發揮し得るので、或特定の部分的なる部門の外は人間労働の熟練の要素を必要としなくなつたからに他ならない。かくて機械工業の發達は次第に労働を單純化するに至つた結果、老幼婦女を労働市場に流入せしむる傾向を助長し、成年男子と地位を争ふの止むを得ざるに至らした。其結果相對的に賃銀の低下を誘ひ、労働階級の貧困を増大せしめたのである。蓋し賃銀なるものは、當時に於て社會的に普通とせらるゝ生活を營み得る費用、即ち労働力の再生産に必要な費用に依つて決定せられるが故に、父兄と同時に妻子を労働市場に投下した結果は當然相對的賃銀低下を誘ふからに他ならない。詳言すれば、從來は家長たる父兄の収入を以て一家の生計を維持し得たのであつたが、収入源泉が家族全員に分散された爲、個々の収入は個々の生活を維持するに足るのみとなり、個々の賃銀も之に従つて低下したわけであるのみならず、家族各員が各員の収入を計らなければならなくなつた結果、家庭生活生活其者が合宿所化し、延いては家族制度の破壊をまで導いたのである。其一方、從來の如き家長に對する家族の服従關係が失はれ、婦人の自覺を促進する原因を作した

のも事實である(參照)。

婦人運動 之を大別して婦人參政權運動と婦人労働運動との二つとす。勿論婦人の社會的地位改善に關する總ての運動は皆婦人運動であるが、此運動の中樞を形成し解決を急ぐ問題は此二問題である。婦人運動の歴史としては參政權運動が最も早く、或時代に於ては婦人問題の解決は婦人參政權運動に懸るとさへ考へられてゐた。が、現在に於てはそれは婦人運動の一部たる位置を與へられてゐるに過ぎない。

【フランス、イギリス、アメリカの婦人運動】婦人運動の曙光はフランス革命に求めることが出来る。勿論、ルネッサンス、宗教改革以後に於て婦人の地位は幾分か在來の社會的地位を改善せられ、且婦人解放に關する主張もピサノ、グールネー、ヴァロラ等の著述に依つて公にされたが、之に口火を點じたのはルソーの民約論であつた。彼の婦人觀は中世期的見解を脱しないものであつたが、其自由平等の思想は女子をして男子に服従する義務無きことを考へしむるに效果があつた。此時フランスにガーチエなる女權論者が出て、「女權宣言」に對して「女權宣言」を草し、婦人は經濟的にも社會的にも政治的にも男子と平等なるこ

とを主張した(人権宣言)。哲學者コンドルセも熱心なる婦人解放論者であり、ストラックラフト(イギリス)、ヘッベル(ドイツ)等と相呼應し、國際的運動を起しつゝ、あつたが、當時ナポレオンの爲に歐洲が蹂躪されてゐる際であつたので耳を藉す者少く、殊にデューヂ・サンドが其餘にも急進的思想を小説に託して婦人解放を主張したのが爲、一般からは好感を以て迎へられなかつた。斯くて第十九世紀の中葉に有力の婦人運動がアメリカに起された。當時のアメリカ婦人は殆ど全部が婦人解放論者であつたが彼等の地位は畢竟奴隷と何等擇ぶ所なきを覺るに至つた。尤もアメリカの婦人は既に職業と教育とに於ては十分なる男女同權を獲得してゐたので此運動は先づ参政權運動に傾注された。即ち一八五〇年ウィズタに世界最初の婦人大會を催し、政治上に於ける男女同權を宣言した。此運動は一八六九年に至つて二箇の同盟を組織せしめ、其後、兩同盟が結合してアメリカ婦人選舉權國民協會が成立し、其第一回大會には二十一州より二六七人の代表者を集會せしめ得た。然るに此運動はジョン・ミルに依つてイギリスに移され、此處にやうやく勢力を獲て近世婦人運動の母胎たるに至つた。

フランスに於てはラブレリーに依つて婦人運動が先導され、婦人の政治的解放を所期する協會を簇生せしめた。

【ドイツの婦人運動】 フランス、イギリス、アメリカの斯る傾向に反してドイツの婦人運動が最初から經濟問題を主眼としたことは注目し、價する事實である。即ち一八六五年にレツテ協會及び全ドイツ婦人同盟會なるものが組織せられ、前者は中流階級婦人の就職難、生活難を救済する目的を有し、後者は主として婦人の教育的向上に努めた。其後南北ドイツに之を模倣する多數の協會が設立せられ、此等二〇〇を算ふる協會は一八九五年に合同してドイツ婦人協會同盟と稱した。後此協會は會内に二派を生じ、其一是労働階級に屬する婦人に依つて支持され、社會民主主義を基礎とするものであり、他は中間階級に屬する職業婦人に依つて支持される一派である。而して前者を指導する者はクララ・ツェットキン女史であり、九萬の購買者を有する機關誌『平等』を有し、社會民主黨に屬して之と提携するものである。之に反して後者は前者の反動派として生じたもので、其勢力も亦弱小であるを免れない。ドイツには尙、進歩的協會同盟と稱する参政運動派があるが該同盟

は機關誌『婦人運動』を有し且一八九七年には主唱者となつて十二箇國の婦人協會と聯盟し、『婦人参政權運動』なる機關誌を發行した。

【ロシアの婦人運動】 ロシアの運動は第十九世紀中葉に於ては知識階級婦人の虚無黨に投ずる者多く、流刑、死刑に處せられるといふ悲惨なる出發點を有せるに拘らず、注目に價すべき組織的運動は無い。然し第二十世紀に至つて虐げられた労働婦人及び農婦は大衆的に組織せられ「大衆を獲得するには婦人を獲得しなければならぬ。何故なら資本主義の下に於ては人類の半分は二重に壓迫されてゐるから」といふレーニンの言葉通り、一九一七年革命以來ボルシェヴィキ黨は大衆を身方とするに當つて其一半を形成する婦人に訴へ雑誌『労働婦人』は此目的の爲に發刊せられた。而して其後一九一七年七月革命に於てケレンスキー政府の爲にボルシェヴィキが壓迫され多くの指導者を失つたにも拘らず『労働婦人』のみは黨の唯一言論機關として殘存し、ケレンスキー政府がボルシェヴィキ鎮壓の爲に戦線の軍隊を召還した時に率先して兵卒の間に革命の宣傳をしたのは労働婦人であつた。かくて十一月革命來り、婦人は男子と

同様に満十八歳に達した當日から選舉權、被選舉權を認められ公私生活を通じて婦人に對する權利の制限は撤廢せられた。教育及び職業は男女に平等の機會を供し、多くの婦人は既に重要な政治的地位を占め、志願に依つては特に軍務に服することも出来た。かくて婦人の訓練と組織とは愈進み、都市にては労働婦人二〇〇人につき一人、農村に於ては五〇〇人につき一人の代表者が年一回選出され、其任期を一年とした。彼等は種々の方面に分れソヴェエットの諸部内の委員會に参加して其仕事を分擔した。一九二四年度には全國を通じて此代表者数は二〇〇、〇〇〇に達した。此内都市は八〇、〇〇〇、農村は一二〇、〇〇〇で、此等の婦人に依り代表された筋肉及び非筋肉婦人労働者は九〇〇、〇〇〇人、主婦三二〇、〇〇〇人、農婦四、六〇〇、〇〇〇人であつた。一九二四年の村ソヴェエト役員總數の一割二分の四〇、〇〇〇人は婦人であり、共產黨員の九分は婦人である。然も産業に従事する婦人労働者は一九二五年四月一日現在にて六九〇、一五七人、労働組合に於ける婦人の率は産業の其れよりも高く、同年同日現在にて一、七五二、四二五人即ち全組合の二割五分二厘である。斯

様にロシアに於ける婦人運動はボルシェヴィキの旗の下に益隆盛になり、コロンタイ、オラケレスヴィリを初め幾多の婦人は國際的國內的の有らゆる部内に活動してゐる。スカンディネヴィアの二國及びデンマークの運動は起原を同じうしてゐる。即ちスウェーデン婦人は第十八世紀より既に大臣選舉權を有してゐたが、一八六一年に市會議員選舉、一九〇九年には被選舉權を獲得した。同國は有名なるエレン・ケイを有する關係上母性主義に基ける道德的運動も相當に盛である。(母性主義)

【オーストリア、イタリーの婦人運動】 オーストリア・ハンガリー國の婦人運動は、オーストリアが婦人労働問題を、ハンガリーが婦人教育問題を主としてゐる。即ち前者はシュレジンゲル、ホップ等の婦人社會主義者が指導者となり、社會黨と協同の運動を以て發達して來た。後者は幾多の女子職業學校及び職業婦人俱樂部を有する外に婦人労働者團體を中央地方に數箇所を算へ、婦人労働組合員五〇、〇〇〇に及び、其等の大多數は婦人社會主義組合に屬するものである。イタリーの運動も亦教育方面のみ注がれて見るべきものは少い。が、一九一〇年以來社會黨が婦人労働組合の爲に盡

す所あつた結果、八〇〇有餘の婦人組合と一五〇、〇〇〇の會員を算ふるに至つた。

最近に於けるイタリーの婦人運動は参政權運動と廢娼運動とが提携して中央機關婦人俱樂部を有してゐる。デンマークは参政權運動に目覺しく進出し、一九〇八年には市會議員の選舉權、被選舉權を獲得した。婦人の選舉權を最初に獲たるオランダはヒッロに依つて指導され、一八九四年には政黨加入の權利を獲、一九〇八年の萬國婦人參政權大會に於ては大規模なる示威運動をハイグに催した。社會黨の運動にはローランド・ウェスを首腦とせる組合主義の運動が奏效してゐる。ベルギーは中産階級と労働階級との運動が明かに區別されて發達し來り、前者はハリベン女史、後者はヴァンダーベルト、カンムドの二女史が社會黨員として指導して來た。(婦人労働)

【概説】 所謂婦人問題と呼ばれる各箇の主眼乃至運動は、直接か間接かに於て参政權の問題に關聯せぬものは無い。それだけに婦選問題は婦人問題の中軸を成すといひ得べく、由來婦人問題の歴史は畢竟するに婦選運動の歴史だつたといふも過言でない。婦選運動の中心題目はいふまでもなく婦人に對して男子と同等

なる政治上の選挙権と被選挙権とを與へよといふにある。斯る要求を最初に發表したる文獻はウォルトンクラフト夫人(イギリス)の『女權擁護』で、彼女は婦人が「女性としての特權と責任」を完全に行使する必要上之に參政權を與へて「男子と同等なる義務」を負擔させよと要求した。尤も之より先、フランスにはカーヂュと稱する女權論者が現れ、革命の『人權宣言』に對して『女權宣言』なるものを發表したが、一般の顧みる所とはならなかつた。此一般的問題に點火したのはジョン・ミルである。彼は其意味で其共勞者にして愛人なるテラー夫人と共に没却すべからざる功績を貽した。とはいふものの當時にあつては單に理想論として一部の人人に刺戟を與へたのみで、實際問題としては誰しも忠實に考へてみようとしなかつた。之を少くとも輿論化し實行化し得たのは各國とも半世紀以後に屬する。然も猶同じくフェミニズムの見地から婦人の解放を熱心に主張する者の間にも異論あり、參政權の獲得の如きは反つて婦人の特質たる母性を損傷すべしとの理由に於て其れに反對意見を固持した者さへ少くなかつた。然し其等の反對者も竟には母性擁護の爲に政治的權利の獲得を必要

とするといふ意見に傾き、單なる戀愛と結婚との解放のみならず政治上法律上、の自由をも要求して婦選主義を認容したのである。左に簡單ながら、婦選運動の沿革を概説してみよう。

【イギリス、アメリカ】 イギリスの婦選運動にはバンクハースト母娘の名を逸することが出来ぬ。彼女等を中心とする所謂サフラジエットの一味は世人の注目を喚起する爲に好んで暴力手段に訴へ、多年に亘つて幾多の迫害を蒙らなければならなかつた。其結果、輿論を刺戟すると同時に當局の反省を促し、歐洲大戰に際して婦人が遺憾なく後方勤務を果し得たといふ理由で、ロイド・ジョージ内閣に於て目的を達成することが出来、現に五名の婦人代議士を選出している。アメリカの參政運動も大體イギリスの其れと歩調を一にし、有らゆる婦人問題の解決に先行する條件として選挙権并に被選挙権を要求して來た。然も實際運動に於ては寧ろイギリスがアメリカに追隨した傾があり、既に一八五〇年此種の會合としては世界最初の婦人大會がウィズスターに開かれ、政治上に於ける男女同權主義を宣言した。同時に二箇の婦人同盟が組織され、やがて兩者は合同して「全アメリカ婦人選

舉權國民協會」と名稱を變更したが、其第一回大會には二一州を代表する二六七名が參集した(1848)。かくて次第に自治體、州議會等の參政權を獲得するに至り、戦前には十三州が殆ど男子と同等の權利を認めてゐた。歐洲大戰後、イギリスが婦人の國會參政權を公許せるに續で、今やアメリカも婦人參政問題は全國的に解決を遂げた譯である。革命に依つて自由平等の觀念を高揚されたフランスは思想運動としての婦人解放には列國に先進してゐた。然し實際運動としては餘り見るべきもの無く、ラブレールの如き有力なる指導者を有し、政治的解放を目的とする數多の婦人協會を有するにも拘らず、未だ婦人の參政權は完全に認められる程度に達してゐない。

【ドイツ、ロシア】 イギリス、アメリカ及び之に追隨する婦選運動が謂はば政治上の理想主義に導かれてゐたに對し、ドイツの其れは經濟問題を中心としてゐるのは注目し得る。随つて又ドイツに於ける婦人運動は知識階級と労働階級とに於て各別の發達を示した。即ち前者は「レット協會」(Christliche Arbeitervereine)、後者は「全ドイツ婦人同盟協會」(Allgemeiner Deutscher Frauenverein)として知られてゐる。前者の勢力は今日微弱となつたが後者は有名な

クララ・ツェットキン女史が指導し、社會民主黨との聯繫に依り同黨を通じて婦選の獲得を謀り、機關誌『平等』は一〇〇、〇〇〇の直接購讀者を有するといふ。大戰後の革命に依つて出現した社會民主黨政府は從來の政綱に基いて滿二十歳以上の婦人に參政權を許し(オーストリアも同様)、現在では婦選に就いて最も進歩した國として知られてゐる。之に對してロシアも革命後滿十八歳以上の婦人に參政權を與へ、年齢的にはドイツ以上の雅量を示し、單に政治上のみならず有らゆる官公的吏員の椅子にまで門戸を開放してゐる。が、其以前までは婦人の社會的境遇は極端に屈從的であつて第十九世紀中葉以來幾多の婦人革命家を輩出したにも拘らず、婦選に對する組織的運動には何等見るべきもの無く、唯バルティック地方に有力なる一團體を算へ得たに過ぎない。ロシアと對立して獨裁政治の見本とされてゐるイタリイ戦争直後に婦人の參政權を認め、現にファシスト政府も權利を行使せしめてゐるが、性別ならぬ他の條件に依つて僅か一部の婦人に限定されてゐる。

第十八世紀以來大臣の選挙権が與へられ、一八六一年に自治體選挙権、一九〇九年には同被選挙権を得た。ノールウェーも大體之に追隨し、兩國とも相續いて國會に於ける兩權を獲得した。一八九四年既に政黨加入の權利を得たオランダ婦人はヒーローを指導者として一九〇六年に地方議會と同時に國會に於ける選挙被選挙の兩權を得た。即ち男子と同等の完全なる婦人參政權を認容したのは之を最初とする。デンマークも亦一九〇八年に地方議會の兩權を得、スウェーデン、ベルギーを初めヨーロッパ諸國の大半は多少の制限條項を設けつゝも婦人なるが故に參政權を拒否するといふ事實は無くなつた。

【日本】 敍上の諸國に比較すると、我國の婦選運動は前途遠望の感無きを得ない。これは一面、我國が代議制度を採用することの列國に後れ、男子の選挙権さへ兩三年前漸く財産的制限を撤廢されたに過ぎぬ状態であるから、已むを得ざる事情も亦認め得やらない。然し、それなりに政談集會への参加や傍聴も解禁せられ(1911)ならず、普選案の通過が著しく婦選運動者を刺戟し、建議案乃至決議案の形式に依り

全く男子に隷屬して其庇護の下に生活を續けて来た。随つて婦人に特有なる職業或は勞働の問題の起る餘地も無かつたが、資本主義生産が發達した結果として多數の無産者を出現せしめ、其等の子女は漫然として父兄の收入に寄食することを許されなくなつた。爲に好むと好まざるとに拘らず勞働市場に出入して自活の方法を講ずるに至り此に所謂婦人勞働問題は急速に時代の注目を喚起するやうになつたのである。

【勞働婦人】 先づ筋肉的勞働婦人の側を見る。精巧なる機械の發明は生産上に特殊なる手巧の技術を必要とせず、多くの勞働は機械の補助的役目を果せば十分であつて必しも成年男子の熟練工を要せざる結果、企業家は賃銀の低廉なる老幼婦女を以て之に當てるやうになつた。かくして老幼工と同時に婦女工を工場に採用し、彼等と成年男工との競争の結果として、當然後者の賃銀を低下せしむるに至り、勞働者家庭の生活苦は愈妻女の工場流入を餘儀無からしめたるが爲、此に多數の無産階級婦女は勞働市場に現れることになつた。一方、之と並行して婦人の勞働部門も次第に擴大され、全體に互る勞働行程の中にあつても割合に精神力并に肉體力を要求することの少い部

門が婦人に提供されるやうになつたので、相俟つて彼上の傾向を助長せしめたわけである。殊に歐洲大戰に際しては成年の男子といふ男子が咸く戦場に徴發され、従來は男子の專業と考へられてゐた仕事も餘儀無く女子が代辨した結果、女子の勞働範圍は著しく擴大し、延いて婦人勞働問題の發達を促進せしめた傾向も見受けられる。かくては單に對資本家の問題のみでなく、對異性勞働者の問題ともなり、戦後のヨーロッパ各國は痛切に此問題に苦められたのであつた。我國に於ても近來、各種の勞働部門に婦人勞働者を採用する傾向が漸く著しくなり、昭和元年十二月現在の調査に依る婦人勞働者の内譯は大體次の如くである。官營工場三〇、〇三三人、公營工場四、二三二人、私營工場一、〇一三、四二五人、鑛山七、〇八五人、運輸交通二四、七一三人、其他(日傭等)三九八、二〇六人合計一、四七七六九四人、即ち男子勞働者に對しては約五〇パーセントを占めてゐるのである。

如き關係に置かれてゐる。即ち、前者の筋肉的勞働の提供に對して、後者の頭腦的勞働の提供が彼等の唯一なる生活手段である如く、職業婦人も亦生活の必要に迫迫されて出現したのであつた。尤も我國の現状では、絶對的なる生活の必要といふよりも、彼女の結婚費用を貯めるとか、化粧品を稼ぐとか、さもなければ人生觀上の獨立自存主義とかに基く者も少くはないやうであるが、大抵は收入増加の家庭的乃至個人的必要に訴へられてゐる者が多い。職業婦人の分野は甚だ多岐であり、中には極めて經濟的不生産的と見られる者も少くない。歌者俳優、女給又は藝娼妓(或意味で)の如きはそれである。けれども他方、婦人の職業範圍は從來の助産婦、看護婦、保姆などに限定されず、教員、店員、事務員、タイピスト等の職業は次第に婦人に對して解放され、寧ろそれが如何にも女性的職業であるかに特色づけられて来たことは注目すべきであらう。女子教育の發達は益婦人の職業範圍を開拓すべく、現にアメリカの如きは男子にあざれば従事し得ざる職業を除き、其外は、咸く女子の爲に解放されるに至つた。ヨーロッパ諸國も之と殆ど同様である。

【保護施設】 筋肉的に又頭腦的に婦人の勞

働領域は此の如くに擴大されて来たが、女子の生理的條件は飽くまでも男子と同等の勞働に耐任し得る筈が無い。假りに能力上の差違は無いとしても、長時間に互る激務激勞に勝へ得ざるのみならず、妊娠、月經等の障礙にも當面しなければならぬから、特別の保護を加ふることが絶対に必要である。婦人勞働者に對する法律上の保護規定は、斯くして幼少年工の保護施設と相俟つて、早くから考慮されて来たのであつた。即ち、婦人の過勞はえて妊娠不能の状態に陥らしめ易く、縦し可能であつたとしても母胎の不健康は子孫の不健康を豫想せしむべきを以て、斯くては國民將來の人口問題と保健問題とに關すること多大なりとの見地から、各國とも特別の國家的保護を考慮したのである。工場法其他に於て婦人勞働者の勞働條件を厳密に規定したのは之が爲に他ならぬ。工場法の適用されざる他の職業部門に於ても、婦人の特殊なる生理的條件に基く障礙に對しては法律的に命令的に或は慣例的に幾多の保護施設が講ぜられてゐる(母性保護)。

外敵の侵入や天災地變の防備等に就いて、結合して大團體を形造るやうになる。斯る諸氏族の團體を稱して部族といふ。部族を大別して漂遊部族と定住部族との二つとする。前者は牧畜に好適の地を發見し得ず、常に住居を變へて流浪するものを指す。蒙古や西藏の部族はそれである。然るに一方流牧する間に好適の地所を見つけ、住居をトして農耕に従事する部族もある。これは定住部族といはれるもので、前者の精神に對して概ね溫和である。其爲に漂遊部族と職ふ時は多く征服され、征服部族が異人種であつた時は殺戮されるか放逐されるか、さもなければ捕虜として賤役に従事せしめられた。奴隸制度の起原は後者の場合から發したともいはれる。

隨つて、物物交換は等價物の仲介を経ないことを條件とする。單に物と物との交換の意味ではない。交換の最初の形式は贈與であつた。それが稍規則的に行はれるや交換を希望する者が一定の場所に集合し、自分が必要として他人が必要とする物と自分が不必要として他人が必要とする物とを贈與の形式でなくて交換する風習を生じた。然るに此場合、甲が要求する物を乙が所有してゐたとしても、此要求する物を必ず甲が所有してゐると限らないので、物物交換には幾多の不便と困難とを免れなかつた。そこで何人にも效用を持つ物——例へば鹽とか、皮とか、穀物とか、總てさうした物を仲介として物と物との交換が行はれたのであつた。物物交換は斯くして亡びた。蓋し、鹽や皮や穀物は今日の貨幣と同じ意義を果したものであつて、其自體が交換と交換とを仲介する等價物の役目を果たしたからである。

不拂勞働 餘剩勞働のこと。餘剩勞働は、勞働者が其勞働力の提供に對して支拂はれたる價值以上の價值を生産する爲に行はれる勞働であるから之を不拂勞働と名づけるのである。(餘剩價值) 部分社會 成員の範圍に於て最も廣く

機能に於ても亦最も廣汎なる社會、即ち國家以外の社會、即ち其中に包括せらるゝ維多の社會を皆部分社會といふ。家族や地方自治體や、學會、教團、政黨其他有らゆる社會は皆之に屬する。此部分社會に對して全體社會を何と見るべきかに關しては二の異説が有り得る。一は國家を以て全體社會と見る考である。他は一切の結社の總體を以て全體社會と見る考である。後者の見解を探れば國家以外の社會のみを部分社會といふことは唯相對的意義を有するに過ぎぬことになる。國家も亦一の大なる部分社會として Primus Inter Pares (等類中の首領) たるに止まる。

不變資本

「資本」を見よ。

ブランキ黨

ルイ・ブランは空想的社會主義者の中で最も革命的の實行運動家の一人であつた。パリ・コミューンに際しても大いに畫策する所あつたが、彼は革命運動の爲に日頃から同志を糾合して政治團體を作つてゐた。人之を呼んで「ブランキ黨」といつた。彼等はマルクス主義に反對だつたのでバクティンと行動を共にし、一八七一年のロンドン會議と翌年のハーグ會議で、マルクスの反對に立つて國際労働會議の打壞しなどをやつてゐた。

フランス革命

【概説】

フランス革命と世人が呼ぶ革命暴動には、一七八九年の「七月革命」と一八四八年の「二月革命」の二回があり、此半世紀に互る間にも幾多の暴動叛亂が繰返され、總稱して革命時代といはれてゐるやうである。然し狹義には前期革命即ちバスティユ牢獄の破壊よりロベスピエールの斬刑まで (1793) の五年間、即ち所謂「恐怖時代」を意味する。フランス革命は舊來の支配階級たる貴族僧侶の專制に對する新興の商工階級の反逆であり、而して前者に對する後者の勝利を以て終りを告げた。當時の社會的經濟的狀態を總述し革命の遠因を究明することは省略しなければならぬが、兎にも角にも當時十字軍の遠征に依り交通運輸の利便が開かれ、延いて商工業の發達を促した、此新興階級は政治的にこそ貴族僧侶に支配されてゐたが實力は既に之を壓倒してゐたことを記憶すべき必要がある。然るにルイ十四世の豪奢と、それに伴ふ財政の窮乏とは徒に苛斂誅求を事とし、國民の怨嗟を極度に挑發したのである。一方、ルソー、ヴォルテール等の啓蒙哲學者に依り自由平等の思想が鼓吹され、アメリカ合衆國がイギリスより獨立して共和政治を施行するや、共和政治へ

の渴仰は全フランスの新興國民を刺戟するに至つた。時恰もルイ十六世は即位したが財政は紊亂して何人も救済の手段無く、已むを得ず國王は議會を召集し、以て最後の解決方法を求めんとした (1789)。然るに貴族議員と市民議員との間に、計らずも議會を一院組織たらしむべきか二院組織たらしむべきかに就いて意見の相違を來し、市民は分離して別箇の議會を作り、之を「國民議會」と名づけた。國王は最初之に解散を命じたが肯せず、意外に態度が強硬なるに驚いて貴族僧侶の議員を従加せしめたが、皇后マリー・アントネットの勸説に従つて兵力を加へんとした爲、此に革命の導火線に點火する結果を招いたのである。

【七月革命】 國民議會の指導者ミラボーは切に王兵の撤回を要求した。然し其要求が容れられぬと知つた時、パリ市民はバスティユ牢獄を破壊して國事犯人を放ち、同時に看守數十人を虐殺するに至つた。これ一七八九年七月十四日の出來事、續いて各地に暴動が起され、國王は又兵力を以て鎮壓せんとして反つて四萬餘の群衆にヴェルサイユ王宮を圍まれ、囚れてチュイルリー王宮に幽閉の身となつた。此に於てミラボーは國民議會をパリに開き、貴族僧侶の特

權を剝奪し、財産を沒收し、民選の裁判官を以て曲直を糾さしめ、信仰出版の自由を弘布したのである。超えて翌々年彼の病歿は國民議會をして、穩和共和主義のデロンド黨と過激共和主義のジャコバン黨とに分せしめたが、前者は數に於て後者を凌ぎながらマラー、ダントン、ロベスピエール等の後者に壓倒され、國民議會の形勢は次第に硬化の傾向を加へた。之を目撃したる國王は一身の安全を計つて國外に遁走せんとして捕へられ、結局國民議會と妥協するを得策と打算したものか、彼等の制定せる憲法に調印して「立法議會」の召集に同意した (1791)。越えて九三年新憲法の下に召集された議會の開會中、オーストリア及びプロイセンの二王がルイ十六世救援を名として攻め寄せ、フランス軍は散々の敗北をなしたが國民は之を王の要請なりとして宮殿を圍み、暴行手段に出でんとする形勢があつたので、身を以て議會に投じて救助を求めた。然るに議會は何等救助の手段を講ぜざるのみか捕縛してタンブルの牢獄に閉ぢ籠め、同時に王黨に屬する國事犯人二千餘名を敵國に内通せりとの理由で虐殺するに至つた。

【恐嚇政策】 オーストリア、プロイセン兩

國の外寇を辛うじて切抜けたる兩共和黨は斷然共和政治を目的とする新憲法を定め、從來の立法議會を解散して新に「國民集會」を召集することを發表した (1792)。此「國民集會」は全員咸く共和黨員を以て構成され、先づ貴族の稱號も廢止し、同時に王政の廢止を宣言して共和政治の成立を公布した。かくて議會が法廷となり、國王に對して死刑の宣告を下し、九三年一月二十一日を以て處刑するに至つたのである。「國民集會」の此の如き暴狀は國內の王黨を著しく激憤せしめたのみならず、四圍の諸國を擧げて共和フランスの覆滅を決意せしめた。そこで過激黨の首領マラー以下八名を以て保安委員會を設け、一切の行政權を委任すると共に革命裁判を司らしめ、反革命運動に遺憾無き恐嚇手段を取行した。同年七月マラーが暗殺せらるゝや其恐嚇手段は愈狂暴を極め、王后以下千餘名を一時にギロチンにかけたのである。かくてジャコバン黨の武斷政策は天下を震撼せしめたが然し内部には暗闘を免れず、ダントン等の右傾派とエベール等の極左派が事毎に喧み合ひ、中間に在つて兩派を操縦してゐたロベスピエールのみ獨り漁夫の利を得、翌年三月にはエベールを、四月にはダントンを殺

害して自ら保安委員長となり、十二人の委員を置いて苟も反抗する者は咸く投獄し、其數は全國で二十餘萬に及んだといふ。其多くは死刑に會ひ、其最も酷い時はパリ市内だけで一箇月に一、二八五人の多數を虐殺した。ロベスピエールの恐嚇手段は此の如く餘りに慘酷であつた爲に王黨のみならず身方の黨派からも見離され、九四年七月「國民集會」は彼を議場に縛縛し、其一黨を加へて直に斬首するに至つた。同時に實權は穩和派の手に歸し、別に憲法を制定して國民の反感を緩和せんとしたが、反革命運動は諸方に頻發するといふ状態であり、其一隊が議會に襲來するや議會はバラ將軍麾下の一士官ナポレオン・ボナパルトに依頼して鎮定するを得、此にやうやく督政官制度に基く新政府の基礎を築いた。新政府の特色は立法と行政とを峻別せる所に求められる。即ち立法部は上下兩院に分れ、行政部は五人の督政官が之に當つた。然るに新政府の督政官は財政の窮乏を救はんが爲に外征に依つて版圖を廣めんとする政策を立て、武將ナポレオンをして勇威を揮はしめたが、其結果は彼一個の勢力増大を促進することになり、庇を貸して母屋を取られる例に漏れず、竟に其武力に屈して彼を獨

裁的統領と仰ぐに至つたのである。
 【二月革命】 統領に就任せるナポレオンは、やがて自ら帝政を宣告してナポレオン一世と名乗つた。彼の失脚以後、再度ブルボン王朝が復活したり、オルレアン公の即位を見たりしたが、後者は内治外交に失敗を重ねた爲に、一八四八年二月に至つて革命を勃發せしめた。これが所謂「二月革命」で、革命黨は國王を逐つてボナパルトの甥ルイ・ナポレオンを大統領に選舉した(宣帝は選)。然るに彼も元老院の發議と稱して帝政を復活し、自らナポレオン三世と呼んだ(1852年)。それも東の間、普佛戦争の失敗に依つて覆滅し、やうやく今日のフランスに見る共和政治の基礎が確立するを得たのである。尙此「二月革命」は世に謂ふフランス革命の間接的の延長であつても、直接的の關係が無いことを附記して置く。

フランス社會主義運動

【前期】 社會主義の意味をマルクス派のみに限定せざる限り、フランスは孰れの國よりも早く此運動に進出してゐた。即ち空想的社會主義の三巨人と稱せられる人々の中、サン・シモンとフーリエの二人はフランス人であり、彼等を直接間接に繼承せる有名なる人々も甚だ多い。社會主義に關する所説を發表し

たことに於てフーリエはサン・シモンに先行した。けれども、一個の有形的團體として運動を開始したのは後者が先で、彼はキリスト教の精神に透徹して、貧民階級の地位向上を圖るべしと説いてゐた。彼の死(1829年)後、ブランキ、アンファンタン、パザール等の弟子達は先師の遺意を継ぎ、各人各様の相違はあつたが、不勞所得を消滅せしめ、土地、資本及び生産機關の一切を私人より公共團體に移らしむべしと主張してゐた。たゞ其手段は飽くまでも平和的なるべしと云ひ(異論者も)、政治家や企業家の自覺に訴へる程度であつた。一方フーリエの所説は同じく貧富の和衷協同に俟つべしといふ立場を執つてゐたが、前者に比較すればより實際的且計畫的にして、生産せられた一切の富は各人の生活に必要な程度に於て分配し、殘餘を十二分して其五を労働に、四を資本、三を才能に分つべしと云ふ提案をなした。右の所説はコンシデラン、ペクルル等に依つて布行され、空想的社會主義の中にあつては最も組織的の理論を有し、後世マルクスに幾多の示唆を與へたといはれてゐる。其他、ルイ・ブラン(キルド義に類)、カベール(最も嚴格なる共)、ブルドゥオン(經濟上には無政府主義を採る)等、空想的社會主義

の名士を輩出せる點でフランスは斷然諸國を壓倒することが出来た。彼等の活動期は孰れも第十九世紀初頭から中葉以後までであつたが、一部の知識的分子に影響を與へた程で特記すべき事柄も無い。たゞフーリエとカベールに追隨する一派が彼等の描ける未來社會の秩序的計畫を實行せんとしてアメリカに渡つたが、其結果は悉く失敗に歸した。(義運動に參照)

【分立時代】 社會主義運動が現實的の勢力となつたのは、他の諸國に於ても或る然りし如く矢張マルクス主義が移入せられてから後である。フランスにマルクス主義が移入されたのは一八六〇年前後、同年シャール・ゲード、ポール・ラファルグ等に依つてマルクス主義を奉ずる團體が作られ、着々として其大を加へつゝあつた。然るに、一八七一年のコンミュン一揆に際し、多數の同志は街上に殺され、國外に謫され、止る者も甚しき壓迫を蒙り、爲に一時は全く手も足も出せぬ状態になつた(エリン・コンシ)。其間にあつて労働組合だけは秘密結社のまゝ發達を遂げ、一八七六年以來各地に大會を開いてゐたが、多くは純組合主義を掲げて集産主義に與せず、マルクスの使徒ゲード等は常に壓倒されねばならなかつた。や

うやく七九年のマルセーユ大會に於て、初めて階級闘争主義と土地資本公有主義とが認められたのである。ゲードとラファルグは此に於てマルクス、エンゲルスの助力を受け、コレクティヴィズムを掲ぐる綱領を發表したが、之に對しても依然たる反對があり、やがて温和派と過激派とは對立的に二分せられてしまつた。此對立は二十五年に及んだが、此他にも數派が分立してゐた。即ち(イ)フランス労働黨(ゲード派の改良主義者)、(ロ)社會主義労働同盟(ブルジョア派の改良主義者)、(ハ)社會革命黨(ブランキに追隨する)、(ニ)革命的社會労働黨(アルマン派の直接行動主義者、最高手段傳的政略として)、(ホ)革命的共産主義同盟(アルマン派から除名されてブランキ派と提携する)等がそれである。尙此他にも、ゲードを中心とする共和社會主義聯盟とか、マロンを中心とする社會經濟聯盟(彼はブルジョア)とか、或はコンミュニオン(ス派に投ず)とか、稱し得ざる小結社があつた。此等の小結社はやがて合同して『獨立社會主義聯盟』を組織し(ニ)、右の諸黨とはおのづから別個の旗幟を掲げて進出した。然もフランスの社會主義運動に於て特記すべき他の一傾向は、斯る議會行動をブルジョアのなりとして排撃せるサンディカリストの崛起であつた。元

來、フランス労働者はラテン民族の通性で餘りに理論的なマルクス主義を喜ばず。より行動的な何物かに憧れる風があつた。アルマン派の革命的社會労働黨の立場はおのづから斯る傾向を代表したものであつたが、一八九四年の全國労働組合大會は政治行動を廢して經濟行動の一本槍で進むべきことを決議し、翌年に至り労働總同盟(C.G.T.)を組織するに至つた(參照)。同時にマルクスの集産主義を棄て總同盟罷業を目的とする革命的サンディカリズムを奉ずることを決議した(サンディカ)。彼等は此の如く情熱的で且革命的ではあつたが唯建設的の方面の具體的計畫を有せざるが爲、之に不満を有する一派は單純なる労働組合主義に走り、革命派と温和派とは總同盟内部で對立しながらも、革命の一派は機會ある毎にストライキ・サボターヂ等の直接行動に訴へ、絶えず資本家の陣營を威嚇して來た。(労働運動に參照)

【合同時代】 社會各派の敍上のやうな分立は徒に勢力を分散するのみで有害無益なりと觀する者が漸く多くなり、合同を要求する聲は次第に盛になつて來た。之が奔走に率先したのはミランで、九六年には各派の議會的協議會が設けられ(アルマン派は加、

越えて同九年ドレフネー事件の結果、反社會主義的空氣が濃厚となるに及んで合同の必要が唱へられ、次いで同十月ゲード派の労働黨の提案に依つて第一次統一委員會が設けられた。然るに翌年當のミランがルソー内閣に入るや、賛否の議論が兩派に分れて労働黨(革命的社會労働黨)と社會主義労働同盟のマルソン派等が反對派、獨立社會主義同盟、社會主義労働同盟のブルジョア派外約三十地方自治聯盟が賛成者となり、茲に左右兩社會黨聯合が出現した而して、同年の總選舉には、左派が一人名、右派が三二名の議席を贏ち得た。然るに翌々年、アムステルダムに開かれたインタナショナル第二回大會に於て、左派を代表してヴィグイアニ、右派を代表してゲョーレが合同の意志を發表したに起因し、統一の氣運が著しく促進されて翌一九〇五年四月共同宣言を發して全國的單一無產政黨なる「統一社會黨」に合同したのである。首領はゲョーレで、彼は初め急進黨に席を置いてゐたが、各派の分子を統率して些の搖を見せなかつた。尤も之に對し、ミラン、ヴィグイアニ、ブリアン等は加らず、一個の寄合世帯たる「共和社會黨」を組織して今日に及んでゐる。此統一社會黨は其後次

第に黨員と議員とを増し、一四年の大戦勃發當時には黨員九〇、〇〇〇名を越え議員は一〇三名(總得票約一四)を算した。執れの國の社會黨も然りし如く、大戦に際してはフランス社會黨も参戦の可否に關して分裂を見ねばならなかつた。殊に非戦論のデヨーレが暗殺された結果、非妥協派のゲイ・ドヤサンバまでが戦時内閣に加り(間もなく去つたが)、非戦派は極少數に過ぎず、彼等は革命的サンディカリストと提携してナムメルワルド黨(同地に大會を開いた)と呼ばれた。此極左翼派に對してロンゲ一派が中央派、大多數はルノーデル、トーマ等の右翼派を支持した。

【近況】 社會黨三派の分裂は戦後に至つても提携を見られず、反つて溝渠を深からしめた觀がある。即ちロシヤ革命の成功に刺戟され、第三インタナショナル(モス)加入の熱度は著しく高揚し、代表者を派遣して調査せる結果、二〇年のツール大會で大多數を以て参加を決議したのである。そこで中央派と右翼派とは脱退し前者は第二インタナショナル(阿姆斯特ダム)、後者は第二インタナショナル(ロンドン)に参じ、暫くは左翼派の天下で黨員十三萬を算し(間もなく壓迫で、當時十八萬と稱せられた全黨員の大部分を引

込むことが出来た。然も二四年の總選舉には共產黨(極左)の得票數八七五、八一二、たゞ散票が多かつたので當選者は僅かに二九名(前回は二名)であつた。之に反して社會黨(中央右翼)は七四九、六四七の得票で一〇二名を得た。オッポルチュニストの寄合世帯たる共和社會黨は三六名であつた。而して二八年の總選舉では社會黨が一〇一名、共產黨が一四名、共和社會黨(大部分は)が四七名、ポアンカレ政府を支持する右翼聯合に對して再び敗戦した。一時の隆盛に拘らず、共產黨も社會黨も此不振を見たる一半の原因は、相變らず内紛を續けてゐることに存する。殊に共產黨にあつてはモスクワに對する不滿が絶えず、二二年前後二回、二三年に一回、二四年に一回といふやうに脱黨者が續出し、別個に「共產社會黨」といふ如き團體を組織し、依然たる内訌を續けてゐるからに外ならない。之に對し、最初の出發點が不利だつたに拘らず、社會黨が割合に勢力を盛り返し得たのは、共產黨の脱黨組が復歸するばかりでなく、C.G.Tとの聯絡を密接にして労働組合の支持を失はぬからである。が、執れにしても、共產黨も社會黨も今の所、極めて不活潑なる休息状態を續けてゐるといつてよからう。

フランス労働運動 【未組織時代】

空想的社會主義の思想家達を輩出したフランスではあるが、彼等と労働運動との間には何等見るべき關係も無かつた。唯一人ブランキは獨特なる革命的熱情に訴へて労働階級に進出し、リオンの織工暴動を指導したが(1831年)、これが同國に於ける労働運動の最初である。當時リオンには約四〇、〇〇〇の織物職工があり、彼等は一日十八時間の労働を課せられて、賃銀は僅か一志内外を得るに過ぎなかつた。値上要求を雇主側が拒絶したことに端を發し、警察も軍隊も手古ずるやうな騷動を演じた。斯うした状態は約十年も續き、各地に模倣騷動も起つたが、ブランキは悉く其等を指導した。とはいへ、此等は嚴密なる意味で労働争議といふを得ない。組合的の組織運動が開始されたのは一八六〇年代で、これも矢張マルクスの指導に基く。即ち一八六四年マルクスを中心とする國際労働協會の會議がロンドンに開かるゝや、フランスからも代表者を派遣して「労働者に依る労働者の解放」の思想を移入した。労働組合設立の氣運も斯くて促進された。然しパリ・コンミュニョンの一擧に失敗の結果、一切の社會主義的運動が鎮壓されると共に、労働者の集會や

結社も極端に壓迫され、資本家は「商工業者同盟」を結成し出した。之に對してバルブレなる者が「労働者同盟」なる組織を志し、一五の秘密組合を参加せしむることが出来た。勿論、當時にあつては労働者の團結は固く拒まれてゐたのであるが、秘密組合は既に一三〇餘を算してゐた。多くはイギリス流の労働組合主義に傾き、社會主義的なる其れは組合數に於ても會員數に於ても餘り有力でなかつた。たゞゲイドとかラファルグとかいふ有力なる指導者を有してゐたのが強味といへば強味であつた。此等の諸組合は七六年十月パリに大會を開き、八時間労働の制度や集會結社の自由を決議したが、バルブレ案の經濟主義を支持してマルクス派の政治主義には耳を假さなかつた。七九年のマルセイユ大會ではゲイド等の裏面的活動が奏效してマルクス主義を認容せしめたが、それも實は一時的の勝利に過ぎず、大體に於いてゲイド派(マルク)、ブルース派(改良)アルマン派(稍バクレーン)の三派が鼎立し、大會ごとに自派を優勢ならしむべく唯み合つた。其間に組合の發達も著しく、團結禁止の法律は一個の空文に過ぎなかつたので、竟に一八八四年三月二十一日、時の首相ワルデック・ルソーは該法の

解禁を餘儀無くされたのである。【組織時代】 團結禁止法の解禁と同時にルソー内閣は「労働取引所」の設立を計畫した。これは各大都市に設立され、労働の需要供給を調査する爲の公的機關であるが、一方、労働組合の行動を制限し、選挙の場合には労働者の得票を掻集めんが爲の必要から考案されたのである。然るに社會主義者達は此労働取引所を單位として各組合の聯合を圖り、まゝまゝと成功して全國的なる聯合を作ることが出来た。蓋し労働組合の全國的聯合は之より先ゲイドの提案に成る「全フランス労働組合聯合會」なるものがあつたが、階級闘争主義を露骨に掲げたので行動が自由ならず、爲に斯くは潜在的の方法が採用されたのであつた。取引所聯合の指導者はブリアンで、彼は九二年の大會で「生産的實力の同時的一般的停止」即ち總同盟罷業が最も有效なりと提議し、大會は之を認容したのである。ゲイドは「エトピア的思想」の故を以て難じたが、組合聯合會の多數は反つてブリアン説に共鳴し、取引所聯合との合同を要求するに至つた。斯くて九四年、ナントの労働大會はブリアンの支持するサンディカリズムを大多數で認め、ゲイドを中心とする一派を除外

したる後、やがて「労働者同盟」(C.G.T)の成立にまで發展せしめたのである(Cronaca)。けれども、C.G.Tは龐大なる全國的の組織であるから、温和派と革命派との抗争は常に絶えず、時にゲイド派の擾亂に遭つたりして動搖を續けて來た。(参照C.G.T)【最近の傾向】 總同盟成立以後のフランス労働運動史は殆どC.G.Tの運動史たるの觀がある。然るにC.G.Tたるや、過激たると温和たるとを問はず、組合の集中を避け、文字通りの聯合主義を達せんとして來た。組合資金の如きも成るべく少額とし、争議の勝敗如何などは餘り眼中に置かず、機會ある毎に大小の罷業を頻發せしめ、資本家を恐嚇し得れば足れりとする風があつた。これは革命的サンディカリストに指導された結果に他ならぬが、然し労働者の生活の現實的利害を中心とすれば、もつと組織的にして永續的對策を必要として來るに違ひない。そこでサンディカリズムは一九一〇年頃から次第に指導力を失ひ、ドイツの指導精神が歡迎されるやうになつた。即ち組合の大集中、罷業資金の増大、罷業の組合的維持策等が新に考究され出したのである。同時に統一社會黨との聯絡も密接を加へ、それだけ革命的情熱は稀薄になつ

たが現実的の強味は加つて来た。大戦の勃發に際しても、C.G.Tの大多数は主戦論に賛し、サンディカリストの機關紙なども一變して盲目的なる愛國心を發露し、大戦を中にして労働界の一般的空氣は著しく國家主義的に傾いてゐる。尤も當時マーハイム等の少数派はC.G.T内部にあつて最後まで非戦論を固持したが、大勢は竟に如何ともなし難く、分離して「労働同盟聯合」(C.G.T.U)を創設するに至つた。極左分子を排除したる後は、トーマの漸進主義的指導に依り、愈ドイツ的の堅實さに追隨しつつある。而して政治其者に對しても昔日の如き排撃的態度は執らず、寧ろ労働階級全體の地位改善には議會行動と經濟行動との併用を必要と考へ、其見地から社會黨を熱心に支持するかの如く、其點もドイツの労働組合と社會民主黨との關係を髣髴させるのである。

フランス労働總同盟 「シー・デー・ティ」を見よ。

俘虜

交戦者又は交戦國の元首、國務大臣、交戦者など軍事的に重要な地位にある者が敵の権内に入り抑留されたものをいふ。然し交戦者でない人民でも俘虜となることがある。俘虜は再び本國に歸り戰爭にかつたかを窺ふことが出来る。「ブルジョア」此語は、パリ以外の地に於て餘り知られてゐない。それは富の怪物である。黄金に對する感情の外には、何等の感情をも有せざる人を謂ふ。……彼等は我等の貨幣を悉く隠匿してしまつた。」以て一半を察知し得るであらう。

【成立】 現代的意味のブルジョアの出現は歴史的に見れば産業革命以後である。即ち産業革命に依つて齎された機械充用の生産方法が巨大なる資本を必要ならしめたる結果、これが出資を目的とする社會階級の出現を促すに至り、現代的意味のブルジョアの本質が決定されたのである。從來の家内工業時代にあつては生産要具として單純なる器具道具を使用するに過ぎず、自宅を仕事場として二三の兼業をなすも不可能となかつたが、機械充用が奨励されてからは到底斯うした單純なる形式の持續を許さなくなつた。即ち、機械を最も有利に使用する爲には出来るだけ多くの職工を同一工場内に收容し、一定の時間だけ之を連續的に使用する必要があり、且又註文を俟つて初めて生産に従事するといふやうな緩慢なる方法は採つてゐられなくなつた。其爲には當然に巨大なる資本を必要とするが、然も

加ることを防止する目的で抑留するのであるから、其目的の爲には一切の手段が行はれる。俘虜を抑留する國は自國の軍隊に於けると同様の待遇で俘虜の位階に應ずる給與をなし、後に俘虜の本國より賠償を受けると權利を有し、下士以下に對しては勞役を課することが出来る。勞役に對しては一定賃銀を拂ひ、俘虜の所得とする。俘虜は抑留國の軍律に依り規制され違背行爲があつた時は各國定むる所の刑罰を適用される。俘虜は逃亡若しくは解放に依り自由の身となり得る。解放には單純解放と宣誓解放とあり、前者は抑留國が自由意志に依つて何等の條件無く解放するのであるが、後者は解放はするが戰爭中再び戦線に立たざる義務を負担せしめて解放するのであつて、兩國の協定に依つて定るのである。俘虜を交換したい時には單純解放と同一の結果になる。又戰爭が終熄すると同時に俘虜たる身分は消滅するが、引渡が済むまでは俘虜として抑留される。以上は現代に於ける國際法上の俘虜に關する條件であるが、抑も社會の生産方法が未だ發達せず、交戦團體の經濟がやうやく自給自足を維持し得る程度に止つてゐた間は俘虜なる者は存在せず、捕へた敵は直に殺すのが通常であつた。而

斯る巨額の費用は各人が自辨するわけに行かないので此に費用の出資者と事業の經營者と二つの分業が生じたのである。資家と企業家との分別はそれであつた。所で斯る巨額の出資をなし得る者は、いふまでもなく、當時のブルジョアの中でも富裕者に限られてゐた。大多數のブルジョアは大資本に依る大經營をなし得なかつた爲に已むなく自己の勞力を提供して賃銀を得、それに依つて生計を維持しなければならなかつた。唯商才其他に恵まれた少數者が僅に企業家として殘留し得たのみで、大多數のブルジョアは從來のプロレタリア列群に轉落してしまつたのである。今日で謂ふブルジョアとは、斯うした篩ひ落しに殘された少數者を意味する。

【特質】 經濟學的乃至社會學的にブルジョアの特質を分析し解明することは困難である。然しそれなりに、地代、利子、利潤等の不勞所得に依つて富裕に生活する者がブルジョア、自己の勞働力(筋肉的的)を賣つて貧弱に生活する者がプロレタリアといふ解釋が一般に行はれつゝあるもの如くである。マルクス主義者の見る所も大體之と五十歩百歩の相違を出でない。蓋し、資本制生産は資本の次第なる蓄積と集中との結

して漸く生産方法が發達し來るに隨つて俘虜を奴隸として使役せしむることの利益が理解されたのである。然るに近代に至つて經濟は複雑微妙となり生産方法は非常なる發達を遂げ、勞働力の不足を感ずるよりも寧ろ過剩を告げる状態になり、俘虜を奴隸とする必要は毫も無くなつたのである。

ブルジョア 【意義】ブルジョア(Bourgeois)の本來の意味は貴族、僧侶に對する奴隸ならぬ「自由民」を謂つたのである。語義的に見ても、Bourgeois(城堡)を圍繞して成立したBourgeois(都市)の「市民」といふ意味を出でず、單なる社會的身分を表した語に他ならなかつた。封建時代に於ける階級的類別は、僧侶を以て第一階級とし、國王、貴族、諸侯を第二階級とし、此兩階級が當時の上流階級であつた。市民町人の一團たるブルジョアは即ち第三階級、これがいふまでもなく中流階級、下流の賤民奴隸は輕蔑の意味を以てプロレタリアと呼ばれ、最低部の第四階級を形成してゐたのである。其ブルジョアが現代の所謂「資本家階級」の意味に用ゐられ出したのは、第十九世紀も中葉以後のことに屬する。一八〇二年に刊行されたメルセルの『新語辭典』に依れば、此語が如何に局部的にしか用ゐられな

果、より少數の資本家貴族に富を獨占せしむるが故に反面により多數の労働貧民を出現せしむるの餘儀無き状態に導き、有らゆる中間的階級の存續を不可能として、此にブルジョアとプロレタリアとの二大列群を對峙せしむるといふのである。純粹なる不勞所得の上に成立するブルジョアと、反對に純粹なる勤勞所得の上に成立するプロレタリアとは有らゆる利害に於て背反しなればならぬ。即ち、ブルジョアはより多くプロレタリアに依る労働結實を搾取せんとし、之に對するプロレタリアの反抗運動が助長される結果、次第に階級闘争の現實的基礎が展開され、竟にブルジョアに依る産業的・政治的支配は熄滅してプロレタリア本位の新社會が到來すると説くのである。

【階級闘争】右の見解を持つマルクス主義者(參照)に取つて、ブルジョアとは自己の利潤獲得のみを眼目とする階級であり、有らゆる機構を通じてプロレタリアの支配を確保し、以て彼等の經濟的搾取に貢獻せんとしつゝあると説くのも當然であらう。

浮浪 日本の王朝時代に貫籍を離れて他國に流浪する者を稱して浮浪人といひ、略して浮浪、浪人ともいつた。土着の民と併稱して土浪といひ、逃亡人と併稱して浮

逃といつた。逃亡人は他國に行つて調、庸の納付を怠る者、浮浪は其義務を果す者として兩者區別せられたのであるが、事實上他國に浮浪する者も納付を怠るに至るは自然の成行であつて、兩者の區別は混同せられ、竟には他郷に流浪して課税を怠る者を汎稱して浮浪といふに至つた。

不勞所得 自ら勞働すること無くして生ずる所得。即ち土地や資本より生ずる所得を初め、恩給、養老傷害保険などより生ずる所得は咸く之を不勞所得といふことが出来る。土地を所有する者は其所有地に何等改良の手段を執らず、單に所有するだけで地代を收得する。又貨幣を所有する者は之を株式に代へて配當金が得られるし、公債や社債に代へ、或は他に貸金することに依つて利子が得られる。此等は自ら勞働せずして得たる意味で、明白に不勞所得といふことが出来る。不勞所得には又自ら勞働の報酬を得たやうな場合、例へば會社の重役などが賞與の名に於て過分の報酬を得るやうな場合がある。

プロフィンタン 赤色勞働組合インターナショナルの略稱。
プロミスキイテイ 亂婚制と譯す。人

類の婚姻上にプロミスキイテイ(Chromiscenty)の時代があつたか、どうかといふことは社會學者の間に種々なる議論の存する所である。パッホーフェンが初めて此無規律性交時代を指摘し、之をヘテリズム(娼婦制)と呼んで以來斯る時代の存在を主張する學者が多く、モルガンの如きは現存未開人の研究に依つてプロミスキイテイのあつたことを強調してゐる。プロミスキイテイの存在はラボック其他も認る所であり、社會主義學者であるエンゲルスも亦之を支持し、今日では殆ど否定すべからざるものとされてゐる。蓋し人類が禽獸と同じく全然無規律なる性的生活をしてゐたと考へることは倫理的に許されざる所だからであらう、否定的主張を探る學者も決して少くない。ウエスターマークの如きは、例外的なる現象を集めて、人類の婚姻史を一貫するものが一夫一婦であるとし、サムナー・メーンは比較的高等型に屬する未開人の状態を根據としてプロミスキイテイを否定せんとしてゐる。勿論、今日の倫理觀から見ても、亂婚時代の存在は許すべからざることである。けれども倫理觀其者が歴史の產物であり、總ての人類が原始時代に斯る状態を通過したであらうことは多くの證據があるのだから、倫理的判斷は兎に角として之を認めなければならぬ。我國の太古にも此時代が存したであらうことは臆げながら窺はれるのである。

プロレタリア(Proletariat) フランス語にしてラテン語のプロレタリウス(Proletarius)から出た。プロレタリウスとは子を産む外に國家に貢獻することの出来ない人々を指す語であるから、プロレタリアも初めは極度の貧窮者を意味してゐた。けれども轉じて今日では何等の資本を所有せざる者即ち無産者を意味するやうになつてゐる。プロレタリアといふ語が多くの場合無産階級と譯されてゐるは其爲である。蓋し資本主義社會に於ける無産階級は資本を有せざるが故に資本所得を得ることが出来ない。彼等は其生活を支へる爲に知識的乃至肉體的勞働力を賣る外は無ないのである。そこで彼等の大部分は必然的に賃銀勞働者となるわけである。故に今日では勞働階級といふ語とプロレタリアといふ語とが同一の意味に用ゐられることが多い。此意味はプロレタリアの大部分を占める者が賃銀勞働階級だからである。そして等しく無産者でも、社會的地位を喪失せる人々即ち浮浪人、乞食、放浪者などはルンペン・プロレ

タリヤ(舊無産者)として、純粹の形態に於けるプロレタリア(勞働階級)と區別することも多いのである。

プロレタリア窮乏説 「勞働者窮乏説」を見よ。

プロレタリア文學運動 【歴史】 プロレタリア文學運動の目的に就いては、様々の主張がなされてゐて歸一する所が無い。然し大體に於て、階級闘争の一局部戦としてブルジョア文學との決勝を試みつつある文學だとして差支ないだらう。プロレタリア文學運動が表面に現れて來たのは大正十年の末であつた。即ち當時創刊された文藝雑誌「種まく人」の一團が國際主義と反軍國主義とを指導精神とする文學運動を起したのである。此一團はやがてロシアに於けるプロレトカルト運動を輸入し、ブルジョアの教育、藝術、道徳、科學に對して、プロレタリアの教育、藝術、道徳、科學等を對抗せしめ、一切の文化の上で階級闘争を行はねばならぬとした。これが所謂プロレトカルト運動である。彼等は文藝の領域だけに止つてゐず、對支非干涉運動、ロシア饑饉救済運動なども起した。大正十一年の頃には、他にもプロレタリア文學を提唱する者が現れ、プロレタリア文學

雜誌が繁生したけれども、大正十二年の關東大震災と共に一時火の消えた如くなつてしまつた。大正十三年に至つてプロレタリア文學運動は再び現れ、文藝戦線、戰闘文藝等の諸雜誌も刊行されることになつた。其後、上述の兩プロレタリア文學雜誌の同人を中心として日本プロレタリア文藝家聯盟が組織された。が、昭和二年四月に此聯盟は二つに分裂し、脱退者側は新に勞農藝術家聯盟を組織した。然し、勞農藝術家聯盟も亦内部の紛争の爲に分裂し、之を脱退した者に依つて前衛藝術家同盟が作られたのである。此等の團體が今後如何に再分裂を續けて行くかは一寸豫測することが出来ない。尙此外にアナキズムを信奉する文學者の運動も行はれてゐる。

【社會的意義】 初期のプロレタリア文學運動は、淺薄なる社會主義的感情と文壇的野心との結合したものだつた。構成分子の多くは文壇に於ける不遇なる地位にある人々か無名の文學青年かであつた。然し社會主義的思想が廣く浸潤して來ると共に、勞働階級中の知識分子や青年學生等の間からも之を支持する者が現れ、いつしか無産階級の實際運動と結着くことになつた。そこでプロレタリア文學運動の内部に無政府主義

の其れを意味してゐる。現に文化主義といふ語などを見れば、餘りに物質的價値を偏重する傾向に對して精神的價値の尊重を説く一派の主義を斯く呼ぶやうである。尤も文化主義といふ語は、通俗的でない學術的の用語としても、文化の上に立脚し且又文化價値の實現を目的とする世界觀、即ち新理想主義の別名として通用してゐるが、此點に於ては圖らずも通俗的理解と一致せる部分も認められる。之に反して、文化生活なる語の如きは生活上の種々なる享樂を高尚に且上品に満して行くことに用ゐられ、西洋的なるハイカラの生活、換言すれば物質的幸福を内容とした場合に用ゐられることもある。要するに、文化なる概念其者が明確に決定されてゐない爲に、斯くは用語の亂雜を來したものと思はれる。然しそれなりに文化生活といふ語の意味が酒池肉林的贅澤を指示せず、或精神的幸福を半面に想像せしむる限り矢張物質的なる其れの對蹠的概念をなすものと解して差支ないであらう。

文化國家(Kultur-staat) 形而上學的國家とも呼ばれ、ヘーゲルに依つて樹立された國家觀である。彼に依れば國家は個人の意志を超越した客觀的の意志であるといふ。

も他の一方、労働階級の貧窮を彌が上に深刻ならしめたことは前述の通りであるが、更に又労働其者の苦痛を甚しからしむるに至つた。蓋し、同一の單純なる作業を反復することは常に労働に習熟する時間を減少せしむるのみならず、労働することの悅樂を喪失するの結果を招くが爲め人間を機械の附屬物たる位置に引下げてしまつたからである。此の如く労働に熟練を必要としなくなつた結果、老幼婦女も労働に堪へ得ることになり、成人男子と共に彼等をも労働場裏に驅り立たしめた。そこで需要以上に供給過多となり、相互の競争を愈激甚ならしめたので、受取るべき賃銀を相對的に低下せしめ、貧しき者を愈貧しからしめるに傾かしめた。そこで勢ひ老幼婦女をして愈労働場裏に赴かしめねばならず、斯くて彼等の健康と家庭とを破壊すること著しく、爲に人道の見地から労働者保護の國家公共的施設が叫ばれるやうになつたのである。此の如き労働階級の悲惨は直接間接に分業の齎した反面的害害に他ならない。

文明 學問上の術語としてではなく通俗的の用語として用ゐられる場合が多い。元來、イギリス語のシヴィライゼーションを字義的に見ると、ラテン語の「都會」(Civitas)か

ふ。即ちそれは個人の意志の如くに、有限でもなく、不能でもなく、不合理でもなく、相對的でもなく、全く無限にして眞理、合理的にして絶對の存在である。隨つて國家は自由である。國家の法律とは此自由の發現に他ならない。故に個人は國家に絶對服従することに依つてのみ客觀的、合理的、無限的、絶對的の眞意志に合致し得るのである。ヘーゲルは此國家觀に出發して竟に文化國家の觀念を創成した。即ち彼は此の如くして國家をば文化の擔當者と認め、世界を擧げて此文化國家の下に光被せんとしたのである。然しヘーゲルの斯る國家哲學は當時のプロイセン國家を理論的に肯定する爲に與へられたといはれてゐる。即ちヴォルフが絶對主權の理論の代表者となつたやうに、カントが法的制度としての國家の辯護者となつたやうに、彼の法理哲學は國家を道徳力の最高代表者と認めることに依つてプロイセン國家の發生及び完成を説く哲學であつた。此觀念がやがて歴史の回歸説と結び、ベルンハーディーの軍國主義と結んでドイツの世界統一策が妄想的に築き上げられたといはれてゐる。

分業 定義は學者に依つて異なるが、要するに、一箇の仕事の各部分が異なる人々

ら出たもので、單に「都會化す」といふ程の意味を出でない。ウォードは「純正社會學」に定義して「文明とは自然的なる物と力との利用である」といふ。即ち自然力及び物質に人工を加へ、以て人間の充用に適應させることを意味する。隨つて文明の基礎は生産であり、生産の發達と文明の發達とは等視せられる。現にフリーエの如きは文明を斯く物質的經濟的なる意味に解し、彼の思想特有なる文明呪咀の哲學を展開してゐる。又シュベンゲラーの如きも所謂「文明の没落」を説くに當つて、西洋文明の物質文明の意味に解した。斯る物質的の其れに對する精神的の其れは、今や「文化」の語に依つて對蹠とされつゝある。

文明病 物質文明が發達した結果、精神の健全が破壊されて往時には見られなかつた異常者が甚だ多くなつた。元來、文明病とは斯る特有の精神異常を總稱するのであつて、必しも肉體的病氣を意味するのではない。廣い意味の神經衰弱は正にそれに該當すべく、西洋では特にデカダンの意味に用ひてゐることもあるやうである。意識の無限なる分裂を以てデカダンの特色とすれば、文明病的要素の最も多量なることが知られよう。

に依つて分擔遂行されることを意味する。隨つて廣義的分業には政治家、學者、労働者、商人、農民といふ如き社會的分業も含まれるが普通には一作業内に於ける技術的分擔を意味する。分業に關する學說の大成者はアダム・スミスであつた。彼は生産技術の發達が次第に分業の細目化と複雑化とを助長すべき徑路を詳述し、其結果が如何に驚くべき程度に生産力を増大進展するかそして又如何に驚くべき程度に國民幸福を増進するかを暗示した。然し分業の發達はスミスの豫想を遙に突破し、且生産力も著しく増大して近代資本主義の魔術的なる發達に非常に貢獻したのであつた。けれども彼の豫想した「一般的國民の富」は少しも増殖されず、より少數の人々に富を獨占させはしたが、より多數は次第なる赤貧に陥没せしめられ、少數ブルジョアと多數プロレタリアの階級對立を促進したに過ぎなかつた。此事實を前にし、マルクスはスミスの分業説を修正して「協業に依る分業」説を説き、延いて彼の特異なる經濟説を發展せしめたのであつた。それは兎に角機械器具の發明は労働技術を偏し、極度に作業内部分業を促し、同時に物質的富の生産力を極度に大ならしめたのは事實である。然

部

部 日本の古代に於て存在してゐた部族團體で、又伴ともいふ。部には中臣部、忌部、物部、鍛冶部、玉作部、石作部などと呼ぶ特殊の部族的職業を有するものと、皇后、皇子等の名を後世に傳へる爲に設けたもの即ち與代名代などの如きものがある。前者は部の原始的なるものであり、後者は比較的後代に血縁的團結の形態に準據して作られたものである。又之を組織の上から見れば蝦夷、海人等の原住民族から成るものと、朝鮮、支那から渡來した歸化人から成るものと、更に天孫民族に附屬して來た血族團體とに分つことが出来るのである。(參照)

米價調節 政府の力に依つて、米價の高低を人為的に調節する政策を謂ふ。日本人の如き米食國民は、米價が高きに過ぎる時は消費者の生活を脅威し、反對に廉きに過ぎる時は生産者(地主)を脅威するので、米價を一定の標準に於て維持することは國家として當然の措置でなければならぬ。元來、米價は豊凶の自然的原因に依つて高低すると同時に他の物價の高低に依つても浮動を免れないので、一律の公定價格を附す

ることは困難である。かくそれなりに、一定の標準を維持し、餘り高すぎもせず、廉すぎもせず、消費者にも又生産者にも公平と思はれる程度に米價を釣り上げ、若しくは又下げることに米價調節の必要が認められる。例へば田中内閣に於ける山本農相が米價の低落を防がんとし、五、〇〇〇、〇〇〇石の買上げをしたるが如き、或は原内閣が常平倉を創設して民間の米の吸収をなし、以て標準米價の維持を企てたる如き、孰れも調節的意義を完うせんとする政策であつた。米價の調節は更に法律命令に依つて施行される場合もある。大隈内閣當時には米價は低落して際限なき爲に之を施行し、次の寺内内閣に於ては米價の暴騰を防がんとして、買貯め賣惜みを嚴罰する命令を發した。所謂「暴利取締令」であつたが、其効果は餘り香ばしくなく、やがて「米騒動」を勃發せしむることになつた。此の如く一時的の米價調節に依つては根本的の米價對策を講じ得ず、僅に目前を糊塗するに過ぎざるを以て、近時漸く米穀國營を論ずる者が多くなり、煙草の如く鹽の如く之を政府の專賣に移して大規模にし、永久的なる米價の維持調節を圖るべしといふ議論が聞かれる。然しこれには實際問題としては幾多

の實行上の困難も豫想されるが、米を常食とする國民として、米價の變動に依つて蒙むる迷惑が少くない限り無理ならぬ要求とも思はれる。

平均利潤率 「利潤」を見よ。

米國社會主義運動 【空想的社會主義】 一八二〇—三〇年代のアメリカは、空想的社會主義者の實驗室であつた。ロバート、オーウェンとシャルル・フーリエ派のファンタズ、エティアンヌ・カペーのイカリア等は、孰れも彼等のユトピアの實踐的施設に他ならない。先づオーウェンを見るに彼は一八二四年に渡米してインディアナに十二の理想郷を建設し、約二十年の命脈を保つたが、男女關係の問題で計畫の進行を阻害されてしまつた。其流を汲むライト女史がテネシー州に移植を試み、十數箇のニュー・ハーモニーを建設したが、これも永續しないでしまつた。フリエ派の理想郷は、ニュージャナ外八州に建設され、一時はなか／＼の騒であつたが、一八四六年には最後の一ファンタズまで解散してしまつた。カペーのイカリアは主としてフランス系アメリカ人達に依つて組織され、年月にして五十年程續き、最も命脈は長かつたが、これも最後は一種の宗教團體として存続を

繋いだに過ぎなかつた。此の如く空想的社會主義者達の描いたユトピアは學理的に實踐的に孰れも失敗したが、此等の思想はアメリカの初期社會主義運動に直接の貢獻を與へないまでも、少からず間接の寄與はなしたと見られる。プリズベーン、グリーレー等は彼等の思想の繼承者であつたが、彼等の多くは知識階級であつた爲に進んで労働階級の實際問題に手を觸れようとはしなかつたやうである。故に現在の意味の社會主義運動は、此等空想的社會主義の一派とは別箇の系統から出發したと見るのが妥當であらう。

【社會労働黨】 アメリカにマルクス派社會主義を最初に移入したのはウィリアム・ワイトリングであるといはれる。彼は元來空想的社會主義者であつたが、マルクスやエンゲルスと深く交り、一八四六年にアメリカに渡つてから社會主義に關する著述や雜誌を發行し、ドイツ移民を中心としてニューヨークに労働組合中央委員會なる社會主義團體を組織した。此團體には本國に於てマルクス主義の洗禮を受けた多數のドイツ人も加り、インタナショナルとの聯絡も開かれ、ドイツ人以外の人種をも加へて、一八七二年「北アメリカ社會民主労働黨」な

る社會主義政黨を結成したのである。當時猶黨内にはマルクス正統の國際主義者とラッサレの系統を引く政治主義者との二派があり、兎角紛争が絶えなかつたが、やがて七七年「北アメリカ社會労働黨」と改稱して後革命派と溫和派とに對立して抗争してゐたのである。それは別問題として社會労働黨と改稱してからは積極的運動に進出して労働組合（労働騎士會と總聯合）の社會主義化を専念したと思ふに委せず、依つて「社會主義職業労働同盟」なる組合を作つて對抗せんとしたが、會員は總計で一萬人にも達しなかつた。一方一八七九年無政府主義者ジョン・モストを首領として「革命社會主義労働黨」が成立するや、極左的分子は之に吸収せられ、極右翼のラッサレ派も脱退を聲明して前途を頗る悲觀されつたあつた折、ドイツ社會黨の名士リープクネヒトがマルクスの娘をつれて來遊し、各地を演説して宣傳に力めた結果、一八九九年には全國三〇州に三五〇の支部を設置し得るまでに發展した。が、又もや吉例の内訌に見舞はれ、一派は分離して別個の「社會労働黨」を稱し、殘黨はダニエル・デ・レオンが統率して他方の「社會民主黨」と對抗し、マルクス派の正系をアメリカに傳へ

たのである。然も彼の死後(1882)、労働黨(他方の社會黨に對)は又もや左右に分裂し、左派はモスト及びエンマ・ゴールドマン女史等の無政府黨に走り、彼及び彼女が國外に追放されるや、I.W.W.と共同職線を張つてゐる。

【社會黨】 ダニエル・デ・レオンの社會労働黨と別派の勢力に尙一つ社會民主黨といふのがある。これはエリチエン・デヴスの率ゐる政治團體で前者に比較すれば溫和派の立場を支持してゐる。社會労働黨は前述したやうに主としてドイツ移民を中心として組織され、インタナショナルを主義とするに對し、ナショナルリズムを奉ずる社會運動が中西部地方に起された。此運動の起原は一八九五年頃だつたが、次第に勢力を増大して政黨運動に進出する爲に一八九八年に大會を開くことになつた。會議の結果、これも吉例に依り政綱に關して二派に意見が分れ、デブス及びバーカーを中心とする一派は脱退して「アメリカ社會民主黨」なるものを組織し、マサチューセツト外九州に於て多數の州議員を當選せしめ得て、一九〇〇年インディアナポリスに第一回の全國大會を開いた。此大會に於て、三年前に社會労働黨から分離したローシエヌターの社會

労働黨と合同することに決定し、戰の門出に、大統領候補に社會民主黨側のデヴス、副大統領候補に社會労働黨側のジョブ・ハリマンを推したが、結果は意外に一〇〇、〇〇〇餘の得票があり、不和を仲直した兩黨は「社會黨」と改稱して完全に合同したのである。社會黨の大統領候補者として一九〇四年に再びデヴスは立つたが、此時は前回に四倍して四〇〇、〇〇〇票、一九一二年には一、〇〇〇、〇〇〇近くの投票が得られ、同二年にも殆ど之に近い得票があつたのである。が、黨員は最も多かつた時で十萬内外であり、大戰當時スバルゴ一派が主戦論を唱へて脱退し、一九二五年の調査では四六、〇〇〇だといふ。それでもアメリカの社會主義政黨では右翼派たる社會黨が第一位、第二位が左翼共産黨の四〇、〇〇〇弱、最下位が中央派たる社會労働黨で一四、〇〇〇、孰れにした所でヨーロッパ諸國の類似政黨には足元へも寄り着き得ない。因みに、左翼共産黨の分子を構成するのは主としてI.W.W.の會員であり、彼等は其最初、著しくフランスのサンディカリストと接近してゐたが、ロシア革命成立後各國の斯うした極左分子がコミニズムを信條とせると同じ徑路で、第三

インタナショナルに屬してゐるのである。
(「アイダブリー」尙最後に、アメリカ社會黨はデヴスの隠柄後、従来の傾向たりし温和派と過激派との乖離を著しからしめ、且將來の新しい分裂を招きさうな危険がある」と傳へられる。即ち前者の勢力はデヴスの系統に屬するハンクフォードが代表し、後者は罷業指導の鬼才ヘーウッドが代表してゐる。然もヘーウッドの勢力は今や遙にハンクフォードを凌ぐといはれるから、若し社會黨にして新しい分裂を來たさば、過激派の一味は共產黨に走ることと思はれる。従つてデニエル・デ・レオン無き社會労働黨も年々の凋落は一部の共產黨参加を豫想せしめつゝある。

米國鐵道從業員組合 アメリカに於て労働聯合會に次ぐ世界的大組合。通常斯く總稱されてゐるが、實はビッグ・フォアと呼ばれる四大組合の聯合である。先づ第一に機關士組合。これは一八六三年の組織で、最初は火夫并に機械工をも含んでゐたが後に分離した。創立者はロビンソン。後アイサーが組合長となるに及び勢力を増大し、會員は九五、〇〇〇を算する。本部をクリイヴランドに置き、現在ではワイレン・ストーンなる者が組合長である。此組合は可

也保守的で、其組合員が他の組合に入ることを嚴禁し、労働條件の改善を唯一の目的としてゐる。第二は車掌組合、アメリカばかりでなくカナダ、メキシコの列車車掌まで加へ、會員は約六〇、〇〇〇、會長はシエバード、一八七九年の創立、本部をアイオリ州の小都市に置く。第三は機關士組合の分身たる火夫及び機械工組合。然し會員は前者を凌いで一〇六、〇〇〇。一八七三年の獨立以來歴ストライキを試みて組合員の地位向上を圖り、四組合の中では最も戰闘的且進歩的である。といふも道理、一八八〇年からエーデン・デヴスが會長に選ばれ、能く罷業を指導したからに他ならぬ。デヴスは有名な社會主義者で前後四回社會黨から推されて大統領候補となり、最後の時などは非戰演説の罪に問はれて十年の懲役に處せられ、恰も入獄中であつたが獄中から運動を指揮し、それでも一、〇〇〇、〇〇〇の得票があつた程の名物男である。機關士組合の保守的態度に嫌らずして分離したのも、實は彼の指金に他ならなかつた。彼の最初の希望は労働聯合會に對抗する進歩的大組合を設立するにあつた。同時に或程度までビッグ・フォアの宛然たる指導者となり得て、相互の組合の聯絡を密

接ならしめ、一の組合が罷業すれば他の三組合が擧げて同情罷業に参加するといふ攻守同盟を確保し得たのである。一方外部の釋放運動が奏效し、彼は一九二一年のクリスマスに出獄したが、今では寄る年波を故郷に閑居し、クリイヴランドの本部とは表面上の交渉を絶つてゐる。現在の會長はロバートソン。第四の列車乗務員組合は主として轉轍手と構内從業員とを收容したもので、一八八三年の創立、本部は同じくクリイヴランドにある。會員數一八〇、〇〇〇を算し、所謂ビッグ・フォアの中でも最大の組合である。會長はリー。以上の如く總稱して鐵道從業員組合といふものの、内容は獨立せる四大組合の友朋關係に過ぎない。機關士組合の如きは最近の傾向として聯合拒否の態度を示しつゝあるから、現在も將來も萬事に一致的行動を執ることは期待されないかも知れぬ。

米國の救貧事業 貧民救済の公共的施設に於てアメリカは列國の企て及ばざるものがある。國家としては兎に角、各州は執れも特色的の救貧施設をなし、更に此事業を統轄する社會局が各都市の社會課乃至慈善課と協力して各種の救済機關を指揮監督しつゝある。元來、アメリカの救貧施設は

労働し得る者と労働し得ざる者との二種に分ち、前者に對しては、若し失職の故ならば職業紹介所に依りて收入の途を講じ、其外の原因ならばそれ〴〵公共的補助の方法が設けられてゐる。若しそれが労働に堪へ得ざる不具廢疾者とか、或は孤兒とかの救済設備に至つては、さすがに慈善國民を以て任ずるにふさはしきものがある。例へば盲人救済事業を見るに、彼等は法律に依つて生活を保障されるのみでなく、希望者には公費を以て高等教育を授け、且生活上獨立し得べき職業まで授けつゝある。白痴、狂人等は姑く問はず、癩病及び肺病患者の救済も、一、二州の例外を除き、咸く公共的の施設を遺憾無からしめ、孤兒に對する救済事業の如き、特に中部及び東部の諸州に於ては州が直接に彼等の監督に任じて教育を授け、且獨立し得るまでの生活を保障してゐる。以上は公共的施設だが、此外に個人的慈善施設が甚だ多く、其費用は公私を合計して一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗以上に達するといふ。細民貯蓄組合、細民貯蓄銀行の如き事業もアメリカが最も理想的だといはれる。

月四日、其以前から幾度か獨立を請願したが容れられず、竟に北部十三州は植民代議士會を設立し、ジョージ・ワシントンを總督に推戴して獨立を宣言するに至つたのである。此「獨立宣言」なるものはフランスの「人權宣言」を模したものだといはれるが、後代の民主的運動を刺戟するに甚だ効果あり、右の「人權宣言」と共に重視すべき文獻とされてゐる。次に眼目とすべき部分を描記しよう。「……人類は平等にして天賦の權利を有す。生命、自由、幸福に對する權利の如き、其最も重要なものなり。政府は此等の權利を擁護せんが爲に組織せられしものにして、其權力の淵源は一に人民の合意にあり。故に政府にして、其目的を謬り、其權能を完うし能はざれば、之を變改して更に人民の安寧を保持し、福利を増進するに適當なる主義組織を以て新政府を設立するは、元より當然なる人民の權利ならずんば非ず。たゞ一旦、政府が建設せられ、年所の久しきに互るや、其改革は容易に斷行し得ざるを以て、政府の施設が義に背き理に反するも、力めて隱忍して其統治を甘受する事例は吾人も屢目睹する所なり。然りと雖も、施設兇暴にして天道に反り、民情を虐げ、專擅壓制を恣にせんとす

るに於ては蹶起して政府を顛覆し、以て人民の安泰を將來に保持せんとするは實に人民の權利にして義務たるべきなり。……」
米國労働運動 各國の労働運動は執れも社會主義運動と提携して發展したが、アメリカの其れは稀に見る例外にして、寧ろ社會主義運動と抗争して來た部分が多い。尤も中にはI. W. W. の如き極左の團體もあり、デヴスの率ゐる穩健社會黨的團體もあり、必しも全部が全部、社會主義排斥に終始したわけではないが、代表的組合たる労働總聯合會が會長ゴンパースの執拗なる反社會主義的態度を支持して來たことと、アメリカの労働階級が現實の生活苦を知らざる爲とで、社會主義運動は昔も今も甚だ不振である。尤も遙か昔は、オーウェンにしてもフリーエ派にしても、又カベリーにしても、遠くアメリカに渡つて理想郷建設を企てたので、空想的社會主義の萌芽は各國に先行して存在したのであつた。が、これは寧ろ一種の宗教團體と見られるもので、相續いて彼等の計畫が實踐的に失敗してからは、アメリカは社會主義と最も關係の薄い國となつてしまつた。それは兎に角、アメリカに労働組合が組織され出したのは南北戦争以後のことと屬する。即ち其結果、奴隸制

度が廢止されて自由労働者を使用するやうになり、且一方、富源が潤澤なる爲に工場制生産を大規模に行ひ得たので、各種の産業に使用労働者の數を激増すると共に、此等労働者の組織を各方面に採用せしめたのである。第一聲を揚げたのがフィラデルフィアの建築工で、十時間労働を要求して一八二七年に團結した。これが機械工に移りニューヨーク州からニュー・イングランド諸州に及び、殆ど流行的に各地に小組合の發生を促し、州知事若しくは州議員の選舉の時などには候補者を出して争ふといふ所まで發展した。同時に此等小組合の聯合運動も進展し、一八三三年にはニューヨークの二十三組合、翌年はボストンの十六組合の聯合が行はれ、更に一八八八年には此等の全国的聯合たる「國民労働組合」が成立したのである。尤もこれは二年にして解散してしまつたが、一時は六四〇、〇〇〇の會員を擁し、十時間労働の看板を八時間労働に短縮すると共に労働統計局の設置を要求してゐた。續いて組織されたのが有名な「労働騎士會」である。これはフィラデルフィアの裁縫工リリア・ステイヴンスの組織せるもので、最初は裁縫工だけの秘密結社であつたが後には總ての労働者を歡迎

せる所から、一八七六年には各州に百箇の支部を設け、テレンス・バウダリー(移民局長)が指揮するやうになつてからはストライキを武器に積極的な活動を開始し、一八八六年には會員七〇〇、〇〇〇と號する程の勢力となつた。然るに其年に大規模の鐵道罷業をなせる爲、壓迫を蒙り、次第に會員を減少して一八九〇年には一〇〇、〇〇〇に激落し、ソヴァレインが首領となつて社會主義と提携するに及び、一九〇〇年代に入らずして滅亡した。一方より先、騎士會の態度する一派は、ゴンバースを中心として労働總聯合を組織する、騎士會脱退の一部は鐵道従業員組合に獨立するといふ状態であつたから、必しも騎士會の滅亡が労働運動の衰亡を意味せざりしこといふまでもない(「エー・エフ・エル」及「米」)。其後の労働運動は社會主義運動と全く分離して今日に至つたが、尙社會主義的の一味はI.W.W.として結束し(「アイ・ダブル・エー」)、職業的組合の破壊に努力したが、期待の如き効果を擧げ得なかつたのみでなく、現在ではこれも有名無實のものとなつてしまつた(「アイ・ダブル・エー」)。アメリカの資本主義は世界の驚異であるが、然もアメリカの労働階級は此驚異すべき資本主義の恩澤を蒙つて生活上の苦悶を免れ

得るので、現在は元より將來と雖も、革命的行動に移ることは容易にあるまいと見られてゐる。

平民圖書館

圖書館は主として學術的の圖書を備附けるものと、一般民衆向の性質のものとの二種を區別し得る。今日普通圖書館といつてゐるのは前者に屬する。そこで特に一般民衆の讀書趣味を喚起し、教養を高めるに適した通俗的な圖書館の設立が要求されるに至つたのである。農村などで青年團の如きが小規模の圖書室を設けて夜間若しくは業務の餘暇に讀書の便に供するものも此要求に適ふ平民圖書館の一つである。又東京市各區の小學校内に設けてゐる簡易圖書館も平民圖書館の一つにして、學校の放課後之を一般に開放し、誰でも無料で自由に圖書を閲覧し得ることになつてゐる。然し此簡易圖書館は普通の圖書館を其まゝ縮小したかの觀があり、完全なる平民圖書館とはいひ得ない。ドイツでは公共のみならず私立の平民圖書館を多く有し、イギリスでは自由公共圖書館と稱して各地に之を設け、フランス其他も亦同様の設備を有してゐる。此等の圖書館の藏書は多く辭書、新聞、雜誌其外一般向の通俗書に限られてゐるのである。

平和主義 軍國主義と正反對の立場に立つ主張であつて、戦争の悲惨と害悪とを説き、人生の爲に平和の必要を高調するものである。此主張は既に古代ギリシヤの時代より存し、アンフィクティン會議なるものを催して神事に託して會合し、紛争を防止する計畫も行はれた。當時の哲學者も亦人類の相憐博愛を説いて平和の福祉を完うすべきことを教へた。其後斯る思想は常に存し、第十四世紀にはダンテの如き熱心なる平和主義者が出た。彼は其著『君主制』の中に平和主義の理想郷を説き、世界を統一して一大帝國を建設し、諸民族間の一切の争を裁判し、之を強制して戦争の禍害を絶つべきことを主張した。其後も斯る世界的大聯合若しくは大同盟に依つて戦争を未然に避くべしとする思想は傳はり、近世に入つてはカント、トルストイの如きが熱心に之を唱導した。一八九九年ロシア皇帝の主治に依つて萬國平和會議が開かれ、大小二十六箇國が之に参加した。而して戦争を未然に防ぐ爲に各國は協同して軍備を制限して國際間の争議は國際仲裁裁判に依つて圓滿に解決せんことを提議した。然し其軍備制限の理想は行はれず、國際仲裁裁判所は開設されたけれども單に輕微なる國際紛争

を審議するに止り、重大なる事件は或く戦争に依る最後の手段に訴ふる外なかつた。萬國平和會議の第二回は一九〇七年に開かれたが、唯國際法及び國際條約上の規定に就いて決議をしたに止つた。斯くして一九一二年歐洲戦争は勃發し、幾多の禍害と悲慘とを嘗めた各國は戦後アメリカ大統領ウィルソンの提議に依る國際聯盟を開き、一九一八年其成立を見た。續いて一九二〇年アメリカ大統領ハーディングの主治に係る日本、イギリス、アメリカ三國を中心とする軍備縮小會議が開かれ、又新に幾回か此種の企が提案され、軍縮運動は漸く世界の大勢と化しつゝある觀がある。此等の運動は勿論單なる平和主義の動機から出づるものでなく、戦後の經濟的創痍を回復せんとする要求が其裏面の動機となつてゐるのであるが、結果に於て平和主義の理想に近づくものなることは疑はれない。尙社會主義は其本来の精神よりして戦争に反對するものである故に、將來社會黨、労働組合が有力となるに隨ひ、戦争の機會は少くなるものと豫想される。

ベルギー社會主義運動

ベルギーの社會主義運動は長短ともドイツの其れを模倣した。運動が組織的に行はれたのは一八八

〇年代からで、セザール・ド・ハープの労働黨が出来たのは一八八五年である。一八九四年に政綱を改め、階級闘争主義の採用を宣言し、同時に銀行、鑛山、森林、土地、及び有らゆる生産機關の公有を主張した。彼等の政綱で最も特色的の點は、政治は國家の中央機關に於て執行せず、國家の監督の下に自治團體に依つて執行すべしといふ一事である。これは勿論中央集權を廢して地方分權に依るべしとなす見解だが、社會民主主義の立場としては最も理想的なる主張だとさへ評判された。彼等は又云ふ、「一切の労働條件は労働者と行政機關との協議に依つて決定せよ」と。同年の選舉に於ては一舉にして二十四の議席を獲得したが、其後一頓座を來し抄々しき増加をなさず、一九一一年の選舉に三五人、其後大戰の前後に於て次第に増加し、一九二五年四月の選舉では一八七人の下院に於て七九人を得て第一黨、一五七人の上院に於ても五九人を得て第二黨、兎に角次第に増加を見たのである。黨の機關紙として八種の日刊、十數種の週刊があり、數種の機關誌も發行してゐる。尙ベルギー社會主義運動の特色は斯うした政治運動よりも經濟運動にあり、生活の實際問題を中心として労働組合の發

達を促したが故に、僅か八百萬の總人口で
ありながら組合員總数は二十五萬を以て算
へられる。然も其大半は社會主義者である。
尚ベルギー社會黨は前記ハープの死(2004)
後エミール・ウアンダヴェルデが黨を指導し
以て今日に及んでゐる。ウアンダヴェルデ
は第二インタナショナルの重鎮、ヨーロッパ
社會主義者の先導であつて、若い時代は
大に非戰論を高調してゐたが、世界大戰が
勃發するや、戰時内閣に入つて陸海軍經理
大臣を勤め、後自ら内閣の首班となり、今
日ではベルギーの代表的政治家として知ら
れてゐる。尚、共產黨の勢力は政府の彈壓
激しきも、下院議員を二人有し、思想運動
に地下運動に大をなしつつある。

ベルン條約 「國際労働者保護法」を
見よ。

辯證法 デイアレクテイク(Dialektik)の譯
語で、本來論辯に依つて事物を論證するこ
とを意味する。尤も此論辯とは單に他人と
議論を交ふることを意味するものでなく、
多くの意見を比較して其間に見出される矛
盾を暴露し、其歸結を求むることを意味す
る。然し、此デイアレクテイクなる語の意
味は古代ギリシヤの哲學者以降次第に變遷
し、ヘーゲルに於て全く獨特の新意を有す
るに至り、今日では其意義に用ゐられてゐ
る。ヘーゲルは思想(イデア)の繼續的發展
に一定の法則のあることを認めた。彼に依
れば、一思想は必ず其反對の思想を伏藏
するものである。而して此伏在的思想が顯
在的となるに及び、此に矛盾せる兩思想の
對立を來す。此兩思想は更に高級なる一思
想に依つて綜合せられ、斯くして右の矛盾
は解決される。然るに此第三の思想は又其
正反對の思想をば自己の内部より生み出し
て新なる綜合を促し、斯くて更に高級なる
思想に上進して行くのである。即ち思想は
「正」―「反」―「合」なる過程を経て發
展し、次第に低級より高級へ進み行くので
ある。正、反、合の過程は別に「肯定」―
「否定の否定」―「肯定」といふ形式にも
表される。ヘーゲルの辯證法は此の如き徑
路に依つて思想の發展を示すものである。
然し此辯證法は單に論理的の意義を有する
ばかりでなく、又宇宙發展の徑路をも示す
のである。何故ならば、ヘーゲルに於ては
宇宙の絕對者はイデア即ち思想に他ならな
いからである。ヘーゲルの一面を踏襲せる
所謂ヘーゲル左黨の一派はヘーゲルの辯證
法中より右の宇宙論的方面を廢棄し、正―
反―合の行程を以て専ら物質的發展の徑路

るに至り、今日では其意義に用ゐられてゐ
る。ヘーゲルは思想(イデア)の繼續的發展
に一定の法則のあることを認めた。彼に依
れば、一思想は必ず其反對の思想を伏藏
するものである。而して此伏在的思想が顯
在的となるに及び、此に矛盾せる兩思想の
對立を來す。此兩思想は更に高級なる一思
想に依つて綜合せられ、斯くして右の矛盾
は解決される。然るに此第三の思想は又其
正反對の思想をば自己の内部より生み出し
て新なる綜合を促し、斯くて更に高級なる
思想に上進して行くのである。即ち思想は
「正」―「反」―「合」なる過程を経て發
展し、次第に低級より高級へ進み行くので
ある。正、反、合の過程は別に「肯定」―
「否定の否定」―「肯定」といふ形式にも
表される。ヘーゲルの辯證法は此の如き徑
路に依つて思想の發展を示すものである。
然し此辯證法は單に論理的の意義を有する
ばかりでなく、又宇宙發展の徑路をも示す
のである。何故ならば、ヘーゲルに於ては
宇宙の絕對者はイデア即ち思想に他ならな
いからである。ヘーゲルの一面を踏襲せる
所謂ヘーゲル左黨の一派はヘーゲルの辯證
法中より右の宇宙論的方面を廢棄し、正―
反―合の行程を以て専ら物質的發展の徑路

を説明せんとするに至つた。此傾向は更に
マルクスに依つて社會的發展の説明に應用
せられ、其唯物史觀説、階級闘争説等の基
礎となるに至つた。(唯明史)

【ホ】

保安警察 公共の安寧秩序を保つを直
接の目的とする警察で、國家及び國家に屬
する團體に對する危害は元より各個人に來
るべき危害をも防がんとするものである。
隨つて其機能は種々様々であり、内務行政
の中獨立の一部局を形成してゐる。保安警
察は非常保安警察と普通保安警察とに分類
され、前者は戒嚴令(其項)又は特別大權に
依り、國家非常の時に當つて特別制度を用
ゐるものであり、後者は平時に於ける保安
警察を指すものにして、單に保安警察とい
ふ場合には此平時の其れを意味するのであ
る。平時の保安警察は高等警察(高等保安
警察、治安・公安警察)と通常警察(通常保安
警察、狹義の行政警察、私安・個人警察)
に分たれる。高等警察は直接に國家又は國
家に屬する團體の危害を防止するもので、
治安警察法を基礎とする。通常警察は個人
の危害が延いては公共の安寧を損ふに至る
場合之を防止せんとするものである。此後

者は更に又幾多の小分科に分たれるが基礎
とする所の法規は警察犯處罰令で、其外地
方廳の發する各種の取締令に依つて行はれ
てゐる。保安警察の目的を達する爲に命令
を發し處分をなし得る者は内務大臣及び各
地方長官であるが、命令處分の準備をなし
外部に對して執行の任に當る者は各警察官
及び憲兵下士卒である。又臺灣、樺太、朝
鮮、關東州等にも長官以下それ、保安警
察の執行に當るべき機關が存在してゐる。

法醫學 醫學を基礎として犯罪人、被
傷害人、禁治産者等の行爲、原因、結果、
身心の状態等を研究し、又隨時實地方面の
事件を鑑定し、進んでは社會及び國家の病
的現象をも研究し、之が豫防救治法を探索
するもので、一種の社會病理學又は國家醫
學の領域にまで及ぶものである。指紋、血
液、傷痕の顯微鏡的調査や、屍體解剖、遺
留物分析等に依る犯罪鑑定法の進歩は法醫
學の發達に俟つものである。

法王 キリスト教は元來平等主義を唱
ふる故に、其當初に於ては僧侶間に何等の
階級も存在しなかつたが、其教徒が四方に
殖えるに隨つて僧侶間に自然的に階級が生
じた。即ち大都會には大僧正があり、都市
には僧正があり、村落には僧侶があつて各

其管轄を異にするに至つた。殊にローマの
大僧正は歴代英傑が續いたばかりでなく、
ローマは舊大帝國の首都として尊重せられ
てゐた爲に其大僧正は教會の長なりと考へ
られるやうになつた。殊にグレゴリウ一世
は各地にローマ教會の支部を設け、宣教師
を四方に派して熱心に傳道した爲に竟に法
王(Pope)の稱號を戴くに至つた。爾來今日
に至るまでローマの大僧正は法王と稱して
ゐるのである。其法王の權力には消長があ
つたが、法王の權力が最も伸張した時には
王權を凌駕する勢を持つてゐた。法王及び
其配下である僧侶が勢力を増大したのは十
字軍の結果であつた。十字軍は法王の唱導
に依つて起されたといふ理由の下に法王は
一般の從軍者より尊崇せられ、其勢威を増
大したのみならず、諸侯武士が出征費用を
得る爲に其所領を寺院に賣却し、又信仰の
熱情に依り其所領を寄進せる爲に寺領は増
大し寺院の財政は豊になつた。隨つて之を
統宰する法王の勢力は絶大なるものとなつ
たのである。此に於て法王は其勢力を以て
文教を支配し、總ての學問はキリスト教の
支配下に置き、苟も教義に違背することを
許さなかつた。其結果竟に中世期に於ける
歐洲文化の暗黒時代を來したのである。加

ふるに此頃は神權政治説が専ら行はれ、聖
ペテロの法燈を繼ぐ法王は世界統治權を有
するとの流説の下に王權と衝突を來す等、
宗教本來の面目を忘れて權勢を趁ふに汲々
たる有様であつた。其結果僧侶の習俗は亂
れ、宗教的儀式の名目の下に人民の膏血を
搾取すること甚しく、やがてルーテル等の
宗教改革運動が起されるやうになつたので
ある。其後法王の權力は昔日の面影を回復
すべくもなかつたが、ローマ法王なる地位
は今日に至るまで續いてゐる。(宗教史)

俸給生活者問題 俸給生活者とはイギ
リス語のサラリー・マンの譯語。日本語で
は俗に「月給取」といふ。月給取とは、其自
體が既に日給取(賃銀労働者)でもなく、さ
ればとて年給取(高級俸給者)でもなき一團
の中間的存在を意味してゐるが、彼等は國
家乃至公共團體、若しくは資本家に依つて
雇傭使役せられ、一定の他律的拘束の下に
一定の業務に勤勞し、一定の報償を得て生
活する人々を謂ふ。官吏、公吏、銀行員、
會社員、商店員、新聞雜誌記者、學校教員
等甚だ多くの職業に従事する人々は多くそ
れである。唯然し俸給生活者の特質として
注意を要すべきは、彼等が勤勞を提供する
に際して一切の自主的行動を許されず、全

く他律的に拘束されてゐる點と、而して之に對する報償を唯一の生活源泉となす點との二つである。別言すれば、等しく俸給を受けるにしても、支配人とか重役とかは或程度まで自己の自由意志を發揮することが許され、然も其俸給も純然たる勤勞報償と認め得ない限り、此に謂ふ俸給生活者の範疇には所屬しないのである。其意味に於て俸給生活者は賃銀労働者が肉體的労働力の代償として賃銀を受けるやうに、自己の精神的労働力の代償として俸給を受ける以上其經濟的本質は少しも労働階級と異なる所が無い(知識階級)。俸給生活者の社會運動が常に労働運動と協同的乃至追隨的に起されたことは、此意味に於て當然といはなければならぬ。例へばドイツの官吏労働組合聯合の如き、組合總數二〇〇餘、組合員總數二〇〇、〇〇〇餘を算する龐大の組織であるが、労働組合聯合と共に社會民黨を構成する二大要素を成してゐる。又フランスの其れも同様、街頭に出でて猛烈なる示威運動を行つたり、何から何まで労働者と共同戦線を張つてゐる。同國の小學校教員國民的聯合會はC.G.T.に加盟し、極左派が未だ分離せざる以前は彼等と行動を共にしてゐた。イギリス及び其外の諸國も以上二國と

孰れも大同小異である。日本に於ては此種の運動は甚だ微力にして振はず、俸給生活者同盟(S.M.U.)なるものが存在するに在してゐる。が、其現實的勢力は殆ど問題とするに足らない。其外に新聞雜誌記者同盟といふやうなものがあり、労働黨の構成分子として活躍しつゝあるが、これは有名無實の程度が一段上である。尙別に小學校教員の組合とも認むべき啓明會といふものもあつた。然し今日では否として消息を聞かない。此の如く、俸給生活者の組合が各國とも大成せざる所以は、彼等の職業的所得の範圍が多岐複雑なることに原因するが、若し現實の生活苦が遠慮會釋無く襲撃するに於ては、俸給生活者の運動は賃銀労働者の運動に吸収されて著しく階級的色彩を濃厚ならしむべきことは想像に難くない。それまでは縦し彼等が團結運動をしたにしても、勤務時間に関する問題、勤務時間外の夜業に関する問題、事務所、營業所、宿泊所の衛生設備に関する問題、俸給支拂の條件と方法とに関する問題、俸給値上に関する問題、解雇手當に関する問題等、大小とも労働運動の目標に對する雜形的模倣に満足してゐるであらう(労働運動)。

封建制度

歐洲に封建制度が発生した

を結ぶことに依り滅亡を免れんとする者も出て來たので、其關係は一層複雑となつたのである。封建制度は此の如く、複雑多様の發達をし、第十世紀に至りて其組織は漸く大成し、君臣の約を結ぶ誓式や君臣の義務なども一定の形式を具へるに至つた。即ち君侯は臣下に對して封土並に身體を保證し困窮せざるやうに注意し、臣下の罪は君侯自らその責に任ずる代り、臣下は終世從屬して忠誠を捧げ、君侯の出征には家子郎黨を率ゐて從軍し、平時と雖も武備を怠らざる義務を有してゐた。斯る制度は第十世紀より極盛時代を作り、フランク國はもとよりドイツ、イタリー、スペイン等の大陸諸國をはじめイギリスにも行はれるやうになつた。然るに十字軍以後種々複雑なる事情起り、第十五世紀に至つて再び王權の盛んな時代を現出した。其直接原因となれるは、權力の中心が大小の諸侯に移つて國王は虚器を擁するに過ぎず、國王の命令は行はれぬやうになつたので、此状態を打破して中央に權力を集中する必要が起り、人民は又封建諸侯の専横に苦しんでゐたが、十字軍其他の結果に依つて、次第に富を蓄積し來り、諸侯の束縛から免れようと企てた事であつた。加ふるに十字軍遠征百七十五

年の間に於て封建諸侯並に武士は資金を得る爲に封土を賣却入質したので、實際に諸侯並に武士としての資格を失つたに反し、イタリー及び北ドイツ地方の都市は急激に富を増し、通商貿易の發展を來した爲に、彼等は金力及び武力を以て從來壓迫を受けたる封建諸侯の極情を脱し、漸次自由都市を作り、遂には公然諸侯と相争ふやうになつた。其他第十四世紀に於る火藥の發明、大砲、小銃等の新武器の發明は、刀槍を以て生命とする武士の價値を失墜せしめた事實、又武士が經濟上の困難から悪虐無頼に墮したる事等の諸原因は、相俟つて封建制度の崩壊を促し、遂に中世期の末葉には鞏固なる中央集權制が各國に確立されることとなつたのである。日本の封建制度は頼朝が鎌倉幕府を開いた時に確立され、徳川幕府が倒れるまで七〇〇年の間存続した。尤も徳川幕府の下に於ける封建制度は、完全な分權制度でなく政治權力の中樞が幕府に集中してゐる點は上記した歐洲の封建制度と多少趣を異にするものがある。然し日本の封建制度の發達徑路、及び倒壊原因は、歐洲の其れと殆ど同様である。

法人

自然の其人者に非ざる人の集團又は財産の集團が、一定の條件を具備した

のはフランク王のガリア征服以後のことである。即ちフランク王は征服地の大部分を自領とし、其殘餘の幾分を割いて功臣に分與したのが發端である。其後アラビア人の侵入を受けた時は王權が既に衰へて宰相カル・マルティンが全權を掌握してゐた。カールの政治組織及び軍備組織を改め、王領の幾分を割いて功臣に分與して封土となし、其報償として日常強健なる軍馬を養ひ、騎馬用兵の術を練習せしめ、有事の際は國王に從つて忠誠を盡すの義務を負はしめた。而して封土なるものは元來世襲を許さず、其使用權のみを許したのであつたが、王權の衰ふると共に世襲の狀態を來し、八七七年以後は拜領したる封土の幾分を割いて更に他の者に與へ、新に君臣の關係を結び、漸次同一方法で連續したる君臣關係を結び、漸次に做つて封土を與へて君臣の關係を結び、次第に下級の者に及して連續せる君臣の一系を作ると共に僧侶も亦寺領を割いて封建制を採用するに至つた。斯くして封建の制は其範圍を擴張すると共に複雑化し、更に獨立困難なる小侯は自ら其領土を大侯、國王に獻じて改めて封土として受け君臣關係

場合に、法律上人格を與へられたるものを法人といふ。前者は「社團法人」で、後者は「財團法人」である。國家や市町村其他の公共團體も一種の社團人であるが、社團法人の最適例は商業上の會社である。慈善や學校などの公共事業の爲に醸出された財産が財團法人になつてゐる例は甚だ多い。斯る自然人にあらざる團體が、法律上人格を認められる所以は、蓋しそれが自然人と同様に權利義務の主體となり、自然人と同様に、或は自然人以上に重要な社會的活動をなすからである。

法治國 專制國に對立し國家行政機關の國民に對する關係が一定の法規に依つて定められる國を謂ふ。專制國家崩潰の後に生れたのは立憲國である。立憲國家は憲法を以て統治權作用の形式を定め、人民の權利義務は法規を以て明確に之を定め、其法規を以て明確に之を定め、其法規は一定の形式を踏んで制定される。茲に於て行政機關は任意の處分を以て濫りに人民を侵すことを得ず、處分は總て法定の條件を具備せねばならないことになつた。此行政機關の作用が準據すべき法則を行政法規といひ、行政法規の具はる國家を法治國といふ。又行政法規を定めるに當つて定規となるものは

憲法である故に、又稱して憲法國ともいふのである。

法定賃銀法 「最低賃銀法」を見よ。
法的社會主義 【概説】 法的社會主義

(Socialisme Juridique)なるものは、今日主としてフランス及びイタリーに唱へられてゐる一派の主張であるが、これは未だ一箇の體系に完成された學說でなく、尙進化の途中にある一傾向といふ程のものである。故に法的社會主義の概念を求めるときは、それが今日まで發展して來た徑路を考察し、大體上如何なる主張であるかを見るほかに方法はない。然し法的社會主義を一言の下に概括すれば、それは法律的變革に基づいて、經濟的變革を成就せんとするものである。換言すれば現行の法律を社會主義的に解釋し布行して、社會主義的權利を其中より抽出し、以て合理的に、資本主義的社會より社會主義的社會への轉化を成就せしめんとするものである。今其説明を同派の重鎮であるイチエの言に開けば大體次の如きものである。第十九世紀の後半に於ては、社會主義者は唯經濟學者であらばよいと考へられ、法律はマルクス派に依つて經濟的因素の外面的表示と見なされた。然るに第二十世紀に入り新理想主義の思想が興

起した結果として、社會主義は經濟學のみを偏重せず、法學をも亦顧慮するやうになつて來た。隨つて新しき法的制度を構想し、現行法を其構想の出発點となすやうになつたのである。これ社會主義が革命主義一點張りを棄てて社會立法に留意するに至つた所以であるが、斯る改良主義的理論とても社會の根本的改革を忘れたわけではなく、新社會實現に到達する方法に就いては新なる思想を抱くに至つたのである。つまり舊き社會主義者は、現在の社會と將來の社會との間に横はつてゐる深淵は、人間が大飛躍を試みることに依つてのみ渡り得べしと考へてゐたが、新社會主義者は斯る飛躍が順當な方法ではなく、適當なる橋を架すことに依つて最も安全に彼岸に到達し得るものと考へるのである。法的社會主義の目的とする所は、此架橋事業に於て、此架橋準備として兩岸を觀測し、兩岸を結びつけるに最も都合よき場所を發見することである。而して此事業を特に法的と呼ぶ所以は、つまり兩岸を結びつける場所を此岸、(資本主義)の法律に求め、更に彼岸(社會主義)に於て、此岸より投げける鎖を受け、之を確實に結びつける法的場所を準備せんとするからに外ならない。以上イチエの説明に依つて

とは實質的に社會革命を行ふことになるのである。これ法的社會主義が、經濟的權利の宣言に依り、非常手段に訴ふることなくして社會組織の實質的の革命を成就し得ると唱ふる所以である。

【沿革】 第十九世紀の末葉より第二十世紀にかけて社會主義思想界を風靡したのはマルクスの唯物史觀であつた。マルクスは唯物史觀に依つて社會の進化を必然的過程として説明し、經濟的變化が必然的に社會組織の變化を齎すことを説いた。然るに資本主義社會に於ける經濟的變化に関するマルクスの學說は、事實上其法則通りに進行しないと主張する者が現れ、これが當時據頭せる新理想主義の運動と結び、唯物史觀を修正し又は之に反對して理想的要素、個人の努力を高調する者が現れて來た。これが即ち修正派社會主義の人々である(レヴィエジ照)。法的社會主義も亦斯る傾向から生れたものである。即ち法的社會主義は人間の觀念的要素の力を重んじ正義の觀念を基礎とせる法を根本的要素と見るのである。尤も正義を以て根本的要素と見る考は古くブルドーンに依つて抱かれてゐた。彼に依れば正義觀念は一切の社會進化を支配するもので、勞働に依つて萬人が生活必需品を確實

知らるゝ如く、法的社會主義は先づ唯物史觀を排して理想主義を奉じ、其理想を法の生命とする正義の觀念の中に求め、更に之を實現する手段として、法律が經濟よりも一層根本的なことを認めるのである。
【特色】 法的社會主義の一般觀念は上記の如くであるが、更に立入つて其具體的の主要觀念を抽出して、其實質的意義を明かにする必要がある。先づ法的社會主義の國家觀を明かにしなければならぬ。彼等は現在の國家を以て腕力に基いて建てられた個人主義國家であると認め、之に代ふるに正義に基いて建てられた社會主義的國家、又は勞働に基いて建てられた庶民的國家を以てすべきであると考へる。此主旨はオーストリアの法理學者アントン・メンガーの『新國家』に説かれてゐるが、新國家組織を實現する爲に、法的社會主義は「個人の經濟的權利の宣言」を以て其綱領となすべきであると云ふ。これは一七八九年の人權宣言に倣ひ其政治的權利の宣言たるに比し、經濟的權利の宣言をなさんとするのである。
(人權宣言)然らば其權利は如何なるものかと云へば、(一)生存權、(二)勞働權、(三)勞働全收權の三權である。而して法的社會主義者は此三つの基本的なる經濟的權利の確

に獲得し、勤勞が公正に交換せられる經濟組織は之に基いて創り出されるものであると云ふ。此意味に於て法的社會主義の淵源をブルドーンに置く者もあるが、直接の起原はマルクス主義に對する理想主義的修正の運動であつたと解するが妥當である。殊に此學說の發達に功績があつたのはアントン・メンガーである。メンガーの説いた經濟的權利の觀念は既に古くより存在した。即ち生存權に關しては『政治的正義』の著者ゴドウィンが第十八世紀の末に説いた所であり、勞働權の觀念はフィヒテに依つて述べられ、勞働全收權はホルが明かにした所であるのみならず、基本的なる經濟的權利といふ觀念も、既にフリーエに依つて唱へられてゐる。けれども此等先人に依つて説かれた三種の權利觀念を再生せしめ之を組織的に學說化したのはメンガーの功績である。其意味に於て彼は法的社會主義の創始者と認めらるべきである。然も彼の新説はドイツ、オーストリアに容れられず、却つてフランスの社會主義者に依つて傳へられ、成育しつゝあるのである。蓋し、メンガーの思想はサン・シモン、フリーエ其外のフランス社會思想家の影響を最も多く受け、且人權の宣言といふ觀念はフランス

立及び實行に依つて社會主義國家(又は庶民的國家)が建設せられる、と信するのである。而して又、此等三つの權利を確立する手段として、「權利に關する權利の運用」なるものを提唱する。權利に關する權利の運用とは畢竟、經濟的問題を法律的問題に轉化又は還元することを意味するものであつて、例へばレヴィエが階級闘争を資本家の集團的債權と勞働者の集團的債權との衝突に轉化せんとする如きものである。此の如く法的社會主義を成立せしめる主要なる因素は理想主義、正義の觀念、法律を以て經濟よりも根本的な要素と見る觀念、社會主義的國家觀等を擧げ得るけれども、最も基礎的な觀念となり、他の社會主義學說と比較して著しき特色を示すものは、基本的なる經濟的權利の觀念及び「權利に對する權利の運用」の觀念である。經濟的權利に屬する三つの權利に就いては各別々に説明を與へるが、此等の權利を確立實行することは、土地資本の私有權を法律的基础とする現在社會に於ては到底不可能である。隨つて此等の權利を完全に實現せんとするには、必然的に現在社會の法律的基礎を根本的に改造せねばならぬ。斯くて現在の社會組織の下に於て此等の權利を主張するこ

思想に特殊の因縁を持つといふことが、斯る結果を招く原因となつたのであらう。

暴動 政治的、社會的、經濟的、宗教的、其外の抑壓迫害に對する反抗運動であつて、民衆が兇器、暴力等を以て暴行に出でた場合を謂ふ。而して其特質とすべきは個人若しくは數人の暴行を指すものではなく、一種の組織を有する多衆の暴行を意味する。大正七年八月に於ける米騒動は其代表的の一つである。

【原因】 暴動には必ず原因があり、原因と目的の無い暴動は有り得ない。其原因には次の六種ある。(1)飢餓の暴動。暴動の最も直接的の原因は飢餓の力である。フランス革命に於ても、大正七年八月の米騒動の如きも飢餓が其直接的の動機であつた。然し飢餓に因る暴動とはいふもの、飢餓其者よりも何等かの不正手段に依つて飢餓を招いた時に勃發する方が多い。古來の百姓一揆の跡を見れば其點は殊に分明である。(2)政治的暴動。積極的と消極的との二種がある。積極的なるものは民族暴動とも稱せられ、支那の義和團事件の如きである。消極的なるものは各國の奴隸解放の暴動の如きである。(3)經濟的暴動。積極的、消極的の二種がある。積極的なるものはスト

ライキ等に伴ふそれである。ストライキは必しも暴動を伴ふものではないが、労働團體其者が組織體として完成されてゐなかつた場合によく暴動を伴つて起る。又消極的な暴動とは、新しい生産器具が發明された時に起るもので、自己の職業の範圍を侵された労働者が暴動を起して器械に突撃するといふことが殆ど無数にあつた。例へばアイクタイトの紡績器械發明に際して、あの有名なるルダイト暴動を惹起した如きである。(4)教育方面に於ける暴動。教育制度から起る暴動は日本の如き國情に於ては殆ど見出し得ない。よくある學校ストライキも教育制度其者に發したものでないが、外國にあつては此教育制度に對する暴動は屢繰返された。(5)宗教的暴動。宗教上の軋轢又は宗教的迫害の結果が暴動を惹起した例は東西古今に珍らしくない。ローマ時代のメシア暴動は卒に帝國を滅し、キリスト教の傳播、佛教の傳來等は幾多の流血事を見せてゐる。政治的暴動に次で其數の多いのは宗教的暴動である。(6)反社會性暴動。犯罪者が獄内で暴動を起す如きは反社會的暴動と見ることが出来る。日本の如きは、此種の暴動の數は少いが、アメリカ其他に於て囚徒が群衆の力を以て破獄を企て

るが如き事例は決して少くない。殊に社會自體が弱い司法力に依つて統制されてゐる時には殊に此暴動は多い。古來革命と監獄暴動とは不可分のものであつた。

【心理的特性】 暴動に現れた心理的特性には種々あるが、之を大別すれば次の十種に分類することが出来る。(1)歡喜性。暴動には必ず歡喜性を伴ふ。暴動に際して群衆は決して義侠的に参加するのではなく、面白くてさうするのである。米騒動に現れた群衆は自分の家の焼け落ちるといふ騒にも萬歳の叫びを揚げてゐる。(2)表示性。言語に依る思想感情の傳達が不完全なるものであることを知つてゐる。其故にピラ、指物、廣告等の文字に依つて思想感情の統一を計らうとする。「資本家を倒せ」「開族を討滅せよ」といふ如きは其代表的のものである。此政策を最も有効に利用したものはレーニンであつた。暴動に際して紛々として流布される流言蜚語を統一するにはこれが最も大切である。蓋し暴動は一面の意志表示であり、然も行動に移した意志表示である。(3)狂氣性。暴動は盲目的だとよくいふが暴動は最初の標語に目的を示して、ヒステリー状態に陥るが通常である。それは暴動の盲目性を證明すべき有力なる證據である

が、一旦暴動がヒステリー状態に陥れば思はざる人間が思はざる行動に出づるのが例である。憲政擁護運動の際無學の四十女が演説して捕へられた如きは其代表的のものと見ることが出来る。暴動に狂氣性を付與する他の條件は酒精である。景氣をつけると稱して酔を借つた結果暴動の發狂性は増大して行くのが常である。(4)極端性。暴動は極端が必ず勝利を占むるのである。思想に於ても行動に於ても暴動に際して中庸は決して勝利を占めた例は無かつた。暴民にも思想目的は元よりあるが之を意志表示に移して暴行の形式をとると、それまで思想に依つて曳きづられてゐた行動は却つて思想を隨伴して進むやうになる。ロシア革命を見ても、ロッヂヤンコよりケレンスキーへ、ケレンスキーよりレーニンへと最極端の頂點まで突進してしまふのである。此に暴動の極端性を窺ふことが出来る。

(5)組織性。暴動は抑壓迫害に對する反逆が主因となつて現れるから、どうしても強力意志が加はることになる。此強力意志の目的は破壊である。然し此を成し遂げる爲には必ず一種の組織を必要とする。茲に生ずるのがピクティンゲ(ピクティンゲ)である。暴動が起されれば警察権以外の警察即ちピ

ケッティンゲが現れて來るやうになる。一九〇五年のロシア憲法革命には數箇月間鑛山地方に於ける労働者が代理知事を勤めた實例、大鹽平八郎の暴動に際して、暴民が米屋を襲撃しても決して米を盗み出さなかつた實例の如きはよく暴動の組織性を證明するものである。民衆は組織された一箇の良心を持つものと見てよい。(6)殘忍性。暴動が發狂性を帯びて來るとどうしても殘忍性を増して來る。斯くしてキエフ虐殺、セント・バルトロミオの虐殺等の如き非道なる殘忍性が働いて來る。更にフランス革命は溺殺、ギオタン等を以て人命を絶つたこととは勿論、少女を姦し、幼兒を突殺し、有らゆる殘忍性を發揮した。斯くてフランス革命は歴史家の記述に依れば百萬の人命を奪つたといふ。一九一七年より一八年のロシア革命も亦然りであつた。(7)速急性。暴動は迅風の如く來り去るものである。勿論組織ある暴動は長引くこともあるが、一般の暴動は急速性を有する。それは暴動が永續すれば恐怖時代が現出し、暴動が民衆に飽かるといふ政略からも來てゐるが、暴動其自體の特質として加速度的なる速急性を有するものである。(8)迷信性。時代が變調を來すと、いつの時代でも迷信が殖

えて來るが此理法は暴動に際して殊に甚しい。これは暴動に際して民衆が理性批判を失ひ一種異様の偶像を造り上げるからである。クロムヴェルの亂の時に幾多の豫言者が輩出し、フランス革命には民衆が多神教に走り、ロシア革命も亦宗教的雰囲気醸成してゐる。(9)傳播性と回歸性。暴動には必ず傳播性と回歸性とが伴はれるものである。富山縣滑川に起された米騒動の如きは僅一箇月も満たざるに三府三十八縣に傳播してゐる。ストライキの同情罷業といふ如きも此傳播性を合理化したに過ぎない。百姓一揆、革命等一として暴動と傳播性とを有せざるものはない。が他面に於て回歸性を有する日露戦争後に於ける日比谷公園の騷擾は日本に於ける示威運動の皮切となつたものであるが、以後事件さへあると日比谷公園が中心となつてゐる。これなどは暴動の回歸性を證明するものである。(10)群衆性。暴動は群衆の後援がなければ起り得るものではない。隨つて暴動は都會に起り易く田舎に起り難い隨つて群衆を背景とする爲に現在では暴動は労働階級に最下層階級から起され易いものである。斯くて此暴動が如上の種々の性質を伴つて遂に社會の重心が暴動に來るとき、それは既に革

命である。パリ暴動からフランス革命、ペトログラード暴動からロシア革命となつた如きである。

法理學 法律哲學の異名であつて、法律及び法律現象に關する原理を研究する學問である。法律は社會統制の一機構であり其生成發達は社會進化と密接不離の關係にあるが故に法理學は社會學と密接なる交渉を有する。

暴利取締令 大正八年に發布された臨時法令。當時の寺内内閣が、大戦の後を承けて物價の變動が甚しかつたので、買ひ貯め賣り惜しみをなす姦商を取締る爲に發した。蓋し不自然なる物價昂騰を防止せんとするにあつたが、其効果は大して期待されず、此變動はやがて、翌年以降の大恐慌を胚胎し、倒産者の續出を防備することが出来なかつた。

ボイコット 【意義】ボイコト(Boycott)は近時「排貨」と譯されるが、所謂「不買同盟」を謂ふ。それにはおのづから二方面があり、労働運動の戦術に利用された場合と或國家なり團體なりを排斥する目的に利用された場合とである。語源は其の昔(1830年)、ボイコットと呼ぶアイルランドの農場管理者が、餘りに苛酷な處置を採つた爲

世人の反感を招き、取引と交際を拒絶されたことに出で、其名前が取引拒絶の意味に用ゐられ、やがて不買同盟の意味に轉化したのであつた。階級闘争の戦術として利用されるやうになつたのは約三十年からで、積極的效果は無いにしても消極的效果は擧げ得るので、争議繼續中の資本家の製品に對し、罷業團が社會の同情に訴へて不買を要求するといつた手段は屢之を見受けるのである。例へば昭和二年の野田争議に、會社の「龜甲萬」や「山サ」の不買を罷業團が訴へたのは人の知る所、斯る日用品のボイコットは割合に効果を期待せられる。ボイコットには、此やうに直接の使用に反對して行はれる場合と、此等の排斥される者と取引關係のある第三者とを、同時に排斥するといふ場合も見受けられる。一例すれば、大正八年に行はれし、都下各新聞社印刷工の罷業に際し、彼等が當の新聞不買を市民に要求すると同時に、之と取引關係を有する廣告主の商品不買を懇請せる場合の如きである。此の如きことは、事實に於て行はれ得ないので効果はなかつたが、若し假にさうした罷業團の希望が容れられておたとしたら、新聞社に對しても廣告主に對しても甚大なる打撃を與へ得たであらう。

關係上、子弟に對する支配を女子に委せたりした慣習が、母權支配と誤認せしめたのであらうといはれる。けれども、これは單なる便宜上の慣習なるを以て、母權の存在を證明する材料にはならない。

保護労働者 保護労働者とは工場法、鑛業法其外の労働者保護法に依つて、特に國家の保護を受ける労働者を謂ふ。即ち幼年労働者及び婦人労働者がそれである。蓋し成年男子労働者は労働時間、賃銀其外の労働條件に關して、團結の方法に依り自ら改善又は維持を圖ることが出来るが、幼年労働者及び婦人労働者は斯る自動的方法に依ることが困難である爲に、國家は特に法律を以て保護する必要を認めるのである。尤も法律的保護の範圍は、單に幼年及び婦人労働者に限らず、成年の男子労働者に對しても其従事する業務の性質に従ひ特殊の保護を加ふるばかりでなく、労働時間等に關しても法の制限に依つて保護を與へてゐる。其意味に於て彼等も保護労働者といひ得るが、然し其等の制限は法定最少限を定めるに過ぎぬので、通例は之を保護労働者として取扱つてゐない。法規に依つて特に幼年及び婦人労働者を保護する理由は、彼等が自動的に雇主との間の關係を

蓋し、ボイコットは單に罷業繼續中の打撃のみでなく、罷業停止後と雖も其間に流入せる新製品に顧客を取つて代られるからに他ならない。或國家や團體を對象として行はれる場合に於ては、其程度が特に甚しく、支那に於ける日貨排斥の結果、アメリカ品やイギリス品に日本品が驅逐された實例は甚だ多い。

【取締對策】ボイコットは然し、之を加へられる者と同時に、之を加へる者に對して少からぬ犠牲を強要しなければならぬ。野田争議の場合などは、會社製品ならぬ醬油を罷業團が使用してゐたやうだが、若しそれが局部的でなく全部的に行はれたとすれば、代用醬油の價格を勢ひ釣り上げることにになり、延いては組合員以外の共同動作を期待し得ざることにもなる。そこで各國の取締方針も、ボイコットの弊害が割合に少いといふので、特に法規を設けて禁壓する程度にはなつてをらない。唯ドイツは、麥酒醸造工、麵粉焼工、裁縫工、製靴工、煙草工との間に可也密接なる連絡があり、時に大規模にして組織的なるボイコットを行ふ場合があるので、公然と之を宣言し通告を發して参加を勧誘する場合は罰せられ、且之を煽動した者は、損害賠償の責任

を負はねばならぬことに規定されてゐる。因みに、ドイツに於けるボイコットの方法は先づ一地方の労働組合全部の名に於て友朋組合に告知し、之が實行に要する費用の全部を該組合が負擔するのみならず、代用品の供給等に關しても遺憾無きを期するので、同盟成立の可能が比較的によく、隨つて被害の波及も少くないのである。ドイツに次いでアメリカが組織的で、其爲に州の法律に依つて嚴禁してゐる地方もある。

母系 「母權時代」を見よ。

母權時代 父權が發生する以前に、母權支配の時代があつたといふ假説。男女關係の歴史的研究が明かにされるに及び、人類の最原始状態は禽獸と同じき亂交であつたと主張するものが現れた。此時代を稱して、人類學上、社會學上ではプロミスキウティと呼ぶが、其後、更に研究が重ねられた結果、これは一箇の假説に過ぎぬことが立證されるに至つた。母權説は、此プロミスキウティの假説を基礎とし、此時代には父の存在が不明であるから、母に依る支配が行はれたであらうことの推論に成立したが、肝腎の亂交時代が存在せぬとなれば、母權時代の有りやう筈はない。恐らく、男子が戦争や狩獵に出かけて永く留守にした

解決し得ないといふことばかりでなく、一方には彼等の無制限なる使役が社會に毒を流す事實も考慮されてゐるのである。各國の工場法及び鑛業法が一定年齢以下の幼年者の使用を禁止、幼年及び婦人労働者の就業に一定の制限を附してゐるのは、明かに斯る考慮から出たものである。幼弱なる者に過酷の労働を課し非衛生的の作業に従事せしめるのは、將來の國民發達にとつて極めて有害なる結果を生ずべきこと明らかであるが、成年の女子労働者とても體力は男子に劣るのが常であり、且其多くは子を産み家庭の世話をする責任を荷つてゐる者であるから、女子の劇勞は其肉體及び精神を荒廢せしむる虞が多い。斯くては來るべき時代を形成する小國民の母としての任務を果し得ないが爲に國家社會の蒙るべき損害は大である。加ふるに女子の生理的なる特徴即ち妊娠、月經等の弱點は、女子を一層不利の立場に置くものである。此に於て法律に依る保護の必要は女子にも認められ女子の地下労働の禁止、深夜労働の禁止、分娩前後一定期間の労働禁止等が各國の工場法及び鑛山法に規定されるに至つたのである。(労働者保護法に照)

母性保護 資本制生産の發達は、單に

無産男子のみならず、彼等の妻娘をも工場に流入せしめ、賃銀労働の過勞を忍受せしめることになつた。其結果、家庭に於て子女養育の任に當りし婦人は母性を精神的にも肉體的にも破壊されつゝある。斯くては單に婦人其者の不幸たるばかりではなく、其薰陶を受けて健全に發育すべき子ら子弟の不幸となるべく、延いては此等第二國民の將來は國家の不幸を豫定するものでなければならぬ。故に國家は、宜しく母性の保護に遺漏なかるべしといふのが、母性保護論である。エレン・ケイ女史は最も熱心なる主唱者だが、此見地には理論上反對する者があるまい。さればこそ國家は法律命令に依り婦人労働者(筋肉的の其れと同時に頭腦的の其れに對しても)の保護をなし且諸般の設備を施して母性の破壊を擁護せんとしてゐるのである。

ボルシェヴィズム 【意義】 社會主義の一分派。ロシアのボルシェヴィキに依り支持され且實行されてゐる故に此名がある。ボルシェヴィキの盟主レーニンに從へば、ボルシェヴィズムこそ眞正のマルキシズムであり、所謂正統派社會主義は、カウツキ一流の凡俗的學究に依つて換骨奪胎されたマルクスの殘骸であり、ボルシェヴィズム

のみが、其革命的精神を傳ふるものだと云ふ。此點に就いての論究は姑く措き、ボルシェヴィキ革命がロシアに於て成功し、世界の左翼的社會主義者が悉く其第三インターナショナルに加盟したる結果、曾てマルキシズムの革命的修正派とされてゐたボルシェヴィズムも、今やマルクスレーニン主義の名に於て、恰も其正統派であるかに扱はれるやうになつた。斯くて更にレーニンが微温的の社會主義の名稱を嫌つて革命的の共產主義の名稱を好んで用ゐた所から、舊來の「ロシア社會民主黨多數派」を「ロシア共產黨」と改稱して以來、所謂ボルシェヴィズムは共產主義(コンミニニズム)の名に於て一般に通用するに至つた(「共產主義」の意味に於て、共產主義、レーニン主義、第三インターナショナル等々の名に於て呼ばれる一派の社會主義は、咸くボルシェヴィズムの同義異語に他ならない。然し、ボルシェヴィズムが生産手段の國有を主張する限り、プロレタリアに依る中央集權を堅持する限り、必しも謂ふ所の共產主義に該當すべきかは疑はしく、寧ろ集産主義乃至國家社會主義に近似する點が多い。故に嚴密には、其政治手段に於ても經濟手段に於ても、ボルシェヴィズムはマルキシズ

ムの革命的修正と解すべきであらう。尤も此場合の修正といふ文字は、レヴィゾニズムやサンディカリズム等の場合と異り、マルクス説其者の變改を意味せざる限り、此等二者と併列するのは失當であるかも知れぬ。實際、レーニンの云ふ如く、ボルシェヴィズムの理想其者は、決してマルクスから一步も半歩も踏み出した部分はなく、唯所謂正統派社會主義が餘りにも微温的であり改良的であるのに對して、直截にマルクスの中核に突入して、其革命的部分を再生したと見るべき理由も多い。從來の正統マルキシズムに對して、彼が「眞正マルキシズム」と稱した所以もそこにある。隨つて、舊來の「正統マルキシズム」と新來の「眞正マルキシズム」の水掛論は、其目的理想に關する部分にあるのではなく、其實行方法に關する部分に求められよう。プレハフとレーニンとの分離も、實に此實行方法に關する意見の相違に發端したのであつた(「ボルシェヴィキ」参照)

【無産者獨裁】 ボルシェヴィズムに於ける最大の特徴はプロレタリア獨裁といふ事實である。ロシア憲法第十三章の第六十四條及び第六十五條を見ると、同國民の選舉權及び被選舉權に關する事項が規定されて

ゐるが、之に依れば兩權行使の有資格者は工業、商業、農業、鑛業などに使用されてゐる労働者と被傭人并に陸海軍の兵卒(其他)のみであつて、營利目的の爲に労働者を雇つた者、土地財産等より不勞所得をなしたる者、曾て警官、密偵、憲兵、僧侶等たりし者は、咸く除外されてゐるのである。此一事を換言すれば、勞農ロシアに於ける「人民」とはプロレタリアのみを意味し、爾餘一切は事實的に人民の圈外に所屬する存在に外ならぬ。然も勞農政府の執行權力は、懸つて一に全政府人民委員會に置かれる限り、當然其政治形態がプロレタリア獨裁たるべきは論を俟たぬ。即ち、純然たる兵卒、労働者、被傭人、農民等より成る全ロシア労働會と、而して其中央執行委員會の選舉に依つて人民委員會の額觸が決定されるのであるから、其政治上に於ける行政組織は全くの労働專制である。レーニンの見解に依れば、斯る獨裁政治は資本主義制度の解體と共にして、ボルシェヴィズムは政治的の直接行動主義を採る。レーニンは其著「ロシアの政黨」に於て、議會制度は資本家階級の利益を擁護する爲の組織であるとの見地から、之が否定を明白に主張してゐる。同時に正統派社會主義の主張する議會

政策を否認して、政權の中樞に對するプロレタリアの直接行動主義を力説したのである。一九一八年の革命の跡を見るに、彼等は疾風迅雷的に中央政權を奪取し、而して全國に、産業生活の混亂を來す爲に止むを得ず採らねばならなかつた必要なる政治であつて、つまり「眞正のデモクラシー」に至るべき社會進化の一階梯であると云ふ。眞偽は知らず、兎にも角にも右の「プロレタリア獨裁」は、ボルシェヴィズムに於ける最大の特徴をなしてゐる。

【政治的の直接行動】 次に擧ぐべき特色も、畢竟之と表裏するものに過ぎないが、それは政治的の直接行動といふことである。サンディカリズムが經濟的の直接行動を採るに對し、號令して強固なる集權制度を確立したのであつた。蓋し彼等は議會の多數を制し合法手段に訴へて社會主義社會の到來を計策するが如きは迂遠であると共に無謀であり空想であることを認識したからに外ならない。勿論、ボルシェヴィズムを奉ずる列國の共產黨だとして、議會制度否認なる理由を以て、必しも議會に其代表者を送ることを見避してゐるのではない。然し、彼等が議會に議員を送るのは、其多數を制して立法的に社會制度の改革を圖らんが爲ではな

く、之に依つて議會の内部を攪亂し、延いてはブルジョア議會の醜劣を暴露せんが爲の手段だと稱してゐる。其意味に於て、たとひ彼等が議會に議員を送つたところで、それは議會を認容せる結果でなくして、却つて議會に對する一般的信用を失墜せしめんが爲の手段であり、議會否定の逆面的戰術と解すべきである。此點は議會政策を認容して立法的改革を主張する正統派や修正派と根本的に背反すると同時に、經濟政策の一本槍から議會政策を有害無益とするサンディカリズムとも、根本的なる相違をおのづからに表示してゐる。ボルシェヴィズムは此の如く議會制度を否認する。けれども、此事實は決して彼等の國家否定を意味するのではない。寧ろ労働國家を重視する爲、資本中心の議會制度を否定するに過ぎない。何故かならば、ボルシェヴィズムはサンディカリズムの如く、労働者に對して産業の全支配權を許さず、生産機關の國有を主張してゐるからである。これ彼等の主張が根本に於てコレクティヴィズム(集産主義)の立場を採り、國家社會主義と共通する所以に外ならぬ。レーニンの著書に散見する持論を見ても、勞兵會の宣言を見ても、これは明白に認め得る事實である。今

や共産黨正統派から除外されたといへ、レーニンと共にボルシェヴィキ革命の二大柱石と仰がれるトロツキーの如きも這般の消息を説明して「集産主義は社會民主黨が政權を獲得した場合の規律であると共に、又政權を獲得するまでの規律である」と喝破してゐる。ボルシェヴィズムは右の見地から、議會制度に代行すべきソヴェエト制度を採用し、以て労働國家の規律維持に當らしめつゝある。

ボルシェヴィキ

【多】(Bolshevik)の比較形容詞たる「より多く」(boleshaiki)を名詞に變へ、而して之を複數としたる「多數派」の意味。語義的には單にそれだけだが、歴史的社會的には「ロシア社會民主黨の多數派」を特定し、今日のロシアを獨裁的に支配する政黨の名稱となるに至つた。ボルシェヴィキとメンシエヴィキとが分れたのは一九〇六年、ロシア社會民主黨の第三回大會がストックホルムに開かれた時、運動政策に關する意見の相違からブレハノフ派とレーニン派とが分離し、當時レーニン一黨の急進派が多數を占めたのでボルシェヴィキと呼ばれ、ブレハノフ派をメンシエヴィキと呼んだに起因する。祖國を亡命して外國で大會を開いた

程であるから、本國でも其當時は、社會民主黨の分裂を餘り問題にしなかつたが、歐洲大戰が開始されるや、ボルシェヴィキ一派の策動物凄く、爲に最密なるボルシェヴィキ派の社會民主黨員のみでなく、極左派とか過激派とかの代名詞として廣く用ゐられるに至つた。革命當時のボルシェヴィキは、レーニン派の外に、トロツキー派、マルトフ派等を加へたものであつた。其頃、我國で一般に「過激派」と呼んでゐたのは、イギリス、アメリカの諸新聞がボルシェヴィキの原名では讀者が不案内であつた爲にエクストレミストとかラディカリストとか呼んでゐたのを、其まゝに譯して「過激派」の名稱を冠した結果に外ならない。然しボルシェヴィキの本來的の語義には、少しも「過激派」といふ意味は含んでをらないのである。

【沿革】

ロシアの社會運動禁歴は、世界で最も酷薄を極め、刑死流謫は無數に行はれたのである。此運動の中心となつたものは多くインテリゲンツィア(知識階級)の青年であつたが、彼等は其爲正當なる運動の繼續を許されなかつた結果、ニヒリズム、テロリズム、アナキズム等に走つて直接行動に出づる者が少くなかつた。合法的運動

をなさんする者も、斯うした状態であるから社會主義を看板に進出するのは不可能の事情もあり、當時のブルジョアの憲政運動と提携して官憲の眼光を瞞化するの外なかつた。此一派の指導者はマルクス主義の者宿ブレハノフで、彼は斯くて憲政運動の進歩的分子を糾合するに努力し、遂に一九〇〇年、ミンスク同志の第一回大會を召集し社會主義的新政黨の組織を宣言するに至つた。これ「ロシア社會民主労働黨」である。然るに元來、此政黨は純然たる社會主義的分子と曖昧なる民主主義的分子の組合せであつたから、運動方針や其他に關して一致行動を採りがたく第二回大會をロンドンに開催せる頃は(1905)漸く急進派と漸進派の抗争が露骨になつて來た。急進派の親玉は年少氣鋭のウラヂミール・ニコラウイッチ・レーニン。彼は『火花』、『曙光』等の機關誌を發行し、労働階級に根強き勢力を張つてゐたが、ロンドン大會では政治運動主義を強調して經濟運動派を蹴散らし、一切の問題の指揮命令權を中央委員會に置き、地方支部をして此指揮命令に従つて行動すべきことを決議せしめた。之に對してブレハノフ一派は、中央委員會の權能を斯く強力なるものとせず、單に各箇労働組合の協

調を圖る爲の機關たらしめ、先づ地方支部の實力涵養に専心すべきを主張したが、根本的なる政治運動主義者には反對しなかつた。然るに、前記第三回大會に至るや、

兩派の無産者獨裁主義と無産者民主主義とは裏面的に衝突し、レーニンの直截簡明なる理論はブレハノフの學究的にして廻りくどい議論を壓倒して、遂にレーニン派とブレハノフ派とは、ボルシェヴィキとメンシエヴィキの名稱に於て完全に分離せねばならなかつた。然もブレハノフは、更にメンシエヴィキとも分離したので、ロシア社會民主労働黨は三派に鼎立し、其状態は一九一七年の革命まで續いた。

【革命】

ボルシェヴィキ、メンシエヴィキ、ブレハノフ派は此の如く本國に於て鼎立したが、其指導者達は孰れも國外に放逐されてゐた。社會黨も極めて少數ながら議席を有してゐたが物の數ではなく、大戰當時の各國社會黨は孰れも主戦派と非戦派とに分離したのであつたが、ロシアに於ては殆ど非戦論を聞かれなかつた程である。それは兎に角、戦争参加後のロシアの戦況と内治とは悲惨を極め、財政の窮乏、戦況の不振と相俟ち、一九一六年の飢饉に際しては、竟に各地の暴動を誘發する危険状態と

なつた。斯くてチヘーゼは一九一七年三月十日労働者とペトログラード守備の兵卒を糾合して「労働兵會」を組織し、ミリューコフ、

ロッヂヤンコ、グチニコフ、ケレンスキー等と公然皇帝に退位を強要し、次に共和政治を執行するに至つた。新内閣は法相ケレンスキーの決断に依り、國事犯人の大赦を宣明した。同時に多數の國外追放者も續々と歸國することが出來た。先づレーニンはゾノヴィエフ以下三二名の同志を率ゐてドイツ戦線を通じて歸國する、トロツキーはアメリカ在住の過激分子を引き連れて入國する、ブレハノフ、コヅァレスキーはスウイスより、ブレシニコウスカヤ女史はシベリアよりといふやうに、多年の亡命客は前後して祖國に於て會したのである。吳越同舟なりに、軍隊及び労働者の間に潜入して赤化運動を試み、労働會を完全に藥籠中のものたらしめ得た時、海軍にも亦此一派に内應する者が現れ、同年十一月十日、疾風迅雷的にケレンスキーを首班とする内閣を顛覆し、軍事革命委員會に依る新政府を確立した。革命の經過に就いては尙詳述すべきものもあるが(命を照)、兎に角レーニンは、斯くて労働共和國の獨裁執政者となり、トロツキーは外務兼軍務委員となつて

今日の労働政府の基礎を鞏固ならしめたのである。(命を照)

【近況】

政權掌握後のレーニンは内外の施設に關して根本的變革をなし、土地國有、銀行國有、貯藏金徵發、内外債破棄、貿易國營等を実行すると共に、黨名も「ロシア社會民主労働黨の多數派」から「ロシア共産黨」と改稱した。これは第二インターナショナル流の「社會黨」なる名稱が微温化したので、マルクスの所謂「共産黨宣言」に摸し、革命的印象を與へんが爲だといはれる。共産黨はレーニンの死(命を照)後、人民委員長にルイコフが就任し、ゾノヴィエフ、スターリン、カメネフの三羽鳥に依つて支持されてゐた。然るに外様大名たるトロツキーが「十一月革命の記憶」なる冊子を發表したことに因つてゾノヴィエフと論端を開き、除名といふ問題にまで發展したが今度はゾノヴィエフとスターリンの間に意見の衝突を來し、却つてトロツキーと提携して黨内攪亂を企てたといふ廉で、一九二七年十二月、兩巨頭は同時に黨籍を除外されることになつた。同時に、カメネフを初め、スミルノフ、マルトフ、ラコウスキー、ラデック等、百數十名の除名も發表されたのである。除名の表面的理由は、

スターリン、ルイコフの幹部派に對して彼上の非幹部派が、餘りに徹底的退嬰的なりと攻撃したことが、黨中に黨を樹てる行爲だといふにあるが、根本は勢力争と解せられる理由が甚だ多い。レーニン幕下の一羽鳥のみ榮え、革命以來の名物男は斯くしてボルシェヴィキを追はれた。いつ再び、地位を顛倒して盛衰が逆轉せぬとも限るまいが、當分はスターリンの獨り天下を續けるであらう。

【マ】

マーカントリスム

(Mercantilism)

又マーカントイル・システム (Mercantile System) と呼ぶ。普通には重商主義と譯されてゐる。これは、一の國家經濟政策であつて、オンケンが云ふ如く「國王致富警察主義」とも見なすべきものであらう。これは資本主義の擡頭といふ經濟上の事情を背景とするものであると共に、近代國家の成立といふ社會的の產物でもあつた。近世に入つて、スペイン、ポルトガル、フランス、イギリス等に集中的の國家が成立し、後にはドイツさへ統一國家となつた。近世に於ける諸國家は、殆ど時を同じうして成立したといつて差支ない程である。所で、一度

形成された國家は互に自己の優越と利益との爲に全力を傾倒することになり、國家間に利害の衝突が醸成されて來た。即ち一國の利益は他國の損失となり、後者の利益が前者の損失となるといふ風に、國家間の利害が常に相反し勝ちであつた。此ことは各國をして自己確立に腐心せしめ、資本主義擡頭といふ經濟的の事情と相俟つてマーカントリスムを發生せしめたのである。隨つてマーカントリスムが、自國に有利となるべき貿易平衡、貴金屬の吸收に依る國力の充實を目標とするに至つたのも當然の傾向だといはねばならない。故にマーカントリスムは、經濟上に於ける國家主義であり、近代國家の完成するまでは頗る勢力を持つてゐた。第十五世紀から第十八世紀に亘るヨーロッパ諸國は、殆どマーカントリスムの支配下にあつたといつて差支ない程である。資本主義は國家主義と必しも相反するものではなく、又常に同一線上を歩むものでもない。必要に応じて國家を利用することもあれば、國家主義に反對することもあるのである。而してマーカントリスムは、國家の要求と資本主義の要求とが全く合致した爲、両者が相互に利用し合ふことになつて著しい勢力をなしたのであつ

た。其以後に現れた自由主義は國家の自立的要求でなく、寧ろ資本主義の要求に國家が隨從せしめられたものだといふことが出來よう。マーカントリスムの權化の如く稱せられてゐる者に、フランスの Colbert とイギリスの Cromwell があるが、彼等の執つた政策は必しも資本主義の爲のみではない。國家の自立的必要に基くものだったのである。マーカントリスムの詳説は『社會辭典』の範圍外に屬するから、之を『經濟辭典』に譲ることにし、近代國家形成の必要上産み出されたといふ社會史的意義だけを強記しておく。

マニエアリズム

「筋肉労働」を見よ。

マニエフアクチア

【概説】 マニエフアクチアは、今日では普通「工場手工業」と譯されてゐる。元は織維工業が其主要なる部門だつた爲、織物工業を指す語として用ゐられてゐたこともあり、日本では永く、「製造業」と言ふ譯語が當てられてゐた。然し手工業や機械工業と對立せしめてマニエフアクチアといふ場合には手工業から機械工業への過渡期に於て専ら行はれた工業生産上の一形態、即ち手工的熟練を基礎とする所の工場制工業を指す。故にマニエフアクチアは、織物工業だけを指

すものでもなければ、製造業を意味するものでもないのである。マニエフアクチアに於ては、機械力を應用すること無く、生産の全行程が手工的の熟練に基いて行はれてゐた。然もそれが手工業と異なるのは、一商品の生産行程が成く個々の獨立労働者に依つて行はれるのでなく、工場に集められた多數の賃銀労働者に依つて協業的分業的に行はれる點である。今假りに馬車が製造される過程を考へて見れば、手工業の下では車體は車匠に、馬具は馬具師に、裝飾は裝飾師に依つてといふ風に各部分の労働が獨立した手工業者に依つて行はれてゐた。然るにマニエフアクチアでは此等各種の労働者が一工場に集められ統一的協業的に馬車の製造が行はれる。又手工業時代には一手工業者に依つて針の全生産行程が擔任されてゐた。然るにマニエフアクチアの下では針製造上の全行程が幾つかに分類され、各部分が分業に依つて多數の労働者に分擔される。隨つてマニエフアクチアの労働者は、手工業者の如く生産上獨立してゐる者でなく、全然資本家の指揮命令の下に立つ。其點に於ては機械力を利用してゐる工場制工業に於ける労働者と何の相違も無い。彼等は獨立した手工業者と異り毎日單

純なる部分的作業に従事してゐるから、其分擔範圍での労働に熟練し、利用すべき労働器具を次第に發達せしめることになる。即ち獨立した手工業労働者と違つて全能的の労働器具を必要とするわけではなく、作業のみに利用し得る労働器具をより有效ならしめればいゝのであるから、マニエフアクチアの下に於て労働器具の特殊の發達が進むのも敢て不思議でない。然し斯る發達も、マニエフアクチアの時代に於ては作業の根底たる手工的熟練を驅逐するまでにはならなかつた。けれども労働器具の發達が次第に進み、熟練の労働者と同様の作業を爲すやうな機械が出現すると共に、手工的熟練も其意味を失ひマニエフアクチアが亡んで來たのである。言ひ換へるとマニエフアクチアは手工業の一發展段階として現れ、新機械を生産すべき組織的工場を生み、工場制機械工業出現の地均しを勤めたのである。工場制工業が盛になつた第十八世紀末葉以來、マニエフアクチアが次第に産業界から姿を消し、今日では極めて特殊なる産業部門に、例外的に残存してゐるに過ぎない。即ちマニエフアクチアは其過渡的職分を果すと共に、全く社會的存在意義を失つてしまつたのである。

【社會的意義】 マニエフアクチアは工場制工業の原始的形態といふべきものあり、最初の資本主義的企業であつた。手工業時代には手工業者の團體たるギルドが生産上の獨占的地位にあり、其末期にはギルド組合員たり得ない手工業労働者が頗る増加してゐた。其上アメリカ大陸や喜望峯航路の發見、奢侈的工業製品の國內需要増加等に依つて、工業製品の販路が地域的に擴大されると共に、社會的にも大きくなつた。即ちより大量の需要が生じて來たのである。一方、交通や貿易の發達に依る商業資本の増大が、資本の活躍すべき、範圍を擴げ、工業界へも斯る商業資本を流入せしめることになり、茲にギルドに依つて門戸を鎖されてゐた熟練労働者を集めたマニエフアクチアが發生したのである。故にマニエフアクチアは資本の増殖を目的とする最初の企業的生産であり、資本主義的生産の出發點であつた。即ち此制度の下に於ては、中世的手工業とは違つて生産機關の所有者と労働者とが全然別箇の存在であつた。マニエフアクチア労働者はギルド組合員の如く生産機關の所有者ではない。而してマニエフアクチアに於ける生産機關の所有者は、ギルド組合員のやうに労働者ではな

かつたのである。此處では生産機關を所有してゐる者と所有しない者とが厳然と對立してゐる。そこで労働者は其労働力を賣る外に生活の手段が無く、労働力が商品化した。斯くて資本主義の展開する起點となつた所にマニユファクチュアの社會史的意義があるといはなければならぬ。

マノール 第十一世紀頃から第十四世紀の末葉にかけ、イギリスに存在してゐた一種の莊園制度。當時の社會では交換の行はれることも極めて例外的で、農業に立脚する自給自足の經濟が主として行はれてゐた。マノール(Manor)とは即ち其一單位をなしてゐたもので、村落も住民の耕地も領主に所有されてゐた。此點に於て、マノールはミールやマルク團體のやうな村落共產體と異つてゐたのである。マノールの住民は鞏固なる團結をなし、共同の労働に従事してゐたけれども土地を所有してゐるわけではなく、領主の土地を利用する代償として様々の課税に服してゐた。然も彼等が領主から貸與される耕地の大小は彼等の間に存する階級的差別に依つて決せられた。課税も亦階級に依つて異つてゐたが、主として領主に對する労働力の提供に依つて果された。言ひ換へると、彼等は領主から其土地

の耕作を許される代償として領主の直營地を耕作してやるのである。労働力の提供にも、毎週二三日宛之を行ふのと、特に農業の繁忙なる時數日間續けて行ふのと、別の別があつた。又、農業以外の他の労働に服することもあれば農産物を年貢として納めることもあつた。マノールには作業の監督をし内部の秩序を維持すべき役員もあれば、犯罪者の所罰や小作地の振替等を行ふ爲の裁判所もあつた。住民が外部の者と接觸することが殆ど無かつたので、日常生活に必要なものは残らずマノールの内部で生産されてゐた。彼等の間には鍛冶屋もあれば、大工もあつたのである。然し、マノール内部の生産力が進み、其生産物が彼等の必要を満して尙餘りある状態になると外部との間に交換が始められ、各地に祭市や、週市などが出来た。即ち此所で各マノールの餘剰生産物が交換されるのである。かうして生産物の交換が續けられてゐるうちに彼等の生産が次第に交換を目的とするやうになつて、其結果自足經濟の單位たるマノールの結合も弛緩してしまつた。一方、領主も交換に依つて生産物を獲得することを便利とし、マノール住民に労働力を提供させて直接生産するよりも、貨幣若しくは其役目を

果し得る生産物を年貢として納めさせるやうになつた。其結果、第十四世紀の末葉に至つてマノールも全く消滅してしまつたのである。

マルキシズム 「共產主義」を見よ。

マルク共產團體 ドイツに存在してゐた村落共產團體。中世の後半以後特に發達してゐたものである。マルク團體(Markgenossenschaft)は、マルクなる共有地に對して共同の使用權を持つ者を以て組織されてゐた。初めのうちは此共產團體も一村落到依つて形成されてゐたが、次第に多數の村落を包含するやうになつた。普通、前者を小マルク團體、後者を大マルク團體と呼んでゐる。マルク團體は、必しも耕地だけを共有してゐたわけではない。牧草地や森林や原野なども共有し、團體員は孰れの土地に對しても同様の使用權を持つてゐたのである。然し、團體が次第に大きくなり人口が増加して無制限の使用權が與へられなくなると、之を制限する爲團體内に一の規則が設けられて來た。即ち新に村落に移住して來た者や、一定の義務を果さない者には使用上の制限が加へられたのである。使用權の制限は、マルク團體に各種の制度や役員を生むことになつた。土地の使用權が世襲

されるやうになると、森林裁判所の如きものも發生した。手工業者が村落に移住して來る結果、都市も形成されれば私有財産制も生じて來た。政治的には、最高マルク司廳が生じて國王や莊園の領主が之を掌るやうになり、卒に此村落共產體も消滅してしまつたのである。

マルサス主義 マルサスの著「人口論」が提示する法則に従ひ、食物増加率以上に

出づる人口を調節すべく、各人が情慾を抑制せんとする主義を謂ふ。マルサスは、社會に罪惡や貧困の絶えないのを、食物増加率以上に出づる自然的の人口増加率が生む必然の結果であると説いた(「人口論」)。そこで、マルサスの見解を受容れるとすれば、罪惡や貧困を絶滅する方法も人口制限以外には無いことになり、道徳的抑制に依り之を制限すべしといふことが生れる次第である。其後、貧困や罪惡が必しも人口過多の結果ではなく、社會組織の缺陷にも基くことが主張される一方、人口制限の爲に情慾を道徳的に抑制することも不可能であり、之を強ひることが殘酷であるとも説かれるやうになつたので、寧ろ科學的方法に依る避妊を産兒制限の手段たらしむべしと唱へる者も現れて來た。これが所謂新マルサス

主義である。理論的に見れば、此等の主張は「人口論」の根本原則、即ち人口増加率が食物増加率を越ゆるといふ法則を認める點に於て、同一の立場に立つものでなければならぬ。然し實際上、新マルサス主義といふが如きは、避妊手段に附せられた通俗用語に過ぎず、理論上重要視する程のものではないやうである。

マレー式血統制度 之にあつては總ての血族を五階段に區分する。第一段に屬するものは自己、兄弟姉妹、從兄弟姉妹、再(及び其以上の)從兄弟姉妹等にして此等は孰れも日本の兄弟姉妹を以て呼ばれる。

第二段は父母、伯叔父母及び其等の從兄弟姉妹等にして孰れも日本の父母である。第三段は祖父母、其兄弟姉妹(其他上に準ず)等で孰れも我が祖父母である。第四段は子女明姪及び其從兄弟姉妹等で孰れも我が子である。第五段は孫及び其從兄弟姉妹等にして孰れも我が孫である。(團體婚姻)

【三】

ミール(Miir) ロシヤに行はれてゐた村落團體で、土地の共同耕作を基礎とする制度である。ミールの生じたのは一六〇〇年代だと主張する者も多いが、他の諸國で

も此種の村落共產團體は古くから存在してゐたのであり、ロシヤにのみ第十七世紀から生じたと思ふべき根拠は無い。上代原始社會から共產村落は存したのであるが、第十七世紀頃は衰微の傾向を辿つてゐたに違ひない。それをロシヤの貴族階級が農奴制と租税共同負擔制とを行ふ爲に助成保持することになつたのだらうと推定される。此制度は第二十世紀に入つても猶一部分に殘存してゐる、永い間ロシヤの基本的社會制度となつてゐたのである。ミールの住民は其村落の土地に對し使用權を持つてゐた。然し此使用權は永久的のものではなく、一定の期限が來れば消滅するもので、期限後は改めて土地割當が行はれる。普通、國王の土地は十年乃至十五年目に割當が行はれてゐた。割當でられる土地は孰れも小地區で、他人の利用する土地を通らなければ己の土地に達することが出来ない爲に作附も播種も皆一定の規定に従ふ強制耕作が行はれてゐた。其上、租税の負擔もミール成員の共同責任であつたから、彼等の間には自治制が發達してゐたのである。ミールが合して郡を成し、郡は農民生活の改善、行政官廳との交渉、司法的職務等を職分としてゐた。ミールは一の法人で、賣買貸借をす

ることも出来れば特殊の規定習慣も持ち、一般國法の外にあつた。ミールの役員は概ね有給であり、村長(スタロス)は任期三年であつた。村長は時々村内の家長會を開き、ミール内部の出来事に就いて協議しなければならぬ。スタロスやミールの助役、收税係等は郡参事會に列して、ミールで裁斷し得ぬ重要な出来事は郡會に控訴して其裁決を求むることが出来るのであつた。ミール制度崩壊の原因は必しも單一ではなからう。然し、農村に對する高利貸の侵入が重要な一原因となつたことは見逃せない。即ち貨幣經濟の發達につれて、農民も亦貨幣を必要とするやうになり、秋の收穫を抵當とするか、或は全然無抵當で高利の金を借りるやうになつたのである。無抵當の場合が多い爲に其利子も驚くべき高率であつた。そこで農民は加速度に困窮し、土地に對する權利をも高利貸の手に渡すことになり、斯くして漸次此制度が滅亡して來たのである。

身分

「階級」を見よ。

民衆娛樂 専ら無産階級に享樂される娛樂を謂ふ。娛樂が人類生活に缺くべからざるものであることは改めていふまでもない。朝から晩まで働き通してゐては、何人も

も斃れてしまふ。それは精神や肉體が疲弊するからである。肉體の疲勞は十分なる食事を攝つて睡眠すれば治るであらうが、精神の疲勞はそれのみで十分に癒されぬ。そこで娛樂の必要が起つて來るわけである。原始人の間にも何等かの意味に於ける娛樂があつた。音樂の如きものも、何等かの形で原始時代から存在してゐた。日本の歴史に就いて見れば、太鼓、小鼓、神樂、角力等の如きものは古代からあつた。此等が執れども、一の娛樂であることはいふまでもない。けれども、娛樂の中には無産階級の自由を享樂し得ざるものも少くない。費用や習慣の上から、上流階級のみを享樂される娛樂も多いのである。然るに近代に於ける生産の機械化は、勞働のうちに含まれる享樂的部分を減少せしめるから、民衆の娛樂に對する要求をより多からしめる。藝術家の制作には創造の喜びが含まれてゐる。けれども、現在の下級精神勞働者や賃銀勞働者にとつて、どこに勞働の喜びがあるであらうか。彼等の生活は次第に機械化しつゝある。そこで、彼等の精神的疲勞を救ふべき民衆娛樂も次第に盛になつて來る。活動寫眞、淺草式の安芝居などが逐年盛になるのである。等しく民衆娛樂といつても、講

談、落語等の比較的悠長のものが衰微し、劍劇、劍劇映畫等が盛になるのは、民衆の生活がより機械化し、娛樂に依つてより多くの刺戟を得なければならなくなつた證左だといはねばなるまい。

民主主義

【概説】デモクラシー(Democracy)の譯語。民本主義ともいふ。人民に依つて、又は人民の意志に依つて政權の運用される政治形態である。アブラハム・リンカーンは之を定義して「人民の、人民に依る、人民の爲の政治」となした。此定義は一般に承認されてゐるけれども、此三要素のうちでは「人民に依る」が最も重要で、他の二要素は必しも不可缺のものでない。デモクラシーといふ語はギリシヤ語の *Demos*(人民)及び *Kratos*(權力)から出たもので、西曆前第五世紀の歴史家ヘロドトスが初めて用ゐたと傳へられる。プラトンやアリストテレスも其政體論でデモクラシーなる語を用ゐた。政治の形態を君主主義、貴族主義、民主主義に分つことは、ギリシヤに於て一般に用ゐられたやうである。そしてギリシヤでは直接的民主主義、即ち人民が直接政權を行使することが要望され、統制範圍の狭小なる都市國家で、此等の主張が實現されてゐたこともある。直接的の民

主主義は、國家の範圍が擴大されると共に事實上行はれなくなる。範圍の廣い國家では、民主主義が同時に代議政治となるのである。民主主義の主張は、其後近世に至るまで大した發展を示さなかつた。然し封建制度が崩壊し、所謂第三階級が社會的勢力を得ると共に彼等も政治的支配階級たる地位を脱しようとする熱望を持つことになり、民主主義の要求が盛になつた。近代的民主主義の支持者は、孰れも新興の市民階級であつた。彼等は中世期的専制政治に反抗して政治的自由と平等とを要求した。然し、彼等商工資本家階級の政治的自由と平等との要求は、決して全人民に参政權を與へよといふのでなかつた。彼等は其要求を達成する爲に等しく政治上被支配階級である無産者を道連れにした。政治上に於ける自由と平等との戦であるフランス革命が、無産階級の援助を受けたことはいふまでもない。然も、自由と平等とを與へらるべき「全人民」は、要するに第三階級だけだつたのである。何故ならば、此ブルジョア革命に依つて選舉權を與へられたのは、一定の直接國稅を納める者だけだつたからである。斯くて此近代的民主主義は實質上ブルジョア・デモクラシーに過ぎなかつた。

制限選舉の行はれる限り、代議政治も眞のデモクラシーでない。徹底的のデモクラシーは、婦人も包括した普通選舉に依るものでなければならぬ。無産階級の勢力が増大すると共に普通選舉に基くデモクラシーが主張され、文明國では漸次無産階級及び婦人にも選舉權が與へられてゐる。

【デモクラシーの諸形態】デモクラシーは上述の如く、政治上の一形態であり、經濟制度と直接の關係を持たないから、種々の社會的經濟的主張と一致することがある。例へば産業上のデモクラシー、社會主義實現手段としてのデモクラシー等がそれである。産業的民主主義といふのは、サンディカリズムやギルド社會主義の如く、産業上の自治を主張するものである。換言すれば産業の上にデモクラシー的制度を應用しようとするのである。産業的民主主義は資本主義を廢絶して總ての生産者の爲に總ての生産者に依る産業の自己管理をなさうとするのである。社會主義實現の爲に民主主義を主張するのは即ち社會民主主義である。これはデモクラシーの徹底に依つて、勞働階級が政權を把握し社會主義を實現しようとするのである。又、近來ではプロレタリア・デモクラシーといふ語も用ゐられる。

これはレーニンの造語で、ブルジョアのデモクラシーに對してプロレタリアのみをデモクラシーを意味する。即ちそれはブルジョア・デモクラシーがブルジョアに對して爲した如く、プロレタリアだけに政權を與へ、階級對立の無い社會主義社會を實現すべく、其國家權力を運用しようとするのである。然しこれは結局階級的獨裁で、ブルジョア・デモクラシーが然らざる如く、眞のデモクラシーでないわけである。

民約説

「契約説」を見よ。

【五】

無意識的單純協働 「協働」を見よ。

無産階級 「プロレタリア」を見よ。

無産小學校 無産階級の子弟のみを收容する小學校である。我國では大正十五年の夏、新潟縣北蒲原郡木崎村に小作爭議が起つた際、小作人の兒童が同地の小學校を休んだので日本農民組合は木崎村に小作人の兒童を收容する小學校を建設し、農民運動者の群が教師の任に當つた。然し此無産小學校は縣當局の干渉に依つて禁ぜられたので、木崎高等農民學校と改めることになつたのである。又昭和二年から三年に互つての千葉縣野田町に於ける勞働爭議に際し

ても小學生の盟休状態が永く続いたので、無産小學校の建設が計畫された。然しこれは竟に實現しなかつたやうである。

無産政黨運動 日本の無産階級運動が經濟的闘争から政治的闘争へと向つて來たのは大正十一年頃からであつた。斯る傾向は、やがて政治問題研究会を生み(大正十一年三月)、労働總同盟を初め各労働組合や思想團體の有志などが之に参加することになつたのである。此研究会は十三年に入つてから、無産政黨組織準備の爲に全國的の團體を組織することになり、同年六月に「無産階級の立場より、政治、外交、財政、經濟、教育、産業、労働、社會の諸問題を調査研究し、これが對策を確立し、大衆的政治的組織を促進し、以て日本社會の合理的改造を期す」の政治研究会となつた。労働組合の指導者連も普通選舉實施に對する準備と無産政黨樹立問題とに漸次注意を注ぐやうになり、到る所の組合が普選問題や政黨問題を討議するやうになつた。大正十四年になると無産政黨樹立の要求も頗る盛になり、二月に大阪で開かれた全國労働組合協議會の如き、殆ど無産政黨樹立促進と組合運動の全國的機關設置とを問題とするものであつた。又十三年秋頃から労働總

同盟の九州聯合會あたりでは地方的無産政黨の樹立を計畫してゐた。十四年三月の總同盟大會に、無産政黨は先づ地方的に着手すべしといふ提案が現れたのは即ち其爲なのである。此年總同盟から分離した日本労働組合評議會は、全國的單一政黨をスローガンとして進み、政治研究会、日本農民組合等も其爲に活躍してゐた。日本農民組合は此年の六月、全國三十一團體に向つて無産政黨準備機關の設置を提議し、之に應じた十三の労働組合及び農民組合は、八月十一日大阪に第一回準備協議會を開くことになつた。此會議の結果、九月中旬に第一回の綱領規約調査委員會が開かれたが、各團體の提出した綱領草案に就いて激烈なる論争が生じ、決裂の危機を示した。此形勢は十月半に至つてやうやく緩和され、十月十八日第二回の委員會が開催される運びになつた。そして、種々なる迂回曲折もあつたが、十一月に第二回の準備委員大會が開かれ、兎に角十二月一日に單一無産政黨結成の運びになつたのである。即ち同日午後五時二十二分東京の明治會館で、農民組合の杉山元治郎司會の下に最初の無産政黨たる「農民労働黨」の結成式が擧げられたのである。然し時の政府は同日午後八時に治安

警察法第八條第二項に基き、此結成を禁止してしまつた。それは中心的人物の多くが極端なる共產主義者であつたからである。最初の無産政黨が解散を命ぜられたことは、一時政黨組織運動の氣勢を削いだ。そして、共產系分子の排除が要求されて來たのである。十五年一月には農民組合及び官業總同盟の代表者に依つて、無産政黨再樹立の爲の第一回懇談會が開かれ、二月に第二回懇談會が開かれたが、其席上「新政黨は、全然共產系を排して現實的の政黨組織を以て進むこと。無産政黨の創立を困難に導く組合は、積極的には拒絶し、消極的には遠慮して貰ふこと。」が申合された。これが所謂玉姫クラブの申合である。此申合が出来てから労働總同盟も正式に懇談會に参加し、且三月一日に労働組合評議會外三つの共產系團體に屬する一切の個人を新政黨から除外すべきことを聲明した。斯くして新政黨「労働農民黨」は三月五日大阪土佐堀青年會館に於て結成式を擧げることになつたのである。結成後第一回中央執行委員會が入黨勧誘の範圍を日本農民組合、日本労働總同盟、東京市電自治會、司厨同盟、日本労働組合聯合會、製陶同盟、日本海員組合、官業労働總同盟の所屬者に限つたのは、上

述の申合に基くのであつた。けれども、四月十八日の第二回中央執行委員會では加入範圍が問題となり、玉姫クラブの申合に従つて門戸を鎖す主張と、一切の黨派に門戸を開放すべしとの主張とが對立し、激論の結果、門戸解放派の勝利に歸した。けれども、此時決した門戸解放は猶確固たるものでなく、十月の第四回中央執行委員會までの間、門戸解放問題を中心に左右兩派の闘争が續いた。然し結局門戸閉鎖派に勝味が無く、第四回委員會に於て閉鎖派の労働總同盟、官業労働總同盟、労働組合總聯合、市電自治會、司厨同盟等は相違いで脱退を聲明することになつた。斯くて労働農民黨が分裂した後、労働總同盟派に依つて社會主義黨が、總同盟中の不平分子に依つて日本労働黨が組織されたのである。一方、十五年三月日本農民組合を脱退した一派は同年十月農民のみの政黨を組織した(會民黨、労働黨、日本農民黨)。又、労働總同盟九州聯合會、農民組合などを根據とする八幡市の民憲黨(十四年四月)、海工會、工俵會を中心とする吳市の獨立民衆黨(十四年十一月)、大阪市に於ける純向上會員の關西民衆黨(十五年十一月)、製陶労働中部農民組合、向上會等に依る名古屋市の労働農民黨(昭和二年一月)、八幡地方に於ける社會

民政黨(昭和二年一月)等の地方的無産政黨も生れて來た。昭和三年二月には、普通選舉に依る最初の衆議院議員總選舉が行はれ、社會主義黨から四名、労働農民黨から二名、日本労働黨一名及び地方無産黨一名、合計八名の代議士を出した。此選舉に當つて各派の候補者亂立の弊が痛感されたので、無産政黨の間には分裂主義から合同主義に向はんとする傾向が見受けられたが、同四月十日に至つて共產系事件なるもの一部が發表され、之に關聯して労働農民黨が解散されてしまつた爲に最左翼の共產系分子の政治的進出は當分期待されさうもない。

民大衆の現實緊急の必要を充すべき合法的な大衆政黨として結成されつゝも、自己の使命と目標とを日本無産階級全體の當面任務の成功的遂行に見出し、總ての無産團體大衆の積極的支持を期待する。(大要)

【綱領】 (一)我黨は、労働者、農民、俸給生活者其外一般小市民の政治上、經濟上、社會上の利害を代表する。(二)我黨は合法的手段に依り、有産者の利害に偏倚したる政治上、經濟上、社會上の諸制度を改め、合理公正なる社會生活の實現を期す。(三)我黨は同一の社會層を代表する總ての全國的及び地方的無産政黨の合同に依り單一政黨の樹立を期す。【政策】(一)普通選舉の徹底(二十歳以上の男女の選舉權、被選舉權の獲得、保證金、居住期間其外の無産階級の選舉權行使に對する一切の制限の撤廢、大選區比例代表制の制定)、(二)無産階級運動抑壓諸法令の改廢、(三)言論、集會、結社の自由確立、(四)税制の根本的改廢、無産階級の負擔軽減、財産税、所得税の高率累進課税、(五)生活必需品の消費税及び關稅の撤廢、(六)軍備縮小と兵役年限の短縮、(七)植民地の政治的差別撤廢、(八)秘密外交の打破、(九)冤罪、不當拘束に對する國家の賠償、裁判制度の改廢、(十)

地方自治制の民主化。「産業」(一)八時間労働制(鐵山労働六時間)の確立、(二)最低賃銀法の制定、(三)少年及び婦人の夜間労働、抗内労働、船内労働及び危険作業の禁止、(四)工場法、鑛業法、海員法の改正及び自由労働者保護法の制定、(五)係給生活者保護法の確立、(六)失業防止及び失業保険制度の確立、(七)健康保険法の改正、(八)立入禁止假處分及び立毛差押の禁止、耕作權の確立を基調とする小作法の制定、(九)最高小作料の制定、(十)小農の養蠶事業に對する保護法の制定、(十一)團結權、罷業權團體契約權の確立を含む組合法の制定、(十二)預金部資金運用の民衆化、信用組合の民衆化等、無産階級の金融制度の確立、(十三)主要食料品の價格公定制度の確立、「社會」(一)男女の法律上、社會上の權利及び機會の平等、(二)公娼制度の撤廢、(三)封建的賤視觀念の打破、(四)疾病老廢災害保險制度の確立、(五)義務教育及び職業教育の一切の費用の國庫負擔、(六)借地借家法の徹底的改正と公營住宅の建設、(七)醫療機關の公有化。――役員は、執行委員長は當分岡き、書記長に鈴木茂三郎。執行委員に望月昭雄、大道憲二、石川清、大森義太郎、長山直厚、葉山嘉樹、岡田宗司等十八

名。此支持團體は市電自治會の一部、蒲田勞友會、文藝戰線、其他組合有志。
無政府主義 「アナキズム」を見よ。
群 社會學者に依つて想定される最も原始的の社會形態を群(ホルド)と呼ぶ。今日では原始時代の人類が孤立してゐたと想定する者は殆ど無い。二十人乃至百人ぐらゐで群をなし、各地を放浪して歩いたものだらうといふ想像が勢力を得てゐる。原始時代の人類は、自然的環境と闘ふ爲にも、野獸の群と闘ふ爲にも、孤立してゐることが出来なかつた。そこで、群といふ小集團を作り、最初の社會的生活が行はれたのであらう。群は集合意識を唯一の統制力とする結合であり、其成員各自の間に意識的といふよりも本能的の相互扶助が行はれてゐた。群と群との間には全然交渉が無く、群は一單位として放浪してゐるに違ひない。群の内部では戦争や狩獵の爲に一時的指導者が現れることがあつても、平時に於ては首長が無かつたであらうと想像されてゐる。群の性的關係に就いては種々なる異論があるけれども、恐らくはエンゲルス等の主張する如き亂婚が行はれてゐたものであらう。隨つて群は必しも血縁に依る結合だといふことが出来ない。今日の未開人種の間

にも原始的の群を見ることは出来ない。今日群と呼ばれてゐるのは、まだ部族社會を成さず族内婚を行つてゐる蠻人群である。此の如き群も今日では絶對的に孤立することが出来ず、孰れも外部の群と交通してゐる。そして時には群の聯合が行はれることすらある。これは群から部族への進過過程を示めすものだといふよう。

【メ】

明治維新 【概説】 明治維新は政治上に於て近代日本の新紀元を開いたばかりでなく、社會上經濟上にも一大革新が行はれた。徳川時代に於ける日本の社會は世襲的階級制度を基礎とするものであつた。如何に有爲の人物と雖も被支配階級に出生した以上官途に就くことが出来なかつた。それはかりでない、等しく支配階級といつても其内部に種々なる階級的相違があり、何事に就いても分を超ゆることが許されなかつた。支配階級の上層部分たる大名にも、御三家、御家門、譜代、外様の別があり、國主、準國主、城主、邑主の格があつて、官位の昇進、城内の座席、邸宅建築の様式、禮裝衣服の制限等一切が家格に依つて決せられた。幕府から發する公文書にも一定の

形式があり、様、殿、御の如き文字も身分に依つて書體を異にすることになつてゐた如き、如何に身分格式が嚴重に守られてゐたかを物語るものであらう。隨つて支配階級の下層部分も亦嚴重なる階級的區別の下に置かれ、世襲的身分以上に立身出世することは全く不可能だつたのである。此階級制度は徳川幕府を崩壞せしむる社會的遠因となつた。明治維新を目して、町人階級に富が集中した結果、封建的社會が倒れて資本主義社會が現出したものと唯物史觀的解釋を試みる學者も多いが、明治維新は此の如きブルジョア革命と斷言し得るものでなかつた。何故ならば倒幕運動の先頭に立つた者は決して町人階級でなく、支配階級の下層部分たる各藩の陪臣だつたからである。江戸時代に於て町人階級の勢力が勃興しつゝあつたことは、勿論何人も否定出来ない。然しそれはヨーロッパ諸國に於ける商工資本家の如く、内部から封建制度を崩壞せしむる程進んでゐたわけでない。若し何等かの外部的勢力が加らなかつたならば町人階級の勢力擡頭に依つて遠からず封建的の制度が倒されたかも知れない。けれども明治維新の際には日本の町人階級の勢力も未だ其處まで進んでゐなかつたのである。

幕府倒壞の運動に關して、町人階級も全然無關係なわけではなかつた。軍資の供給などに依つて協働的態度を執つてゐたからである。然しそれは決して彼等の自覺的行動でなかつた。強制されるまゝに金錢的助力をなしたに過ぎないのであつた。故に明治維新は支配階級中の下層部分が上層部分に反抗して政權を剝奪した政治革命であり、所謂ブルジョア革命でなかつたといはねばならない。一體徳川幕府の政策は一切の事物が絶對に確定不動であることを前提とす、るものであつた。人民の個性を抑壓し、世襲的身分格式に依つて萬事を決せんとしてゐたのも即ち其爲だといふべきであらう。然し萬物は流轉する。世の泰平は經濟的發達を促進し、個人の慾望を分化し、其生活を向上せしめた。幾度と無く發布された奢侈禁止令も效無く、奢侈品工業が著しく發達し、支配階級たる武士も此傾向の埒外に立つことが出来なくなつた。徳川時代の武士は全く不生産的階級である。彼等の生活の資源は農民からの搾取であつた。然るに三代將軍家光以後の鎖國政策は一切海外との接觸を禁じ、さらぬだに遅々たる農業の技術的發達を停滞せしめたから、武士階級の所得も増加せず、下級武士の困窮は甚し

いものであつた。幕末に至つては五百石、千石の武士にして夏の蚊帳も無ければ、冬の夜寒を凌ぐ夜具も無い者があつた程である。ペリーの來朝に依つて泰平の夢を破られた際、旗本や御家人で着用品具足の種類を持つ者が殆ど無い有様(『大日本古』)だつたといふが如き、如何に彼等の困窮が甚しかつたかを窺ふに足るであらう。一方、幕府は大名取潰の爲に末期養子の禁令を出してゐたから、陪臣の失業者即ち浪人が増加した。此の如く政治的經濟的に惠まれないう下層武士が、幕府に對する反感を抱いてゐたのも亦當然の勢である。そこへ嘉永六年(1834)アメリカ水師提督ペリーが浦賀に來港したといふ一大事件が起り、開國論と鎖國論との争が生じたので、時勢に不満なる下層武士は京都の月卿雲客を動し、尊王攘夷を唱へて幕府に反抗することになつたのである。要するに明治維新は黒船來襲を機縁として下層武士が蜂起した爲に生じた政治革命なのであつた。

【維新政府の社會的對策】 明治維新は一切舊弊を打破して日本を更生せしめんとするものであつた。政治的にも經濟的にも全然局面を一轉せしめんとするものであつた。然し此更生の前に一の難關が横つてゐた。

士族の處分が即ちそれである。維新政府の要路に立つ人々は多く下層武士階級の出身で、舊藩臣に對しては比較的好意を持つてゐた。然も不生産階級たる武士階級を何等かの形で處分しなければ更生の途を開くことが出来ない。そこに要路大官の悩みがあつたのである。政府の舊支配階級に對する政策は先づ懐柔であつた。版籍奉還の行はれた明治二年(西曆一八七〇年)に、公卿と諸侯とを華族とし、士分には士族の稱を與へたのである。そして、舊藩知事には藩高の十分の一の家祿を與へ、各藩の士族に對しても改正祿を給せられることになつた。一體、徳川時代に於て諸侯や藩士の有してゐたのは、土地所有權でなくて土地課稅權であつた。明治政府は課稅權を取上げた代りとして家祿を給したのである。然し家祿を給するといふことは、政府にとつて並々ならぬ負擔であつた。そこで明治六年に「家祿奉還の者へ資金被下方規則」が布告され、祿高萬石未満の者へは永世祿六箇年分、終身祿石代相場を以て貨幣に換算し、半額を現金半額を公債で下付されることになつた。明治八年七月までに奉還を願した者は十三萬五千八百餘人で、明治七年及び八年に於ける秩祿公債發行合計が千六百五十六萬

五千餘圓であつた。續いて九年には金祿公債證書發行條例が發布され、一切の世祿者が公債所有者と變つたのである。此公債は利子五分、六分、七分及び一割の四種類に分れ、五箇年間据置で、爾後二十五箇年間に抽籤償還するものであつた。此現金及び公債の交付は不生産階級たる士族を産業界に入らしむることになり、「士族の商法」なる嘲笑語が示す如く失敗者をも出したであらうが、新聞、印刷、蠶糸、製茶、鑛山、汽船等の新事業を起さしめることにもなつた。更に維新政府は士族救済策として學校を利用し、官吏養成所たる大學を貧乏士族に開放して官費を補給し、會社員の養成所たる官立専門學校も設けたのである。明治以後の社會相が徳川時代の其れとは全く異なる色彩を呈して來たのは、維新政府が士族の處分を講ずる一方、資本主義的生産を移植して保護干渉政策を執り、歐米の學說と努力し、一切の制度を新にしたからでなければならぬ。此點に於て、明治維新は社會史上看過すべからざる重大事件だつといはねばならない。

六年以來、萬國勞働階級の國際的祭日とされてゐる。其起りはアメリカに於ける八時間勞働運動にある。アメリカに於ける各勞働團體は、一八八五年に八時間勞働制實施の目的を達成すべく、翌年の五月一日を期して全國の勞働者が一齊に八時間勞働制を要求し、若し拒絶されたる場合には總罷業を行ふことを決議したのである。そして、一八八六年の五月一日には全國の勞働者が「今日より後、一人の勞働者も八時間以上働くな。八時間の勞働! 八時間の休息! 八時間の教育!」と叫んで盛なる示威運動を試みたので、全アメリカの資本家も數日ならずして八時間制を探らざるを得なかつた。アメリカの勞働者の成功は強くヨーロッパの勞働者をも刺戟した。そこで一八八九年パリに生れた第二インターナショナルも翌年五月一日を期して萬國勞働者の階級的一致を示す爲に世界的大示威運動を行ふこととしたのである。一八九〇年五月一日には歐米兩大陸に於ける勞働階級が勞働階級の國際的祭日を極めて盛大に祝つた。其以來、メーデーは年を逐つて盛になつて來たけれども、世界大戰の勃發は各國の勞働者を四分五裂せしめ、勞働階級のインターナショナルリズムも國民的衝動の前に屈服せし

められたのである。其後大戰が終熄してから、第三インターナショナルに依つて再び勞働階級の國際的團結が圖られ、メーデーも亦復活して來た。日本では勞働階級の勢力も世界大戰前は頗る微々たるものだつたから、メーデーの祝に参加することも無かつた。然し大戰に依る日本資本主義の著しい發展と、勞働力に對する需要の増大とは、勞働階級の勢力を大ならしめ、多くの勞働組合が組織されて來た。そして一九二〇年(大正九年)以來、資本主義的先進國なみに、日本でもメーデーが祝はれることになつて來たのである。

と主張してゐた。然るにブレハノフは中央委員會をして單に勞働組合を圓滿に統率して行く機關たらしめようとしたので、卒に分裂せざるを得ないことに立到つたのである。ブレハノフは其後専ら書齋に籠つてゐたが、次第に軟化して來た爲に本來のメンシエヴィキとも分れることになつた。即ちメンシエヴィキの中に正統派とブレハノフ派とが出来たわけである。メンシエヴィキは執れもケレンスキー、チェルノフ等と歩調を合せて第一次の革命を擧げた。然しブレハノフの勢力が盛になると共に、此等の少數派は全く微力となり、今日全く其影を見ることが出来ない。

されるといふやうに、模倣は幾何級数的に擴がつて行くものである。流行が生れるのも、言語、宗教などが擴がつて行くのも、或く此模倣法則に基く。所で、模倣に依つて現象が反復されればそこにおのづから對立が生れる。そして相對立する現象の間からは結局適應が生ずることになり、此適應が更に反復、對立の過程を経て新しい適應に達する。此模倣に出發する適應が、有らゆる社會的發展を説明するものとタルドは云ふ。彼は、宇宙の神祕を説くべき科學の秘鍵を反復、對立、適應の三つに他ならぬと説く。即ち生物界では生殖に依つて、物理界では波動に依つて、社會では模倣に依つて此反復が行はれると云ふのである。例へば生物界に於ける種の増加(反復)は生存競争や淘汰(對立)を生み、竟に變種や特殊能力の出現(適應)に結果する。それと同じく、社會でも模倣といふ現象の反復に基いて、對立、適應が生ずるのだが、社會學上に於て最も重要な法則は模倣の其れでなければならぬと云ふのが模倣説である。

【メンシエヴィキ】 ロシア社會民主勞働黨の一分派である。ボルシエヴィキ(其項)が多數派を意味するのに對して、メンシエヴィキ(Menshevik)は少數派を意味する。即ちロシア社會民主勞働黨は、ストックホルムに於ける一九〇六年の第三回大會で、ブレハノフとレーニンとの間に生じた思想上の相違から二つに分れた。此分派に於けるレーニン派をボルシエヴィキ、ブレハノフ派をメンシエヴィキと呼ぶ。第二回大會から、レーニンは中央委員會を極端に強力ならしめ、之に一切の權力を委付して革命の前衛軍たるべく勞働者を訓練せしめよ

【モ】 有らゆる社會現象の根源が模倣にあると説く社會學說で、フランスの社會學者ガブリエル・タルドに依つて提唱された。タルドに依ると社會は宛も夢遊病者のやうなもので、社會を構成してゐる人々の行動は、或く本能的の模倣に基く。或思想、感情、行爲等に對する模倣は、何等かの障壁が無い限り幾何級数的に傳播する。即ちこゝに一の先例があれば忽ち之を模倣する者が現れ、それゝの例が更に又模倣

【モンロー主義】 一八二三年十二月、時のアメリカ大統領ジェームズ・モンローが發表した外交政策である。即ち彼は南北兩アメリカ大陸が歐洲の如何なる國の植民地

でもないことを説き、兩大陸に武力を以て干渉せんとするものがあるならば飽くまでも反抗する代り、歐洲諸國の内政に干渉すること無き旨を聲明したのである。當時に於けるヨーロッパ諸國はオーストリアの首相メッテルニヒを中心とする所謂神聖同盟を作り、盛に弱小國の内政に干渉したのみならず、アメリカ大陸の諸共和國にも同様の壓迫干渉を加へんとした。之に反抗したのがモンローの聲明で、彼は當時神聖同盟と對峙してゐたイギリスの後援で此の如き強硬なる態度を執り得たのである。此内政干渉を排斥するモンロー主義は其後アメリカの外交政策上金科玉條とされて來た。そしてアメリカ大陸を神聖同盟からの干渉圏外に於てのみならず、諸方の植民地をも獨立せしめることになつた。然し合衆國の勢力が増大すると共に、モンロー主義を守ることも漸次困難になつて來た。そして歐洲大戰參加以來は、モンロー主義も破られて來たのである。

【ヤ】

野蠻 人類の原始的狀態にあるものを謂ふ。モルガンの分類に依れば、人類發達の階段は野蠻 (Wildheit) 未開 (Chauvaire) 文明

(Civilization) の三大期に分れる。野蠻期は更に第一期、第二期、第三期に分れる。野蠻の第一期は人類の幼年時代である。此時代には人類は時々樹上生活を營んだ。斯くすることに依つてのみ、猛獸の襲撃を避け生存を全うし得たのである。彼等は熱帯又は亞熱帯の森林地方に住み草木の根と實とを食糧とした。明晰に言語を發することは此時代から始るのである。此狀態は數千年の長期間繼續したと想像されるのであるが、人類の歴史時代が始つてからは、何處にも斯る人類は發見されない。直接の事實に依つて論證することは出来ないが、人類が獸類から發達したものとすれば、此想像は略ぼ確實とせられなければならない。野蠻第二期に入つて人類は魚類(蟹貝其外の水棲動物を含む)を食料とし、火を使用し始める。火の發見に依つて人類は氣候に抵抗し、地形より獨立することが出来るやうになる。河流と海岸とを傳つて野蠻的生活をなすつゝ、地球上の大部分に散布されるやうになる。最初の武器たる棍棒や投槍などの發明と共に野蠻が食糧となつた。然し専ら狩獵のみで生活した民族は曾て存在しなかつた。狩獵の獲物は不確實なるが故である。間斷無き食糧不安の結果として、此段階には食人族が現れ

た。オーストラリア人やポリネシア人は、今日まだ野蠻の第二期に在る。野蠻の第三期に於ては人類は弓箭を使用する。之に依つて野蠻は常規的食物となり、狩獵を主とする種族が生ずる。弓箭の發明と同時に樹皮の纖維を材料とし、指先で織物を製することや、樹皮や蘆で籃を編むことや、石器を作る事が發明され、獨木舟や家屋を造る爲の木材や板などを生産する。而して幾分か村落に定着することが行はれ始めた。アメリカ北西部インディアン人は此段階に屬する者である。

【フ】

唯心論 唯物論と反對に、世界の本體は觀念であると解する哲學説を謂ふ。古代に於てはプラトンの哲學が之を代表してゐる。中世に於けるプラトンの後繼者は觀念のみ眞實の實在であると考へたので、實在論者と呼ばれるに至つた。然るにデカルト以後、唯心論なる語は其意味を變じ、外界に於ける事物の實在を拒否する學説を指すやうになつた。此説に依れば、外界の事物といふものは唯精神内に於ける表象に過ぎない。それから後にロック及びホッブスが出でて、事物の感覺的性質は事物の本體で

なく、唯現象に過ぎないと論じた。カントに依つて唯心論は批判的になつた。彼に依れば、經驗の材料は感覺に依つて與へられるものであるが、物其自體は經驗の根源として豫定せられなければならない。又、經驗の形式である所の時空其外の範疇は、先驗的のものとしなければならない。我々は物其自體を知ることが出来ないで、現象のみ知ることが出来る。これカントの批判的唯心論である。然るにフイヒテは世界の本質は自我なりとする主觀的唯心論を説き、シュリングは自我から獨立してゐる所の實在と思惟との一致を説いて客觀的唯心論を唱へヘーゲルに至り初めて絶對的唯心論が大成されたのである。ヘーゲルに於ては世界の本質は觀念であり、一切の物質的現象は觀念から派生するのである。而して觀念の辯證法的發展に依り(參照)物質世界の發達が生ずる。即ち物質界の運動は觀念の運動の反映に他ならぬとするのである。

唯物史觀 餘剩價值説と共にマルクス主義の根柢をなす基礎學説である。大體マルクスの學説は、經濟的方面、社會學的方面及び哲學的方面との三つの領域に互るものであつて、餘剩價值説が其經濟學的方面唯物的辯證論が其哲學的方面の特色をなすに比し、唯物史觀説は其社會學的方面の貢獻とされてゐる。然し、マルクス及びエンゲルスは、ヘーゲル以後哲學は科學に其地位を讓つたと云つてゐる如く、其哲學上の立場をなしてゐる唯物論に於ても、之を哲學として見るよりは、寧ろ唯物論を辯證法の進化的思惟方法に結附けた所に獨創的の發見を認められるのである。即ちマルクス及びエンゲルスの唯物論は哲學上に於ては僅にフオイエルバッハの立場に一步を進めたに過ぎなかつたが、之と辯證法とを連結して新に唯物史觀説を創唱した所に其偉大なる功績が見出される。此の如く唯物史觀的の構成分子は、辯證法的の考へ方と唯物論的の見方とである故に辯證法的唯物論或は唯物辯證法ともいはれてゐる(參照)。然らば、マルクスは五感の知覺する物質界を以て唯一の世界なりとする唯物論と、事物に對する進化的思惟方法を執る辯證法とを如何に結合したのであるか。唯物論者の説明に依れば、人間社會の進化及び社會制度の進化は、唯心論者の云ふが如く人の思想の變化した結果ではなく、其社會に於ける物質的條件の發達した結果である。即ち物質的條件が社會の眞實の根本であつて、諸種の制度はそれに適應すべく變化して行

くのである。人と人との間に於ける善惡正邪の思想にせよ、又は人と神との間に於ける信仰上の思想にせよ、皆等しく人間生活の物質的條件の變化に伴つて變化する。ある「テイヤバツクル等の唯物史學者は此の如く解釋する。マルクスの唯物史觀も之と同様である。然し、彼は進んで歴史進化的物質的諸要素を研究した結果、物質的條件の中でも殊に經濟的條件が歴史進化的根本的動力をなすものであることを發見した。マルクスが物質的諸要素の中から特に經濟的要素を選んで之を歴史進化的根本動力となしたのは、決して單なる思着からではなく、物質的要素の中で變化し發達するものは特に經濟的要素のみであつて、其他の人類、地理、氣候等の如き其自體不變的の物質的要素は決して社會を變化せしめる筈はないと考へたからである。たゞそれが些なりとも變化する範圍内に於ては多少の變化を與へるものであるけれども、其等諸要素の影響は極めて微弱のものであつて、經濟的要素の附屬たるに過ぎない。殊に此等諸要素の影響は社會の進歩に隨つて漸次薄弱となりつゝある。故に歴史進化的大體を論ずるに當つては之を問題外に置いて差支へないとしたのである。此に於て夫の經

濟的歴史觀 (Economic interpretation of history) なる名稱が下された。斯くて彼は社會の制度形態は、其社會に於て如何なる物が如何にして生産され、又其生産物が如何に交換されるかに依つて決定されるとした。隨つて社會の變遷、政體の變化等は眞理と正義とかいふ思想精神の進歩によるものでなく、生産及び交換の方法に因るといふ、換言すれば、社會變化の原因は哲學にあるのではなく、唯經濟の中にのみ在るといふ結論に到達した。

【マルクスの要領記】 唯物史觀に關する記述には、マルクスが其著『經濟學批判』の序文中に書いたものと、エンゲルスの名著『空想的及び科學的社會主義』中に書いたものが求められる。殊にマルクスが『經濟學批判』の中に書いた唯物史觀の要領記は、直截簡明に其要點を記したものとて貴重である。次に其全文を掲げる。——「人類は彼等の生活の社會的生産に於て、一定の、必然的の、彼等の意志から獨立した事情に、即ち彼等の物質的生産力の一定の發達階段に相應した生産事情に入るものである。此等の生産事情の總和は社會の經濟的構造をなすものであつて、法律上并に政治上の上部構造を造上げる現實的の基礎である。」

り、又之に相應した一定の社會的形態を生ぜしむるものである。物質的生活の生産方法こそ、社會的政治的及び精神的の生活行程一般を決定する。人類の意識が人類の生活を決するものではなくして、寧ろ反對に人類の社會的存在が人類の意識を決定するものである。——「然るに社會の物質的生産力は其發達の或段階に於て現在の生産事情と矛盾することになつて来る。換言すれば、此生産事情の法律的表示に過ぎない所の、而して從來此生産力を自己の内部に活動せしめてゐた所の財産關係と矛盾することになる。即ち此生産力の發達形式たる事實から一變してこれが障礙物と化して来る。此に於て社會革命の時代が始まる。經濟的基礎が變化すると共に、其巨大なる上部構造の全部も亦、或は徐々に、或は急激に、〇〇されることになる。——「此等の〇〇を考察するに就いて科學的に眞實なる立證をなし得べき經濟的條件の物質的の革命と、人類が此矛盾を意識して之と決戦せんとする所から起る法律的、政治的、宗教的、藝術的、哲學的、之を一言にしていへ精神的革命とを、常によく區別する必要がある。我々が或個人を批判するに決して多く其人の自ら考へる所に依らざると同じく、

我々が或革命時代を批判するも、決して多く其時代の意識に依ることは出来ない。我々は物質的生活の矛盾の中からして此意識を説明しなければならぬ。——「或社會形態は、其内部に包含する一切の生産力が十分發達した後でなければ決して亡びるものではない。そしてより進歩した生産關係が出現するには、それを決定すべき物質的條件が既に舊社會の翼の下に孵化されておらねばならない。そこで人類は常に解決し得べき問題のみを提起するものであるといふことになる。より精密に之を考察すれば、凡そ問題なるものは必ず之を解決すべき物質的條件が既に存在するか、或は少くとも發生しかけてゐる所のみ出づることが知られてゐる。——「我々はアジア諸國、上古諸國、封建時代及び近世資本制時代の各生産方法を以て、社會の經濟的進化的の列次的大別となすことが出来る。而して今日の資本制的生産事情は、社會的生活行程に於ける最終の軋軋形態となつてゐるものである。而して軋軋は個人的軋軋の意味に解すべきではない。それは各個人の社會的生活條件から生ずる軋軋である。——「然るに此資本制社會の内部に發達した生産力は同時に又右の軋軋を解決せしむべき物質的條

件を作る。斯くて資本制的社會形態と共に、人類の歴史前期が終結を告げるのである。」

【物質的生産力と上部構造】 右の要領記の最初に示されてゐる如く、マルクスは經濟發達の根本動力は物質的生産力の發達にありとなした。然らば其物質的生産力の發達とは何であるか。マルクスは其著『賃銀勞動と資本』の中で次の如くに述べてゐる。——「生産機關の性質に隨つて生産者が相互に入る社會的事情も亦當然異つて来る。即ち生産者が其活動を交換し、生産上の總行爲に關與する條件も亦異つて来るのである。新なる武器銃砲の發明と共に、軍隊の全内部組織は必然的に一變せられ、個々人が軍隊を組織し、軍隊として作用し得る事情并に各軍隊相互間の關係も亦之と共に變化したのである。——「此の如く、個々人が依つて生産する所の社會的事情、即ち社會的なる生産事情は、生産機關の、即ち生産力の發達と共に變化する。而して此生産事情の總和こそ人の呼んで社會的關係即ち社會と稱するものを構成するのである。」

此見方を終始一貫して保持したわけではないのである。後に著した『資本論』の中では、マルクスは明かに『生産力』が種々なる要素に依つて決定されることを認め、此等の要素の主なるものとして「労働者の熟練の平均程度、科學及び其工藝的應用の發達、生産工程の社會的結合、生産機關の範圍及び能率并に種々なる自然關係」等を數へてゐる。即ち此處では、生産機關の發達程度なるものは、生産力の決定條件の中の一を成してゐるに過ぎないのである。然しながら、マルクスが生産力の決定要素として生産機關を最も重視したことは、彼が近世大工業の發生に對する機械の役目を強調したことに依つても知られる。此の如く、生産力の發達は主として生産機關の發達に依つて決定されるのであるが、生産力の發達は其進行に應じて、生産に關與する人々の間に彼等の意志から獨立した、何人も否應なしに引入られる所の生産事情を作り出す。譬へてみれば奴隸使用は奴隸を養ふ餘力の無い種族には存しない。農業の生産力が或程度に發達して食物に不足しない状態となつた時、初めて奴隸使用は現れるのである。所で奴隸労働なるものは現代に於ける賃銀労働と等しく一の生産事情なので

ある。マルクスは斯る生産事情の總和が社會の經濟的構造を造り、一般の社會事情を決定する基礎をなすと云ふ。奴隸制度は賃銀労働制度と等しく社會の階級分裂を示す自由民と奴隸との二階級に社會が分裂する此階級分裂は社會の法律的秩序的の順序に影響を及し、奴隸經濟の社會に特有の政治組織を作上げる。古代諸國の政治組織は様々であるが、孰れも自由民の利益を代表し、其利益の保護を根本の目的とした點は共通してゐる。一定の生産力に相應した特定の經濟的構造の上に作り出された法律上并に政治上の秩序は、社會の人々の心理に決定的の影響を與へる。即ち實在が觀念を規定する。其最も明白なる事例は原始民族の研究に依つて得られる。原始狩獵民族の精神生活の全部は狩獲から産み出される。彼等が一生の間に積む重なる經驗は狩獲から得られる。而して斯る經驗に立脚して彼等は自然を説明し世界觀を構成するのである。又そればかりでなく彼等の道徳も、感情も、藝術も、總て狩獵生活から産み出される。宗教が社會の政治組織を反映することもよく知られた事實である。古代ギリシヤの神々は人類社會に於ける階級の如き種々なる階級に分たれてゐた。哲學も亦同様

で、ギリシヤの大哲學者アリストテレスは奴隸經濟の社會に住んだが故に、奴隸は藝術や學問の發達の爲に缺くべからざる生き道具であると考へた。

【社會革命と階級闘争】 社會の物質的生產力が或發達階段に達すると、其階段に相應した生産事情が生じ、其生産事情が法律化されて諸種の法制を生ずる。法律上の制度が其内部に於て作用する生産力と巧に適應してゐる間は、兩者間の相互作用は圓滑に行はれて、生産力の發達は促進される。然るに法律上の制度といふものは一旦出來ると其まゝ永續する性質がある。即ち固定的の性質を持つてゐる。之に反し、生産力は絶えず進歩して止まぬものであるから、時を經るに隨つて兩者の間に隔りが生じて來る。兩者間の不調和が著しくなつた時、制度が邪魔して生産力の發達は阻害されるやうになる。兩者間の衝突が此に現れ、社會的動搖の時代が開始されるのである。然し制度の基礎をなすものは生産力であり、一定の制度は一定の生産力から生れるのであるから、兩者間の衝突は結局生産力の勝利に歸し、舊來の制度は廢止されて、發達した生産力に適合する新制度が樹立されることになる。マルクスの唯物史觀要領記の

第二齣は此事實を述べたものなのである。新なる生産力の發達は生産事情の發達を規制し、而して生産事情の變化發達は、必然的に社會の上部構造——法律的、政治的、宗教的の諸制度や、哲學、藝術などの諸精神生活——を一變せしめる。社會革命と呼ばれる所のものは、即ち此基礎と上部構造との全部的變化を意味するのである。これはマルクス主義の獨創的見解といふべきものである。從來革命といふ語は政治的變革の意味に解されてゐたのであるが、マルクス主義の理論では、政治的變革は社會革命の一部を成すものに過ぎない(社會革命)。生産事情の變化は必然的に社會の全上部構造を變革せしめ、此に社會革命を來すといふが、此「必然的に」といふ語は、機械的に若しくは獨でにといふ意味に解すべきでない。然らば如何にして社會革命は齎されるのであるか。階級闘争に依つてである。階級闘争説は唯物史觀から必然に派出して來る理論である。マルクスの説く所に依れば精神生活が物質生活を決定するのではなくて、物質生活が精神生活を決定するのである。生産事情に變化を生じて社會の物質的基礎に新舊の矛盾衝突が現れて來る時、それが人間の意識に反映して思想界にも矛盾

衝突が現れて來る。新興思想が新興生産事情から發生して、舊來の生産事情から生じそれを支持する所の舊思想に對抗する。生産事情に於ける新舊の衝突は社會階級間の意識的の對立を産む。社會の生産機關を占有して支配的地位に立つ階級の勢力が著しく強大であつて、然も之に對抗する被支配階級の勢力を全く覆ひ悉してゐる時には支配階級の心理を反映する思想が全社會に流行して社會の全員がそれに感化される。然し新なる生産事情が成長すると共に、直接生産に従事し社會の生産の中樞を握る被支配階級の勢力が増大する。而して支配階級と被支配階級との對立が益顯著となつて來るのである。新なる生産事情及び自己の階級的立場に對する自覺が被支配階級の胸裡に喚起される。而して新興階級に特有の思想が發達し、それが次第に支配階級から出た借物の思想を驅逐して多數の頭に浸込むやうになる。斯る過程を通じて、被支配階級は初めて意識的に結成された階級となり、階級意識に立脚して、支配階級と闘争を試みるやうになる。新興階級に生じた新思想は此の如くにして社會の改革の要素となり、又舊事物の破壊を助勢するのである(階級闘争)。經濟的變動から生じた新思想は

斯くして社會革命を助勢し其完成を促進する。即ち思想と現實との相互作用が行はれるのである。唯物史觀は社會的變化は根本に於て生産力の進歩から出づると主張するのであるが、其一面に於ては又思想が社會的變革の一要素となることを認めるのである。これは一見矛盾してゐるやうに見えるけれども、必しも矛盾とはいひ得ない。蓋しマルクスの唯物論に於ては物と心とは全一體の兩面を構成してゐる。心は物から生ずるのであるが物から離れて存立するのではない。唯心論者が心は物から獨立した絶對者から生じ、物を支配すると考へるのとは根本的に見解を異にしてゐるのである。其故唯心論者が思想は現實を支配すると考へるのと、マルクスが思想は現實に影響を及すと考へるのとは、一見似てゐるやうであるが其實は本質的に相異なるのである。マルクスに於ては思想は現實から生ずるものであるが故に現實を動かす力を持つのである。マルクスの唯物史觀に關しては幾多の批評が起されてゐる。中に就いて新カント派の思想家は理想主義の立場からして非難の聲を揚げ、修正派社會主義に理論的根拠を提供してゐるが、此説明は別項「新カント派」に譲ることとする。

唯物論 唯心論とは反對に、世界の全體は物質であるとし、一切の精神現象は此本體より派出するものであるとする哲學説を謂ふ。唯物論が明確なる形に現れたのはデモクリトスの原子論が最初である。其見解に依れば、宇宙の萬物は形態種々なれども、化學的性質の同様な小塊即ち原子より成る。而して原子は他より力を賦與されたものでなく、又目的意志に依つて動くものでもなく、其自體の力を以て機械的必然的の運動をするものである。原子は若干の重さを有する故に自ら無際限の空間を落下する。而して重さを異にし、落下速度を異にする原子と原子とが衝突し合つて幾多の旋渦運動を起し、重き原子はおのづから渦の中心に集り、輕き原子は其周圍に集り、斯くして幾多の原子集團が出來る。我々の住む世界は此集團の一つで、此集團の中で相互に類似せる原子は相集つて諸物體を作る。靈魂も亦原子より成るもので靈魂原子が故障無く肉體内にあれば、靈魂は意識的となり、其中の一定数が肉體を脱する時に睡眠が起り、意識を失ふ。其中の大部分が離れると氣絶失神が起り、全部肉體を離れると死なる現象が起る。デモクリトスの原子論はエピクロス及びルクレテウスに依つ

て繼承され、ストア派は倫理、宗教の立場ではエピクロスと正反對であつたが、實在論では唯物論を執つた。近世之を唱へたのはホッブスである。然し近世唯物論の最盛期は第十八世紀のフランスであつた。ドイツでは第十八世紀末及び第十九世紀初めに唯心論が全盛を極めた反動として、第十九世紀の中葉頃唯物論の勃興を見た。マルクスに大なる影響を與へたフォイエルバッハは其代表的學者の一人である。轉近の學界では純粹の意味に於ける唯物論は餘り行はれなくなつたが、自然科学が隆盛となり、殊に生物學が進歩した結果として、從來機械的説明の領域外に置かれた生活現象までも機械的の説明を下されるやうになつたので、一般の思想は暗黙の裡に唯物論的色彩に彩られてゐる。尙、通俗の實際的用法として、唯物論若しくは唯物主義は、物質主義若しくは實利主義と同じ意味に用ゐられる場合がある。

友愛組合 互助共濟を目的とする労働者の組合を謂ふ。労働組合發達の初期は此性質を帯びてゐるものが多い。日本の「労働總同盟」の前身たる「友愛會」は初め純然たる友愛組合であつた。即ち同工場に働く者若しくは同職の労働者が相扶け相親睦

することを目的としたのである。然るに社會主義思想が發達普及して勞資間の利害對立の意識が成長すると共に、勞働組合は單なる友愛組合から階級闘争の機關たる性質を帯びるやうになつて来る。此變化は勞働組合一般に就いて生ずるのであるが「友愛會」といふ如き一箇の組合の歴史にも同じ變化は見られる。現今、闘争的の勞働組合に對抗すべく資本家の保護獎勵の下に友愛組合を組織するものが所々に見られるけれども、實際的にも其勢力は弱く、理論的にも其存在理由は益稀薄となりつゝあることは疑ふべくも無い。

有閑階級 生産的勞働を免除され、其精力を専ら非生産的の行爲に消費し得る資力又は身分を有する社會階級を謂ふ。随つて有閑階級は貴族階級、資本家階級等を含む。有閑階級の觀念を確立したのはアメリカの社會經濟學者ソーシタイン・ヴェブレンである。有閑階級の成立は掠奪生活と物資の豊富とを前提條件とする。生活資料が乏しく、随つて他人の生産物を掠奪して生活することの不可能なる野蠻社會には有閑階級は存立し得ない。此條件が具ると同時に、有らゆる社會に有閑階級は現れてゐるが、過去の社會に於て盛大を極めたの

は封建時代である。此當時の有閑階級は、政治、戦争、宗教、遊戯等を事とし、其等の仕事と身分的地位は結合し、所謂カースト(身分)なるものをなした。現在の有閑階級は資本家階級である。有閑階級は生産的勞働から免れてゐることを名譽とする。故に勞働を免れるべき資力を所有してゐるといふこと、閑暇があるといふことを種々なる方法に依つて誇示せんとする。風流や技藝や學問を競ひ、經濟的浪費を競ふは之が爲である。社交界の花形と稱するのは、有閑階級の代表的の人々といつてよからう。

有産階級 財産を持たぬ社會群と對立せしめて、財産を所有する社會群を有産階級といふ。勞働者階級と對立する資本家階級(階級)の概念よりも廣く漠とした概念である。財産の絶無なる者を無産階級となし、多少とも財産を有する者を有産階級とするかといふに、一般の用語例に依ればさうでもない。事實上、財産絶無の者は容易に見出し難いのである。然し、財産を多く所有し、財産から生ずる収入に依つて大部分の生活費を辨ずる者を有産階級とし、財産を少ししか持たず、財産からの収入では到底生活

を維持し得ない者を無産階級とするのが妥當であらう。此意味に於ける無産階級の範圍は近世の勞働者階級の範圍と一致し、有産階級は資本家階級と一致する。昔の獨立小生産者は、自ら勞働すると共に、生産機關を私有してゐた。即ち有産者たると同時に勞働者だつたのである。けれども近世の勞働者は生産機關を所有せず、之を所有する資本家に雇傭せられることに依つて生活する。即ち近世の勞働者は生産機關(財産)を持たないといふことが特徴になつてゐるのである。故に近世の意味に於ける勞働者階級は即ち無産階級であり、之に對立する資本家階級は有産階級といつてよい。プロレタリアなる語は此意味に於ける無産階級を言ひ表すのである。

優生學 ユーヂェニクス (Eugenics) の譯語。人類の遺傳質を研究し、肉體的精神的に將來の人類の改良を企てる學問である。此學問の實際的目的は、要するに自然淘汰の殘酷なる方法に反抗して、人爲的に社會の善良なる分子を増加し、劣悪有害なる分子を減ぜんとするにある。然らば善良なる人とは如何なる人かといへばそれは普通の意味での心身健全なる人であるが又其以上に結婚してから後健全なる子を持つ能力を

する人を意味する。随つて普通の意味に於て不具なる人、精神病の人であつても、負傷或は治癒し得べくして生殖細胞に害を與へざる病氣等に起因し、遺傳質に何等の缺點も無く、健全なる子を生む場合には斯る人は決して劣悪といはれない。他方、優生學上で劣悪なる人といふのは第一に遺傳質に病根の存する人で、例へば生來酒を飲まざるを得ぬとか犯罪を重ねざるを得ぬとかいふ性質を持つ人、第二は外見上何等の缺點が無くとも、代々劣等なる性質を伏藏し病氣の遺傳質を有してゐる人を謂ふ。所で優生學の實際問題は如何にして優良なる人を増加せしめ、不良なる人を減少せしめ得るかの方法を研究するにあるが、右の増加方法を講ずるのは積極的方面、減少方法を講ずるのは消極的方面の研究となす。積極的方法では、偶然出現した天才の能力を繼承せしめる事業も手段と見られるが、斯る場合は極めて稀である。依つて優生學の實際問題としては、遺傳質の悪い者の子孫は成るべく残さないやうにするといふ消極的方面が重きをなす。此方面に關し、理性の發達してゐる人々の間では相互の意志を以て目的を達し得るが、斯る理性を期待し得ざる下層社會に於ては、生活の負擔を輕

減する爲にも産兒制限の必要があると説かれる(産兒制限)。又、低能、精神病、遺傳病、或は犯罪性の者に對しては法律命令を以て生殖を防止し、子孫の増殖を抑制する方法を採ることも可能とされてゐる。例へば一九〇七年アメリカ、インディアナ州に於て手術を施して生殖能力を奪ふ方法を執つた加きは其代表的の一例である。

ユーヂェニクス 「優生學」を見よ。
郵便年金 保險の一種に屬する年金制度であつて、主として活動力を奪はれた人の生活費、或は寡婦や遺族などの生活費に充てる爲に掛金する相互扶助組織である。我國に於ける郵便年金制度は、大正十五年三月第五十一議會の協賛を経て公布され、同年十月一日から實施された。而して此郵便年金法に依れば、此年金事業は政府の管掌する所であつて、(第一)年金の額は年金受取人一人につき年額二、四〇〇圓以下とし、(第二)年金を受取るべき権利は之を差押ふることを得ず、(第三)年金契約者は第三者をして年金契約者としての權利義務を繼承せしむることを得、(第四)と規定されてゐる。

ユトピア (Utopia) 普通に理想郷と譯されてゐる如く、理想的の社會狀態を物語的に記述したるものを謂ふ。ユトピア

には其物語の性質に依つて、此種の理想的社會を過去に置くものと、未來に置くものと、現在の遠き國に置くものと、理論に置くものと、四種がある。而して斯る理想郷に對してユトピアと稱すやうになつたのは、トマス・モアが一五二六年「ユトピア」と題する一書を著したことに由る。此書物は内外に非常の影響を與へ、第十七世紀にベーコン (イギリス)、カムパネラ (イタリア) を出し、更に第十九世紀に至つて幾多の類似作品が現れた。尤も斯る理想郷の觀念はモアの創始に係るものではなく、モア以前にもプラトンの「理想國」、キケロの「共和國」、ブルタークの「リクルガス傳」、アウグスチヌスの「神の國」等の理想社會物語があるが、モアの著書に依り此思想が一般に普及されるに至つたのである。蓋し、當時はコロンブスのアメリカ發見直後であつた故に、人心がヨーロッパ大陸以外に理想的社會を空想するやうになつたのである。それが第十九世紀に入ると共に科學に對する興味が人心を刺戟し、且つ産業革命が生んだ社會的弊害を改革せんとする要求に動され、此に社會主義的のユトピアが創作されたのである。故に第十九世紀のユトピアと其以前のユトピア

アには種々の相違も窺はれる。此にプラト
ン以来の代表的ユトピアの梗概を記す。
プラトン『理想國』プラトン(Platon)はギリシャのアテナイの哲人、著書は多く
對話の形をとつてゐるが、理想國を論じた
『共和國』(Republic)も亦其體裁をとつた大
著である。『共和國』は正義とは何かといふ
問題の闡明を主眼とする著作であるが、此
問題を明かにするには國家の本質を明かに
せねばならぬといふので、プラトンは對話
の進行につれて理想的の國家に論及したの
である。其理想國は上に治者、中に武士、
下に奴隸があり、結婚は治者が適當の男女
を配合し、之に適當の制限を設けて人口を
調節する。生兒は政府が引取つて共同の家
屋で保育し、哺乳は一定の時間を限つて自
他の生兒を區別すること無く行はれ、夫婦
關係の加きも公定年齢を設け、女子にあつ
ては二十歳より四十歳まで、男子にあつ
ては二十五歳より五十五歳までとし、其以外
に逢ふ者は野合と認める。そして總ての財
産を共有すると共に妻子をも亦共有し、國
民は唯各自の職務を果すのみである(『理想國』
Republic)。——トマス・モアの『ユト
ピア』ユトピアの中に書かれた物語は、
モアがコロンブスのアメリカ航海船の乗

組員から種々の話を聞く體になつてゐる。
ユトピアはギリシャ語の(無)空(處)
を結合したもので、即ち何處にも無いとい
ふ意味で、モアはプラトンの『理想國』
に倣つて此書を物したのである。モアの
所謂ユトピアには五十四の都市があり、
首府アルモテは島(ユトピアは島の中央に位
置し、各市は長老三人づゝを首府に送つて
國事を協議させる。又各市を中心とする各
縣は面積を平均し、之に附屬する土地や家
屋は國民の共有であつて、一定期限を限り
交替に耕作し、共同の家屋に住む。一家族
に給與せられる土地は、四十人の男女が二
十人づゝ二年交替で耕作し、二年の田園生
活を終へると都會の男女と入れ代るのであ
る。労働時間は一日六時間で、其外の時間
は讀書、談話、音樂、遊戯に充てられる。
食事は一定の時間に共同にとり、結婚は當
事者男女が裸體になつて缺陷の無いことを
證明した後に行はれ、生兒は共同に育てら
れる。——ベラミーの『回顧録』彼はアメ
リカの人、『回顧録』(Looking Backward)は一
八八八年の著である。紀元二〇〇〇年に偶
然再生した男が第十九世紀を回顧しながら
一〇〇年後の社會を見聞するといふ趣向で
ある。其中に盛られてゐる思想は一種の國

家社會主義であつて、大資本が小資本を併
合し、全國の企業を各種のトラストに統一
する結果、竟に之を私營から國營に移すに
至ることを暗示したものである。さて、此
社會では一切の産業が國營であるから、各
人は恰も徵兵制度に倣つて労働する。労働
は産業により時間を調節することに依つて
公平を保たれる。分配は金錢ではなく切符
に依つて支拂はれ、切符を以て物品の配給
を受け、使ひ残りの切符は國庫に返す。さ
うして切符の分配は各人平等である。然し
銀行や商店は無く、公共食堂や、學校や圖
書館が澤山あつて、誰でも無料でそれを使
用することが出来る。陸海軍は元より、警
察も監獄も無く、議會も政黨も無いが政府
事務は簡單に運ばれて行く。音樂の如きは
ボタン一つ押せば自由に聴かれるし、婦人
は皆美しい。——モリスの『無何有郷記』
ユトピアの中で最も藝術的作品といは
れる『無何有郷記』(News from Nowhere)は一
八九一年の作、モリスはイギリスの人であ
る。これもベラミーのと同じく物語風に書
かれたもので、前者の舞臺はボストンであ
るがこれはロンドンである。其處に描かれ
た世界はモリスの藝術的社會主義的理想を
如實に表してゐる。其社會には私有財産が

無く、隨つて之を保護するのが目的である
政治も無く、社會は委員に依りて統制され
る。各人の労働は己の好む所に隨ひ、自發
的に行はれるので、其労働は機械的でなく
藝術的であり、苦痛でなく愉快である。其
故に此社會には機械工業よりも手工業が行
はれる。即ち、機械工業と商業主義と私有
財産とが亡びて中世の手工業が復活するの
である。尙、以上の外カペーの『イカリア
航海記』は一八四〇年に書かれたもので、イ
カリア島といふ理想的島國を空想せるもの
であり、フーリエのフアンステールに關
するユトピアと共に有名である。此等著
名なるもの以外、カムバネラの『日の國』、
ペーコンの『新アトランテイス』、コムトの
『西洋大同共和國』、リットンの『世界人種
未來記』ヘルツカの『自由國』及び『自由
國紀行』等のユトピアや、又トルストイ
の『光の中に歩め』、ウエルズズの『未來記』
『近代的理想社會』神は見えざる王』アナ
トール・フランスの『白い石』等の類似著
作がある。日本では明治三十五年に矢野龍
溪が『新社會』といふユトピア物語を書
いた。此書はトマス・モアのユトピア
を倣はせるものである。
ユトピア・ソシアリズム 「空想的

社會主義」を見よ。

ユニオン・レーベル

通常「組合票」と譯して用ゐられてゐる。労働組合に依つ
て保有される一種の商標の如きもので、勞
働組合と諒解を有する工場の商品に之を貼
附し、正當なる労働條件の下に製造せられ
る労働組合員は之を良品として一般消費者
に推薦する意のあることを表示するもので
ある。ユニオン・レーベルの目的は、労働
組合に友情を有する人々に訴へて、彼等の
消費を、労働組合と好關係に在る資本家の
商品にのみ限定せんとするものであつて、
これは一種の消極的ボイコットと見ること
が出来るのである。組合票は一八七四年カ
リフォルニアの砂糖製造工が支那労働者の
侵入に對抗する爲に採用したのを嚆矢とす
る。組合票は斯る起原を有するもので、オ
ーストラリアの如き、低級労働者の排斥に
成功してゐる所では未だ曾て行はれないの
である。イギリスでは一八九三年に帽子製
造工に依つて採用せられた。然るにカナダ
及び合衆國では、低級の生活標準に甘んず
る労働者に對抗して、白人労働者の利益を
保護する有效なる武器として盛に用ゐられ
たのである。一八七五年セント・ルイスに
同盟罷業が起つた時、組合票の色彩に關し

て議論が起り、結局一八八〇年シカゴの組
合會議に於て青を採用することに決した。
アメリカに於ける組合票の使用量は頗る大
きなもので、一八八五年から一九〇〇年に
至る間に一億以上の數に上つた。

【N】

幼年労働者

とは成年未滿の労働者を指す語であるが、
パリ平和條約及びワシントン第一回國際勞
働會議の解釋に依れば、十四歳以上十八歳
未滿までが幼年労働者であり、十四歳未滿
の者は之を幼年労働者と呼ぶべきである
といふ。幼年労働者の使用は近世的工業の
勃興時代イギリスに於て極端に達した。五
歳三歳の幼童を手傳ひとして工場に使役し
た例は幾らもあり、一八六三年當時に於て
は、七歳の幼童をして毎日十五時間づゝ勞
働せしめてゐたことが議會に報告された。
我國では工場制工業の輸入が遅れた爲に工
場に於ける幼年労働者の使役も比較的晚
近の現象であるが、古來徒弟制度が行は
れてゐた爲に相當の年齢に達すると、收入の
爲でなく、商工業の見習の爲に商店、手工
業親方等の許に小僧として奉公せしむるこ

とが行はれてゐた。これは近世工業に於ける幼年労働者とは甚だ異つたもので、温情的家庭的のものであつたから其弊害も比較的少かつた。然るに近來は徒弟制度が本質的に解體され、小僧は單なる使用人と化し、加ふるに工場に於ける幼年労働者の數が次第に増加して來た。大正十三年第九回『工場監督年報』に依れば幼年労働者數は左の如くである。

五人以上使用工場(十六歳) 二六、三七人
山(十五歳) 三、二八人

これは工場法の適用を受ける者の數だけであつて、此外、適用外の職工、僕婢、丁稚、土方人足、子守、徒弟等を加へれば莫大なる數に上るであらう。

【保護法】 幼年労働者に對する保護が歐洲に於て行はれるに至つたのは、一八〇二年イギリスで徒弟の労働時間を十二時間と制限する法律が行はれたのを最初とする。其後時間制限運動が盛になるにつれ、幼年労働者の法定就業時間は短縮せられ、イギリスでは一九〇一年の法律で十二歳以下の児童の使用を禁止し、且十四歳までの幼年工は、少年労働者(十四歳)及び婦人労働者の労働時間の二分の一を限り就業を許されることになつた。又此少年労働者の労働時

間は一週六十時間を限度とするに至つた。其外スウイスに於ては十四歳以下の児童の使役を禁止し、又十六歳までの少年工労働時間を一日十一時間(但し學校授業)とした。フランスでは十二歳以下の幼年労働者の使用を禁止し、十六歳までの者には十時間以上の労働を課することを禁じた。又オーストリアでは一八八五年の法令に依つて十二歳以下の児童の使用を厳禁し、少年労働者に對しては八時間以上の労働を禁じ、ドイツでは十三歳以下の幼児を工場に使用することを禁じ、十三歳乃至十四歳の者には六時間、十四歳乃至十六歳の者に對しては十時間を最長労働時間と規定した。我國で幼年労働者の保護が行はれるに至つたのは大正五年に工場法が施行されてからである。即ち工場法に依れば、十二歳未満の者の工場使用を厳禁し(但し業務の簡易のものは十歳以上外例)十五歳未満の者は労働時間を一日十二時間に限り(但し本法施行後十五年間は、午後十時より午前四時までの深夜業を禁ずることになつてゐる)。

幼稚園 小学校入学以前の幼児(多くは三歳乃至六歳)を教育する場所で、家庭と學校との中間の階梯たるべき一種の教育所である。幼稚園の創始者は第十九世紀に於けるドイツ

の大教育家フリードリヒ・フレーベルで、彼の意見に依れば幼稚園は「小学校入学以前の幼児を自然界と人間界とに導き、其本性に適應する活動をなさせ、身體を強健にし、感覺を練習し、心情を誘導練習して神明に近からしめる」ことを目的とするものである。而して其教育は學校的でなく寧ろ家庭的たるべく、教師は教師風でなく、寧ろ家母的たるべく、心身兩面に互る遊戯の指導を以て其主要の任務とする。幼稚園の教育を特に保育といひ、教師を保姆と稱するのは右の特徴から來たのである。現今の幼稚園には、フレイベル式を守つて、童話、遊戯、手工等のみに力を注ぐもの外、初等教育の準備教育に力を注ぐものもあつて、内容は必ずしも一定してゐない。我國で初めて幼稚園を開いたのは明治九年(東京)である。大正十五年に於ける全國の幼稚園數九五七、保姆數二、八二五、幼兒數男四三、二五二、女三九、九六九。

養老保險

生命保險の一種で、被保險人が契約後一定年限内に死亡した時には契約保險金の支拂をなし、若し其期間以後にも生存してゐる場合には、死亡の場合と同様に保險金の支拂をなすのである。即ち一定の期限以上に生存することに依つて保險

金を支拂ふ生存保險と普通の死亡保險とが行はれるので、混合保險と呼ばれてゐる。此保險は一八三九年にイギリスのブリテイッシュ・エムパイア生命保險會社が行つたのを最初とし、爾來諸國を通じて盛に行はれるに至つたもので、今日では死亡保險會社の殆ど大部分に於て營まれてゐる。

慾望

人の衝動を満足せしむる目的の觀念、衝動其者及び衝動より出づる感情との合成である。慾望の根底には有らゆる本能及び習慣を存してゐる。斯る本能及び習慣が基礎となつて衝動を生じ、此衝動に伴ふ感情が知的要素たる目的の觀念と結合することに依つて慾望が生ずるのである。慾望の性質は此の如きものである。而して社會に於ける活動は總て個人の活動が因子となり、個人の活動は總て其有する慾望より生ずるのであるから、社會の一切の活動の原動力は慾望であるといふことが出来る。慾望を以て社會活動の原動力となす説は、アメリカの社會學者リョードが社會力の名の下に唱へ出してから一般の認むる所となつたのである。慾望の種類に關する説は頗る多様であるが、今妥當と認められるものに就いて略述する先づ發生的順序に依り慾望は三つに分けられる。第一次的のものは

全く個體を中心とするものであつて、性的、經濟的、防衛的の慾望が之に含まれる。第二次的のものは種族及び社會的の保存を目的とするものである。以上二者は社會生活より生ずるものでなく、反つて社會生活を上げるものである。第三次的の慾望は文化的優勝的の慾望を含むものであつて、社會をして複雑なる體制を有せしめ、延いては個人の生活内容を無限に豊富にするものであり、其發生は既存の社會生活に依つて、以上の慾望を對象の上から見ると亦三つに分つことが出来る。第一は、外界の自然又は異性を支配獨占せんとする慾望及び外界の自然又は同胞の侵害に對し防衛行動に出でんとする慾望を含む物質的慾望である。第二は、知識、道徳的信念、藝術上の趣味等を自ら保持し享樂せんとする文化的慾望である。第三は、以上兩者の孰れにも屬せぬ對象に依り満足せられる慾望であつて、血族相親み、又は同類相交驪せんとし、若しくは何等かの優れた才能を同胞の間に示さんとする如き慾望を含むものである。此第三の慾望を社會的慾望と稱する。又慾望は排他的に満足せざるものと連帶的に満足されるものとある。性慾、經濟的慾望、支配的慾望の如き、獨占到依つて満足される

ものはおのづから排他的の性質を帶ぶ。之に反して知的、道徳的、藝術的、宗教的の慾望を含む文化慾望、及び外部よりの侵害を防衛せんとする慾望の如きは自他の連帶に依つて満足せられるのである。尙又、排他連帶を超越して、唯接觸交通を保つことに依り満足せられる慾望がある。血族的、群居的の慾望がこれである。

慾望の平行

「協働」を見よ。

豫算 國家其他の公共團體の財政を調節する爲に、一定期間の收入并に支出を豫定する表である。豫算は收支の豫定であるから、實算と多少相違することがあるのは免れないが、政府の政策遂行に必要な一切の經費は此豫算に計上されるのであるから、政府の施政方針は豫算表に依つて一目瞭然に示されることになるのである。豫算の一期、即ち國家の收支が何年何月何日に至る間に生じたものは何年度の計算に屬するかを定める一定期間を、豫算年度即ち會計年度といふ。現今文明國に於ては大抵一箇年を一會計年度といふ。豫算の編成は行政官廳で掌るのであつて、先づ最下級行政區より始り次第に上級官廳に至り、中央官廳たる各省に於て其所管を一括して大藏省に移し、大藏省は之を纏めて内閣に提出す

るのである。内閣は之を審議して歳出入總概算を決定し、各省大臣は此決定額の範圍内で各豫算經費要求書を調製して大蔵大臣に提出し、大蔵大臣は之を纏めて歳出入豫算案として内閣に提出する。内閣は勅裁を乞ひ、議會の初めに提出するのである。各省の歳出概算は各省自ら行ふが、歳入は總て大蔵大臣が管掌する。豫算は斯くて議會に提出されるのであるが、議會は大蔵大臣の豫算演説を聴取した後本會議を開き、各派の代表者は之を批判して種々政治上の問題に觸れる。議會は此時最も活氣を呈する。而して本會議の討議を終へた後豫算は委員會の手に移り、細目に互る嚴密なる討議が行はれる。委員會は總會で大體の質問を終へた後、更に各分科會で研究討議し、採否を決して委員總會に移し、分科會の意見を報告して總會の決議に附する。斯くて更に豫算本會議を開き、豫算委員長の報告に始つて討議に入り議決を與へる。議決は款及び項に就き一々行ふのであつて、款や項が一々あれば議決も一々行はれるわけである(通例は或部分を一)。此の如く豫算は一々議決されるが、大勢は既に委員會で決せられる。故に委員會の權力は甚だ強大なるものとなるのである。

餘剩價值 【概説】 又剩餘價值、過剩價值などともいふ。Mehrwert の譯語である。マルクス以來盛に用ゐられる語で、商品の生産行程に於て投下資本に附加される新價值を指す。學者に依つては餘剩價值の産出行程に求める者もあり、商品の交換行程に求める者もある。然しそれはマルクスに依ると、生産行程に於て人間労働に依つて産出されるものに他ならない。彼に依ると、人間の労働力は生産行程に於て二重の役割を果す。即ち一方に於て使用價值を作り、他の一方に於て交換價值を作る。所で交換價值を作るといつても、單に生産に投下されただけの交換價值を作るに過ぎないならば、生産を營むといふことも無意義になる。又投下した資本を回収するだけならば、何人も生産を行ふことが無いであらう。生産を行ふのはそれに依つて何等かの利益が得られるからである。即ち餘剩價值(それが貨幣化)が獲られるからである。生産行程に於ける人間労働力は、労働力其自體の價值と、生産機關や材料等の價值、即ち投下された一切の交換價值を其まゝ、新商品に移轉するのみならず、更に其以上の價值を産み出して新商品に附加する。これが即ち餘剩價值なのである。

【搾取の諸形態】 嚴密なる意味に於ける餘剩價值とは上述の如きものであつて、此意味に於ける餘剩價值の搾取が行はれて來たのは、商品生産が普通化し生産機關の私有が行はれてからのことである。其以前に於ける搾取は政治的支配に基く直接的なものであり、一の略奪とも見なすべきものであつた。随つてそれは經濟的搾取といふべきものではなかつたのである。奴隸制度は最古の搾取制度であるが、直接の物理的權力に基くもので、資本主義社會に於けるが如き餘剩價值の搾取でなかつた。尤も奴隸を一種の生産機關と見なせば、これも生産機關占有に依る搾取といへぬこともない。中世の農奴や古代の奴隸の如きは非人格的存在であり、單なる生産要具に過ぎなかつたのである。中世の年貢制度も政治的支配に依る搾取であつた。當時の封建領主が農民から收奪する年貢は、餘剩價值の搾取といふよりも掠取に近い。生産機關を私有することに依つて行はれる餘剩價值の搾取は、資本主義社會に入つて完成したものである。中世ギルド時代にもギルドの組合員たる手工業者は生産機關を所有してゐたし、餘剩價值の搾取も行つてゐた。然し、當時の手工業者が使用した労働者の數は極

めて少數であり、且労働者たる徒弟や職人を自宅に起臥せしめてゐたのだから、搾取し得る餘剩價值もさほど大きいものでなかつた。随つて手工業親方も餘剩價值を獲得せるだけでは生活が支へられず、自ら労働せざるを得なかつた。然るに資本主義社會に於ける生産機關の所有者は、大部分が自ら労働する必要の無い者である。今日の資本家は使用する労働者の數も多く、占有し得る餘剩價值の量も大きい。單に彼等の生活を支へるばかりでなく、資本を増殖して行くことが出来るのである。此資本の増殖が可能だといふことは資本家たるに缺くべからざる条件の一つだといふべく、資本増殖が可能なる程度に餘剩價值を搾取し得ざる者は資本家と呼ぶことが出来ない。資本家が生産機關を占有するのは剩餘價值の搾取を目的とするものであり、労働者は彼等の搾取すべき餘剩價值を生産する爲にのみ彼等に雇傭されるのである。

ヨロケ 鑛山に於ける坑内労働者の罹る疾病である。坑内に於ける空氣が常に新鮮を缺き、鑛石の粉末や油煙を吸入し、日光に浴する機會が少い等の原因に依り發生するものと想像される。從來坑内労働者は十四五年にして大部分此病に罹り、労働不

能に陥るものとされてゐるが、坑内設備の改善に依り幾分此年限は延長されつゝあるかも知れぬ。此疾病は全身性の慢性的衰弱を來すもので、往々にして局部的疾患として呼吸器病を伴ふことがある。一旦ヨロケに罹つた者は恢復の途が無く、短年のうちに死亡する。

輿論 通常、一定の政治問題に對する一般國民公同の意見の意味に解せられる。例へば或國と戦ふべきか否か、或政策を變更すべきか否か、或施設を維持すべきか否かなどの問題に對し、國民の多數が一定の意向を示す時、輿論なるものが成立するのである。尤も輿論は多數國民の大體の意向を示すものに過ぎず、其正體は正確に知り得ない。唯新聞、雜誌其外の刊行物に現れる思潮若しくは公會、演說會などの論調を通覽綜合して、多數國民の意のある所を推察するの外は無いのである。輿論は此意味に於て自然的の發生物である。故に國家機關又は法律に依つて作り出し得るものではないが、今日の立憲國は皆其憲法を以て議論、集會、出版の自由を保證し、輿論の成立の爲に道を開いてゐる。輿論成立の心理的基礎には模倣、同情があり、隨つて正しからざる動機に出づる宣傳に附和雷同する場合

も有り得るが、然し國民の總意に隨つて政治を行ふことを原理とする代議國家は、當然輿論を尊重しなければならぬ。故に代議政治が徹底する程、言論出版の自由は伸張されるべきである。

【リ】 利益社會 Ceterum in partem の譯語で、共同社會(其項)に對立する概念である。共同社會が人其者に對する愛着を紐帶として成立する結合であるに反し、利益社會は相手から利益を得ることを目的とし、又利益を得る限度に於て行はれる結合である。利益といつても、それは勿論金錢的利益だけを意味するわけではない。知識、禮儀、阿諛等の交易も含まれるのである。隨つてそれが思慮意志の結合であることはフェルディナンド・テンニースの指摘する所である。人類の結合を共同社會と利益社會とに分ち、之を研究の中心としたのはテンニースであつた。其以來ドイツ、オーストリア社會學界の主流は常に此問題の内的分析にある。シュタウディンガーは主として利益社會を研究の中心とし、フィリアカントも獨自の着眼點から此問題を研究してゐる。一般に歴史を過去に遡る程、共同社會が社會的優

位を占めてゐて、將來は利益社會が共同社會を壓倒するに至るであらうと考へられてゐる。此傾向は何人も認め得る程著しいものであるけれども、フィアカントは將來も亦利益社會の構成要素として、其背景として共同社會が伴ひ行くものであらうと見、利益社會に對する共同社會の優越を主張してゐるのである。

利益分配制度 【概説】 利益分配制度とは、労働者に企業利潤の一部を分配し、之に依つて労働者の仕事に對する興味を繋ぎ、忠實熱心に労働せしめんとするものである。昔、或工場主がロバート・オーウェンに向つて、自分の労働者が今少し業務に忠實であり、且材料、生産要具等の取扱に注意を加へるならば、一年間に約一萬磅の利潤を増加することが出来ると語つた時、オーウェンは、然らば何故其内五千磅だけを労働者に分配しないかと反問したさうである。即ち五千磅を與へて五千磅を得たらよいではないかといふのである。此對話はよく利益分配制度の性質を物語るものである。要するにそれは雇主の利益を増す手段として行はれるものである。然も此制度が労働組合にとつて有害となるのは、單に労働者が年々與へられる分配金に迷はされる

ばかりでなく、分配金の延べ支拂、又は積立、或は株式としての給與が行はれる時には分配金は雇主の手に保留され、雇主の意に反して退職すれば没收されるので、労働者が組合運動を恐れることに存する。此制度は一八三一年及び三二年にロバート・オーウェンが試みたのを最初とする。尤も此時は雇主が無かつたのであるから、今日の分配制度とは異つてゐた。今日行はれてゐる利益分配制度が初めて行はれたのは、一八四二年パリに於けるペンキ業ルシア會社で行つたものである。一八四四年にはパリのオルレアン鐵道會社が利益分配制度を採用したが、これは種々なる新工夫を加へたので、後二十年程は此制度の典型とされるに至つた。其後他の諸國でも皆フランスの影響を受けて此制度を採用するやうになつた。

【参加資格と分配額】 此制度の下では利益の分配を受ける労働者に一定の條件を附するものが普通である。中でも労働組合員にあらざること、一定年限の勤続者であることといふ二條件は最も普通に行はれてゐる。分配額は、總利益金の中から種々の實費、資金の金利を差引いたものを單位として計算される場合と、資本の利子を差引かず、

一定の金額を積立金とし、其殘額を單位として計算される場合とがある。尙此外に資本の金利と、重役俸給と、使用人の賃銀とを差引いた純益を、資本金と指導事務者と労働者とに分配する方法もある。此分配金が各労働者に分配される場合には、各労働者の一年間の賃銀額の、總賃銀額に對する割合に依つて配當されるか、或は労働者の地位、職分、賃銀額、勤続年數等に依つて分配されるかするのである。

【支拂方法】 分配金の支拂方法は種々であるが略ぼ次の三に大別し得る。(一)現金支拂。一定期の終りに現金で交付する方法で、これは最も簡明直接的のものであり、最も端的に労働者の勤勉と注意とを喚起するものである。(二)延べ支拂。此場合は分配金を労働者の爲に設けた基金中に拂込むのが多い。其外には、一々労働者個人の名義で銀行に拂込み、一定の年限に達するか、特殊の事情の發生しない限り、引出しを禁ずる方法も亦一般に行はれてゐる。此等の場合には、不都合の廉に依つて退職を命ぜられた者、一定期間に達せぬうち隨意に退職する者の權利は沒收されることが多い。これは労働者が同盟罷業を起したり、他の工場に轉職したりすることを防ぐ爲に行はれ

るのである。(三)株券・債券支拂。其會社の株券又は債券を以て支拂に當てることも亦相當行はれてゐるが、全部の分配金を此方法で支拂ふことは餘り行はれてゐない。即ち分配金の一部分は株券債券を以てし、一部分は現金を以てするのが普通である。此手段は單に分配の都合だけを目的とするのでなく、之に依つて労働者を投資者の一人たらしめ、共同經營の形式をとることに依つて、分配制度の効果を一層完全にせんとするのである。

利潤 【概説】 利潤とは生産資本家の獲得する利得であつて、企業利得ともいはれる。マルクスの學說に依れば、資本家の餘剩價值は商品の生産行程に於て作り出される。資本家は其所有する資本を以て生産機關と労働力とを買ひ入れ、之を生産に消費するのであるが、斯くして新に作り出される生産物には、消費された生産機關と労働力との合計價值よりも多量の價值が含まれる。何故ならば、労働者は其労働力に對して支拂はれた價值を回收するに必要な時間を超過して労働せしめられるからである。斯くして最初に支出された價值よりも餘計の價值が新に作り出されることになるのであるが、マルクスは之を餘剩價值(其項)

と名づけた。だが、餘剩價值は商品其物に附屬してゐるのであるから、商品を買賣して其價值を貨幣の形に實現しなければ資本家の目的は達成されない。商品が販賣されて貨幣に變つた時、商品の中に含まれてゐる餘剩價值は利潤といふ具體的の形態に實現するのである。然し、生産資本家は必しも餘剩價值の全部を利潤として取得するものではない。商品の販賣を商人に委ねる場合には、其報償として餘剩價值の一部を商人の手に渡す。これが即ち商業利潤なのである。又、生産上必要な土地或は貨幣を他から借入れた場合には、地主に對しては地代、金主に對しては利子を支拂はねばならぬ。此等のものは孰れも餘剩價值の一部から支拂はれるのである。要するに餘剩價值が具體的に實現した時、利潤、利子、地代等の形をとるが、利潤は其中の代表的の形と見るべきである。

【利潤率平均の法則】 マルクスに依れば、餘剩價值は労働力の購買に充用されたる資本部分即ち可變資本のみから生ずる。此可變資本に對する餘剩價值の比率を「餘剩價值率」と名づける。然るに資本家は其投下したる可變資本に對して何割の利益が得られるかを考慮するのではなくして、常に

其投下總資本(可變資本と不)に對し何割の利益が得られるかを計算するものである。此總資本に對する餘剩價值の比率をマルクスは「利潤率」と名づけるのである。故に、「餘剩價值率」が一定してゐるとすれば、總資本のうち不變資本の占むる割合が増大し、可變資本の占むる割合が減少するに隨つて、「利潤率」は低減することになる。然るに社會に存在する無数の獨立資本は、各異つた割合に於て、此不變、可變の兩部分を含んでゐる。されば各箇の獨立資本はそれ〴〵に相異つた利潤率を有すべきであるのに、實際に於ては各産業の資本は略ぼ平均した利潤率を有してゐる。それは如何なる理由に依るのであるか。マルクスは「競争」に依つて之を説明する。資本家の生産目的は利潤の獲得にある故に、利潤率の高い生産には競争が激しく、利潤率の低い生産からは資本が引上げられる。資本が輻轉すれば其生産物の總額は増加し、資本が減少すれば産額も減少する。然るに商品の市場価格は需要供給の關係に左右されるので、勢ひ前者の価格は低落し、後者の価格は昂騰することになる。即ち前者は其價值以下の價格で賣られ、後者は其價值以上の價格で賣られることになり、プラス、

マイナスが相殺せられて平均的の利潤を生ずるに至るのである。

【利潤率低減の法則】 前述の如く餘剩價值率が一定してゐるとすれば、不變資本が増大し可變資本が減少する程「利潤率」は低減することになる。然るに資本制生産の發達は絶えず此傾向を辿つてゐるのである。資本家は其利潤を多くする爲に絶えず生産力を増進すべく努めてゐる。然るに生産力の増進とは、一定量の労働に依つて運用せられる所の生産機關の量が増大することに外ならない。故に、生産力が増進すればする程、不變資本の必要は増大し、之に反し可變資本の必要は益減少することになる。可變資本の減少はそれに依つて雇傭される労働者数の減少を意味する。然るに餘剩價值なるものは労働者から搾取するものであるから、搾取の程度が増進しない限り、使用労働者数の減少は必然的に餘剩價值の分量を減少せざるを得ない。餘剩價值搾取の程度は、労働者の労働時間が生理的・道德的に制限されてゐる以上、或範圍に限定されるものであるから、此の如く總資本に對する可變資本の割合が減少するに隨ひ、總資本に對する餘剩價值の比率即ち利潤率は次第に低下せざるを得ない。斯くして一定の生

産部門の生産力が發達するに隨ひ、其部門の平均利潤率は低下して小資本は立行かなくなり、大資本のみが生存し得ることになる。然も「利潤率低減の法則」は絶えず働くものであるから、此等の大資本に於ても比較的小なるものは漸次に獨立能力を失ひ、資本集中の傾向が次第に進んで行くのである。

立法 近世の立憲國に於ては立法、司法、行政の三種の國家機能が分化して各獨立の機關に依り遂行されてゐる。之を三權分立といふ。日本の憲法では、行政權は天皇に屬し、大臣が輔弼して之を行ひ、司法權は裁判所が天皇の御名に於て之を行ひ、立法權は天皇が議會の協賛を経て之を行ふのである。然し天皇は議決を俟つて後にのみ法律を發布し得るのではなく、必要と認められる場合には何時でも法律を定めることが出来るのである。即ち、憲法第八條の緊急勅令の大權、第九條の命令大權、第十條の官規大權、第十二條の軍編制の大權、第十三條の條約大權、第十五條の榮典大權、第十六條の恩赦大權等は之に屬する。故に人民の權利義務を定むる法則には、議會の決議を経るものと然らざるものと二種が存在するのである。政府が天皇輔弼の名に隠

れて濫に緊急勅令等を發布すれば、國民議會の立法權は蹂躪されることになる。

鄰保同化事業 學殖有り人格有る有志の團體が下層民の住居地域に機關を設け、近鄰の住民の友人となり指導者となつて彼等を教化し向上せしめ、以て彼等の不幸を緩和しようとする所の社會事業である。此事業の起原はスコットランドの一牧師トマス・チャルマー博士に發するといはれてゐる。彼は一般の教育を社會に普及せしめ、以て鄰保相愛の情念を涵養し、延いて自己改造の動機を與へようとしたのであつた。彼の事業は今日の同化事業と異なるものであつたが、其精神は同一であるといひ得る。次に此事業の發達動機となつたものは、労働者教育運動である。カール・ライルの感化を受けて労働者教育を志した社會學者フレデリック・デイ・モリスや、文學者、宗教家として有名なるチャールズ・キングスレー等の運動に依り、第十九世紀中葉にイングランドに労働大學が設立された。そして鄰保同化事業 (Goethe's High School) なる名稱が一八六七年に初めて同大學に依つて採用されたのである。それから同年オックスフォード大學のエドワード・デニンが東部ロンドンに居を占めて同志と共に同化事

業を開始した。此事業は美學者、社會思想家として有名なるジョン・ラスキンを中心とした一團の人々の發議に基くものであつた。ラスキンの感化を受けて労働者救済の志を抱いてゐたローランドなる婦人は、東部ロンドンの最大不良地區に牧師を勤めたサミュエル・エー・パーネットと結婚してから、夫と共に同化事業に盡力し、今日の如き純然たる意味の隣保同化事業の鼻祖となつた。此夫婦は屢オックスフォード、ケンブリッジの兩大學を訪ひ、學生に向つて労働者地區改善の必要を力説したが、それが機縁となつて同大學の助教授をしてゐた經濟學者アーノルド・トインビーは此事業の熱心なる闘士となつた。然し彼は生來身體が弱かつたので、熱心なる活動の結果三十一歳の弱年で斃れた。時は一八八三年三月三日で、カール・マルクスがロンドンで客死した三月十四日より十一日早かつたわけである。斯る因縁からパーネット夫妻の計畫した同化事業の新館はトインビー館と命名された。爾來幾十年同館を中心としてパーネット夫妻は終始一貫同化事業に盡瘁し、トインビー館の名は世界的に有名になつた。アメリカでは一八八六年に起つたニューヨーク鄰人組合が同化事業の嚆矢であ

る。其後三十四五年間に急速に發達して、一九〇〇年に同事業團體數一〇三に過ぎなかつたものが五年後には二〇四となり、一九一一年には四一三に上つた。鄰保同化事業は其事業の性質上労働者の居住地區内に會館を設け、之に寄宿して鄰人の指導者啓發者となる多數の人々と、又外部からの援助者とがある。一九〇六年の調査ではアメリカ全體の寄宿同業者八三七人、外來援助者約四、〇〇〇人、其中の七割強は婦人であつた。此事業は多種の方面に區分せられるが、其主要なるものを擧ぐれば、一、教育的方面 (幼稚園、小學校、徒弟學校、家政學、公民教育、美術教育、工業教育、職業教育、宗教教育)、二、社會研究・調査方面 (細民生活狀態調査、労働者生活狀態調査、労働問題調査、其外社會狀態調査、研究調査の結果に成る印刷物刊行)、三、修養的方面 (學術講演會、講習會、讀書會、精神講話會、文學會等)、四、俱樂部に關する方面 (少年、少女、婦人、男子等の各種の俱樂部)、五、經濟的方面 (郵便貯金、普通貯金、消費組合、生産組合、職業紹介、内職指導)、六、訪問に關する方面 (家庭訪問、病者訪問、病院訪問)、七、文化的方面 (圖書館、巡回文庫、美術展覽及び貸附)、

八、保健的方面 (巡回看護、育児相談所、小住宅改良、浴場、兒童遊戯場、林間學校、夏期兒童遊戯)、九、娛樂的方面 (音樂會、演劇會、舞踏會、其外室内娛樂)、十、社會救済的方面 (少年保護、少女婦人寄宿會、婦人救済、幼兒保育所、人事相談所、法律相談所)、十一、政治運動方面 (婦人參政權運動、法律改正運動)、十二、風俗的方面 (禁酒禁煙運動、賣春婦撲滅運動等)、鄰保同化事業の活動範圍は上記の如く多方面に亘るが、我國に於ては同事業の數も至つて少く活動範圍も狭小である。大正十二年の調査に依れば、同事業數は全國で十二、其經費一一一、九六〇圓、救助人員五五四、一一五人 (延人員) である。

【ル】

類似實識 「同類意識説」を見よ。
ルンペン・プロレタリア (Lumpenproletariat) 權樓プロレタリアなども譯し、社會の屑を意味する。即ち自活自立し得ない乞食、不具者、懶惰なる貧民、淫賣婦、各種犯罪者などを包括する。彼等は等しく無産者には相違無けれども、自己の労働に依つて立派に自活し、生産的に活動することに依りて社會に貢獻し、健全なる肉體

と精神とを有する労働者、農民などは同一に見難い所から、特にルンペンの形容語を附けて普通のプロレタリアから區別するのである。此語が普及するに至つたのはマルクスの使用に始る。マルクスは此社會の層を目して、常にプロレタリアの社會革命運動に有用でないといふばかりでなく、常に反動運動の素材たり反革命の傭兵となる性質を持つ有害なる存在だとしてゐる。

【リ】

レーニン主義 (Leninism) 語義はレーニン主義であるが、レーニンは純正マルクス主義の主張者を以て自任してゐるのであるから、レーニン主義の内容はマルクス主義の中に含まれる。レーニンの謂ふ純正マルクス主義が従来の正統派社會主義と目立つて異なる點は、プロレタリア獨裁を高調する所にある。カウツキー、ベーベル等のドイツに於けるマルクス主義者は、ロシア共產黨の政權獨占に反對して、社會革命は民主的政治に依り遂行するべきであると論じた。レーニンは之に對抗して、彼のロシアに於ける實際行動に基き、社會革命の遂行にはプロレタリア獨裁が必要不可欠からざる一階段を成すことを主張した。民主主義

も獨裁主義も、孰れもマルクスの思想から引出し得るのであるが、前者はドイツの正統派に依り、後者はロシアのレーニン一派に依つて強調され、それの特徴を表したのである。

歴史

語義は通常二通りある。一は「物の變化の跡を辿る記述」、二は「物の變化の跡其者」。嚴格なる意味に於ては後者が正しい。史家の記述が歴史であるのではなく、彼の記述の目的物が歴史なのである。萬物は皆歴史を有する。近世科學は森羅萬象一として不變の物のないことを我々に示す。石も常に固體で無く、水も常に液體でない。進化論は生物の現在状態が永き變化の歴史の一階段を示すものに他ならぬことを教へた。社會科學も同様に、社會の現在状態は永き變化の歴史の一階段を示すものに他ならぬことを教へた。社會の歴史的研究の發達は、斯くして永久不變の社會制度なるもの存在しないことを教へ、改革思想の發達を助長したのである。

歴史哲學

單に歴史的事件の繼起的記述に止らず、史的事實の間に因果的聯絡を求め、以て人類の社會的進化を支配する法則を發見せんとする哲學的研究である。斯學はヘーゲル及びシュレーゲルに始り、フ

政策を唱へたのである。(講壇社會主義(主)参照)

【ロ】

勞資協調主義 近代に於ける労働問題

の解決に關し、社會主義を排して、現社會の根本制度を飽くまで支持しつゝ、社會政策的に勞資の協調を遂げ、労働問題の解決を完うせんとする主義である。我國に於て勞資協調主義を標榜する最大の機關としては、財團法人協調會がある。其宣言を見るに、協調主義は社會に於ける各階級特に労働階級資本階級の兩者が平等なる人格の基礎の上に立ちて自他の正當なる権利を尊重すると共に社會の秩序の爲に公正合理的なる自制互譲をなし、以て相互に力を戮せ産業の發展、文化の進歩、國家の福祉を最も有効に促進すべきことを主張するものであると云つてゐる。又曰く「責任の自覺は協調の出発點であり、正義と人道とは協調の基本である。」「協調主義は社會に闘争を絶たしむるを空想するものにあらず、闘争にあらずんば到底労働者の地位の向上を期し得べからざるものである。協調主義は斯くて階級の調和融合に最も重きを置き、之が爲の施設と宣傳とに全力を擧げんとするものである。」

と云ふに見ても其主張は窺ひ知られる。協調主義は社會改良主義と其精神を一にするものといへる。其主張が現在の社會問題、就中労働問題の解決を完うし得るや否やは多大の疑問を存する。労働者と資本家とは果して其主張を一にし得るか、どうか。人格主義は労働者、資本家の孰れにも尊重せらるべきものであらうけれども、人格完成の物的條件を阻まれ、辛うじて生活を維持してゐる労働者に、如何にして人格主義の觀念を鼓吹し得べきか。各人は其能力に應じて生産すべしといふのが正義ならば、各人は其需要に應じて消費し得るといふのも正義でなければならぬ。労働者と資本家は其所得の性質を異にし、一方の伸張は他方の縮收を結果する。労働者は生産機械として生産に參與することを許されても、無産者たる彼は十分なる消費に參與することを許されない。随つて生産制度の根本改革が無ければ労働問題の解決はつかない。故に、勞資協調主義は果して所期の目的を達し得るや否や疑はしとせねばならぬ。

労働運動

労働問題解決の爲に行ふ労働階級の團結的運動を謂ふ。それは單に資本家階級に對する反抗運動たるに止るのみでなく、一面に於ては又新社會の建設運動

リント、バルト等に依つて繼承された。而して歴史哲學は社會進化の法則を發見せんとするものである故に社會學の或部分と其範圍が一になり、兩者の間に領分争が起つた。マルクスの唯物史觀説は、人類社會の歴史的發展が物質生産力を動力として辯證法的の徑路を以て進行することを説くもので一個の歴史哲學と見なし得る。

歴史派經濟學

アダム・スミスを始祖とするイギリス正統學派に對する反動として、ドイツ、オーストリアより現れたる經濟學者の一派。此學派は、經濟現象の研究は正統學派の如く一定の法則から推理する演繹法によるべきでなく、歴史上の事實を研究して歸納的に眞理を求むべきことを主張した。而して各國各時代に通ずる普遍的法則のあることを否定し、各國其經濟事情に應じて適當なる經濟政策を探るべきことを主張した。此學派が後年社會政策學會といふ城砦を築くに至つたのは斯る主張に由来するのである(社會政策(主)参照)。歴史派の學者には社會政策を主張する者が多かつたので「講壇社會主義」の名が此學派に與へられたけれども、社會主義とは全然其根底を異にし、科學と政策との混淆ともいふべきものであつて、微温的な労働者福利増進の

でもある。労働運動は労働階級の發生と共に生じた。第十四世紀の中頃まで今日の意義に於ける労働階級は無かつた。當時存在した職人は親方となるまでの過渡的階段であつて、將來いつか親方となるのであり、随つて兩者間に打越え難い階級的區別は無かつた。故に労働運動といふべきものも存在しなかつた。然し工業が次第に發達し、労働者の都會集中が行はれるに隨ひ、一方では親方の組合が益排外的性質を加へると同時に、他方では又之と利害を異にする労働者群の増加を來した。斯くて第十四世紀の末葉には此等特殊の労働者群に依る團結的運動を生じたが、然し雇主と使用人との間には猶封建的の温情主義が残存し、随つて其労働運動も根本的素質に於て今日のものと異なる所があつた。以上の状態は略ぼ第十四世紀より第十七世紀に亘り、産業革命の成就するまで繼續したのであつて、ドイツ、イギリス、フランス等の各國に殆ど共通してゐる。産業革命は手工業を解體せしめ、大規模の工場工業を建設すると共に今日の意味に於ける賃銀労働者を創出したのである。而して資本家と労働者とは、利害相反する二つの階級に分立對抗することになつた。資本家階級の政治的經濟的權力

に對抗するには、労働者は多数者の團結運動に頼る外途が無い。斯くて労働運動は急速に發展を遂げた。初期の労働運動は機械破壊、工場襲撃、焼打、暴行等の一時的爆發性のものが多かったが、斯る運動の無効力が經驗に依つて教へられると共に、常置的組織的の運動が漸く發達し來つたのである。而して此組織的の労働運動は次第に全國的世界的に聯絡するやうになつて來た。國に依り労働運動の發達状態は異なるけれども、孰れも二様の運動方面を有する。即ち産業的(労働組合)と政治的(社會主義運動)の二方面を有するが、各國労働運動の特徴に隨つて様々に配合されてゐる。例へばイギリスでは労働組合の大部分が労働黨を形成し、フランスでは労働組合と社會黨との間に殆ど聯絡が無く、日本では普通選舉施行後大部分の組合が社會黨に参加してゐる。詳しくは各國別に参照せられよ。世界的労働運動も社會黨の國際運動と労働組合の國際運動との二方面を有する。今日前者に屬するものとしては第二インターナショナル及び第三インターナショナルがある。労働組合の國際運動は大體に於て三つの國際聯合から成立つてゐる。アムステルダム労働組合國際聯合、赤色労働組合國際聯合、及びキリスト

教労働組合國際同盟が即ちそれである。尙産業別労働組合國際聯合が存在してゐるがこれはアムステルダム國際聯合に從屬するものである。社會黨の國際聯合と労働組合の其れとの關係に就いて見るに、第二インターナショナルはアムステルダム國際聯合と提携して右翼の分野を、第三インターナショナルは赤色労働組合國際聯合と提携して左翼の分野を形成してゐる。キリスト教國際同盟はどの社會黨國際聯合とも關係を有しない。(別項参照)

労働會議所 主として労働者の状態を調査し、各種の弊害を指摘し又は改良する爲に労働者及び使用主より代表者を出して組織する公の機關である。労働會議所はフランスに於ては *Conseils du Travail* と呼んで一九〇〇年に設立され、會員は勞資雙方より半數づゝ選出せられた。其職分は地方の社會統計を管理する外に失業救済に關する方策、官廳への建議、管区内に於ける社會政策上の經營物に對する公の補助金の分配に關する提議、労働者保護法の實施に關する報告等に關してゐる。オランダでは一八九七年の法律に依つて設けられ、労働統計、労働報告、利益代表等を取扱ひ、ベルギーでは一八八七年に淵源を發し、五年以

内一定區間に執務し、二十五歳以上に達した者の中から選出することになつてゐる。オランダやベルギーでは此施設を労働爭議調停に利用する計畫を試みたことがある。**労働階級** 資本家階級に對立し、其經濟的搾取を蒙りつゝある社會階級を謂ふのである。労働階級を構成する基本的成員は賃銀労働者であるが、彼等は其労働力の提供に對して一定の賃銀を受くることを唯一の生存手段としてゐる。そこで資本家は彼等から買入れた労働力を消費することに依つて餘剩價值を産出し、之を獲得することから出來る。斯る餘剩價值の獲得は資本生産の唯一の目的であり、それに依つてのみ資本家階級は維持存続することが出来るのである。即ち資本家階級は、労働階級に對する此の如き搾取を行ふことに依つて、労働階級は斯る搾取を蒙ることに依つて、各存在し得ることになるのである。斯る關係は資本制生産の成立と同時に生じ來つたのであつて、此被搾取者たる職分は資本を所有せざる階級即ちプロレタリアが必然に負ふことになつた。故にプロレタリアと労働階級とは今日では同義に解せられる。然らば労働階級は賃銀労働者のみに依つて成立するかといふに、必しもさうでない。労働

者の中にも幾分か資本を有し、之に依つて幾分の收益を得るが、然もそのみでは生活を維持し得ず、大部分の収入は之を賃銀に仰ぐ者がある。斯る労働者は純粹の賃銀労働者といへないが、猶労働階級の中に加へらるべきである。我國の小作人の中には幾分か自己の土地を所有する者がある。此場合、彼は一面に於ては自作農であり、隨つて何人の搾取をも受けないが、他面に於ては小作人として地主から搾取を蒙らねばならぬ。其點で彼は労働階級の性質を帯びる。此等の者は副次的の労働階級員とすべきである。

労働學校 「労働者教育」を見よ。

労働カルテル (Arbeitskartell) 労働力に對する需要を調節せんとする企業家の團結であつて、労働組合が次第に發達し來り、労働力の供給を左右する程度が益甚しくなつて來た爲に之に對抗して自家の利益を擁護しようとし、企業家が案出したものである。労働カルテルに加盟せる各企業家は、其労働者に對して支拂ふべき賃銀額を協定し、而して各企業家は自己の使用労働者が賃銀の増額、労働時間の短縮等の要求を提起した際には問題をカルテルの中央本部に移し、労働者の要求が不當であると判

定されて其結果同盟罷業などを生じた時には、當該各企業家はそれゝ援助を受け、且加盟企業家は一致して爭議鎮壓策を講ずるのである。

労働組合 労働者が共同目的の爲に作る永續的結社である。共同目的の第一は、雇傭條件を維持し又は改善せんとするにある。これは有らゆる労働組合に共通する性質で、労働組合の本質を特徴づけるものといつてよい。而して又此目的は労働組合發生の淵源たるのである。労働組合の發生は最も古き歴史を有するイギリスに於ても第十八世紀中葉以降のことに屬し、近世的の賃銀労働者の増加に伴ひ生じたのである。賃銀労働者出現以前の手工業時代に於ても職人の結社はあつたが、今日の労働組合とは性質を異にする。賃銀労働者は奴隷と異り、雇主との自由契約に基いて労働する者で、不利なる條件を忍んで一人の資本家に隷屬することを要せず、有利の條件を提出する資本家の下に赴いて労働することが出来る。今日の労働者は此自由を認められてゐる。然し、之を實際上から見る時は、労働者は未だ完全に自由を得たものでなく、一面に於て依然として資本家の束縛を蒙り屈從を餘儀無くされてゐる。蓋し労働力な

るものは普通の商品と異り、之を資本家に提供する時は労働者其者の身體も共に雇主の支配を受けることになるのみならず、労働者は其労働力を賣ることに依つてのみ、即ち賃銀に依つてのみ生存を維持し、隨つて其欲すると欲せざるとに拘らず労働せねばならず、然も其労働力は資本家の意志に依つて決定されるからである。資本家は、労働者が労働條件に就き不平を訴ふる時、彼を解雇して他の労働者を雇入れることが自由である。労働者にして最初より自己に有利の條件を要求し來るならば、資本家は直に彼を排して他の労働者を雇入れることが自由なのである。資本が益少數者の手に歸し、無資産の労働者の數が益増加し來れる事情の下に於ては、右の資本家の自由は益擴張され、労働者の地位は益屈從的となる。賃銀奴隷の稱呼は此に於て生ずるのである。労働者は資本制生産の下に於て實に此の如き不利を受けることになつたのである。此不利を防いで資本家に對抗すべく生れたのが労働組合である。即ち労働者一人一人の弱き力を多數結合して強き團體を作り、資本家の利益追求に對抗して労働者の利益を擁護伸張しようとするのが其目的である。労働組合は此の如く資本家に對抗す

べく作られた團體である。然し其目的は労働者の地位向上福利の増進にあるが故に、必しも資本家と闘ふことのみを手段とするものではなく、労働組合は資本家と團體交渉を行つて集合労働契約をなし、以て労働争議を未然に防ぎ、和解、仲裁の任に當るなどの目的の爲に種々なる手段を取るものである。又其團體的結合を利用して消費組合、共済組合等の機能を兼ね行ふものも多いのである。然し、これは労働組合の本質でなく、附屬的の性質と見るべきである。されば共済互助のみを目的とする組合は労働組合といはれない。之に反して、賃銀其外の労働条件の維持改善のみを目的とする組合は労働組合であるといへる。労働組合の本來の性質は右述の如くであるが、労働組合の發達は社會主義と不可分の關係を有する。社會主義は労働階級の利害を代表するものであつて、労働者解放、資本主義の倒壊は其唯一目的とする所である。労働組合は此社會主義の精神に依つて指導され促進されること大である。又労働者が己の階級の地位を自覺するに隨ひ社會主義的思想を抱き、社會主義運動に参加せんとするに至るの極めて自然の道理である。されば各國の社會主義團體は労働者を中心に組織

され、社會黨は労働者を地盤としてゐるのである。イギリスの労働黨の如きは労働組合と一身同體の關係にあり、又ドイツ社會民主黨は労働組合を以て社會黨の豫備校と見なしてゐる。其外にはフランス、オーストリア、イタリーの労働組合も亦社會黨と密接なる關係を有し、最近日本に現れた諸無産政黨もそれらの労働組合を地盤としてゐる。此の如く労働組合は社會主義と密接に關係して發達し來つた結果として、労働組合は労働条件の維持改善といふ本來の目的の外に種々なる社會主義的目的を有するに至つた。或は寧ろ労働者間に社會主義思想が浸透せる結果、労働組合は社會主義的目的を有するやうになつたのである。それで今日に於ては、單に労働条件の維持改善のみを目的とする組合は労働組合の本流外に取殘された状態になつてゐる。大多數の活動的なる組合は孰れもマルクス主義の影響を受け、日常の仕事として労働条件の維持改善に努めると共に、一面に於ては終局的の目的として資本主義の倒壊を標榜し、労働者の階級的訓練の機關、社會革命へ向つての階級闘争機關を以て任じてゐる。最も保守的なるイギリスの労働組合主義（トレード・ユニオンズ）の如きも労働条件

の漸次的改善に依り、終局に於ては社會革命の實を擧げんとしてゐるのである。サンディカルズを奉ずる労働者に至つては労働組合は階級闘争の機關たるに止らず、將來社會に於ける生産分配の團體ともなり、組合聯合が國家の地位に取つて代るべきものとしてゐる。又ギルド社會主義に於ては組合は闘争の機關たると共に將來社會に於て生産の團體となり、消費者を代表する國家と對立的關係に立つべきものとしてゐるのである。労働組合の性質及び社會主義との關係は大體右述の如くであるが、各國の労働組合は其發生に前後があり又國情に依つて各異つた發達を遂げてゐる。其事實に就いては各國別の説明に譲る。

労働組合主義 トレード・ユニオンズ (Trade Unions) の譯語。略して組合主義ともいふ。労働組合の力に依つて労働者の地位の向上、生産の組織化、生産機關の公有化、分配の公平化等を圖らうとするのが労働組合主義である。隨つて労働組合主義は經濟闘争至上主義であつて、政治運動を行ふとしても其目標を最低賃銀法や労働組合法等の制定に置くだけで、政治的權力に依る資本主義經濟制度の變革を目的とするものでない。約言すれば、資本主義の範

圍内に於て労働条件の改善を目的とする組合運動を行はうとするのが労働組合主義に他ならない。労働組合主義が最も勢力を有してゐるのはイギリスである。それは恰もドイツに於ける社會民主主義、フランスに於けるサンディカルズの如く一の國民性を表してゐるものと見て差支ない。イギリスに於ける労働組合運動の指導者シドニー・ウェップは労働組合の目的が労働条件の維持及び改善にあることを説いた。イギリスの労働組合は全くウェップの説く如きものであるから、労働条件の維持改善に關してこそ急進的闘争を試みるものの、資本主義者に対して政治的闘争を試みようとはしない。他の諸國でも労働階級の階級意識が明瞭とならない間は此の如き労働組合主義が勢力をなした。然し労働階級が「階級其自體」から「其自體としての階級」に發達して來ると、労働組合主義の勢力も失はれてしまふ。それは労働組合主義が労働大衆の自然成長性に投ずるだけで目的意識性に投ずるものでない以上、當然の現象だといはねばならない。故に労働組合主義の本國ともいふべきイギリスでも、一九一〇年の労働組合大會でトム・マン等に依つてサンディカルズが提唱されて以來、次第

に其勢力を失つて來てゐるのである。

労働組合法 【概説】 労働組合の團體運動に關する各國法制の變遷は、法律上殊に刑法上より三期に分けることが出来る。第一期は絶対禁止の時代であつて、組合運動を犯罪として處罰した。然しながら、労働者が其労働条件の改善と地位の向上とを圖らんとする運動は法律の力で抑壓し切れるものではなかつた。第二期は、労働者の團體運動其者は違法と認めないが、當然に伴ふ手段を制限し、事實上阻止を圖れる時代である。第三期は労働者の團體運動を全く自由とする時代であつて、労働者の運動なるが故に特に處罰するといふやうなことは無くなつた。但し此時代と雖も、唯犯罪と認めぬとの消極的規定を設けるばかりで積極的に法律上保護を加へてゐるものは寧ろ少い。イギリス、フランス、ドイツの諸國は現在此第三期を経験してゐるが、我國は未だ第二期に在るものといへる。次に重なる國の概観を掲げる。

【イギリス】 イギリスに於ては労働者の團結に關する第十九世紀以來の立法は非常に多いが其變遷は矢張り三期に分けることが出来る。第一期は労働者の團結其者を禁止した時代である。即ち一七九一—一八〇〇

年の結社禁止法に依つて嚴重に取締つたのである。第二期は労働者の團結は法律上適法としたが猶其團結が明かでないかつた時代である。(一)一八二四—五年の法律。二四年の法律は頗る寛大で、原則として之を認め、唯例外的場合にのみ所罰した。然るに二五年の法律は前年の法律の結果に驚いて作られたもので、再び制限が嚴重になつた。但し孰れも一七九九年の禁止法とは全く反對の原則に依つたもので團結其自體は適法と認められたのである。(二)一八七一年の法律。此法律は労働者の團結權に對する制限を嚴重にしたもので、労働組合を作ることとは労働組合法に依り合法であるが、其目的遂行の手段中の或ものを不法として嚴重に處罰したのである。第三期は労働團結の自由が確認されるに至つた時代であつて、一八七六年の法律に依り、一八七一年の法律は改正され、團結權は自由且明確となり、労働組合は全く不法性を免れることになつた。即ち、同法の第四條は、「労働争議を目的として或行爲をなす爲に又はなさしむる爲に二人以上の者の合意又は合同することとは、其行爲が單獨になさるゝ時に於て罪とならざる時は共謀罪を構成すること無し。」と規定し、第七條は「何人と雖も他

人をして権利に屬する行為をなさしめず又
 權利無き行為をなさしむる目的を以て不法
 に且權限に依らずして左に掲ぐる行為をな
 したる者は、二十磅以下の罰金又は三月以
 下の懲役若しくは禁錮に處す。」と定め、「左
 に掲ぐる行為」として、暴行、脅迫、執拗
 なる追跡、財産毀損等が擧げられてゐる。
 これは平和なる手段が犯罪とならぬことを
 語るものであるが、一九〇六年の労働争議
 法は一層之を明確にしたものである。斯く
 て今日では普通刑法上犯罪とならぬ行為が
 ストライキ等の労働争議に關係するの故を
 以て處罰される如きことは無いのである。
 尙一八九三年には労働組合共済基金法が施
 行され、正規の労働組合に對して所得税免
 除の特典其外共済基金に關する規定が與へ
 られた。一九一三年に新に労働組合法が追
 加され、一八七一年の組合法(注)及び一八
 七六年の組合法(改正)と合して職工組合法
 と總稱せられ、相互に相補ひつゝ一箇の完
 備せる體系を形造つてゐる。
 【フランス】 フランスに於ける變遷も亦等
 しく三期に分けることが出来る。第一期は
 即ち(一)一七九一年六月十四日の革命法
 律。同法は第一條に於て國家内に國家を認
 めずといふフランス憲法を楯に取り結社は

元より集合をも違法と認め、労働条件の協
 議協定をすら禁じた。(二)一八一〇年の法
 律は、二十人以上の結社は政府の認可を要
 し、政府は任意に其申請を拒絶することを
 得るとした。而して雇主が労働引下の目的
 を以て、労働者が労働の停止、妨害又は勞
 働上の目的を以て、それらに團結する者
 に對し、懲役又は罰金を規定した。第二期
 は(一)一八六四年の法律。同法は労働者
 の團結を認め、ストライキに依つて
 他人の業務を妨げるのは犯罪とした。(二)
 尙フランス刑法第二九一條―第二九四條は
 労働者の團結を形式的に認めるが實質的に
 禁壓するものと見なされる。第三期は労働
 者の團結に對する實質上の制限が撤去さ
 れるに至つた時代で、一八八四年職業組
 合法が制定され、廣く職業組合を認むると共
 に刑法上にも多少の改正が加へられた。斯
 くて今日ではストライキが暴行、脅迫、詐
 術の方法に依る場合を罰する規定が残存す
 るのみである。而して之をも廢止すべしと
 の論があるが、其理由は此等の行為が適法
 だといふのではなくて、普通の刑法を適用
 すれば足るといふにある。
 【日本】 日本には積極的に労働者の團結權
 を禁止する法律は無い。憲法第二十九條は

「日本臣民は法律の範圍に於て、言論、著
 作、印行、集合、結社の自由を有す。」と規
 定し、労働者の團結も自由に許してゐる。
 然し實質的に組合運動を拘束する法規とし
 て治安警察法があつた。同法は明治三十三年
 に制定されたものであつて、其第十七條
 は「労働の條件又は報酬に關し協同の行動
 をなすべき團體に加入せしめ」同盟罷工を
 遂行する「目的を以て」他に對して暴行脅迫
 し若しくは公然誹毀し「得ず」と規定し、殊
 に同盟罷工の目的を以て「他人を誘惑若し
 くは煽動することを得ず」と規定した。而
 して此規定に違背する者は重禁錮及び罰金
 刑が課せられた。然し労働運動が益盛にな
 り、労働者の勢力が増大するに及んで、政
 府は非難の多い此法律を撤廢せざるを得な
 くなり、それに代へて労働争議調停法、治
 安維持法、暴力行為取締法等を相踵いで制
 定した(各項)。此等の法律は孰れも労働組合
 の實際運動を妨害する役に立つてゐるので
 ある。労働組合を法律上公認して、之が保
 護取締の規定を設けんとする氣運は労働争
 議の頻發せる大正八九年頃より萌し、漸次
 具體化して來て大正十四年八月に至りやう
 やく社會局案なるものが發表されるに至つ
 たが、同案は資本金側からも労働者側から

も反對され、翌大正十五年第五十一議會に
 修正して提出されたが、卒に擲潰のまゝに
 葬られてしまつた。

労働契約 労働者と使用主との間に於
 て、前者は其労働力を提供し後者は之に代
 償を支拂ふ場合に取結ぶ約定を謂ふのであ
 る。自由主義の行はれる今日に於ては斯る
 契約も當事者間の自由によつて成るもの
 である、労働者は此契約を結ぶに際し常に
 不利なる地位にある(賃銀、當事者個々の
 意に任せて置けば賃銀其外の労働條件が極
 端に悪化する虞があるので、これが對策と
 して、労働團體又は國家が労働契約に干渉
 する場合がある。最低賃銀法、工場法の諸
 規定等は國家に依る干渉である。労働團體
 が雇主と労働契約を取結ぶ場合は之を協約
 労働(其項)又は集合契約、團體協約などと
 稱し、契約當時の労働者は勿論、協定存続
 中其事業に與る労働者は全部これが支配を
 受けるのである。此方法は労働争議の頻發
 を防ぐ手段として、イギリスを初め諸國に
 普及しつゝある。歐洲では又一般に労働契
 約簿なるものが使用され、之に労働賃銀に
 關する契約を初め、労働者の使用主に對す
 る權利義務、即ち労働時間、休憩時間、解
 約通知期限、作業場に於ける行為、機械器

具取扱に關する規定なども記載すること
 になつてゐる。

労働權 (Right to labour) 労働の能力
 有り、且其意志をも有しながら、然も労働
 の機會を見出し得ざる者が労働の機會を要
 求する所の社會的權利を謂ふ。今日の經濟
 組織の下に於ては、生産機關を所有せざる
 者は之を所有する者に備はれて労働の機會
 を得なければならぬ。然るに此労働の機
 會は求めて必ず得られるとは限らず、又一
 且得ても之を失ふ場合がある。これは現社
 會制度の下に於ては避くべからざることで
 ある。そこで、各人は等しく生存の權利を
 有す、との見地から労働權の要求が生ず
 る。労働權の思想は救貧法に胚胎してゐ
 る。即ちイギリスの救貧法、一七九一年及
 び九三年のフランス憲法、ドイツのランド・
 レヒトの如きは孰れも國家乃至其外の公共
 團體が貧困者を救助し之に仕事を與へる義
 務の有ることを規定してゐる。此等は貧困
 者救助の一手段で、救助は上から與へられ
 るのであり、之を要求する權利とは異なる。
 然しながら、此等の救貧制度が少くとも勞
 働權の思想の搖籃をなしてゐたことは否定
 し得ない。第十九世紀の末葉に至つてドイ
 ツの宰相ビスマルクは帝國議會に於ける演

説中、「労働者壯健なる限り之に労働を與へ
 よ。其病む時は療養を確保せよ。其老いた
 る時は給養を確保せよ。」と主張し、此等の
 要求は近世國家の根本主義として認むべき
 所であると説いた。壯健なる労働者が働か
 んと欲して仕事を見出し得ないといふ場合
 之に労働の機會を與へるのは、現代經濟組
 織の缺陷を補ふ一手段として斯る經濟組織
 を維持存続せしめんとする近世國家の當然
 の任務であらう。

労働祭 「メーデー」を見よ。

労働市場 労働力の需要供給の行はれ
 る交換關係を謂ひ、歴史的には場所の意味
 をも含むが、近世に於ては必しもさうでな
 い。労働市場は労働力が商品として存在す
 ることを前提とする。労働力が商品となる
 爲には労働者が獨立自主の人格を所有し、
 其労働力だけを月、日又は時間定めで切賣
 するものでなければならぬ。さもなくて、
 身體ぐるみ買主に任せてしまへば、労働者
 は其自身が商品となり、労働力の賣買は人
 身賣買となつてしまふ。故に労働市場なる
 語は専ら近世の賃銀労働者に對して適用さ
 れるのである。賃銀労働者は日々の生活費
 を得る爲に資本金に對して労働力を賣る。
 資本金は原料や機械を買ふのと同様に労働

力を買入れ、之を生産に消費して利潤を得ようとする。此需要者と供給者との間に取結ばれる賣買契約が即ち労働契約なるものである。

労働者 廣義に解すれば労働に従事する一切の人々を包括することになるが、通常之を狭義に解し、他人に傭はれ他人の指揮を受けて労働する人々のみを指してゐるのである。労働が筋肉の働を主とするか、頭腦の働を主とするかにより筋肉労働者、知識労働者（或は頭腦的労働者）の區別も立てられるが、労働者といへば通常筋肉労働者を意味する。

労働者窮乏説 又簡単に窮乏説、或は貧困増大説ともいはれる。マルクスは『共產黨宣言』の中で、富の集中、一般大衆のプロレタリア化と相並んでプロレタリアの貧困、苦痛、搾取、廢類の増大することを説き、次のやうに云つてゐる。「近世の労働者は産業の進歩と共に向上しないので、反つて自己の階級の生活條件よりも以下に益深く沈んで行く。即ち労働者は貧民となり、貧民は人口と富の増加に比して一層速に増加する」と。又『資本論』の中では次のやうに記してゐる。「資本の蓄積が進むに比例して、労働者の位置は——彼が如何なる支拂を受けてゐるかを問はず、善き支拂を受けてゐるにしろ、悪しき支拂を受けてゐるにしろ——益悪化しなければならぬといふことである。最後に産業豫備軍たる相對的過剰人口を蓄積の範圍及び精力と均衡せしむる法則は、火神ハフエートの楔が巨神プロメシウスを巖に打附けたよりもより堅く労働者を資本に打附けたものであつて、それは資本の蓄積に照應した窮乏の蓄積を生ぜしむるのである。斯くて一方の極に於ける富の蓄積は、同時に又其對極たる己自身の生産物を資本として作り出す階級の側に於ける窮乏、労働苦、奴隸状態、無智、野獸化、道德的墮落等の蓄積となるのである」と。此の如く資本主義社會に於ては労働者の境遇が益悪化しつゝあるとマルクスは云ふのであるが、其根本原因となるものは産業豫備軍である（産業豫備軍）。けれどもマルクスは必しも労働者の窮乏が絕對的の意味に於て増大すると説くものでないことは、右に『資本論』から引用した文句の中に「彼が……善き支拂を受けてゐるにしろ、悪しき支拂を受けてゐるにしろ」と述べてゐるに見ても明かなることである。マルクスの眞意は、富の蓄積に比較して労働者の窮乏が相對的に増大するといふ意味

拂を受けてゐるかを問はず、善き支拂を受けてゐるにしろ、悪しき支拂を受けてゐるにしろ——益悪化しなければならぬといふことである。最後に産業豫備軍たる相對的過剰人口を蓄積の範圍及び精力と均衡せしむる法則は、火神ハフエートの楔が巨神プロメシウスを巖に打附けたよりもより堅く労働者を資本に打附けたものであつて、それは資本の蓄積に照應した窮乏の蓄積を生ぜしむるのである。斯くて一方の極に於ける富の蓄積は、同時に又其對極たる己自身の生産物を資本として作り出す階級の側に於ける窮乏、労働苦、奴隸状態、無智、野獸化、道德的墮落等の蓄積となるのである」と。此の如く資本主義社會に於ては労働者の境遇が益悪化しつゝあるとマルクスは云ふのであるが、其根本原因となるものは産業豫備軍である（産業豫備軍）。けれどもマルクスは必しも労働者の窮乏が絕對的の意味に於て増大すると説くものでないことは、右に『資本論』から引用した文句の中に「彼が……善き支拂を受けてゐるにしろ、悪しき支拂を受けてゐるにしろ」と述べてゐるに見ても明かなることである。マルクスの眞意は、富の蓄積に比較して労働者の窮乏が相對的に増大するといふ意味

であらうと思はれる。即ち、富の蓄積が急速に進行するに拘らず、労働者の物質的幸福は緩慢にしか増進せず、貧富の懸隔が益甚しくなるといふ意味であらう。然らば斯る労働者の窮乏増大は如何なる結果を呼び起すかといふのに、マルクスは同じく『資本論』の中で次の如く述べてゐる。曰く、資本の蓄積が進むと共に、「窮乏や、壓迫や、奴隸状態や、廢類や、搾取などの量は益増大して来る。が、それと共に又、資本制生産其自體の機構に依つて訓練、統合、組織される所の益雇大となりつゝある労働者階級の反抗が増進する」と。つまり窮乏の増大に依つて労働者の階級結成が促進せられ、階級闘争が激成せられるといふのである。

労働者教育 労働者の教育を高める教育であつて、單に労働技術を授ける教育のみを意味するものではない。従來労働者の教育は普通教育の課程のみに止つて、其以上の教育の機會は有産者の子弟に獨占せられてゐた。労働者の子弟にして高等の教育を受ける機會を得る者があるとしても、それは頗る少數の幸運兒に限られてゐた。斯くて労働者は幼年より成年に至る最も重要な時期に於て教育を中斷され、幼年時

代に學んだことを忘れるのみならず、尙如何に學ぶべきかをさへ忘れて無知無識の盲從的労働者と成り畢る。そこで、労働者に對して普通教育以上の教育を授け、彼等を啓發して社會改良を促進せんとする運動は古くより起つた。殊にイギリスは労働問題の先進國だけあつて労働者教育事業は最も早く起された。第十九世紀の初葉、イギリスの町村には多數の労働者教育機關が設けられ、「メカニクス・インスティテューツ」、「ミューチュアル・イムプロヴメント・ソサィティー」等の名を以て呼ばれてゐた。だが此等の教育所の設立はウィクトリア女皇を初めとして有産階級の恩恵と厚意とに基づくものであつた。然るに第十九世紀中葉に労働者の自治的經營に基づくシェフィールド人民大學が創設され、イギリスに於ける労働大學の嚆矢をなした。これが偶當時の労働組合の獨立經營主義と暗合して到る所に組合労働教育運動が起り、大學擴張運動に氣勢を添へた。エフ・ディー・モリスは此氣運に動されて労働大學の計畫を立てたといはれてゐる。ロンドン・カレッジの創立、レスター大學及びオウウェン大學も其當時に出來たのである。此時期を通じイギリス労働組合運動は益確實なる進出を遂げ、其

氣運に乗じ、先づケンブリッジ大學は一八八〇年代にノース・デュラムの坑夫の間に大學知識普及運動を起すに至つた。これはやがて労働者に對する大學擴張運動の導火線となつたのである。然しながら此運動は知識階級の一時的感激に止り、間もなく労働者の參加數を減じた。第二世紀初頭に至り、大學擴張運動と労働組合との提携が起り、オックスフォード大學内に労働者教育協會が設けられた。其事業として最も効果を表したのは「テットリアル・クラス」運動で、一九一八年の統計に依れば、イングランド及びウェールズに於ける「テットリアル・クラス」の學級數一五二、生徒労働者數は三、八〇〇人程に上つた。尙一八九九年に創立された「ラスキン・カレッジ」は労働者の代表者に依つて管理せられ、労働組合、産業組合、労働者クラブ其外の團體に依つて支持されてゐる。而して此大學の卒業者の中から各種労働團體の幹部が多數供給されてゐる。一九〇九年には資本主義教育に反對して「ラスキン・カレッジ」の労働者團體有志が中央労働大學を創立した。此大學は勞資協同主義に反對し、資本家的觀念及び理論を排斥して労働者階級の利害を強調し、労働組合、社會主義團體、

産業組合等の代表者をして本大學を管理所有せしめたのである。一九一一年同大學は創立地たるオックスフォードからロンドンに逐はれ、南ウエルズ坑夫同盟と全國鐵道従業員組合とが共同して經營管理することになつた。ロンドンには尙「ロンドン労働者大學」なるものがあるが、これはモリス、ラスキン、キングスレー等のキリスト教社會主義運動の所産であつて、其精神は階級調和的なることを推知し得る。我國に於ける労働者教育運動は最近やうやく起つたもので未だ見るべき發達をしてゐない。大正八九年頃の労働運動勃興時代に労働組合の手で二三労働者學校が設けられたが、現在では其等のものは殆ど無力の様子である。近來は各府縣、大都會等の公共事業として労働教育が行はれるやうなつたが、其目的は勿論労働者間に階級調和思想を注入するにあると思はれる。社會事業團體の間にも労働者教育事業が行はれてゐるが鄰保同化事業の一部たる場合が多い。

労働者保護法 【概説】 社會政策的見地から労働者の極端なる貧困と墮落とを防がんとする法律を總稱していふ語である。故に工場法、労働保險、最低賃銀法等を初め鐵山労働者保護法の如く特に危険の多い

労働に従ふ者を保護する法律や小企業労働者、徒弟幼年労働者、商業運輸労働者に關する保護法等は皆労働者保護法中に含まれる(各照)。國家が斯る法律を設けることに對しては、労働者乃至資本家の立場から種々なる非難を加へる者がある。労働者側からの非難の主なるものは、斯る法律の制定に依つて幼年婦女の就業が制限され、一般に労働時間が短縮され、休日が勵行されるなどの結果、労働者の収入を減じ、家計の困難を來すと云ふのと、斯る姑息なる貧困緩和手段は労働階級の隷從的地位を永久的に持續せしむる結果となり、眞に労働者の幸福を齎す所以でないといふのと云ふのである。前者は屈從的労働に馴れた無自覺なる労働者の云ふ所であるが、労働者保護法が行はれる爲に収入が減少するなど云ふことは事實上有り得ない。婦女少年等の収入が制限されることは必ずや父たり母たる労働者の所得を増す所以となる。後者の説は急進的労働者の云ふ所であるが、労働者保護法が資本制生産の維持發展を根本の目的とするものである限り、労働者の隷從的地位を永續せしむるものであるといふのは間違ではない。資本家の立場からは、賃銀の引上、労働時間の短縮などは生産費を

増加せしむる結果として企業利潤を低下せしめ、隨つて一國の産業を不振ならしむると説く者があるが、若し其通りであるとしても、今日の資本制生産が永續し、資本の増殖を存続せしめ得る利益に比較すれば、斯る損失は些々たる問題である。況や労働者待遇の改善は労働能率の向上を來し、反つて企業利潤の増加を齎す事實も多く經驗されてゐるに於てをや。故に労働者保護法は労働者階級の窮乏を防ぎ、同時に資本制生産の安固なる發展に貢獻する上策として各國に實施されてゐるのである。

【各國の労働者保護法】(一)イギリス イギリスでは第十八世紀に於て既にエリザベス徒弟條令の如き一種の労働者保護法が行はれてゐた。これは手工業者組合に對する保護監督を主なる目的としてゐたが、同時に徒弟職人に對する保護をも行つてゐたのである。一八〇二年には工場徒弟健康及び道德條令が設けられ、第十八世紀の末葉以來勃興して來た木綿工業に附隨する所の、幼年工の酷使を禁じた。更に一八三二年には十時間労働運動が一部効果を奏した結果、右の條令は改正されて絹織物業以外の各種織維工業に適用されることになつた。此條令は幼年労働者の保護のみに限られてゐる。

たが、一八四四年には成年女工をも保護労働者の中に加へ、一八四七年には紡績工場幼年工、女工は十時間以上の労働を禁止された。一八五〇年には紡績工場一般労働時間を十二時間と制限し、其中一時間半を食事休憩時間に充てるやう規定された。紡績工場に於ける斯る規定は漸次他の工場にも適用されることになり、一八六七年には冶金、機械、製紙、硝子、烟草等の諸工場に屬する労働者も同様なる保護を受けることになつた。又小企業家に屬する労働者の保護法として作業場條令が發布され、一八七一年從來の保護法を一括した「工場及び作業法」が編成された。これは其後再三改正されて今日に至つてゐるのである。其外、鐵山労働保護法は一八四二年以來、労働保險は一八七一年以來、最低賃銀法は一八〇九年以來行はれてゐる。(二)フランス 最初の労働者保護法は一八四一年の幼年工及び女工に對する保護法であつた。一八四八年には一般労働者の最長労働時間が十二時間に限定され、一八七四年には稍整つた工場法并に工場監督官制度が設けられ、一八九二年には工場に於ける幼年婦女に關する法律が設けられた。尙此外労働保險は一八六六年以來行はれてゐるし、鐵山労働

者、商業使用人に關する保護法も行はれてゐる。(三)ドイツ ドイツの労働法は第十九世紀中葉以後發達した。これはビスマルクの社會主義鎮壓法と表裏するもので、彼は一方で社會主義に嚴重なる彈壓を加へると共に、他方では労働法制を完備して労働者を懐柔せんとしたのである。一八四九年に鐵山に於ける九歳以下の者の労働を禁止し、且十六歳未満の者には十時間以上の労働を課すること、其夜業及び日曜日の労働を禁じた。これがドイツに於ける労働者保護法の嚆矢である。一八九〇年には職業法の改正案、工業裁判所の制定案が議會を通過した。其外一八九七年の新商法、一九〇〇年の幼年工業労働者に關する規定、一八九〇年の航運業規定、一九〇二年の海員法及び災害保險法などは、労働者保護に大なる關係を有するものである。又労働保險法は他の歐米諸國に先んじて發達してゐるが、其最初のものは一八七一年の『雇傭者責任法』である。(四)日本 我國にては明治二十六年の鑛業條令、同三十八年の鑛業法及び同施行細則の中に鐵山労働者の保護に關する規定を設けたのが最初であつて、鐵夫以外の労働者に對しては、各府縣に於て工場の設備、汽罐汽機の取締、職工の雇

入と使用に關する取締を行つたからのものである。之とても區々であり、効果が無かつたので、明治四十二年に政府は工場法案を發表し、一般の意見に依り修正を加へた上、四十三年の議會に提出した。然し夜業禁止に對する非難が盛であつた爲、之を撤回して新草案を作り、四十四年の議會に提出した。これは直に通過して同年三月發布され、大正五年から實施されるに至つた。尙大正十四年七月から健康保險法が實施されることになつたが、これは労働保險の一つである。詳細は各項参照せられよ。

【労働條件】 労働者の雇傭に就いて、労働者と雇傭主との間に締結される條件を謂ふ。労働時間、休日、休憩時間、衛生設備、労働賃銀等が重なる労働條件を成す。現在に於ては労働者は法律上資本家と對等の人格を有し、對等の資格を以て勞力の取引を行ふことになつてゐる。けれどもそれは形式上だけのことであつて、實際上では労働者は資本家に對し隷從的關係を有してゐる。資本家の意のまま、に左右せられる傾がある。此傾向を其まゝ放任して置けば、やがて労働條件の極端なる悪化、労働力濫耕の弊に陥り、階級闘争を激成し産業を衰亡せしめる虞があるといふので、各國政府は

工場法其外の労働者保護法を設けて、未然に之を防止せんとしてゐるのである。

【労働植民】 都會に於ける失業労働者を農村に移住せしめて生活の途を得させることを謂ふ。労働者が永く失業してゐると、おのづから浮浪人化して行く傾向がある。斯る傾向を放任すれば社會全般の安寧秩序を亂す虞があるといふので、労働植民は起されたのである。労働植民の發達してゐたのは戦前のドイツで、同國には年々三、〇〇〇、〇〇〇マルクづゝ皇帝から補助を受けるベルリン労働植民會なるものがあり、其外にも公共團體、慈善團體、労働組合等の經營するものが多くあつた。労働植民に依つて授けられる職業は通例農業を原則とするが、ドイツでは手工業も加へて居り、勞銀は一般労働者の其れよりも少額とし、且日傭とするものが多い。

【労働室收權】 労働者が其労働の生産物又は生産物の價値の全部を收得する權利を謂ふ。労働價値説に依ると、労働は富を生産し、財貨の價値は其生産に費された労働の分量に依つて定まる。此論據から出發して、一方に財貨は總て其生産者たる労働者の所得に歸すべきものであるとの理論を生じ、他方に地代、利子、利潤等凡て労働せ

ずして取得せられる所得は不正なる奪取であるとの理論を生じ、此に労働全收権の觀念が起つたのである。故に労働全收権の觀念は地代、利子、利潤等や、一般の所謂不勞所得なるものを全然排除する意味を含んでゐるのである。此觀念は上記の如く労働價值説から出發するものであるが故に、労働價值説を説いた經濟學者にして此觀念の萌芽とも見るべきものを抱いた人は多い。けれども、地代、利子を以て労働の報酬を不正に奪取せるものとなし、労働の生産物は何等削減を加へられず労働者の所有に歸すべきことを最初に主張したのは、イギリスのチャールス・ホールである。而して労働全收権の觀念を中心として社會主義を明確に説いたのは、ウィリアム・タムソンである。フランスに於ては第十八世紀には労働全收権論に就いて注目すべき人は無かつたが、其後サン・シモン學徒、殊にアンファンタン及びバザール等の思想には、言辭の上には明白に表現せられなかつたといへ、此觀念の内容が含まれてゐた。而してブルジョアの著作には此権利の觀念は一層精細に論述された。ドイツに於ては、労働全收権の觀念は一般に其消極的方面即ち地代、利子、利潤等を排斥する方面を強調し

てゐるけれども、其積極的方面は餘り注目せられてゐない、マルクス主義の立場からいへば、労働全收権なるものは小生産者の（ブテイ・ブルジョアの）の觀念である。それは私有の觀念を基礎としてゐる。生産上の労働は社會を通じてのみ可能であり、總ての生産物は社會的に生産されるのであるから、生産物の全部は先づ社會の所有に歸し、然る後、社會に依つて各個人に分配せらるべきものである。

労働争議 労働争議なる語に包括される現象、即ち同盟罷工、サボターヂ等の直接的原因は、多く監督者に對する反抗、賃銀増額、賃銀減額反對、待遇改善要求等に存する。就中多くの争議は賃銀増額の要求か賃銀減額の反對に因つて生じてゐる。然し労働争議の原因は決して之に盡きるものではなく、尙一層内面的にして根本的のものがある。即ち労働者の階級的自覺に伴ふ自由なる人格への翹望と労働が單純化し無味乾燥となつて行くことに對する反抗とがそれである。労働争議は個々労働者の不満が偶然一致して勃發する場合もあれば、組合のやうな組織を有する労働者が豫め相當の準備と策戦とを以て決行する場合もある。労働者が組織を有するか否かは争議の

結果に影響し、労働者の勝敗を左右する所が多い。組織無き労働者は争議當事者として多くの弱點を有するに反し、組織有る労働者は多數結束の威力を十分に振ふことが可能である。随つて組合労働者に依つて起される争議は、多くの場合、非組合労働者の其れに比して大規模であり有力である。即ち基金を有する組合は長期間の争議に堪へ、大系統の組合は能く一工場争議の爲に全系統の組合員を之に協力せしめ得るからである。労働争議に於ける労働者の武器は主として同盟罷工、サボターヂ、ボイコット、暴行等であり、資本家は工場閉鎖、罷業破り、暴力團等を以て之に對抗する。此等は各項別に其説明がある。我國に於ける最近數年間の労働争議の件數及参加人員は左の如くである。（同盟罷業に在らざる争議を除く）

年 度	件數	人員
大正四年	六〇	七八五三
大正五年	一〇八	八、四三三
大正六年	三九八	五、三〇九
大正七年	四一七	六、四四〇
大正八年	四九七	六、一三〇
大正九年	二八三	三、七一
大正十年	二四六	五、三三五
大正十一年	二五〇	四、九〇一

右の比較表に於て、我國の労働争議は大正六、七年の頃より飛躍的增加を來したことが知れるが、これは歐洲大戰の刺戟に依る労働運動の勃興に起因するものである。大正八年を絶頂とし、同九年より激減したのは、戦後反動的の不景氣の襲來に依り、労働者運動も意氣沮喪を餘儀無くされたからである。然し其後年と共に再び争議の増加を見てゐるのは、蓋し連年の不景氣が益深酷に労働階級の生活を脅し、必死的なる反抗を誘發することが益繁くなつた事實を物語るものやうに思はれる。尙此労働争議の中には農村に於ける小作争議は含まれてゐない。小作人も労働者であるから彼等の争議は労働争議なる名目の下に入るべきであるが、我國では小作争議を別ものとして取扱つてゐる。

【實例】 (一)イギリス イギリスの労働取引所 (Labour Exchange) は最も古く、既に第十九世紀初葉に始つたといはれるが、歴史的には普通の意義の外に特殊の意義を含んでゐる。即ち一八三二―三四年に至つてロバート・オーウェンの徒に依つて企てられた労働交換所がこれであるこれはオーウェンの労働價值説に基きジョシア・ワールンが創始したといはれてゐる労働を基礎とする通貨制度で、労働紙幣に表示された労働

時間に依つて一般商品の交易をする紹介所である。現今の手形交換所に類似してゐるが、最初可也の成功を収めたにも拘らず、不正商人の利用する所となつて卒に瓦解した。(二)フランス フランスに於ける労働取引所 (Les Bourses du Travail) の萌芽は既にフランス大革命に發するといはれる。爾後モリナリ、ヅエクローメジュール等の運動に依り、一八八七年パリにフランス最初の労働取引所が設立され、他の都市も之に倣つたが、其主旨に於て他の諸國の労働取引所と多少異つてゐる。フランスの労働取引所は單に労働紹介の機關たるに止らず、ハルチエ等の努力に依つて労働者の地方的團結の一單位として労働運動の有力なる一武器となり、一八九二年に労働取引所聯合が成立した結果、夫のサンディカリズムの勃興となつたのである。(三)ドイツ ドイツの労働取引所 (Arbeitsvereine) は第十九世紀の八十年代既にハンブルク鐵工業雇主組合が之を設けてゐた。勿論、労働者に對抗せんとするものであつたが、此種の紹介所設立以來、ドイツの工業は世界市場に乗出すに至つたといふ。公立労働紹介所は一八九四年スツットガルト、エッスリンゲン、エルフルト三市に創められたるを最初とし、

其後市町村立の労働紹介所は次第に其数を増加した。而してドイツの労働紹介所は最も組織的であることを特徴としてゐたが、一九〇七年新共和国となるや憲法を以て労働権を認め、國家自ら労働紹介の義務を負ひ、且其機關を國營とするに至つた。

労働農民黨 大正十四年六月日本農民組合の提唱で我國最初の無産政黨(政治的型)樹立運動が起り、綱領及び政策草案起草に關し左右兩翼は論争して相譲らず、やうやく右翼日本労働總同盟及び左翼日本労働組合評議會の脱退に依り同年十二月一日「農民労働黨」と稱し東京に於て産聲を揚げた。僅に三時間にして禁止解散を命ぜられた。間もなく第二次無産政黨創立の準備運動が再び農民組合を中心に、右翼たる日本労働總同盟、官業労働總同盟及び中間派たる日本労働組合總聯合、日本製陶労働同盟、日本司厨同盟、東京市電從業員自治會等の提携で行はれて、十五年一月十三日の第一回懇談會後、單一政黨の可否に就き農民組合の分裂其他種々曲折の後、所謂玉姫俱樂部の申合せ(無産政黨)に基き、三月五日大阪中之島公會堂で一先づ結黨式を挙げた。これが労働農民黨である。當初の中央執行委員長は杉山元治郎、書記長は三輪壽壯であ

つた。然るに統制上の禍根たる左右兩翼の理論闘争が停止すること無く、加ふるに除外された四團體の割込運動が起つたので内紛が盛になつた。此内紛は同年十月二十五日東京芝公園協同會館に於ける第四回中央委員會で爆發し、右翼及び中間派組合并に安部磯雄、賀川豊彦兩中央委員、三輪書記長等が連袂脱退するに至り、大分裂を惹起したのである。そこで労働黨は書記長後任に細迫兼光を推し、東京市電從業員組合や水産無産者同盟の應援を受けて黨の死守に力めたが、右翼分子も續出し、杉山委員長の辭職脱退となり、分裂に分裂を重ねた。其後大山郁夫を委員長に推し日本労働組合評議會其外の左翼團體を集め、議會にも水谷、山本の二代議士を送ることが出来たが、昭和三年三月十五日第二次日本共産黨大檢舉に際して幹部中連累者少からず、四月十日安寧秩序を保持する爲に結社禁止解散を命ぜられてしまつた。解散前の本部は東京市芝區今入町に置き、黨員一八、〇〇〇と號してゐた。綱領左の如くである。一、我等は我國の國情に即し無産階級の政治的經濟的社會的解放の實現を期す。二、我等は合法的手段に依り不公平なる土地生産分配に關する制度の改革を期す。三、我

等は特權階級のみを代表する既成政黨を打破し議會の徹底的改造を期す。
労働保險 【意義】 労働保險とは、労働者階級の生活の安全を圖るべく、不時の災厄に依つて生ずる經濟的損失を補償する爲に設けられる保險のことである。故に廣義に解すれば、斯る目的の爲に設けられた有らゆる保險、例へば私立の營利會社が行ふ小口保險や、労働團體等が行ふ相互救済組合の如きも之に包括されるが、一般には國家が強制的に行ふ所の保險のみを指してゐるのである。而して、此労働保險は漸次被保險人の範圍を擴大し、今日に於ては、嚴格なる意味に於ける労働者のみならず、薄給の事務員其の下層民を包括するやうになつた。随つて近來では専ら社會保險なる語が用ゐられるに至つた。労働保險も一種の保險であるから、(一)同様の災厄を感る多數人の集團があり、集團中に加はれる者が其災厄に遭遇した場合、殘餘の者が其經濟的損失を分擔補償すること、(二)保險の主體は一定の災厄の發生に對して經濟的給付をなす義務を負担し、被保險人はそれを條件として一定の險保料を納付する義務を負ふ、といふ條件を具へなければならぬ。随つて國家的強制的の下に行はれるもの

であつても、保險料の納付を前提としないものは、單なる救済であつて之を保險とはいひ得ないのである。

【種類及び組織】 労働保險には目的たる事故の種類に依つて、傷害保險、疾病保險、失業保險、老廢保險、産婦保險、各等がある。而して其組織には經營の主體が公法人であるものと、私法人であるものとがあり、任意保險のものと、強制保險のものとがある。狭義に於ける労働保險は公法人に依つて經營される強制保險であるが、此には其外のものも一括して一瞥することにしよう。經營の主體が公法人たる場合には之を公營保險といひ、私法人たる場合には私營保險といふ。公營保險は國家又は地方自治體が經營するものであるから國立保險ともいひ、國家が保險經營の組織者たると同時に保險體なるものと、國家は保險經營の組織者として監督の任にあり、地方自治體をして保險體たらしめるものとがある。私營保險には營利保險、單獨保險、相互保險などがあり、私設會社の營利事業を營利保險、企業家が自己の雇傭労働者のみに對して營むものを單獨保險といふ。此中相互保險は最も労働保險の目的に適ふもので、之には左の三つの場合がある。一、労働者

自身が相互救済の爲に組織するもの、二、雇傭主が協力して各自の使用労働者の爲に組織するもの、三、労働者と使用主とが協力して労働者の爲に組織するもの。此等の保險中、強制保險もあり任意保險もある。労働者の盛衰は直に國家の休戚に關するものであり、且労働者は一般人に比して著しく危険率が大であるので、これが保護は國家の義務であるとの見地から、公營保險は主として強制主義に依つてゐる。我國で現に(強行)行はれてゐるものは、簡易保險(任意)及び健康保險(任意)であり、郵便年金(任意)及び健康保險(強制)である。郵便年金(任意)は(沿革)に現行制度である。(現行)は各項を照す。

然し此根本問題は姑く措いても、資本主義の發達と共に生じた貧富の懸隔の増大、労働不安、労働生活の無味乾燥、労働の不健康性の増進等種々なる社會的缺陷は労働問題の客觀的基礎を成してゐるのである。加ふるに、第十九世紀以來頓に擡頭した人道的精神、平等思想、社會科學の發達などが一般人心の内部から刺戟して労働問題の發生を促したことは、多くの人の認める所である。労働問題解決に關する思潮は種々區別があるが改良主義と社會主義との二種に大別し得よう。前者に屬するのは現在の社會組織の根本に觸れず特に私有制度を此まま維持しつゝ労働者の地位を改善せんとする諸思想である。現在の社會組織を根本から破壊して全く新なる組織を建設しなければ、労働者の地位の眞の改善は遂げられぬとの見地を守るものは各種の社會主義である。労働問題は社會問題の全部ではないけれども其中心を形成し、總ての社會問題は労働問題と關聯してゐる。(社會問題) 労働力 マルクスの創見に係る經濟學上の概念で、マルクス價值説にとつては重要な意義を有する。マルクスの説く所に依れば、労働力とは、人の現身即ち生きた人格の中に存する所の、そして何等かの使用

價值(有用品)を作る場合に作用する所の心身能力の總計を指すのである。資本家は労働者から其労働力を買取つて生産に消費する。此消費に依つて労働力は種々様々の形態の労働、例へば紡績労働、指物労働、建築労働といふやうな労働を生ずる。宛も酒の消費に依つて陶酔を生ずる如く、而して我々が代價を支拂ふのは酒といふ商品に對してであつて陶酔といふものに對してでないやうに、資本家は労働力に代價を支拂ふのであり、労働に代價を支拂ふのではない。労働力は一定の代價で資本家に賣られる。此時既にそれは一の商品である。然らば此労働力なる商品の價值は如何にして決定されるか。それは他の商品の價值と等しく、其生産に要する社會的に必要なる労働時間に依つて決定される。労働力とは生きた個人の能力に他ならないものであるから、労働力の存在は生きた個人の存在を前提とする。然るに人の生存を維持するには一定の生活資料が必要である。故に労働力の生産に必要な労働時間とは、歸する所此生活資料の生産に必要な労働時間に他ならなくなる。換言すれば、労働力の價值とは、労働力の所有者たる労働者の生存維持に必要な生活資料の價值であるといふことに

る。資本家は労働者から買取つた労働力を他の諸商品(原料、機械等)と共に消費して新なる商品を作り、消費しただけの價值よりも大なる價值を獲得する。即ち所謂餘剰價值を獲得するものであるが、此餘剰價值の源泉となるものは労働力のみである。他の商品(原料、機械等)は生産に消費せられただけの價值を新に作り出された生産物の價值の中に其まゝ増減無く移轉されるに過ぎない。然るに労働力といふ商品は生産の進行中に自己の價值よりも大なる價值を作り出す。例へば一日分の労働力の生産するに要する社會的に必要なる労働時間が六時間で隨つて一日の労働力の價值が六時間であるとする場合、労働者が資本家に依つて一日十二時間労働せられるとすれば、一日分の労働力の價值は前半の中に既に回収され、後半日六時間分は全く餘分の價值として現れて来るのである。即ち労働力は自己の價值を二倍に増大する。此餘分の價值はそれだけ新に作り出された生産物の價值を増大せしむることになり、資本家は生産に消費した所の價值よりも遙に大きな價值即ち餘剰價值を獲得し獨占することになるのである。

浪人 「浮浪」を見よ。

勞農政府

労働者農民の代表者に依つて一切の政治權力を執行する所のソヴィエツト・ロシアの政治組織を謂ふ。(ソヴィエツト参照)

老廢保險

老衰或は廢疾の爲に労働者が其職に任へ得なくなつた場合、老後を養ふべき經濟的給養をなすことを目的とするものである。此保險の保險金は、事實上労働力が衰耗せると否とに拘らず、一般的に老衰者と見なされる年齢に達した場合に老衰年金として、又傷害保險に含まれる以外の事由に依り廢疾となつた場合には廢疾年金として支給されるのである。此保險は労働保險の一種として行はれるものであり、隨つて保險料は被保險人たる労働者から徴收する外に雇主からも徴收し、國家からも補助金が與へられる。フランスでは第十八世紀の中葉から此保險が行はれ、イギリスでも一八三三年から行はれてゐたが、孰れも甚だ不備なるもので、完全に強制保險として行はれるに至つたのは一八八四年ドイツに強制保險法が制定されてからのことである。ドイツの強制保險法に依れば、滿十六歳以上の一般労働者、年收二千マルク以下の使用人及び特殊の自由職業者は、孰れも老廢保險に加入する義務を負ふものとされた。而して保險料は使用主と使用人とは

折半して負擔し(但し使用主の無い者は其合計額、政府は一人に對して年五十マルクを補助する。保險料に五等級あつて年收の額に應じそれの等級に當り得られる。老衰年金は千二百週間に上保險料を納付した場合に終身年金として支給されるが、年金額は保險料の等級に依りそれと異なる。廢疾年金は二百週間に上保險料を納付した者が廢疾の爲に一部又は全部の労働力を二十六週間に上喪失し、且其爲に日給の三分の一以上を得られない場合に與へられるので、其事情の繼續してゐる限り、保險料の等級に隨つて年金を付與される。若し被保險人が死亡した場合には、其配偶者又は孤兒に一定の年金が付與されるのである。

勞兵會

ロシアの社會主義革命當時に活動したるソヴィエツトを譯して名づけたものである。(ロシア革命参照)

ローマ法王

「法王」を見よ。

ロシア革命

【概説】 歐洲戰爭の末期一九一七年にロシアに起つた革命は、漸く近代世界の大勢たらんとしつゝある社會主義革命の魁をなすものであつて、其結果は勞農政府の建設となり、世界史上全く新なる波瀾を巻き起した。元來マルクス主義はプロレタリアの政權掌握を以て社會主義

革命の第一歩とするものであるが、ロシア革命は此政權掌握を完成したものであつてプロレタリアたる労働者農民が其政治權力を運用して、以て社會の基礎構造たるべき經濟組織を社會主義的に變革し、やがて完全なる社會主義社會に到達せんとしつゝあるのである。故にロシア革命は未だ社會主義を完全に實現したものでなく、社會主義實現の第一歩を踏出したに過ぎないと見るべきであるが、勞農政府が建設されてから既に十年、此間常に社會主義完成へ向つての努力が續けられ、今後其敗退を豫想せしむべき徴候が認められないといふ事實は、世界の注目を引いてゐるのである。此ロシア革命は通常三月革命と十一月革命とに區分せられ、それと異なる意義を認められてゐる。其理由は後述する所に依つておのづから明かになるであらう。

【三月革命】

由來ロシアの産業は他の諸國に比して後れて居り、資本主義經濟はやうやく發達の初期に入つたばかりであつた。而して政治上には專制主義が猶行はれ、人民は十分なる政治的自由を獲得してゐなかつたのである。斯る經濟的政治的狀態の下に於て、労働者は組合運動を禁ぜられ、労働條件に關する何等の立法をも有せず、

資本家の無制限的搾取に委せられてゐた。又其農民の状態を見るに、ロシアの耕地の三分の二は大地主、皇帝及び其一家、官僚、大官、寺院に屬し、多數農民は之を賃借して大部分の生産物を小作料に納めてゐたのである。斯る經濟事情に加ふるに、中世期的專制制度は新興のブルジョアに取つても最早忍ぶべからざるものとなり、政治的デモクラシーを要求するブルジョア自由主義の叫びは次第に喧しくなつてゐた。折柄戰爭に因る物資の缺乏と、軍事上の失敗と、官僚軍閥の親獨的態度とは、ツァーリの政治を、極めて少數の大地主と大資本家以外の總ての人民の呪詛の焦點としたのである。三月革命の口火を切つたのは二月二十七日ペトログラード三十萬の労働者が起した一般罷工であつた。三月に入ると政治犯人の釋放を要求する大示威運動が起され、之に次で所々に小暴動が起つた。國會(デ)は民衆に荷擔する決議をして解散を命ぜられたが、議員は解散令を無視して依然會合を續けた。三月十一日にはペトログラードに於て民衆と警官との間に闘争が始つたが、其鎮壓に向つたヴォルンスキー聯隊は政府に反抗して民衆に投じ、他にも之に倣ふ聯隊が現れた。同月十二日には反亂は愈組織

的となり、全市到る所に大示威運動が行はれ、鎮壓に向つた近衛隊も竟に之に荷擔したので民衆は兵器廠を占領し、監獄を解放し、秘密警察本部を占領した。十二日の夜、ペトログラードの労働者、兵士のソヴェエト(委員)はチヘーゼ(社會民主黨メン)を會長に、ケレンスキー(當時は労働黨、後に社會革命黨)を副會長に選舉し、民主政治要求の宣言を發した。此時ブルジョアの代表的政黨たる立憲民主黨も、軍隊の荷擔に依り革命が最早既定の事實となれるを見て、ブルジョア自由主義の立場から立憲政治を要求し出した。斯様に三月革命はデモクラシーを要求するブルジョアの政治革命に始つたのである。然しなから立憲民主黨(カデ)と大地主及び大資本家の十月黨を多数とする國會は帝政を維持せんことを切に望み、即ちミハエル大公を即位せしめんとしたが、ソヴェエトは斷然之に反對し、卒に三月十五日皇帝は退位して臨時政府が組織せられた。斯くて成立したる第一次の臨時内閣には社會革命黨から僅に法相ケレンスキーを出したに過ぎなかつた。此内閣の組織は當時に於ける革命の段階を最もよく反映したもので、新政府の任務は政治的民主主義の實行と戦争の遂行とに他ならなかつた。然も民衆の

求めてゐるものはパンと平和とだつたのである。十八日に新政府が政治的改革的綱領を聲明するや、ソヴェエトは其施政方針に對して猛烈なる反對を宣言した。此頃からソヴェエトの勢力は益加つて來たが、當時ソヴェエトは社會革命黨とメンシェヴィキの勢力下にあつた。茲で社會革命黨とメンシェヴィキとはブルジョアとの提携を必要と認め、隨つて臨時政府を支持し、戦争の繼續を主張してゐた。けれども之より後「十一月革命」に至る幾多の波瀾は、要するに大地主とブルジョア自由主義との妥協の上に立つ臨時政府と、ソヴェエトとの間の勢力消長の反映に他ならない。新政府の施政失敗は益政府の信用を失墜し、左翼の勢力増大を助けた。斯くてレーニンは四月三日を以てスウイスの亡命地から歸り、五月十七日にトロツキーがアメリカから歸朝して更に左翼の勢を増した。而して臨時政府に對する民衆の非難は愈高まつて來たのである。三月革命に依つて専制政治の壓力が取除かれると共に政治上にも經濟上にも労働階級の運動は一時に勃興し、大部分の産業では労働が著しく増加した。けれども資本家も亦盛に價格を釣上げたので労働者の生活は少しも改善されず、政府の

暴利取締も全然失敗に畢つた。農民の窮状も同様であつた。斯くて五月十七日に開かれた全ロシア大會ではケレンスキーとレーニンとの間に激論が闘はされたのである。七月にはペトログラードのソヴェエトが最初の一大示威運動を行つた。當時政府はドイツの戦線に大規模の攻撃を企てたが失敗に歸し、益民心の不平を高めると共に一層軍隊の解體を早めた。民衆の不平は七月十七日の革命的示威運動となつて爆發した。七月二十日にはケレンスキーが首相となつて過激派を壓迫し、トロツキーを初め多くの過激派闘士は投獄され、レーニンは再びフィンランドに亡命した。斯くて過激派は一時鳴を靜めたが戦線の状況が益悪化し、九月三日リガがドイツ軍の手に歸するに及んで再び勢力を挽回し始め、第二回全ロシア・ソヴェエト大會の召集を要求した。然しソヴェエト執行委員會は之を喜ばず妥協の一策として全ロシア民主會議を召集した。會議は極めて僅少の差を以て聯立内閣を認める決議を通過したが、戦争繼續の決議は過激派の反對に依つて撤回された。【十一月革命】 聯立政府が何等一定の政綱を有せざるに反し、過激派(エウイキ)は總ての問題に對し咸く一定の綱領を有した。

彼等は一切の政權をソヴェエトに與ふことを主張し、土地は即時無償で農民に分配すること、工業は社會化して労働者の管理に移すべきこと及び民主的原則に依る媾和を主張した。されば過激派の要求は日に高まり行く民衆の聲となり再び革命を見ねば止まぬ勢を作つた。第二回全ロシア・ソヴェエト大會召集に對する過激派の要求は最早拒み難き状態となつたので、中央執行委員會は十一月七日を期しペトログラードに全ロシア大會を召集した。之に先立つ十一月三日に過激派の領袖は秘密會合を開き十一月七日を以て政權奪取の日と定めた。レーニンは之より先フィンランドの亡命地よりペトログラードに歸つてゐて其秘密會合にも出席してゐた。十一月四日のペトログラード・ソヴェエト・デーに労働者は「戦争を廢止せよ」「一切の權力をソヴェエトに」といふスローガンを掲げて一大示威運動を行つた。同日ケレンスキー政府の最後の頼みとするセミヨノフスキー聯隊は大多數を以て過激派を支持する決議をした。暴徒はピーター及びピョートル監獄を占領した。同六日ケレンスキー最後の強硬なる鎮壓策も效を奏せず、全部の重要な地點は過激派の手に歸した。七日、臨時政府の

本據の各宮は包圍され、同日午後一時、トロツキーはソヴェエトの會合に於てケレンスキー内閣の瓦解に全ロシア大會の開催まで一切の權力を軍事革命委員會に移すべきことを宣言した。同夜各宮は赤衛軍に占領され、ケレンスキーは逃亡し、閣員の多數は投獄された。過激派は斯くて十一月七日の政權奪取を實現するや、翌日直に交戦列國に對して休戦の宣言をなすと同時に労働産業管理法を發布して労働者との約束を實行し、續いて九日には土地法を發布して農民との約束を果した。けれども此新政府に對する非難もあつた。それは主として裕福なる農民及び知識分子から起されたのであつた。即ち十一月二十五日、全ロシアに互つて行はれた憲法會議の選舉に依る議員の多數は社會革命黨であつて過激派は僅か議席の三分の一を得たに過ぎない。一九一八年一月十八日を以て開會せられた憲法會議の劈頭に過激派のソヴェエト執行委員長スウェルドロフは『被搾取労働者の權利の宣言』を朗讀した。此宣言は後に『ソヴェエト共和憲法』と共に労働ロシアの基礎法となつた重要な宣言であるが要するに一切の權力をソヴェエトに集中し、土地私有を廢し、鐵山を社會化し、労働者

の産業管理權を確立し、國民經濟最高委員會の組織、銀行の國營、一般的義務労働等の制度を定め、搾取階級の武装解除と労働者の武装、赤衛軍編成等を規定し、更に秘密外交の廢止、民主的平和、國債の破棄を宣言したものである。元より此宣言は穩和派たる社會革命黨の多數に依つて反對を受けた。そこで過激派の代表者等は憲法會議を承認せぬ旨の決議をなして社會革命黨左翼及び合同社會民主國際派と共に連袂退場したから、憲法會議は自ら解體してしまつた。政府は一月二十六日に憲法會議解散を正式に布告し、一切の權力は完全にソヴェエトの手に歸することになつた。之より後はソヴェエト・ロシアの建設時代に入つたのである。

〔補遺〕

サッコ、ヴァンセッテイ事件 サッコ (Vincenzo Sacco) とヴァンセッテイ (Arthurimeo Vanzetti) とを中心にして、一九二七年にアメリカ、マサチューセッツ州に起つた事件を謂ふ。兩者共イタリヤ人にして、前者は十七歳で一九〇八年四月にボストンに、後者は二十歳で同六月にニューヨークに各上

陸した。二人ともマサチューセツツ州にあつて労働者となつたが思ふやうな就職も出来なく、轉々してサッコは靴直しに、ヴァンセッティは魚賣りになつて働き、人間にあるまじき侮辱と讒謗とを忍びながらも、同胞愛の心に燃え、其地の労働者クラブや組合に加盟して階級意識を確然と把握してゐた。其頃アメリカの諸新聞が一齊に報じた如く所謂「犯罪の襲來」ともいふべき大事件が引續いて起つた。例へば一九一九年十一月七日にランドルフの一貯蓄銀行が自動車に乗つた四人の強盗に三萬六千ドル盗まれたこと、同年十二月二十四日に同じく四人の自動車に乗つた強盗がブリッチチターターの靴會社の支拂金を運び出したこと、翌年四月十五日に南ブレントリーにて一人の會計係と其番人とが五人の強盗に殺され一萬五千七百七十六ドル盗まれたこと等である。之に對する州警察の無能は遺憾無く非難され、竟には此犯人に對して賞金まで懸けられた。ブリッチチター警察署長は之をイタリー人の仕業と睨み、其赤化分子の一人を捕へて移民課に突き出した所、彼は直にアメリカ退去を命ぜられた。斯くして突然、同年五月五日の夕方、ブロククトンの市内電車に乗つてゐたサッコとヴァン

セッティとは其地の警官に検束された。そして州高等法院では二人をブリッチチター事件と南ブレントリー事件との犯人だとして牢獄に繋いだ。其理由としては、最も嫌疑深い二人即ち退去命令された一人と逃亡中の一人とはブリッチチターに住み、然も強盗に使用した自動車が彼等の住家近くの森の中に入り捨てあつた。随つて此二人のイタリー人を友達とする彼等は當然其一味でなければならぬとした。州高等法院では警察と聯絡を取つて彼等を犯人と決定して州民の期待に添ひ、州民を安きに就かした。即ち州の當事者は此罪無き孤獨の異國者に罪を着せて其責を塞ぎ、此事件を暗に葬らうとしたものである。其後眞犯人が自首したにも拘らず、入獄七年の後愈一九二七年七月十日に裁判長から電氣死刑が言ひ渡されるや、果然シカゴ、サンフランシスコ、ロンドン、パリ、ベルリン、モスコ、マドリッド、ローマ、ブエノス・アイレス、東京等各地に死刑反對の示威運動と同情基金募集とが沸然と湧き、斯る世界の労働階級の叫びに恐れれたマサチューセツ州當事者は八月十日の死刑執行を十二日に延期した。そして卒に此無辜の労働者二人は八月二十三日午前零時十九分電氣椅子に

斃れた。二人はアナキストであつた。然し檢舉された時資本家達は二人を支配階級の最も恐れた語でボルシェヴィキと呼び、後にコンミュニストと呼んだ。日本では八月十日夜東京神田青年會館で『文藝解放社』主催サッコ、ヴァンセッティ死刑反對講演會があり、檢東者二十餘名を出し、同十七日に東京のアナキスト團體主催の死刑反對演説會兼示威運動があり、在京アメリカ大使に決議文を手交した。

全日本農民組合 無産政黨支持問題に就いて意見の相違を來し、昭和二年三月『日本農民組合』より分離して、同三月一日結黨式を行つて、名稱を全日本農民組合とした。組合長杉山元治郎。常任委員、淺沼稻次郎、宗道太。其後農民戰線統一の急務を迫られて、昭和三年五月『日本農民組合』と合同して『全國農民組合』を結成した(全國農民組合)。但し昭和三年七月五日、組織せられたる「全日本農民組合」とは全然異なる結社である。

社會辭典索引

愛國主義……………	愛情說……………	アイ・ダブリュー・ダブリュー	赤旗事件……………	足尾銅山……………	足輕……………	アナーキズム……………	天草一揆……………	甘粕事件……………	アムステルダム・インターナショナル……………	アリストクラシー……………	暗殺……………	安息日……………	威歴……………	イギリス社会主義運動……………	イギリス労働運動……………	意識的協働……………	意識的單純協働……………	異族結婚……………				
イタリー社会主義運動……………	イタリー労働運動……………	一揆……………	一妻多夫……………	一夫一婦……………	一夫多妻……………	イデオロギー……………	インターナショナルリズム……………	インダーナショナル……………	ヴェルサイユ條約……………	右傾……………	請負賃銀……………	氏……………	氏神……………	氏子……………	右翼……………	永小作……………	營利主義……………	エー・エフ・エル……………	エス・エル……………			
エルフルト綱領……………	オーストリア革命……………	オーストリア社会主義運動……………	オーストリア社会民主党綱領……………	オーストリア労働運動……………	應用社会学……………	温情主義……………	カースト……………	階級……………	階級の内婚……………	階級闘争説……………	戒嚴命令……………	開墾……………	街娼……………	改良主義……………	科学的管理法……………	科学的社会主义……………	客観的社会学……………	革命……………				
過小地主……………	家族……………	家族共産體……………	家長權……………	寡頭政治……………	家内工業……………	可能派及び不可能派……………	カネ……………	カルテル……………	簡易食堂……………	簡易保險……………	感化事業……………	官業労働組合……………	官業労働者……………	關稅問題……………	環節的社會……………	完全社會……………	歸化……………	機會均等主義……………	機會的連帶……………	饑餓同盟……………	企業聯合……………	饑饉……………

騎士……………四四
犧牲社會……………四四
季節勞働……………四四
義倉……………四七
貴族政治……………四七
起動的動因……………四七
機能社會……………四七
救世軍……………四八
窮乏說……………四八
協業……………四八
共濟組合……………四八
共產主義……………四九
共產黨宣言……………四九
強制保險……………五三
協調會……………五三
協働……………五三
共同經營……………五三
共同耕作制度……………五三
共同社會……………五三
協約勞働……………五三
虛無主義……………五三
キリスト教勞働組合國際同盟……………五三

ギルド……………六〇
ギルド社會主義……………六〇
禁酒運動……………六〇
近世國家……………六〇
筋肉勞働……………六〇
金融資本獨裁說……………六〇
禁慾主義……………六〇
クウアード……………六六
空想的社會主義……………六六
苦汗制度……………六六
組……………六六
組合主義……………六六
軍事的社會型……………六六
群集……………六六
群集心理……………六六
軍需品……………六六
軍用品……………六六
警察國家說……………六九
形式社會學……………六九
藝術的社會主義……………六九
藝娼妓……………六九

京大學生事件……………七二
刑務所……………七二
契約說……………七二
結婚……………七二
結社……………七二
血族團體……………七二
健康保險……………七二
原始共產制……………七二
原始社會……………七二
現實……………七二
現象……………七二
原人……………七二
權力……………七二
言論壓迫……………七二
講……………七二
合意結婚……………七二
公益質屋……………七二
膏血制度……………七二
鑛山勞働者……………七二
公娼……………七二
工場……………七二
工場委員會……………七二
工場監督官……………七二

工場制工業……………八三
工場閉鎖……………八三
工場法……………八三
工場勞働者……………八三
荒政……………八三
公設市場……………八三
ゴータ綱領……………八三
講壇社會主義……………八三
交通勞働者……………八三
鐵毒問題……………八三
合理主義……………八三
國際消費組合聯合……………八三
國際勞働會議……………八三
國際勞働者保護法……………八三
國際勞働同盟……………八三
國勢調査……………八三
穀物條令……………八三
小作……………八三
個人主義……………八三
コスモポリタニズム……………八三
國家……………八三
國家社會主義……………八三
國家主義……………八三
國家有機體說……………八三

國家聯合……………六六
雇傭者責任法……………六六
コレクティヴィズム……………六九
コロヌス・コロン制度……………六九
コンマニシヤリズム……………六九
コミュニズム……………六九
コンミュン……………六九
財團法人……………一〇〇
最低賃銀法……………一〇〇
財團……………一〇一
搾取階級……………一〇一
左傾……………一〇一
サボターヂュ……………一〇一
左翼……………一〇一
左翼小兒病……………一〇一
サラー・マン……………一〇一
産業革命……………一〇一
産業組合……………一〇一
産業的社會型……………一〇一
産業的民主制……………一〇一
産業別組合……………一〇一
産業別國際聯合……………一〇一
産業豫備軍……………一〇一

三權分立……………一〇八
産兒制限……………一〇八
サン・シモン黨……………一〇九
三狀態の法則……………一〇九
サンデイカリスト・インタナショナル……………一〇九
サンデイカリズム……………一〇九
産婦保險……………一一一
三民主義……………一一一
シー・ヂー・テイ……………一二二
シー・ヂー・テイ・ユー……………一二二
自警團事件……………一二三
死刑廢止論……………一二三
自作農……………一二四
自殺……………一二六
私娼……………一二七
四狀態の法則……………一二七
慈善事業……………一二七
自然社會……………一二八
自然法說……………一二八
氏族……………一二八
時代精神……………一二九
失業保險……………一二九

失業問題……………一二〇
實證哲學……………一二一
疾病保險……………一二一
司法權の獨立……………一二一
資本……………一二三
資本主義……………一二三
資本主義中說……………一二三
資本主義崩壞說……………一二三
市民階級……………一二四
締附工場……………一二四
社會意識……………一二五
社會化……………一二五
社會階級……………一二五
社會解剖學……………一二五
社會改良主義……………一二六
社會科學……………一二六
社會學……………一二七
社會學的國家觀……………一二八
社會革命……………一二八
社會機能……………一二九
社會教育……………一二九
社會形態……………一二九
社會形態論……………一二九
社會契約說……………一二九

社會現象……………一三三
社會合成……………一三三
社會構造……………一三三
社會事實……………一三三
社會主義……………一三三
社會主義領壓法……………一三三
社會進化……………一三三
社會心理學……………一三三
社會性……………一三三
社會靜學—社會動學……………一三三
社會政策……………一三三
社會政策學會……………一三三
社會制度……………一三三
社會選良……………一三三
社會組織……………一三三
社會階級……………一三三
社會地理學……………一三三
社會的價值……………一三三
社會的寄生……………一三三
社會的個性……………一三三
社會的錯綜……………一三三
社會的習慣……………一三三
社會的紐帶……………一三三
社會的正義……………一三三

社會的整序	一四四
社會的接合	一四五
社會的同化	一四五
社會的反對	一四一
社會的民主制	一四一
社會黨	一四一
社會統制	一四一
社會淘汰	一四一
社會病理學	一四一
社會保險	一四一
社會民衆黨	一四一
社會民主主義	一四一
社會問題	一四一
社會有機體說	一四一
社會連帶	一四一
借地借家人保護問題	一四一
釋放者保護事業	一四一
社團法人	一四一
收獲遞減の法則	一四一
習慣性犯罪性	一四一
宗教改革	一四一
集合契約	一四一
集合勞動契約	一四一
私有財產制	一四一
集產主義	一四一
十字軍	一五二
自由主義	一五二
修正派社會主義	一五二
自由都市	一五二
手工業	一五二
種族	一五二
種族的社會	一五二
出獄人保護事業	一五二
純正社會學	一五二
傷害保險	一五二
少額保險	一五二
商業勞動者問題	一五二
商工階級	一五二
常習的犯罪者	一五二
少壯ヘーゲル學徒	一五二
少年裁判所	一五二
消費組合	一五二
小ブルジョア	一五二
莊屋	一五二
職業紹介事業	一五二
職業的犯罪者	一五二
職業的分業	一五二
職業病	一五二
職業婦人	一五二
職業婦人運動	一五二
職業別組合	一六五
食人種族	一六五
職工住宅及び寄宿會	一六五
庶民的社會	一六五
初夜權	一六五
人爲的社會	一六五
進化說	一六五
神權政治	一六五
人權宣言	一六五
人口問題	一六五
人口論	一六五
人種	一六五
人種闘争說	一六五
人身賣買	一六五
人道教	一六五
人道主義	一六五
人頭稅	一六五
新マルサス主義	一六五
人民主權說	一六五
新理想主義	一六五
人類發達階段說	一六五
水平社運動	一七五
スイス社會運動	一七五
スウェーディング・システム	一七六
ストライキ	一七六
スバルダクス團	一七六
生活費低減施設	一七九
制限選舉	一七九
生産組合	一七九
生産集中說	一七九
政治革命	一七九
成人教育	一七九
性善・性惡論	一七九
生存競争	一七九
生存權	一七九
生存最少限度	一七九
政黨	一八三
正統派經濟學	一八四
正統派社會主義	一八四
青年團	一八四
青年ヘーゲル學徒	一八四
政府	一八五
生物學的社會學	一八五
生物社會的假說	一八五
生命保險	一八五

制慾主義	一八五
關	一八六
赤衛軍	一八六
赤十字社	一八六
赤十字條約	一八六
赤色勞動組合	一八七
赤色勞動組合インターナシヨナル	一八七
ヨナル	一八七
赤色勞動組合國際聯合	一八七
節儉の令	一八七
絶食同盟	一八七
セツトルメント事業	一八八
ゼネラル・ストライキ	一八八
選舉	一八八
選舉制度	一八八
全國農民組合	一八九
全日本農民組合	一八九
全日本農民組合同盟	一八九
全日本無産青年同盟	一八九
ソウイェット	一九〇
早教育	一九一
相互扶助	一九一
總同盟罷業	一九一
族制	一九二
組織勞動者	一九二
ソリダリテ	一九二
村落共產體	一九二
大英鑛夫聯合會	一九三
大逆事件	一九三
怠業	一九四
大正地震災	一九四
大地主	一九四
託兒所	一九五
多元的社會觀	一九六
タッフ・ヴェール事件	一九六
タブー	一九六
單純協働	一九七
單純社會	一九七
男女同權主義	一九七
團體協約	一九七
團體交渉權	一九七
團體婚姻	一九七
ダンピング	一九七
治安警察法	一九八
地域團體	一九九
治外法權	一九九
知識階級	一九九
地上權	二〇〇
地租委讓	二〇〇
地代	二〇〇
地主	二〇〇
地方分權	二〇〇
地方無産政黨	二〇〇
チャーティスト運動	二〇〇
中央集權	二〇〇
中間階級	二〇〇
中間階級運動	二〇〇
仲裁裁判	二〇〇
中産階級	二〇〇
中世ギルド	二〇〇
中部日本農民組合	二〇〇
懲役	二〇〇
懲兵制度	二〇〇
直接行動	二〇〇
直接稅	二〇〇
地理學的社會學	二〇〇
賃銀	二〇〇
賃銀鐵則	二〇〇
賃銀奴隸	二〇〇
賃料	二〇〇
ツアドルガ	二〇一
ツラン式血統制度	二〇一
ツンフト	二〇一
帝國主義	二〇二
デパートメント・ストア	二〇二
デモクラシー	二〇二
テロリズム	二〇二
デンマーク社會運動	二〇二
ドイツ革命	二〇三
ドイツ社會主義運動	二〇三
ドイツ勞動運動	二〇三
同業組合運動	二〇三
統計	二〇三
統計的法則	二〇三
同情說	二〇三
同情罷業	二〇三
同心	二〇三

同族結婚……………三三〇
 トーテム……………三三〇
 動物虐待防止事業……………三三三
 同盟罷業……………三三三
 同類意識……………三三三
 同類親和……………三三三
 都會病……………三三三
 獨裁政治……………三三三
 特殊部落……………三三三
 獨占……………三三三
 都市……………三三三
 都市國家……………三三三
 土地貴族……………三三三
 土地國有論……………三三三
 土地制度……………三三三
 徒弟制度……………三三三
 トラスト……………三三三
 奴隸制度……………三三三
 屯田兵……………三三三

日本農民組合……………三三六
 日本農民黨……………三三六
 日本労働運動……………三三七
 日本労働組合評議會……………三三九
 日本労働總同盟……………三三〇
 日本労働黨……………三三三
 奴婢……………三三三

博物學……………三三八
 パリ・コンミュニオン……………三三六
 ハンガー・ストライキ……………三三九
 版權……………三三九
 犯罪學……………三三九
 犯罪社會學……………三三九
 犯罪心理學……………三三九
 犯罪人類學……………三三九
 汎太平洋労働會議……………三三九
 汎獨主義……………三三九
 販賣組合……………三三九
 飯場制度……………三三九
 反覆作用説……………三三九

貧民問題……………三三六
 フラスシイズム……………三三六
 ファスシスチ……………三三六
 フイジオクラット……………三三六
 フーリエ主義……………三三六
 フェービアン協會……………三三六
 フェービアン社會主義……………三三六
 夫役……………三三六
 フェミニズム……………三三六
 服役結婚……………三三六
 複合社會……………三三六
 複雜協働……………三三六
 複選舉制……………三三六
 複線的進化……………三三六
 不具労働者問題……………三三六
 父系……………三三六
 父權……………三三六
 不熟練労働者……………三三六
 婦人運動……………三三六
 婦人參政權問題……………三三六
 婦人問題……………三三六
 婦人労働問題……………三三六
 部族……………三三六

普通選舉……………三三九
 物物交換……………三三九
 不拂労働……………三三九
 部分社會……………三三九
 不變資本……………三三九
 プランキ黨……………三三九
 フランス革命……………三三九
 フランス社會主義運動……………三三九
 フランス労働運動……………三三九
 フランス労働總同盟……………三三九
 俘虜……………三三九
 プルゲョア……………三三九
 浮浪……………三三九
 不勞所得……………三三九
 プロフィンタン……………三三九
 プロミスクイテイ……………三三九
 プロレタリア……………三三九
 プロレタリア窮乏説……………三三九
 プロレタリア文學運動……………三三九
 文化……………三三九
 文化國家……………三三九
 分業……………三三九
 文明……………三三九
 文明病……………三三九

部……………三三九
 米價調節……………三三九
 平均利潤率……………三三九
 米國社會主義運動……………三三九
 米國鐵道從業員組合……………三三九
 米國の救貧事業……………三三九
 米國の獨立宣言……………三三九
 米國労働運動……………三三九
 平民圖書館……………三三九
 平民主義……………三三九
 ベルギー社會主義運動……………三三九
 ベルン條約……………三三九
 辯證法……………三三九

暴動……………三三九
 法理學……………三三九
 暴利取締令……………三三九
 ボイコット……………三三九
 母系……………三三九
 母權時代……………三三九
 保護労働者……………三三九
 母性保護……………三三九
 ボルシェヴィズム……………三三九
 ボルシェヴィキ……………三三九

民主主義……………三三六
 民約説……………三三六
 無意識的單純協働……………三三六
 無產階級……………三三六
 無產小學校……………三三六
 無產政黨運動……………三三六
 無產大衆黨……………三三六
 無政府主義……………三三六
 群……………三三六

唯心論……………	三三四	唯物史觀……………	三三四	唯物論……………	三三九	友愛組合……………	三三九	有階級……………	三三〇	有機的社會連帶……………	三三〇	有階級……………	三三〇	優生學……………	三三〇	ユーヂェニックス……………	三三一	郵便年金……………	三三一	ユーピア……………	三三一	ユトピア・ソシアリズム……………	三三一	ユニオン・レーベル……………	三三三																																																
【E】																																																																									
幼少年労働者……………	三三三	幼稚園……………	三三三	養老保険……………	三三四	慾望……………	三三五	慾望の平行……………	三三五	豫算……………	三三六	餘剰價值……………	三三六	ヨロケ……………	三三七	輿論……………	三三七							利益社會……………	三三七	利益分配制度……………	三三六	利潤……………	三三六	立法……………	三三〇	鄰保同化事業……………	三三〇																																								
【R】																																																																									
																								勞働組合……………	三三六	勞働組合主義……………	三三六	勞働組合法……………	三三七	勞働契約……………	三三九	勞働權……………	三三九	勞働祭……………	三三九	勞働市場……………	三三九	勞働者……………	三三〇	勞働者窮乏說……………	三三〇	勞働者教育……………	三三〇	勞働者保護法……………	三三一	勞働條件……………	三三一	勞働植民……………	三三一	勞働全收權……………	三三一	勞働爭議……………	三三一	勞働取引所……………	三三一	勞働農民黨……………	三三一	勞働保險……………	三三一	勞働問題……………	三三一	勞働力……………	三三一	浪人……………	三三一	勞農政府……………	三三一	老廢保險……………	三三一	勞兵會……………	三三一	ローマ法王……………	三三九
【L】																																																																									
																								ロシヤ革命……………	三三九	補遺		サツコ、ヴァンセッテイ事件……………	三三一	全日本農民組合……………	三三一																																										
【H】																																																																									
																								歴史……………	三三二	歴史哲學……………	三三二	歴史派經濟學……………	三三二																																												
【K】																																																																									
																								勞資協調主義……………	三三三	勞働運動……………	三三三	勞働會議所……………	三三三	勞働階級……………	三三三	勞働學校……………	三三三	勞働カナル……………	三三三																																						
【G】																																																																									
																								類似意識……………	三三一	ルンペン・プロレタリア……………	三三一																																														
【L】																																																																									
																								レニニズム……………	三三二																																																

昭和四年四月廿五日
昭和四年四月拾貳日

大 恩 想
アチベロクイサンエ
30

發行所 株式會社 春秋社
東京市麴町區内山下町一丁目一番地
電話(57) 五五六五三二

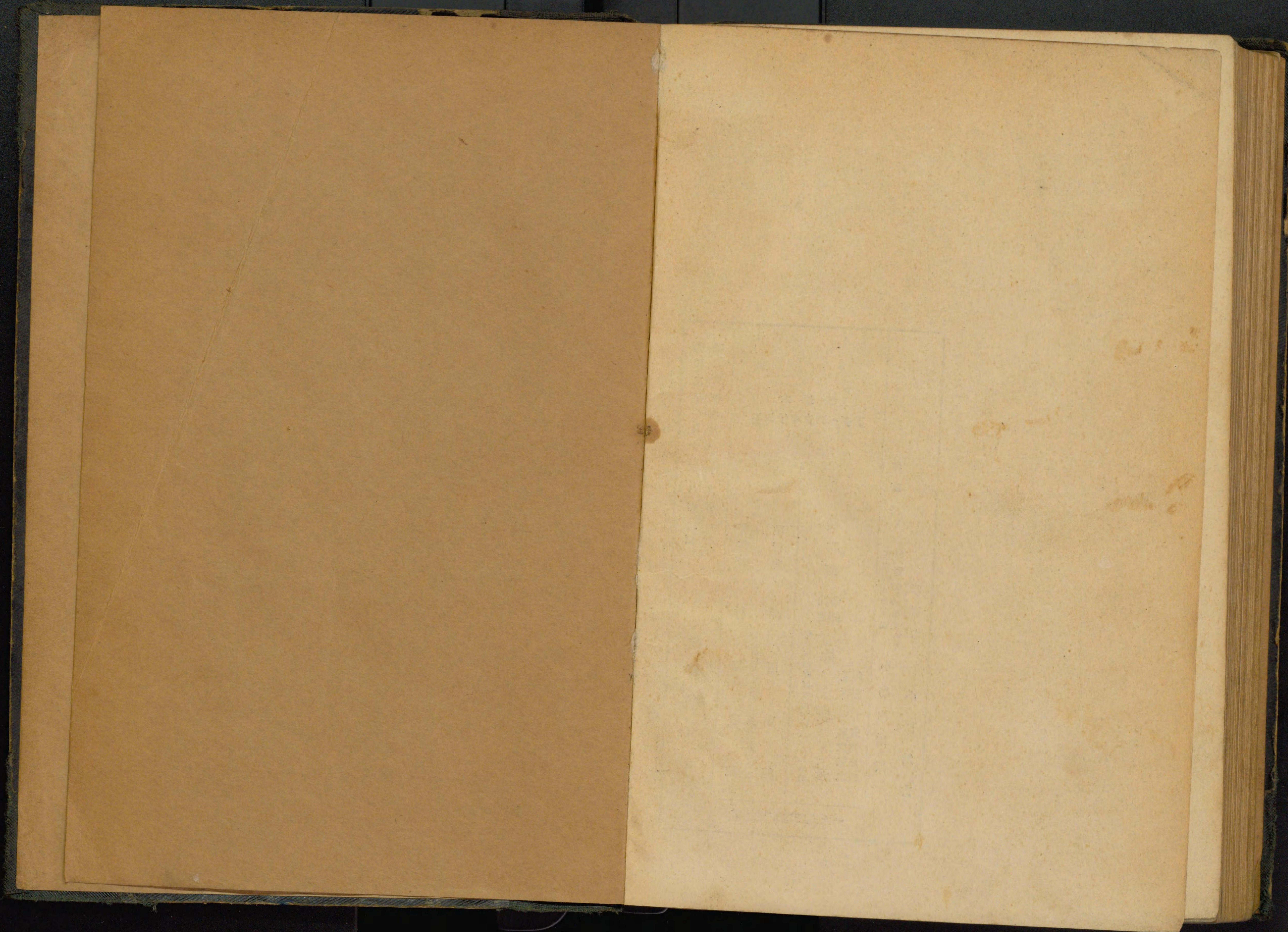
發行所 株式會社 春秋社
東京市麴町區内山下町一丁目一番地
電話(57) 五五六五三二

印刷所 小島印刷所
東京市小石川區 初音町八番地

印刷者 小島爲吉

非賣品

振替東京二四八六一



574
17

